

* 0004689000 *

0004689-000

312. 1-G292g-Mz

元老院會議筆記

明治法制經濟史研究所・編

財政經濟学会

前期 第4卷

1943

ABC

元老院會議筆記

前
期
第
四
卷

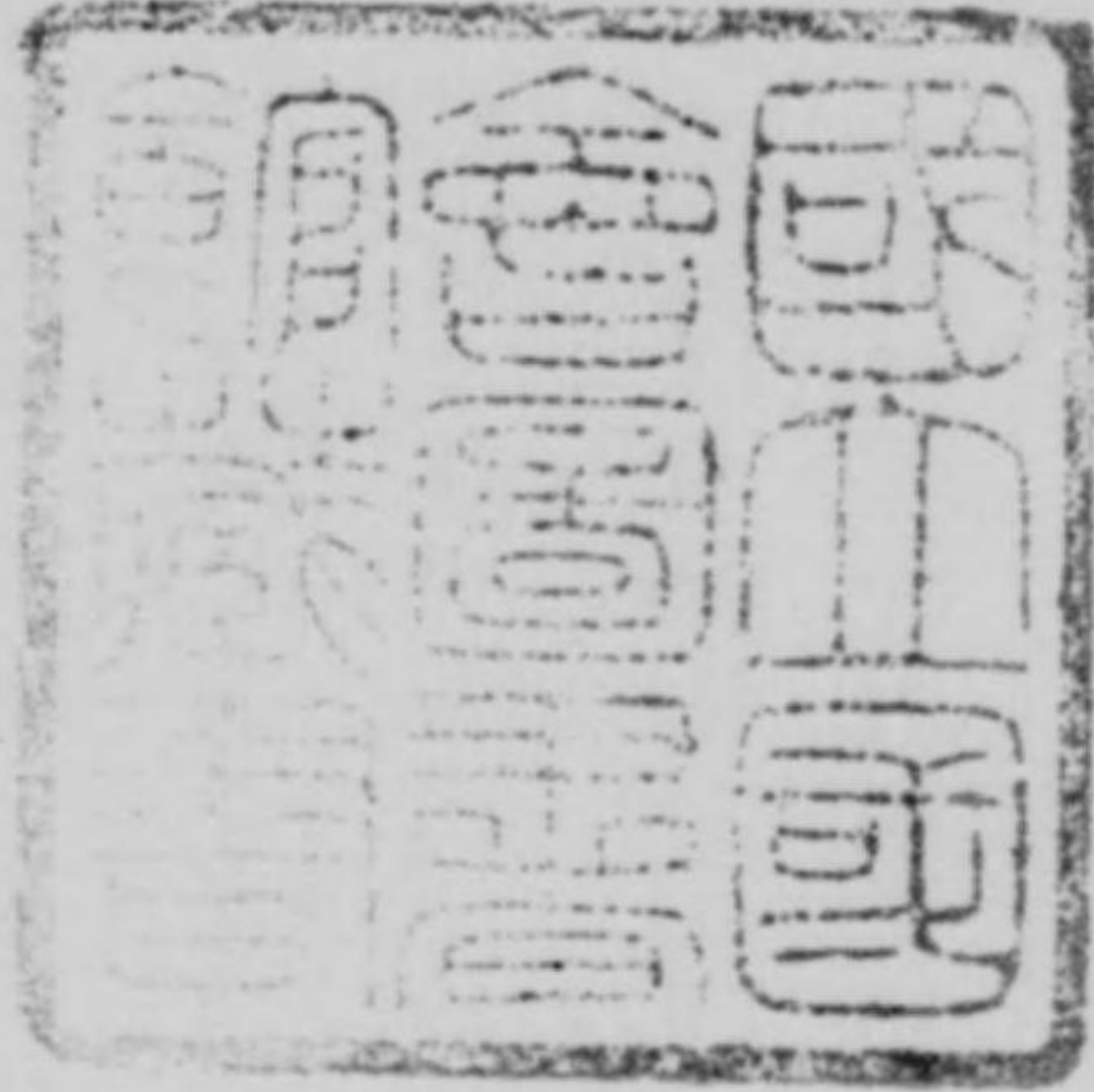


明治法制經濟史研究所編

元老院會議筆記

前
四
期
卷

東京
財政經濟學會



312.1
G292g
Mz

32761

緒言

本卷には明治十年一月より同年末迄の筆記を集録した。

尙、筆記紹介に先立ち参考のため、明治十年の重要事項の一部をこゝに摘録した。

明治十年一月四日 明治聖上地租減額の 詔を下し給ふ。

朕惟フニ維新日淺ク中外多事國用實ニ費ラレス而シテ兆民猶ホ疾苦ノ中ニ在リテ未タ富庶ノ澤ヲ被ラサルヲ感レミ曩ニ舊税法ヲ改正シテ地價百分ノ三トナシ偏重無カラシメントス今又親ク稼穡ノ艱難ヲ察シ深ク休養ノ道ヲ念フ更ニ税額ヲ減シテ地價百分ノ二分五厘ト爲サン有司宜ク痛ク歳出費用ヲ節減シテ以テ朕カ意ヲ賛クヘシ

明治十年一月四日太政官布告第一號 今般地租ノ儀別紙 詔書ノ通被仰出候ニ付テハ明治十年ヨリ地價百分ノ二分五厘ト被定候條此旨布告候事

〃 〃 第二號 今般地租減額費用節省被仰出候ニ付テハ明治六年七月第二百七十二號布告民費賦課ノ儀明治十年ヨリ正租五分ノ壹〔舊制、三分ノ壹〕ヨリ超過スヘカラス此旨布告候事

〔本卷第五十九號三四頁、八四頁、九一頁等及び別卷第一號、第七十五號、第二百廿五號、第三百廿二號、第三百廿三號議案等参照〕

一月廿四日 聖上大和國并京都に御巡幸遊ばされ、七月卅日東京に御還幸遊ばさる。

二月十九日 行在所布告第二號を以て征討仰せ出され、九月廿四日西南の擾亂平定せる趣、熾仁親王より

電報を以て奏聞せられ、翌廿五日太政官第六十八號を以て裁定を海内に布告せられた。

十月初旬より征討の將兵續々東京に凱旋するや、聖上其たび毎に、或は即日、謁を賜ひ、或は坐を便殿に賜ひ、時に酒饌を賜ひ、時に陪食を賜ふ。

十一月二日、詔して西征の功を賞し武官文官に迄勳章を賜うた。〔勳章の事此日に止まらざるも他は之を略す〕

元老院もこの擾亂に關して議長熾仁親王は〔一月廿四日車駕西幸に従ひしも〕隆盛舉兵の報に二月十九日征討總督を拜命して十月十日凱旋せられた。又議官のうち、勅使として柳原前光を二月廿六日鹿兒島へ。三月十二日河野敏鎌を高知へ。四月十日佐野常民を西海へ。五月廿三日佐々木高行を高知へ。六月十八日穴戸璣を山口へ各々差遣せられた。

此間元老院は陸奥宗光を假任副議長となし第五十四號より第八十五號迄の議案を審議し〔うち第六十八號を除く〕。また議長凱旋後は第六十八號并に第八十六、八十七、八十八、八十九號議案及び第廿一號及び第廿二號の二意見書を審議上奏したが、之を前年の下附議案五十三件と比較すれば明治十年には卅六件と十七件を減じ、元老院上奏の意見書案に於ては前年の二十件に對して明治十年には二件と實に十八件を減じたが、之は眞に已むを得ざるものと謂ふべきであらう。

明治十年の政府は、前掲の如く西南擾亂のため其日子の大部分を鎮定と凱旋と賞功とに費したが、其中に

あつても尙國民の福利増進と、對外平等を目標とする文化的施設を爲すに努力した。

即ち第一に民力休養の、聖意を擴充し、租稅徵收法に於ても、或は地租徵收期限を更正し、或は兎歲租稅延納規則を定め、又は、租稅未納者は身代限を以て怠納金を取立るの舊法を廢し、新たに財産公賣法を設くる等布告し、只管人民の便益を計つた。〔第八十三號議案參照〕

次に、萬國郵便聯合條約に加盟して我帝國の通信上に於ける國權恢復の基を開いた。〔第七十五號議案參照〕乃ちこれに因り、帝國は加盟せる二十五箇國と低廉なる料金を以て確實に通信し得る様になつた爲め、十數年間横濱神戸長崎等にありし英佛の郵便局をして其存在の必要なを自認せしめ、英國郵便局は明治十二年十月廿一日限り、又佛國郵便局は明治十三年三月卅一日限り各々撤退するに至つた。其他の法律に關して、福地源一郎は明治十一年一月東京日々新聞紙上に左の如く批評してゐる。即ち、

法律の去〔十〕年中に改進したるは蓋し一にして足らず姑く其尤なる者を指示すれば二月九日保釋條例〔號外第十八號并第六十一號議案參照〕を以てベールの善法を我邦に移植し我國の人民をして明に人權の要部を享有せしめたり。七月七日諸證書に姓名自書法〔第七十八號并第八十二號議案參照〕を定め、九月十一日利息制限法〔第六十號并第八十一號議案參照〕を定め、十二月三日檢事は求刑を速にし罪囚淹留に至らしむる勿れと令し、同廿三日司法省中に附屬代言人局を設くるを達せられたり。〔中略〕之を概するに明治十年間に制定し改良せし律令は民刑二法に於て共に銳敏の進歩を以て衆庶の幸福を保安するの門牆を爲したるもの。

と云つてゐるが。右は當時の諸事情に照して當らずと雖も遠からざる批評であらう。

〔引用書目 三條實美公年譜、柳原文書、前島密郵便創業談、通信事業五十年史、明治史要、元老院記録、新聞集成明治編年史、東京日々新聞〕

終りに西南役に參加した古老の談を紹介する。

私はこの記事を見て實に今昔の感に堪へません、この通りでした。

私は當時白根縣令の世話で或る役所に勤めて居ましたが減租の事では上役の人達がしきりに相談してゐるのを何度も見掛けました。

そのうちあの騒ぎで私も若いからそれ行けと云ふので血氣の同輩と俱に志願して現地へ行つて應分の事をやりました。

それから確か十一月一日でしたか 明治天皇には吹上御苑に於て凱旋兵を御覽遊ばされ之を慰勞遊ばされました。私もこの光榮に浴した一人です。尙これは後になつて氣がつき同輩とも談し合つたのですが、あの數年來喧ましかつた漸進論急進論とも擾亂勃發後は急に靜かになつた事です、あれなどは實に日本の宜いところでしょう。福地も其事を何かに書いて居た様でした。

昭和十八年十二月

元老院會議筆記 第四卷

(自明治十年一月至同十二年十二月)

目次

被兇屍解剖ノ議案再議……………	〔第五十四號議案〕……………	一
府縣ヨリ布達スル條規ニ違犯スル者罰金案……………	〔第五十六號議案〕……………	一
預ケ金穀出訴期限案……………	〔第五十七號議案〕……………	一
懲役人又犯罪條例外律例共改正布告案……………	〔第五十五號議案〕……………	五
毒藥劇藥規則再議……………	〔第六十三號議案〕……………	五
烟草稅則第一則第一條但書中削除案……………	〔第五十八號議案〕……………	二三
保釋條例設立案……………	〔第六十一號議案〕……………	二三
裁判所職制章程等改正案……………	〔第五十九號議案〕……………	二元
利息制限法……………	〔第六十號議案〕……………	二二
變死ニ係ル屍解剖案……………	〔第六十二號議案〕……………	一四三
人民所有ノ船舶ヲ賣買シ又ハ金穀等借用ノ爲メ書入質入トナサントスル手續ノ儀……………	〔第六十四號議案〕……………	一四五
明治八年内國難破船及漂流物取扱規則第三十七條改正案……………	〔第六十五號議案〕……………	一四九

明治十年郵便規則中改正案……………〔第六十六號議案〕……………一五二

新律綱領中謀殺祖父母父母律第二項改正案……………〔第六十七號議案〕……………一五三

鳥獸獵規則へ追加案……………〔第六十八號議案〕……………一五九

船難報告船難證書授受手續案……………〔第六十九號議案〕……………一六五

建物賣買讓渡規則第一條但書追加案……………〔第七十號議案〕……………一六五

明治十年郵便規則中外國郵便稅表改正案……………〔第七十一號議案〕……………一六五

僧侶得度ノ節管轄廳へ届出ニ及ハサルノ儀……………〔第七十二號議案〕……………一七三

社寺借財ノ節抵當物書入方ノ儀……………〔第七十三號議案〕……………一七五

商人賣販品代金滯云々布告廢止等ノ儀……………〔第七十四號議案〕……………一七九

萬國郵便聯合條約へ連盟案併外國郵便稅表改正案……………〔第七十五號議案〕……………一八一

民刑訴訟ノ上告裁判ヲ經タル者再審案……………〔第七十六號議案〕……………一九三

船難報告船難證書授受手續改正案……………〔第七十七號議案〕……………一九五

諸證書ノ姓名自書竝代書案……………〔第七十八號議案〕……………一九九

建物賣買讓渡規則第二條中刪除案……………〔第七十九號議案〕……………二〇一

收祿功俸賞祿追奪案……………〔第八十號議案〕……………二〇三

利息制限法附則刪除再案……………〔第八十一號議案〕……………二〇七

諸證書但書追加案……………〔第八十二號議案〕……………二一一

租稅怠納ノ者處分案……………〔第八十三號議案〕……………二二三

改定律例第十九條以下刪除第十三條等改正案……………〔第八十四號議案〕……………二三七

明治八年徵兵令第六章第一條末文中刪除案……………〔第八十五號議案〕……………二四三

酒類稅則中改正追加案……………〔第八十六號議案〕……………二四五

國立銀行條例追加案……………〔第八十七號議案〕……………二四七

明治十一年郵便規則及罰則……………〔第八十九號議案〕……………二五一

明治十年七月第四十九號(上告シテ裁判ヲ經タル者モ司法卿ノ意見ヲ以テ再審セシム)布告ヲ廢止スヘキ件……………〔號外第二十一號意見書〕……………二五三

意見書取扱手續ヲ改正スルノ件……………〔號外第二十二號意見書〕……………二六六

目次終

元老院會議筆記

前期第四卷

(自明治十年十二月
至同)

第五十四號議案

被兇屍解剖ノ議案再議

第五十六號議案

府縣ヨリ布達スル條規ニ違犯スル者罰金案

第五十七號議案

預ケ金穀出訴期限案

元老院會議筆記 明治十年一月十九日

○第五十四號議案 被兇屍解剖第五十六號 府縣ヨリ布達スル條規

ニ違犯スル者 第五十七號 預ケ金穀出訴期限ノ布達案 檢視會

被兇屍解剖ノ議案再議、府縣ヨリ布達スル條規ニ違犯スル者罰金案、預ケ金穀出訴期限案

議長 宗陸奥

出席議員

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九
山口尙芳	佐野常民	水本成美	津田眞道	福羽美靜	吉井友實	大久保一翁	柳原前光	佐々木高行	神田孝平	大給恒	河野敏鎌	中島信行	齋藤利行	楠田英世	黒田清綱	秋月種樹	細川潤次郎	

二十番 穴戸 環
廿一番 津田 出

○議長有栖川熾仁大和國西京 行幸ノ供奉ヲ命セラル、ニ依リ其歸東迄ノ間幹事陸奥宗光假リニ副議長ニ任ス

午前第十時開場

○議長曰 本日第五十四號第五十六號第五十七號議案三件ヲ以テ一併ニ檢視ヲ取ラントス各位之ヲ領セヨ

○書記官藤澤大謙 左ノ議案ヲ朗讀ス

警察官吏被兇屍ヲ検査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原由ヲ確知シ難キ旨醫師申立ルキハ検査 地方ハ其地方官長ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖検査セシムルヲ得

○十三番河野敏誠 本案ハ昨九年十一月廿一日己ニ之ヲ檢視ス時ニ警察官ノ字汎然不明ヲ覺フルヲ以テ其理由ヲ通牒セリ 遺回改正ヲ經テ検査云々ノ挿注ヲ加入ス然ラハ則チ別ニ不明ノ字句アルコトナシ速ニ本案ヲ奉還スルヲ可トス

○四番水本成美 予ハ本案ヲ以テ尙ホ不備不明ナリトス被兇屍ノ字是ナリ夫レ被兇屍トハ兇器ヲ以テ暴殺セラレタル死屍ヲ云ヘシ本案検査ノ屍タル敢テ刀槍棍棒等ノ兇器ヲ以テ害セラレタル者ノミノ謂ニアラス水死毒殺等一切ノ變死モ亦ヲ検査スル處ニ係ルヘシ新律綱領父祖被毆ノ條中行兇人ヲ

意ヲ擴充シテ一般ノ死屍ニ關スルモノト見做シ以テ之ヲ類推セハ敢テ他ノ死屍ヲ檢視シ能ハサルノ義ナカルヘシ故ニ不備不明ノ通牒ヲ要セサルナリ

○十二番大給恒 四番ニ同意

○一番山口尙芳 被兇屍ト指スキハ變死ト區別アリ然シテ其名區別アリテ其實區別ナケレハ後來實事ニ臨ミ差闕ヲ生スヘシ故ニ不明ナリトノ通牒スルヲ可トス

○議長曰 四番ノ本案ヲ不備不明ナリトスル說ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十四人

○議長曰 多數ニヨリ不備不明ノ理由ヲ具シテ通牒スヘシ

○議長曰 第五十六號議案ノ檢視ニ移ルヘシ

○書記官藤澤大謙 左ノ議案ヲ朗讀ス
各府縣廳ヨリ布達スル所ノ條規ニ違反スル者ハ裁判官ニ於テ壹圓五拾錢以內ノ罰金ヲ科スヘシ

○十一番神田孝平 本案ヲ以テ不備不明ナリトス夫レ各府縣ヨリ布達ストアレハ其府縣廳限リノ布達トモ見ルヘク又政府ヨリ布達スルモノトモ見做スヘシ文意判然ナラサルモノアリ故ニ其理由ヲ通牒シテ改正ヲ求ムヘシ

○十三番河野敏誠 予ハ否ラスト思考ス今各府縣廳ヨリ布達ス

被兇屍解剖ノ議案再議、府縣ヨリ布達スル條規ニ違反スル者罰金案、預ケ金殺出訴期限案

毆ツ云々ノ文アリ是其兇器ヲ以テ暴殺セラル、モノナリ然リト雖モ強盜律中第三項ニ藥酒ヲ以テ人ヲ醉迷セシメ財ヲ圖ル者ハ不持兇器ヲ以テ論スルノ明文アリ是本案被兇屍ノ字ノ恰當ナラサルヲ議スル所以ナリ依テ考ルニ改定律例第二百四條移地界内死屍條例ニ凡變死ニ係ル屍ハ官ノ檢視ヲ經ルニ非レハ云々ノ字アリ故ニ檢視トスルモ可ナルカ如シ然リト雖モ警察官吏死屍ヲ検査スル時云々トセハ更ニ穩當ナルヲ覺フ

○議長曰 檢視條例第一條ニ依レハ議案ヲ可否スルコトヲ得サルナリ今四番ノ立論ハ只之ヲ不備不明ナリトスルニ在リヤ又ハ可否シテ修正スヘキノ意ナリヤ

○四番水本成美 只不備不明ナリトスルノミ

○一番山口尙芳 四番ニ同意

○十九番細川潤次郎 本案ハ曾テ一回檢視ヲ經タリ當時警察官ノ字ヲ不備不明ナリトノ通牒ノ后院議ノ如ク改正アリテ再ヒ檢視ニ附セラレシナリ今四番ノ說ニ被兇屍ノ字義ヲ論スルハ理アルカ如シト雖モ律ニモ致命傷ノ字アリテ被兇屍ト同視ス畢竟本案ノ意義ハ傷創ノ何ノ部分ニ入レルヤヲ検査スルヲ明示シテ毒殺及飢餓セシメタル等ノ死屍ヲ検査スルノ明文アルコトナシ然リト雖モ其表面ノ如何ヲ問ハス裏面ノ主

ル所トアレハ其府縣廳ヨリ管下限リ布達スルモノヲ指シヤ明ケシ中央政府ヨリ出ルモノハ之ヲ太政大臣ヨリ布告スルモノト云ヘキノミ何ソ其別ナキコトアラシヤ故ニ予ハ本案ヲ以テ不備不明ノ字句ナシトナスナリ

○十九番細川潤次郎 太政官布告ト云ヒ各省布達ト云ヒ以テ官府ノ通牒トナレリ又タ不備不明ト云ヘキ無シ

○議長曰 本案ヲ不備不明ナリトスル議官ハ起立スヘシ

起立者一人

○議長曰 少數ナルヲ以テ不備不明ノ事項ナキニ決ス

○議長曰 第五十七號議案ノ檢視ニ移ル可シ

○書記官藤澤大謙 左ノ議案ヲ朗讀ス
預ケ金殺ノ訴訟ハ其証書中ニ封印ノ儘預リ置候敷或ハ預リ申融通使用ヲ爲サ、ル明文アルモノハ年數ニ拘ハラス受理スヘキ成規ニ候處自今貳拾年以前ニ係ルモノハ一切裁判不及候條此旨布告候事

○議長曰 發議ナキヲ以テ決ヲ取ルヘシ本案ニ不備不明ノ事項ナシト思考スル議官ハ起立スヘシ

衆員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ則チ不備不明ナキニ決ス

○又曰 三件ノ檢視已ニ了レリ其第五十四號ハ不明ノ理由ヲ

具シテ太政大臣へ通牒シ其他ハ本案ヲ奉還スヘシ本日ハ爰ニ散會セシ

午前第十時四十五分閉場

右第五十四號議案は明治九年十一月十日内閣より下附同月廿七日の檢視會に於て本中警察長官の四字不明なりと議決す同日其理由を具し太政大臣へ通牒す(第四十五號議案参照) 明治十年一月十六日本案を修正し太政大臣回答書を以て再ひ下附一月十九日の再檢視會に於て被兇屍の三字不備不明舊法に害すと議決す一月廿二日理由を具し太政大臣へ通牒す(第六十二號議案参照) 尙五十四號參考文獻もそこに載せた。

又第五十六號議案は明治十年一月十七日内閣より下附同月十九日檢視を經過す同日上奏同月廿九日第十三號を以て布告 又第五十七號議案は明治十年一月十七日内閣より下附同月十九日檢視を經過す同日上奏同月廿九日第十二號を以て布告

1 司法省伺 九年十一月二十八日

各府縣管内限リ布達スル所ノ條規ニ違背スルモノ處分方ノ儀是マテ違令又ハ違式ニ區處シ一定ノ成則無之且昨年來府縣稅規則

取設候ニ付違犯ノモノ罰例府縣ヨリ伺出ノ都度大藏省ヨリ當省へ協議ノ上指令致シ候ヘトモ自然各地ノ處分區々相成罰金ノ權衡不當ノ廉有之モ難計就テハ今後政府ノ布告ヲ除クノ外府縣限リノ布達ニ違背スルモノハ違警罪ノ權衡ニ照準シ總テ一圓五十錢ヨリ多カラサル罰金ヲ追徴スヘキ事ト相定メ候ハ、各地ノ罰例大抵同一ニ歸シ不權衡ノ弊有之間敷ト存候尤處分方ノ儀ハ從前ノ通裁判所ニ於テ取扱可申候依之別紙御達案相添此段相伺候也

2 指 令 十年一月二十九日 伺ノ趣第十三號ヲ以テ布告候事

但府縣稅規則違犯ノ者處分方ノ儀ハ別ニ詮議中ニ候條此旨可相心得事 (以上、法規分類大全一・刑法律門ニノ毛)

3 預ケ金數出訴期限案 沿革略記

六年三月司法省布達四十三號 預ケ金數賣掛代金無利足貸金數等ノ類可相渡期限ニ臨ミ渡方延滞ノ節ハ其期限ノ日、期限ナキハ渡方ノ掛合ヲ受ケシ日ヨリ何レモ利足ヲ生シ可申筋ニ付雙方示談ヲ以テ利足歩合ヲ定メ証書ヲ受取渡シ致スヘシ 七年三月布告廿七號 預金穀ハ其証書中ニ封印ノ儘預リ置歟或ハ預リ中融通使用ヲ爲サルノ明文ナキ分ハ本年五月一日ヨリ以後ハ貸金同様ニ裁判スヘシ(沿革類案法規目錄乙 一六六)

第五十五號議案

懲役人又犯罪條例外律例共改正布告案

第六十三號議案

毒藥劇藥規則再議

(第五十五號第二讀會筆記に接續す)

元老院會議筆記 明治十年二月二日

○第五十五號議案 懲役人又犯罪條例外律例共改正布告案 第一讀會

議長 陸奥 宗光

出席議員

- 三番 佐野常民
- 四番 水本成美
- 五番 津田眞道

懲役人又犯罪條例外律例共改正布告案、毒藥劇藥規則再議

午前九時五十分閉場

○議長曰 本日第五十五號議案第一讀會ヲ開クニ方リ内閣委員爰ニ出席シテ本案ノ主旨ヲ説明ス各位之ヲ聽ケ

○書記官本田 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告案

懲役人又犯罪條例外律例共左ノ通改正候條此旨布告候事

- 七番 吉井友實
- 八番 大久保一翁
- 九番 柳原前光
- 十一番 神田孝平
- 十二番 大給恒
- 十三番 河野敏錄
- 十四番 中島信行
- 十五番 齋藤利行
- 十七番 黒田清綱
- 十九番 細川潤次郎
- 二十番 穴戸璣
- 廿一番 津田出保

懲役人又犯罪條例

凡懲役終身ノ囚人又懲役終身ノ罪ヲ犯ス者ハ絞改テ棒鎖十
五日

強盜律

凡強盜兇器ヲ持セス人ヲ殺傷スル者ハ皆斬絞ニ處スル律ヲ
改メ殺ス者ハ斬傷スル者ハ懲役終身其兇器ヲ持スル者ハ財
ヲ得スト雖氏首ハ絞從ハ懲役終身改テ首ハ懲役終身從ハ懲
役十年財ヲ得ル者ハ皆斬改テ皆懲役終身其財ヲ得スト雖氏
人ヲ殺傷スル者亦同シ改テ殺ス者ハ皆斬傷スル者ハ皆懲役
終身

窃盜律

若シ盜ニ因テ姦スル者ハ成否ヲ論セス絞改テ懲役終身
若シ盜ニ因テ過失殺スル者ハ絞改テ懲役終身

偽造寶貨律

凡寶貨ヲ偽造シ已ニ行使スル者首ハ斬改テ懲役終身從及ヒ
匠人若クハ情ヲ知テ買使スル者ハ懲役終身改テ懲役十年其

雜役ニ供スル者ハ懲役十年改テ懲役七年

販賣鴉片烟律

凡鴉片烟ヲ販賣シテ利ヲ圖ル者首ハ斬改テ懲役終身若シ人
ヲ引誘シテ吸食セシムル者ハ絞改テ懲役終身

罪人拒捕律

捕吏ヲ毆テ拆傷以上ニ至ル者ハ絞改テ懲役終身

懲役人逃條例

凡懲役終身ノ囚人再ヒ逃走スル者ハ絞改テ棒鎖十日

○外一番保神田曰 本案ノ要領ハ客歲司法卿ヨリ改正刑法名例
案ヲ以テ上陳セリ時ニ之ヲ本院ノ議定ニ附セラル故ニ其概
要ノ如キハ議官各位ノ會テ了知セラル、所ニ係ル抑モ死刑
ノ事タル慘且ツ酷人世忌懼ノ最モ甚シキモノナリ開明隆治
ノ今ニ方リ尙ホ之ヲ盜犯上ニ存スルハ民命愛護ノ聖旨ニ適
セス故ニ國事犯人ヲ謀殺スル者トヲ除クノ外ハ之ヲ輕減
スルヲ至當トス文明各國ノ人吾カ死刑ヲ以テ輕易ニ諸犯ノ
上ニ加フルヲ聞テ未タ野蠻未開ノ國タルヲ免レサルノ說ヲ
播揚セリ議官各位特ニ爰ニ鑒アリ客歲已ニ該議ヲ奏セラル

憲ニ確見ト云ヘシ今聖世ノ德澤ヲノ遍洽セシメンカ爲ニ先
ツ此苛ヲ去リ寛ニ就クノ恩典ヲ布カント要セラル況ヤ現今
死囚數百人アリ故ニ此決議ヲ急遽ニセサルヘカラサルナリ
請フ議官各位能ク其主旨ヲ領承アラントヲ

○十三番河野曰 今番外一番ノ說明ノ如ク死囚ヲ以テ懲役終
身トナスハ文明ノ治ト云ヘキナリ誰カ敢テ異議ヲ存セン其
逐條區々ノコトニ至リテハ第二讀會ニ於テ之ヲ陳セン

○十九番細川曰 大意ハ委員及十三番ノ說ニ於テ盡セリ予
モ亦大ニ之ヲ可トス其逐條微細ノコトニ至テハ第二讀會ニ向
テ陳セントス予曾テ歐洲各國ノ政表ヲ閱シ彼我死刑ノ數ヲ
對照スルニ其多少ノ差等アルコト實ニ想像ノ外ニ出ツ歐人ノ
諺ニ曰日本ノ刑法ハ鮮血ヲ以テ書スト其慘酷ヲ形容スル實
ニ如此今ヤ刑法ノ改正ニ際シ聞ク死囚數百人アリト是レ本
議ノ決定ヲ速ニセサルヘカラサルモノナリ特ニ死犯ノ僥倖
ヲ得ルノミナラス實ニ日本刑律ノ進歩ニシテ又國家ノ大幸
ト云フヘキノミ

○十一番神田曰 本案ノ主旨ハ實ニ美事ナリ誰カ之ヲ否トス
ル者アラン唯死ヲ以テ懲役終身ニ換ユルハ其懲役終身ノ
囚人月ニ年ニ其數ヲ加ヘ又際涯ナキニ至ルヘシ故ニ之ヲ發
スルノ前宜シク先ツ內務卿ニ稟議シ且ツ監獄ノ實際ヲ審ニ

懲役人又犯罪條例外律例共改正布告案、毒藥劇藥規則再議

シテ而ノ後之ヲ施行アラントヲ可トス

○外一番保神田曰 監獄ハ未決囚ノミヲ入ル、ナリ懲役終身ノ
者ハ皆之ヲ佃島ニ移ス該島ノ懲役場タルヤ區畫壯大ニシテ
百事整頓具備ス近來外國人モ見テ之ヲ賞賛セリ今一二百ノ
人員ヲ送致スルモ敢テ妨ケアルコトナシ然ラハ則十一番ノ懸
念ヲ要セサルナリ

○十一番神田曰 番外一番ノ說ハ特ニ東京府下ノ事ノミ各地
方ノ景況果シテ如何

○外一番保神田曰 各地方中懲役場ノ設ケアルモ其規律整ハス
其區畫狹少ナルモノ等少ナカラス今直ニ答辯スルコトヲ得サ
ルナリ

○十一番神田曰 然ラハ則各地方ノ景況ニ依テ大ニ支吾ノ憂
ヲ生スヘシ宜シク委員ヲ設ケテ實際ヲ調査セシメ然シテ后
本案ノ議ヲ開クヘキナリ

○議長曰 十一番ノ說ヲ贊成スル議官ハ發議スヘシ
贊成者ナシ

○議長曰 贊成者ナキカ故ニ十一番ノ說ハ取消スヘシ且ツ本
案ニ付他ニ發議ナキヲ以テ第一讀會ハ爰ニ了レリトス次テ
第五十八號并ニ第六十一號議案ノ檢視ヲ取ラントス各位之
ヲ領セヨ

時二午前第十一時

元老院會議筆記 明治十年二月十二日

○第五十五號 懲役人又犯罪條例外 第二讀會

議長 陸奥 宗光

出席議員

- 一番 山口 尙芳
- 二番 松岡 時敏
- 三番 佐野 常民
- 四番 水本 成美
- 五番 津田 眞道
- 六番 福羽 美靜
- 七番 吉井 友實
- 八番 大久保 一翁
- 九番 柳原 前光
- 十番 佐々木 高行
- 十三番 河野 敏鎌
- 十四番 中島 信行

午前第十時五十分開場

○議長曰 本日第五十五號議案ノ第二讀會ヲ開ク書記官逐條朗讀ノ后各位例ニ從テ發議スヘシ

○書記官藤澤 次謙 逐條左ノ議案ヲ朗讀ス

布告案

懲役人又犯罪條例外律例共左ノ通改正候條此旨布告候事

懲役人又犯罪條例

凡懲役終身ノ囚人又懲役終身ノ罪ヲ犯ス者ハ絞改テ棒鎖十日

○四番 水本 成美 曰 本案改正ノ主旨ハ人命ヲ愛惜スルニ因ル寔ニ美事ト稱スヘシ唯怪シム懲役人又犯罪ノ絞ヲ改テ棒鎖十五日ニ換ヘ後ノ懲役人逃條例ノ絞ヲ改テ棒鎖十日トナス前ハ

十五日ニシテ後八十日トナスモノハ太タ權衡ヲ失ス夫レ棒鎖ノ實際ヲ聞クニ其苦楚タル七八日ト雖モ或ハ堪ル能ハサルカ如シ況十五日ノ久シキニ於テヲヤ曩キニ佃島ニ於テ

棒鎖一日半ニシテ死ニ至リシモノアルヲ聞ク今絞ノ死ヲ憫ミ換ルニ棒鎖十五日ノ久ヲ以テスル是レ刑ニ死セスシテ罰ニ死スル者ニシテ人命ヲ毀殞スルハ齊シク一ナリ豈ニ能ク聖旨ニ奉副スルモノト云ハンヤ蓋シ前者ヲ十五日トスルモノハ明治九年二月廿八日第二十二號布告懲役人又犯罪條例懲役終身ノ囚人又五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ八日以上十日以下ノ棒鎖ヲ科スト爲セハ五年以上ノ罪既ニ十日ノ棒鎖ヲ科ス故ニ其不權衡ナルヲ知ルト雖モ已ムヲ得ス此絞罪ニ換ルニ十五日ヲ以テスル所以ナルヘシ然ト雖モ改定律例第五條原答五等ヲ棒鎖一日ニ換ヘ原杖六十七二等ヲ棒鎖二日ニ換ヘ原杖八十九一等ノ三等ヲ棒鎖三日ニ換フレハ此亦原徒一年三年ニ至ル五等ヲ棒鎖四日以上六日以下ニ換ヘ原流五年十年ニ至ル三等ヲ棒鎖七日以上九日以下ニ換ヘ各中空一日ト爲シ絞罪ニ換ルニ十日ヲ以テスル何ノ不可カラン然ラハ則人命愛護ノ恩典ヲ以テ死刑ヲ輕減セラル、ノ聖旨ニ背カサルヘシ因テ九年二十二號ノ布告七日以下ヲ六日以下ニ改メ八日以上十日以下ヲ七日以上九日以下ニ改メ

懲役人又犯罪條例外律例共改正布告案、毒藥劇藥規則再議

十五番 齋藤 利行

十八番 秋月 種樹

十九番 細川 潤次郎

二十番 穴戶 磯

廿一番 津田 出

內閣委員 番外 太政官少書記官 村田 保

原案十五日ヲ十日ニ改メ懲役人逃條例ト併セテ九年二十二號布告ノ條例ニ就キ改正ヲ加ヘ強盜律例等ト別ニ布告セラ

○十九番 細川 潤次郎 曰 四番ノ立論正確ナリ予ハ之ヲ贊成ス

○議長曰 四番動議ヲ發シ十九番之ヲ贊成ス則チ之ヲ問題トシテ各位ノ發議ヲ俟ツ

○番一 村田 田 曰 四番ノ說ニ十五日ノ棒鎖ハ決シテ其苦楚ニ堪ル能ハサルヲ云是其理ナキニアラサルナリ當初內閣ニ於テ議スル處ハ十五日ヲ二分シ七日半ツ、兩回ニ施行スヘシトノ說アリシカ懲役ハ一年一年半ト云ヘルカ如ク五等ニ分チ五年以上モ亦三等ニ分テリ今此三者ヲ棒鎖ノ二等ニ當ツルハ不都合ナリ故ニ十五日ニシテ可ナリト云ニ決セシナリ後ヲ十日トシテ前ヲ十五日トナスヲ不權衡ナリトスルノ說ハ後ニ至リテ答辨スヘシ

○議長曰 四番ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十人

○議長曰 多數ヲ以テ四番ノ說ニ決ス

○議長曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官 藤澤 次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

強盜律

凡強盜兇器ヲ持セス人ヲ殺傷スル者ハ皆斬絞ニ處スル律ヲ改メ殺ス者ハ斬傷スル者ハ懲役終身其兇器ヲ持スル者ハ財ヲ得スト雖モ首ハ絞從ハ懲役終身改テ首ハ懲役終身從ハ懲役十年財ヲ得ル者ハ皆斬改テ皆懲役終身其財ヲ得スト雖モ人ヲ殺傷スル者亦同シ改テ殺ス者ハ皆斬傷スル者ハ皆懲役終身

若シ盜ニ因テ姦スル者ハ成否ヲ論セス絞改テ懲役終身

○議長曰 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十人

○議長曰 多數ヲ以テ本案ヲ可ト決ス

○議長曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

竊盜律

若シ盜ニ因テ過失殺スル者ハ絞改テ懲役終身

○議長曰 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十三人

○議長曰 多數ヲ以テ則チ本案ヲ可ト決ス

○議長曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

偽造寶貨律

凡寶貨ヲ偽造シ已ニ行使スル者首ハ斬改テ懲役終身從及ヒ匠人若クハ情ヲ知テ買使スル者ハ懲役終身改テ懲役十年其雜役ニ供スル者ハ懲役十年改テ懲役七年

○議長曰 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

衆員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ則チ本案ヲ可ト決ス

○議長曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

販賣鴉片烟律

凡鴉片烟ヲ販賣シテ利ヲ圖ル者首ハ斬改テ懲役終身若シ人ヲ引誘シテ吸食セシムル者ハ絞改テ懲役終身

○三番佐野曰 曩ニ本院ノ該律ヲ議スルニ方リ予ハ其死刑ヲ

輕減スルノ最モ不可ナルヲ論セリ今又本案ニ對シテ尙ホ夙

說ヲ發シ前日ノ論議ヲ主張セサルヲ得サルナリ抑モ刑律ヲ

以テ貴重ナル人命ヲ殞フハ最モ苛嚴ニ過クルニ似タリ然リ

ト雖モ一人ヲ殺シテ兆民ヲ護シ公害ヲ未前ニ免除スルカ

如キハ決シテ之ヲ殘酷ト云可キニアラス夫レ鴉片烟ノ毒タ

ル能ク人ヲ殺ス其輕害ニ觸ル、モ支體羸弱亦用フルニ堪ヘ

ス終ニ其生命ヲ夭折スルニ至ル近クハ該毒ノ支那地方ニ衍

蔓スルヤ貿易上ノ大利ヲ妨ケ民產ヲ破リ兵力ヲ挫碎シ大ニ

國家ノ頹衰ヲ促ス道光ノ禍亂未タ其流毒ヲ一洗スルコトヲ得

サルナリ隣邦已ニ此覆轍アリ豈鑒ミサルヘケンヤ議者或ハ

曰貿易上ニ向テ嚴戒ヲ加ルキハ又能ク此害ヲ防制シ得ヘシ

ト是レ寔ニ皮膚ノ考察ニシテ實際又行ハルヘカラス況ヤ人

命ヲ重スルノ開化說ニ拘泥シテ前途ノ巨害ヲ慮ラサルカ如

キハ實ニ洪敷ニ堪ヘサルナリ吾邦人ノ該毒ニ觸レサルハ

寔ニ幸福ト云ヘシ今ニシテ之ヲ防制セス一朝漸染ノ日ニ會

ハ、嚙臍ノ悔亦如何トモスヘカラス英人「アールコツク」

云ヘルコトアリ鴉片烟ノ日本ニ侵入セサルハ飲酒ノ盛ナルニ

依ルナルヘシト英人モ其人身ニ害アルヲ知レモ利益ノ爲ニ

之ヲ外國人民ニ獎勵ス支那モ亦皆之カ爲ニ致サル現ニ此ノ

如キ大害ノ物品ナレハ舊幕モ重法ヲ設ケ維新以後モ尙ホ之

懲役人又犯罪條例外律例共改正布告案、毒藥劑藥規則再議

ヲ嚴戒アリシニ今何ノ故ヲ以テ其警戒ヲ解キ其罪ヲ輕減シ

該事ヲ緩漫ニ附セラル、ヤ曩ニ院議本律ノ輕減ヲ不可トス

今尙ホ同シ精神ヲ具シテ予カ立論ヲ贊成アルヘシト察ス庶

幾ス議官各位能ク此利害ヲ熟察アラントコト

○六番福羽曰 三番ノ立言ヲ可トス

○議長曰 三番動議ヲ發シ六番之ヲ贊成ス則チ之ヲ問題トシ

テ各位ノ發議ヲ待ツ

○番一保村田曰 三番ノ說ニ本律ハ客歲院議ニ於テ之ヲ否ト

セリ故ニ這回モ亦必ス否議ニ決スヘシト云ニアリ昨年ハ昨

年ノ思想アリ今年ハ又今年ノ思想アリ何ソ昨年ノ說ヲ墨守

スルコトアラシヤ是レ予カ議官各位ノ必シモ三番ニ協同アル

ヘシトセサル處ナリ且夫レ鴉片烟ヲ密賣スルヤ利ヲ圖ルカ

爲ナリ人ヲ殺スノ意ニ出ルニハアラス況ヤ之ヲ吸食スル者

ハ必シモ死ニ至ルノ恐レアルニ非ルナリ今ヤ國內警察ニ密

ナリ違註罪モ尙ホ之ヲ監査シテ遺ス處ナシ孰ソ鴉片烟ノ流

毒ヲ防制シ得サルノ理アラシヤ且夫レ處刑ノ輕重ヲ以テ天稟

不良ノ民ヲ勸絶セントスルモ得ヘカラス持兇器強盜ハ斬首

ノ極刑ニ處ス然レモ犯者陸續其絶無ヲ見サルカ如シ予會テ

支那地方ヲ過シキ現ニ鴉片烟發賣招牌ヲ街頭ニ明示スル

ヲ都兒格ハ貴賤共ニ鴉片烟ヲ吸食スルモ見ル可シ撒兒比亞

戰爭ニ向テ其將卒ノ慍敢驍勇ナルヲ且ツ六年五月改定律例ヲ制定スルニ方リ其第二條懲役終身ヲ設クルノ章中持兇器強盜監守常人盜謀故殺放火反獄偽造寶貨ヲ除クノ外罪死ニ該ル者一體ニ寛宥シテ此刑ニ科スルノ明文アリ又販賣鴉片烟ノ一ヲ言ハス然ラハ則チ當時既ニ該犯ノ死刑ヲ寛宥スルノ勢ヒアリ況ヤ爾來五周年ノ今日ニ於テ該律ノ輕減セラルル又怪シムニ足ラサルナリ

○三番佐野曰 番外一番ノ答辨ニ依レハ鴉片ノ質タル大害ナシトスルカ如シ若シ夫レ該品ヲノ患害少シトセハ何カ故ニ之ヲ警戒シテ現ニ密賣者ヲ懲役終身ノ重律ニ處スルヤ從前死刑ニ處セシモ亦何ノ所以タルヲ解シ得サルニ似タリ唯其利ヲ圖ルノ意ヲ罰スルモノトセハ人ヲ引誘シテ吸食セシムルハ利ヲ圖ルノ意義ナシ然レ尙ホ之ヲ處スルニ絞ヲ以テスルハ何ソヤ畢竟該毒ノ人身ニ觸ル、ヤ之ヲ吸食スル頓ニ生命ヲ亡殞セサルモ元氣衰耗シテ命期ヲ夭折スルヤ必セリ然ラハ則チ十年ノ生命ヲ保ツヘキ者ヲノ半分ノ命期ヲ短縮セリトセハ則チ五年ノ後ニ於テ之ヲ殺スト云モ可ナリ今此死刑ヲ輕減スルハ單ニ生命ヲ愛惜スルノ意ニシテ自餘諸律ノ權衡ヲ量ルニ出ルヲ知ルヘシ今都兒格人ノ吸食シテ人命ニ患害ナシト臆定スルモノハ抑モ何ノ憑証有テ然ル乎予モ

又曾テ都兒格及印度地方ヲ經過シテ其實ヲ見其害ヲ察セリ特ニ怪シム該毒ノ吾カ邦人ニ向テ患害ナシト認ムルモノハ果ノ何ノ故タルヲ解セス番外一番ノ駁論ハ實ニ取ルニ足ラサルナリ

○番一保村田曰 三番ノ立論ニ依レハ先ツ第一ニ改定律例第二條ノ意義ヲ改正セサルヲ得ス且鴉片烟ヲ吸食スル者ハ必スシモ死期五六年ニ在リトスルモ空論ニ屬スルナリ實際未タ其患害ヲ見ス唯萬一ヲ憂慮スルモノトセハ其死刑ヲ寛宥スルモ何ソ不可ナリトセンヤ三番ニ於テ確實著明ノ証候アルニアラサレハ本案ヲ駁スルノ理由貫徹セサルカ如シ

○三番佐野曰 番外一番ハ未タ予カ論旨ヲ了解シ得サルカ如シ故ニ尙ホ一回之ヲ陳ヘン聞ク鴉片烟ノ質タル一タヒ之ヲ吸食スレハ精神恍然百感ヲ掃除シ支体温裕大ニ快意ヲ極ム宜ナル哉人ノ嗜慾ヲ逞フスルヤ故ニ一朝此害ニ觸ル、ヤ垂喘心醉シテ終ニ暴毒其身ニ侵入シ元氣衰耗ノ命期ヲ促スヲ知ルモ自ラ禁スルヲ能ハサルニ至ル現ニ支那ノ如キハ該毒全國ニ漸染シ億兆ノ人民皆其慾ニ耽ル政府モ亦之ヲ防制シ得ス大ニ國力ヲ萎靡セシムルニ至ル其害ノ大ナル寔ニ懼ルヘキノミ吾邦幸ニ該毒侵入セサルノ今ニシテ能ク之ヲ防拒スルノ策ナクンハ支那ノ覆轍ヲ踏マンヲ瞭々指掌スヘシ

又改定律例第二條ノ改正如何ヲ以テ予カ論義ヲ駁スレハ是單ニ鴉片烟律ニ付テノミ然ルニアラス強盜偽造寶貨ノ二律モ現ニ改正ヲ加ルキハ到底律例第二條ニ於テ許多ノ改正ヲ要スヘキナリ況ヤ全國ノ盛衰ニ係ル一大事件ヲ論スルニ方テ孰ソ律文ノ添削如何ヲ問ハンヤ畢竟番外一番ノ論ハ刑律ヲ設クルノ主意何ノ爲タルヲ知ラサル者ノ如シ佛人「ボワソナード」氏モ鴉片律ハ死刑ヲ存スヘシト云ヘリ以テ其適當ナルヲ知ルヘシ

○番一保村田曰 先キニモ言シ如ク吾邦現今警察ニ密ナリ已ニ横濱ノ如キハ支那人居留家屋ノ窓戸ヨリ怪シキ烟ノ漏ルルヲアリ巡查之ヲ見レハ忽チ行テ點檢ス其警戒甚嚴ナリ三番ハ「ボワソナード」氏ノ説ヲ播揚スレハ恐クハ同氏ノ意中ト三番ノ意中ト相異ルモノアルヘシ畢竟「ボワソナード」氏ハ日本ノ刑律ヲ以テ適當ノ法憲ト見做サ、ルカ故ニ漫然其原律ヲ存スヘシト云シナルヘシ之ヲ以テ証トスルニハ足ラサルナリ

○三番佐野曰 番外一番ハ未タ予カ立論ヲ了解セサルニ似タリ「ボワソナード」氏ノ説ハ固ヨリ鴉片烟律ヲ以テ死ニ入ル、ヲ可ナリト云シニアラス本邦警察ノ効績未タ全ク擧ラサルヲ以テ同氏モ其嚴律ヲ設クル已ムヲ得サルヲ知り死刑

懲役人又犯罪條例外律例共改正布告案、毒藥劇藥規則再議

ヲ存スヘシト云シナリ警察ノ密ナラサル強竊盜ノ災害ニ係ル者新聞紙上日トノ絶ユルヲナキヲ見ル是レ其監査未タ全ク遺漏ナシトスヘカラサルノ証ナリ全國數千萬ノ舉動舉テ僅々警察ノ耳目ニ入ルヘキニアラス其害ヲ防制スルハ實ニ難シ況ヤ盜賊其他ノ所犯ハ現行不現行ヲ問ハス原告者アリ以テ其証述ヲ探偵シ得ヘシ鴉片烟ノ如キハ戶々人々之ヲ日用必需ノ物品中ニ混用ス其所犯ヲ探知スル寔ニ難キニアラスヤ吾邦人ノ智識歐洲人ニ讓ラス警察ノ監査モ亦歐洲各國ノ如クナラハ敢テ注意ヲ要セサルヘシト雖モ吾邦現今ノ勢態ニ於テ該律ヲ寬減スルハ萬々不可ナリトス

○番一保村田曰 三番ハ鴉片烟密賣ノ一ヲ云テ支那ノ如ク公然其發賣ノ招牌ヲ明示スルノ如何ヲ言ハス是レ大ニ予カ説ヲ助クルニ似タリ如何トナレハ該品ヲ公賣スルノ甚シキニ至テハ之ヲ防制スル最モ難シト云ヘシ之ヲ密賣スルモノハ其害猶ホ僅少ナリ能ク之ヲ防拒シ得ヘシ是レ予カ論說ノ歸着スル處ナリ

○議長曰 三番ノ論議ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ
起立者四人

○議長曰 少數ナルヲ以テ三番ノ論議ハ取消スヘシ本條ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十三人

○議長曰 多數ヲ以テ本條ヲ可ト決ス

○議長曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤 左ノ條ヲ朗讀ス

罪人拒捕律

捕吏ヲ毆テ折傷以上ニ至ル者ハ絞改テ懲役終身

○議長曰 發議ナキヲ以テ決ヲ取ルヘシ則本案ヲ可ト思考ス

ル議長ハ起立スヘシ

衆員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ本案ヲ可ト決ス

○議長曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤 左ノ條ヲ朗讀ス

懲役人逃條例

凡懲役終身ノ囚人再ヒ逃走スル者ハ絞改テ棒鎖十日

○議長曰 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン則チ本條ヲ可ト思考ス

ル議長ハ起立スヘシ

衆員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ則本案ヲ可ト決スヘシ本日第

二讀會ハ爰ニ了レリ本案中懲役人又犯罪條例ニ向テ四番議官ノ修正論アリ賛成多數ヲ以テ該論ニ決セリ則チ成規ニ從ヒ委員ヲ撰定シテ修正案ヲ作ラシメ其報告書ヲ得ルノ後第三讀會ヲ開クヘシ

議長四番議官水本成美十九番議官細川潤次郎ヲ以テ委員トス

○議長曰 第六十三號毒藥劇藥ノ一昨九年本院ノ檢視

ニ附セラルル時ニ該案ノ不備不明ナルヲ通牒ス今現ニ院議ヲ採用アリテ再ヒ檢視ニ附セラレシナリ其改正タルヤ第五項但書中僅々二字ノ纂入ニ止ル議官各位已ニ該案頒布ノ時ニ於テ之ヲ一閱セラレタリ鄭重ナル成規ヲ以テ之ヲ檢視スルヲ要セサルニ似タリ如何

○十三番河野曰 該案第五項但書中不能力者ノ字義ニ付テ不備不明ノ理由ヲ陳言シ同議多數ヲ得テ院議トナリ通牒ノ後這回「其他」ノ二字ヲ纂入セラレ其意義明瞭ナルニ至リシナリ是僅々二字ノ纂添ニ止ル故ニ予ハ別ニ檢視會ヲ開クヲ須ヒサルヘシト思考ス

○十四番中島曰 十三番ニ同意

○議長曰 十三番ニ同意ノ議長ハ起立スヘシ

元老院會議筆記 明治十年二月二十日

第五十五號議案 懲役人又犯罪條例 第三讀會

議長 陸奥 宗光

出席議員

二番	松岡時敏
三番	佐野常民
四番	水本成美
五番	津田眞道
八番	大久保一翁
十二番	大給恒
十五番	齋藤利行
十七番	黒田清綱
十九番	細川潤次郎
二十番	穴戸璣
廿一番	津田出
欠席	內閣委員 番外三等法制官 村田保

○議長曰 本日第五十五號議案ノ第三讀會ヲ開ク該案ハ第二讀會ニ向テ四番議官修正ノ動議ヲ起シ賛成多數ノ決ヲ以テ

衆員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ別ニ檢視會ヲ開カス直ニ成規ヲ以テ本案ヲ奉還スヘキニ決ス本日ハ爰ニ散會スヘシ

午後十二時十五分閉場

右六十三號議案は初め明治九年八月廿六日内閣より下附。元老院は之を第卅五號議案として同年九月六日檢視會に於て本案第五項但書不明なるを以て改正すへきに決議す。同日其理由を具し右大臣へ通牒す

明治十年二月十日院議の如く改正更に下附同月十二日檢視を経過す同日上奏同年二月十六日第二十號を以て布告

内務省伺 九年七月六日

毒藥取締ノ儀ニ付テハ明治七年中文部省ヨリ先以三府へ布達相成候處漸次各縣ニ於テモ其荷モス可ラサルニ著眼シ該規則ニ準シ取締方相設ケ候向モ不少已ニ一般藥物取扱ニ注意致シ候機會ニ相運ヒ且又追々醫術相開ケ候ニ隨ヒ藥物ノ賣買モ日ニ盛大ニ趣キ最早府縣一般取締ノ方法無之テハ輕卒ノ取扱ヨリ不測ノ危害ヲ生シ候儀モ保シ難ク候間別冊ノ通至急御公布有之度左案相添此段伺候也

〔法規分類大全一・衛生門三ノ二五〕

懲役人又犯罪條例外律例共改正布告案、毒藥劇藥規則再議

委員ヲ撰ミ其修正案ヲ草セシム則チ復命書ヲ得タリ依テ讀會規則第十條第十一條ニ照準シテ先ツ修正案ヨリ朗讀セシムヘキナリ

○書記官本田 左ノ修正案ヲ朗讀ス

懲役人及犯罪條例

凡懲役終身ノ囚人又一年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ四日以上七日以下ノ棒鎖改テ四日以上六日以下ノ棒鎖五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ八日以上十日以下ノ棒鎖改テ七日以上九日以下ノ棒鎖懲役終身ノ罪ヲ犯ス者ハ絞改テ棒鎖十日

○十九番細川潤日 本案第二項懲役人又犯罪條例ハ第二讀會ニ向テ修正ノ説ニ決シ則チ四番議官ト予ト共ニ委員ノ命ヲ承ケ此ノ修正案ヲ起草セリ依テ其論旨ノ樞要ヲ陳セントス

本條ハ明治九年二月第二十二號布告懲役人又犯罪條例懲役終身ノ囚人又五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ八日以上十日以下ノ棒鎖ヲ科スト爲セハ五年以上ノ罪既ニ十日ノ棒鎖アリ因テ不權衡ヲ知ルト雖モ止ムコトヲ得ス此絞罪ニ換フルニ十五日ヲ以テスル所以ナリ然リト雖モ改定律例第五條原管五等ヲ棒鎖一日ニ換ヘ原杖六十七二等ヲ棒鎖二日ニ換ヘ原杖八十九一百三等ヲ棒鎖三日ニ換フレハ此亦原徒一年三年

ニ至ル五等ヲ棒鎖四日以上六日以下ニ換ヘ原流五年十年ニ至ル三等ヲ棒鎖七日以上九日以下ニ換ヘ各中定一日ト爲シ絞罪ニ換フルニ十日ヲ以テスル何ノ不可カララン然ラハ法律ノ權衡其當ヲ得ルノミナラス人命ヲ重スルノ旨趣ニ悖ラサルヘシ因テ九年二十二號ヲ以テ布告セラル、條例文七日以下ヲ六日ニ改メ八日以上十日以下ヲ七日以上九日以下ニ改メ原案第十五日ヲ十日ニ改メ懲役人逃條例ト併セテ九年二十二號布告セラル、條例ニ就キ改正ヲ加ヘ強盜律例等ト別ニ布告セラル、コトヲ可トス

○議長日 修正案ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

衆員悉ク起立ス

○議長日 全會一致ナルヲ以テ則チ修正ヲ可ト決ス

○議長日 餘ノ數條ハ修正ナキヲ以テ每條本案ニ就キ決ヲ取ラン

○書記官本田 左ノ條ヲ朗讀ス

強盜律

凡強盜兇器ヲ持セス人ヲ殺傷スル者ハ皆斬絞ニ處スル律ヲ改メ殺ス者ハ斬傷スル者ハ懲役終身其兇器ヲ持スル者ハ財ヲ得スト雖モ首ハ絞從ハ懲役終身改テ首ハ懲役終身從ハ懲

役十年財ヲ得ル者ハ皆斬改テ皆懲役終身其財ヲ得スト雖モ人ヲ殺傷スル者亦同シ改テ殺ス者ハ皆斬傷スル者ハ皆懲役終身

若シ盜ニ因テ姦スル者ハ成否ヲ論セス絞改テ懲役終身

○議長日 他ニ發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン則チ本案ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

衆員悉ク起立ス

○議長日 全會一致ナルヲ以テ則チ本案ヲ可ト決ス

○又日 次條ニ移ルヘシ

○書記官本田 左ノ條ヲ朗讀ス

竊盜律

若シ盜ニ因テ過失殺スル者ハ絞改テ懲役終身

○議長日 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン則チ本案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

衆員悉ク起立ス

○議長日 全會一致ナルヲ以テ則チ本案ヲ可ト決ス

○又日 次條ニ移ルヘシ

○書記官本田 左ノ條ヲ朗讀ス

偽造寶貨律

懲役人又犯罪條例外律例共改正布告案、毒藥劇藥規則再議

凡寶貨ヲ偽造シ已ニ行使スル者首ハ斬改テ懲役終身從及ヒ匠人若クハ情ヲ知テ買使スル者ハ懲役終身改テ懲役十年其雜役ニ供スル者ハ懲役十年改テ懲役七年

○議長日 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン則チ本案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

衆員悉ク起立ス

○議長日 全會一致ナルヲ以テ則チ本案ヲ可ト決ス

○又日 次條ニ移ルヘシ

○書記官本田 左ノ條ヲ朗讀ス

販賣鴉片烟律

凡鴉片烟ヲ販賣シテ利ヲ圖ル者首ハ斬改テ懲役終身若シ人ヲ引誘シテ吸食セシムル者ハ絞改テ懲役終身

○三番佐野日 本條ニ付テ予ハ一論ヲ第二讀會ニ陳言セリ然ルニ改正ハ他諸律ノ權衡ヲ得タリト云ヘルノ説ヨリ終ニ本案ニ決セリ然リト雖モ當下番外一番ノ説明ヲ聞クニ改定律例第二條ニ於テ死刑ノ種類ヲ掲ルモ販賣鴉片烟ノ刑名ヲ掲ケサルハ己ニ其死ヲ寬免スルノ徵候ナリ故ニ今漫ニ其死ヲ輕減スルニアラスト云ヘリ夫レ刑ハ輕カラントヲ欲ス今死ヲ以テ懲役終身ニ換ヘントスルニ方リ敢テ之ヲ拒テ重刑ヲ

存セントスルハ最殘酷ナルニ似タリ然レモ鴉片烟ノ害タル人一タヒ之ヲ吸食スルキハ酒客ノ酒ヲ嗜ムヨリモ甚シ其害ノ深重ナル又万々ナリ一朝此痼害ノ國內ニ染入スルヤ億兆ノ民庶皆憔悴粗傾亦用フルニ足ラス忽チ國家衰耗ノ端ヲ開ク寔ニ恐ルヘキナリ故ニ支那ハ梟斬ノ極刑ヲ示シテ之ヲ禁スルモ猶未タ能ハス終ニ已ムヲ得スシテ今日ノ如ク默許スルニ至レルナリ豈本邦該害ヲ未萌ニ防拒セサルヘケンヤ一人ヲ刑シテ千萬人ヲ護スルキハ假令如何ナル嚴刑ヲ加ルモ何ソ之ヲ殘酷ト云ヘケンヤ今ヤ政府力テ人民ノ幸福ヲ謀リ安寧ヲ護スルニ急ナリ此時ニ方リ該律ノ如キハ最モ存スヘク寛裕スヘカラサルノコトナリ前會十三番議官予カ説ヲ贊成セリ是レ國家ノ爲ニ喜悅スル處ナリ所謂刑ハ無刑ニ如カスノ一語ニ依リテモ本條ハ原律ノ慘刑ヲ存シテ其所犯ナカラシムルニ如カス

○十二番大給 予ハ前會ニ向テ本律ノ改正スヘカラサルヲ陳ヘタリ畢竟改正ノ要旨ハ死刑ヲ輕減スルノ一點ニ出テ他諸律ノ權衡ヲ量ルニ依ルナルヘシ其事美ナルニ似タレモ三番議官ノ論議ノ如ク嚴律重刑ヲ存シテ其流害ヲ未萌ニ防拒セサルヲ得ス毒藥數品アリト雖モ其害一人一己ノ身体ニ止ル烟毒ノ延蔓スルヤ治ク天下ノ人ヲノ不能力者ト爲スト云

義トス之ヲ苟モスヘカラサルナリ況ヤ懲役終身ノ重刑ヲ加フ權衡其當ヲ得タリト云ヘシ議者又或ハ云ハン其重刑ニ處スル所以ノモノハ烟毒ノ大害人ノ精神ヲ衰耗シ智識爲ニ進マス兵勢爲ニ挫ク國力萎靡ノ端ヲ開クモノニ其罪萬死モ尙ホ輕シトスト此說稍理アルニ似タリ然リト雖モ予ハ亦同様ノ思惟ヲ微毒ニ付テ發セサルヲ得ス曾テ歐洲各國ノ識者ニ聞ク日本開明ノ遲速ハ微毒ノ根ヲ斷滅スルノ如何ニ關スヘシ人ノ微毒ニ觸ル、ヤ筋骨頓ニ衰フ其甚シキニ至テハ身體糜爛シ社會上ニ立テ交際ヲ保持スル能ハサルニ至ル是レ畢竟男女ノ欲情ニ淵源ス故ニ之ヲ防制スル尤モ難シ獨リ其男女ノ兩間ノミナラス子々孫々先天ノ遺毒トナリテ害ヲ後裔ニ貽ル其子孫又配遇交通病毒天下ニ彌蔓ス其人身ヲ損害スルニ於テ鴉片烟ノ害ト又甚遠カラス然ラハ其微氣アル婦女ノ色ヲ鬻キ或ハ人ト交通スル者ハ皆之ヲ斬ニ處スヘシト云ハ、天下ノ人之ヲ何トカ云ハンヤ酒毒モ亦大ニ人ヲ損害ス酒ヲ賣ル者モ亦刑ヲ加ヘサルヲ得サルカ如シ是レ權衡ノ當否ヲ商量セサルヲ得サル所以ナリ依テ本案改正ノコトハ予ニ於テ之ヲ可トス

○十七番黒田 先キニ本院該件ノ議アリシキモ今ノ三番ノ説ニ同意シテ原律ヲ存スヘキノ意ヲ陳セリ今尙舊説ヲ主持

懲役人又犯罪條例外律例其改正布告案、毒藥劇藥規則再議

モ可ナリ今吾邦人鴉片ノ性質ヲ詳ニセス又其犯禁ノ刑律輕重如何ヲ知ラサル者多シ今人々其物質如何ヲ知ラサルニ際シ其刑ヲ寬ニセハ時ニ或ハ其吸食ヲ容易ニスル者ナキヲ保シカタク霜ヲ踏テ堅氷至ルノ恐ナキヲ得ンヤ他ノ刑律ノ權衡如何ヲ問フヘキニアラス故ニ本條ハ原律ヲ存スルコト三番議官ニ同意ナリ

○十五番藤 三番ニ同意ナリ如何トナレハ本邦外交日未タ淺シ幸ニシテ國民世ニ鴉片烟アルヲ知ラサルナリ故ニ其害ノ本邦ニ入ラサル知ルヘシ將來貿易ノ盛大ナルニ從ヒ其毒ノ侵入スルヤ必セリ他日人智開進衛生ノ一端ヲ知り得ルニ至テ初テ其律ヲ寬ニスルモ又遲キニアラサルナリ故ニ三番ヲ贊成シテ本案ヲ否トス

○十九番細川 本院客歲已ニ此議アリシ時予ハ輕減ノ説ヲ以テ可トセリ今日再ヒ該律ヲ議スルニ未タ前説ヲ變更スヘキ程ノ理ヲ見出サス故ニ今尙ホ前説ヲ主張ス夫レ懲役終身ハ佛國舊律ノ所謂准死ノ刑ト同シ死ニ次クノ極刑ナリ販賣鴉片烟ヲ以テ此重刑ニ處ス敢テ寬有ニ過クルト云ヘカラス他諸律ノ權衡如何ヲ問ハス特ニ本律ノミヲ以テ輕減スルモ可ナリトスルニ似タリ議者或ハ言ハン權衡ヲ論スルハ其事ノ輕重ニヨルト豈夫レ然ランヤ抑律ハ權衡ヲ以テ第一

シテ本案ノ改正ヲ否トス

○四番水本 先キニ本院ノ該律ヲ議スルニ當リ予ハ權衡論ヲ主張シテ該犯ヲ懲役終身ニ處スヘキヲ陳フ然リト雖モ今再三熟慮シテ三番ノ原律ヲ存スヘシトスルノ議ニ同意ス

○廿一番津田 前會委員ノ論説ハ專ラ鴉片烟ノ無毒ナルヲ播揚シ爲ニ都兒格ノ民俗ヲ引証シテ其人身ニ益アルカ如キノ説ヲ發スルノ甚タシキニ至ル予以爲ク單ニ權衡論ニノミ拘泥シテ其實況ヲ察セサルハ不深切ナルカ如シト雖モ死一等ヲ減シテ懲役終身トナスモ敢テ不都合ナルナキノ所以ヲ陳セン夫レ政府ノ人民ヲ駕馭スルヤ律ノ輕重寬嚴ヲ以テスルニ非ス聖世ハ刑律ヲ要セスト云カ如シ抑律ハ行政ノ欠ヲ補フモノナリ行政上萬遺缺ナキハ刑律又徒爲ニ屬スルナリ今ヤ万機開進ノ日ニ方リ律ノ權衡ヲ察シテ其法ヲ寬ナラシメントス本案改正ノ主旨理アリト云ヘシ喩ヘハ人民野蠻蒙昧ノ俗ニシテ梟斬ノ極刑ニ處セスンハ其鑿戒ヲ取ルニ足ラストセハ梟斬モ尙ホ處スヘシ今ヤ文明開進ノ日ニ方リ人民稍廉耻ノ風ヲ知ル今ニシテ懲役終身ニ處スルハ尙前日ノ死ニ處スルト其權衡相同シキカ如シ故ニ本案ノ如ク改正スルヲ可トス

○議長曰 他ニ發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン原案ニ同意ノ議官

ハ起立スヘシ

起立者五人

○議長曰 少數ニ依リ原案ヲ否ト決ス

○議長曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官本田 左ノ條ヲ朗讀ス

罪人拒捕律

捕吏ヲ毆テ折傷以上ニ至ル者ハ絞改テ懲役終身

○議長曰 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン則チ本案ニ同意ノ議官

ハ起立スヘシ

衆員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ本案ヲ可ト決ス

○議長曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官本田 左ノ條ヲ朗讀ス

懲役人逃條例

凡懲役終身ノ囚人再ヒ逃走スル者ハ絞改テ棒鎖十日

○議長曰 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン則チ本案ニ同意ノ議官

ハ起立スヘシ

衆員悉ク起立ス

付先以テ別紙條款御改正相成度改正案及御達案ヲ添此段相伺候
間至急御裁下有之度候也

2 元老院上奏 十年二月二十二日

去一月十六日院議ニ被附タル懲役人又犯罪條例外律例共改正案
本月二十日院議ニ於テ懲役人又犯罪條例ハ修正ヲ加ヘ又明治九
年二月二十八日第二十二號ヲ以テ布告スル條例ヲモ改正シテ懲
役人逃條例ト併セテ別ニ布告ス可ク販賣鴉片烟律ハ改正ヲ要セ
ス原律ヲ存スヘキニ決シ其他ハ原案ヲ可トス仍テ別紙修正案并
ニ其修正スル所以ノ院議ヲ摘録シテ謹テ之ヲ上奏ス

(別紙)

原案 懲役人又犯罪條例

凡懲役終身ノ囚人又懲役終身ノ罪ヲ犯ス者ハ絞改テ棒鎖十五日

原案 懲役人逃條例

凡懲役終身ノ囚人再ヒ逃走スル者ハ絞改テ棒鎖十日

修正 布告案

明治九年二月二十八日第二十二號ヲ以テ布告致候懲役人又犯罪

條例及ヒ懲役人逃條例左ノ通改正候條此旨布告候事

修正 懲役人又犯罪條例

凡懲役終身ノ囚人又一年以上ノ罪ヲ犯スモノハ四日以上七日以

下ノ棒鎖改テ四日以上六日以下ノ棒鎖五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ

八日以上十日以下ノ棒鎖改テ七日以上九日以下ノ棒鎖懲役終身

懲役人又犯罪條例外律例共改正布告案、毒藥劇藥規則再議

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ則チ本案ヲ可ト決ス

○議長曰 本案モ發議ナシ故ニ第三讀會ハ爰ニ了レリ第一條
ノ議ノ如キハ修正ニ決ス故ニ其修正スル所以ノ理由ヲ書セ
シメテ之ヲ奏セントス各位之ヲ領セヨ

田 右は明治十年一月十六日内閣より下附同年二月廿日の會議
に於て懲役人又犯罪條例は修正を加へ又明治九年二月廿八日第
二十二號を以て布告せし條例をも改正し懲役人逃條例と併せて
別に布告す可く販賣鴉片烟律は改正を要せず原律を存し其他は
原案を可と決す仍て修正案件に其修正せる所以を摘書し同月廿
二日上奏三月二日第廿五號を以て布告せらる。

參考 1 司法省 伺 九年十二月九日

刑法改正ノ儀兼テ上申ニ及ヒ置當今取調中ニ候處新法草案ニ依
レハ從前死刑ニ入ル可キ者モ輕減ニ相成ヘキ類不勝然處新法御
議定ノ上頒布相成候迄ハ右輕減ニナル可キ者モ現行刑律ニ依テ
處分セサルヲ得ス如斯者ハ無量ノ聖恩ニ漏レ死者復タ生ク可カ
ラス誠以憫然ノ至ニ付差向賊盜贖造及鬪毆逃亡等ニ係リ死ニ入
ル者御改正相成度尤草案ニ照シ候ヘハ此外仍ホ死ヲ出ツ可キ者
有之候ヘモ右ハ謀殺ノ類及ヒ等親ニ關スル犯罪重大ノ事件ニ

ノ罪ヲ犯ス者ハ絞改テ棒鎖十日

院議 懲役人又犯罪等ノ條例内閣改正セラルルノ旨趣ハ人命
ヲ重シク死刑ヲ減セラルルニ在ルコト必セリ然ルニ棒鎖ノ艱
苦ナル七八日ト雖モ或ハ人堪フルコト能ハスシテ殞命スルニ
至ラン況ンヤ十五日ノ久シキヲヤ棒鎖ノ罰タル固ト監獄則
ニ艱マル以テ獄則ヲ犯ス者ヲ懲罰スル所以ノ具ニシテ其時間
モ半日終日ノ二別アルノミニシテ二日以上ニ至ル者ナキハ人
ノ堪フル所ニ非ルヲ以テナリ明治六年改定律例ヲ編纂スルニ
方リ笞杖ノ實決ヲ廢セラレテ皆懲役ニ換フト雖モ其存留養親
及懲役人逃等即時決ス可キ者ハ此棒鎖ニ換ヘ始テ刑ノ閏タル
者ノ如シト雖モ猶ホ原杖一百以下棒鎖一日ヨリ起リ三日ヲ科
スルニ止ル者ハ其以上ニ至リテハ亦人ノ堪フル所ニ非ルヲ以
テナリ今絞ノ死刑ニ就クヲ憫ミ其生ヲ求ント欲シテ換フルニ
棒鎖十五日ノ久シキヲ以テ是刑ニ死セスシテ罰ニ死スル者
ノ如ク齊シク命ヲ殞サシムルニ至ル豈朝廷ノ旨趣ト齟齬セサ
ランヤ況ンヤ懲役人逃條例ハ絞ヲ棒鎖ニ改メテ十日ニ止メ此
條例ノ絞ハ改テ棒鎖十五日ニ至ル法律ノ權衡甚タ當ヲ失フ者
ト謂フ可シ内閣此ニ察セラレサルニ非ス而シテ此不權衡ヲ生
スル者ハ明治九年二月二十八日第二十二號ヲ以テ布告セラレタ
ル懲役人又犯罪條例懲役終身ノ囚人又五年以上ノ罪ヲ犯ス者
ハ八日以上十日以下ノ棒鎖ヲ科スト爲セハ五年以上ノ罪既ニ

十日ノ棒鎖アリ因テ不權衡ヲ知ルト雖モ止ムコトヲ得ス此絞罪ニ換フルニ十五日ヲ以テスル所以ナリ然リト雖モ改定律例第五條原告五等ヲ棒鎖一日ニ換ヘ原杖六十七二等ヲ棒鎖二日ニ換ヘ原杖八十九一百三等ヲ棒鎖三日ニ換フレハ此亦原徒一年三年ニ至ル五等ヲ棒鎖四日以上六日以下ニ換ヘ原流五年十年ニ至ル三等ヲ棒鎖七日以上九日以下ニ換ヘ各中空一日ト爲シ絞罪ニ換フルニ十日ヲ以テスル何ノ不可カアラン然ラハ法律ノ權衡其當ヲ得ルノミナラス朝廷人命ヲ重シ死刑ヲ減セラルルノ旨趣ニ奉副セン因テ九年二十二號ヲ以テ布告セラルル條例文七日以下六日以下ニ改メ八日以上十日以下ヲ七日以上九日以下ニ改メ原案十五日ヲ十日ニ改メ懲役人逃條例ト併セテ九年二十二號布告セラルル條例ニ付キ改正ヲ加ヘ強盜律例等ト別ニ布告セラルルコトヲ可トス

原案 販賣鴉片煙律

凡鴉片煙ヲ販賣シテ利ヲ圖ル者首ハ斬改テ懲役終身若シ人ヲ引誘シテ吸食セシムル者ハ絞改テ懲役終身
院議 原律ヲ存スルヲ可トス如何ントナレハ本案改正ノ意ハ人命愛護ノ仁旨ニ出テ他諸律ノ權衡ヲ量ルニヨル然リト雖モ鴉片ノ害タル其毒能ク人ヲ殺ス之ヲ吸食セシメテ以テ利ヲ圖ル者ハ兇器ヲ持テ人ヲ殺ス者ト其人命ヲ殞害スルニ於テ又何ノ異ラン矧ヤ流毒一トタヒ染入スルヤ人ノ氣力ヲ損シ生命ヲ

第五十八號議案

烟草稅則第一則第一條但書中
削除案

第六十一號議案

保釋條例設立案

元老院會議筆記 明治十年二月二日

○第五十八號 烟草稅則第一則第一條但書中削除ノ議案第六十一號 保釋條例ノ件 檢視會第五十五號議案第一ノ件 檢視會ノ后之ヲ開ク

議長 陸奥 宗光

出席議員

- 三番 佐野常民
- 四番 水本成美

烟草稅則第一則第一條但書中削除案、保釋條例設立案

天折ス智識タメニ進マス兵力爲メニ振ハス遂ニ國家衰耗ノ端ヲ開クト云モ亦タ過キタリトス可ラス之ヲ一人一己ノ殺傷ニ比スルニ其害猶ホ萬々ナルモアリ今ヤ吾邦人開明未タ遍カラス修身ノ學衛生ノ術其概要ヲ知ラサルニ際シ流毒一タヒ蔓延シテ密賣盛ナルニ至ラハ之ヲ防制スル最モ難シト云ヘシ他ノ諸律ヲ寬ニシテ犯者ノ多キヲ加レハ復タヒ之ヲ嚴ニスルコトヲ得ヘシ特ニ鴉片烟ノ如キハ其毒内國ニ深染スルノ後子假令該律ヲ復スルモ又其効驗アルコトナシ本邦ノ今ニ於ケル必ス此嚴律ヲ存シテ大害ヲ未前ニ防制セシムルハ囑騰ノ悔ナキヲ保セサルナリ支那印度ノ覆轍亦タ見ルヘキノミ本邦外交以來此嚴禁ヲ設クト雖モ未タ全ク其害ヲ防拒シ得タリトスルヲ得ス況ヤ其律ヲ寬ニシ其刑ヲ輕フスルニ於テヤ毒物ヲ鬻キ民命ヲ弄シテ自己ノ利ヲ射ル者之ヲ罰スルニ死ヲ以テス何ノ苛酷ト云フカ之アラシ一人ヲ刑シテ千萬人ノ警戒トシ其公害ヲ防制シテ國國ノ人命ヲ保護ス寔ニ律ノ精神ト云ヘシ故ニ本按ノ改正ヲ否トシテ原律ノ重刑ヲ存スルヲ可トス

3 法制局議案 十年二月二十四日

別議元老院上奏懲役人又犯罪條例外律例改正案審案候處該院議定案ノ通御採用相成可然裁御布告案更ニ取調仰高裁候也

〔以上、法規分類大全一・刑部門三〇三六〕

午前第十一時開場

○議長曰 今第五十八號議案ノ檢視ニ先タチ一事ヲ以テ各位ニ問ハン抑檢視會決議ノ方法ハ其條例第二條ニ憑リテ施行ス今ヤ本院議事ノ体裁タルニ讀會規則ヲ踐行スルニ方リ該則中別ニ檢視ノ方法ヲ明示セス故ニ今予カ意見ヲ陳シテ各位ノ協議ニ決セントス則チ檢視案若シ舊法抵觸及不備不明ノ條欸アリト一議官動議ヲ發スルハ讀會規則第六條

- 五番 津田真道
- 七番 吉井友實
- 八番 大久保一翁
- 九番 柳原前光
- 十一番 神田孝平
- 十二番 大給恒
- 十三番 河野敏錄
- 十四番 中島信行
- 十五番 齋藤利行
- 十七番 黒田清綱
- 十九番 細川潤次郎
- 二十番 穴戸璣
- 廿一番 津田出

ノ意ニ倣ヒ一議官不備不明等ノ意見ヲ出シ他ノ議官之ヲ贊成スレハ議長ハ之ヲ問題トシ各議官ヲシテ討論セシメ而シテ后其可否ヲ問フノ定規ニ依憑シテ處分セハ如何之ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

衆員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ則チ檢視會決議ノ体裁ハ讀會規則第六條ニ依憑スルノ事ニ決スヘシ

○書記官^本田^親雄 左ノ議案ヲ朗讀ス

明治八年十月第五十號布告煙草稅則第一條第一條但書中煙草賣買營業人ヘノ八字削除候條此旨布告候事

○議長曰 本案ニ不備不明及舊法ニ牴觸ノ條ナシト認ムル議官ハ起立スヘシ

衆員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ成規ニ依リ本案ヲ奉還スヘシ

○議長曰 次テ第六十一號ノ檢視ヲ取ルヘシ

○書記官^本田^親雄 左ノ議案ヲ朗讀ス

保釋條例

第一條 保釋トハ刑事被告人ヲシテ保證人ヲ立テ保證金ヲ出シ審訊中ノ繫留ヲ免レシムルモノヲ云フ

被告人ハ更ニ他ノ保釋ヲ願フコトヲ得

第九條 被告人裁判所ノ呼出ヲ受ケテ出頭セサルハ直チニ之ヲ逮捕セシメ再ヒ保釋ヲ許サス仍ホ保證金ハ官ニ沒ス

但劇病等不得已事故アル者ハ此限ニアラス

第十條 被告人保釋中逃走スル者ハ脱監越獄ヲ以テ論ス其保證人逃走スルヲ覺ラサル者ハ保證金ヲ官ニ沒シ故縱スル者ハ主守不覺失囚律中故縱スル者ヲ以テ科斷ス仍ホ保證金ハ官ニ沒ス

第十一條 保證人タルヘカラサル者左ノ如シ

第一 被告人ノ犯罪ニ付關係アル者

第二 懲役五年以上ノ刑ニ處セラレシ者

第三 老幼婦女其他不能力者

第十二條 被告人保釋中一名ノ保證人其保證ヲ辭スルカ又ハ亡歿スルキハ更ニ他ノ保證人ヲ選ムヘシ

第十三條 被告人ノ裁判言渡ヲ受クルキハ保證金ハ直ニ還付スヘシ

第十四條 若シ裁判官私讐ヲ懷挾シ故ラニ保釋ヲ許サ、ルキハ故禁無罪人律ヲ以テ論ス

第十五條 裁判不服ヲ以テ大審院ニ上告シ上告中拘置セラ

憲草稅則第一條第一條但書中削除案、保釋條例設立案

第二條 裁判官ハ被告人ノ遁逃シ或ハ罪証ヲ隱滅スルコトナ

キヲ察スレハ懲役終身以上ニ該ルヘキ者及先キニ重罪ノ

刑ニ處セラレタル者ヲ除クノ外保釋ヲ許スヘキモノトス

第三條 被告人タル者及ヒ其保證人ヲラント欲スル者ハ何時ニテモ保釋ヲ願フコトヲ得ヘシ

裁判官ハ速カニ之ヲ許否スヘシ事由ナクシテ遷延五日ヲ過ルコトヲ得ス

第四條 保證人ハ二名以上トス然レモ裁判官ノ見込ニヨリ

一人ニテ充分ナリト認ムルキハ此例ニアラス

第五條 保證金高ハ被告人ノ罪情ノ輕重及ヒ被告人保證人ノ貧富ニ應シ裁判官相當ノ額ヲ定メ被告人及保證人連帶シテ之ヲ出サシム

第六條 保證人ハ被告人ヲシテ何時ニテモ裁判所ノ呼出ニ應シ出頭セシムルノ責ニ任スヘシ

第七條 保釋ヲ得ルノ被告人其住所ヲ定ムルハ裁判官ノ承諾ヲ得ヘシ且事故ナクシテ擅ニ他出スルコトヲ許サス

第八條 保證人ハ被告人ノ遁逃シ及ヒ罪証ヲ隱滅セントスルヲ察スレハ直チニ官ニ告クヘシ若シ事急ナルキハ自ら拘引スルコトヲ得ヘシ

此場合ニ於テ保證人保釋ヲ辭スルキハ其保證金ヲ還付シ

ル、者モ亦此例ヲ通シ用フヘシ

附則

違警罪又ハ其他ノ刑事被告人ニテ從來親戚又ハ書記區戶長預ケ等ノ先規アル者ハ此保釋條例ト並ヒ行フコトヲ得

○十三番^{河野} 本案ハ固ト予ト十四番^中 議員トノ意見ニ起

リ院議ノ協同ヲ得テ奏上セシニ係ル今本案ヲ見ルニ叢ニ奏

上ノ文案ト少シク相異ルモノアリト雖モ全局ノ主旨ヲ變更

セシニアラス僅々字句ノ添削ニ止ルノミ則第五條ノ但書ヲ

削レルモノハ其繁ヲ省クニ依レル歟又第八條第二項ニ向テ

保證人ノ三字ヲ加フルハ其意義ヲ明カニスルナリ第十條ニ

逃走スルヲ覺ラサル者ハ保證金ヲ官ニ沒シ^レノ十九字ヲ纂

入セリ是亦意義ヲ擴充スルモノニシテ取捨最モ其要ヲ得タ

リ又不備不明ノ憾ナシト謂フヘシ

○議長曰 本案ニ不備不明牴觸ノ條歟ナシト思考スル議官ハ起立スヘシ

衆員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナリ則チ成規ニ從ヒ本案ヲ奉還スヘシ

○議長曰 第五十五號第二讀會ハ來ル七日ニ開クヘシ然リト

雖モ急遽ヲ要スル裁判所職制章程ハ委員ノ報告ヲ俟テ第三

讀會ヲ開カントスルニ依リ此報告若シ七日前ニ向テ發セハ
第五十五號ノ二讀會ハ他日ヲ期スルモ又計ルヘカラサルナ
リ本日ハ爰ニ閉場スヘシ
午前第十一時三十分閉場

閣 右第五十八號議案は明治十年一月十八日內閣より下附二月
二日檢視を經過す同日奏同月七日第十五號を以て布告
又第六十一號議案は明治九年十月三十一日上奏せる元老院意見
書(十八號)御採用相成明治十年一月廿九日內閣より下附十年二
月二日檢視を經過す同日奏同月九日第十七號を以て布告

因考 1 法制局議案 九年十二月十四日

昨八年十月第五十號公布煙草稅則第一條但書煙草耕作
人ニシテ自作ノ煙草ヲ煙草賣買營業人へ賣渡ス而已ニテ煙草ヲ
請賣セサル者ハ此限ニアラスト掲載有之其文意ハ煙草耕作人煙
草賣買營業人へ賣渡スノ外親戚朋友又ハ營業人ニアラサル者ノ
需用ニ應シ僅ノ枚數ヲ直賣スルヲモ禁止候儀ニ相聞(實際差支
候趣稅務官員ヨリ屢申立ノ趣モ有之且右稅則ハ製造煙草營業
人取締ノ爲メ施行相成候者ニシテ自作葉煙草ノ儀ハ請賣以上ノ
稅稅ヲ禦キ候迄ノ主旨ニ可有之ニ付前段但書左案ノ通御改正相

作人ヨリ素人へ葉煙草ヲ直ニ賣渡候ハ、自ラ無稅ノ物ト相成一
般ノ取締上ニ相聞シ可申候間別紙草案ノ條稅則中へ一條追加公
布相成候様致シ度此程司法省ヨリ協議ノ旨モ有之候ニ付此段相
候也

4 指令 九年八月二日

伺ノ趣難聞届候事

(別紙)

5 御布告案

八年十月第五十號公布煙草稅則第二條第六條ノ下へ左ノ一條
ヲ追加候條此旨布告候事

明治九年 月 日 太政大臣 三條 實美

煙草稅則第二條

第七條 仕入鑑札ヲ持持スル營業人ノ外ハ煙草耕作人ヨリ葉煙
草買入及賣渡候儀一切不相成事

6 法制局議案 九年七月十八日

別紙大藏省伺煙草稅則中追加ノ儀審案候處各地方葉煙草ヲ以テ
自用ニ供スルモノ多クハ貧困ノ小民ニ付目下不便宜ヲ生シ法ノ
苛細ナルヲ怨ムニ至ルヘシ因テ煙草ハ製造賣買上ノ課稅トシ葉
煙草ハ是迄ノ通被據置候方穩當ト相考候間左ノ通御指令相成可
然哉仰高裁候也

(以上、法規分類大全一・租稅門雜稅二ノ二六)

煙草稅則第一條但書中削除案、保釋條例設立案

或可然ト思惟致シ候此段仰高裁候也

2 租稅案ヨリ法制局へ照會 九年十二月五日

煙草稅則中煙草耕作人ヨリ素人へ賣渡ス葉煙草ノ儀ハ是迄判然
禁令無之故耕作人ヨリ素人へ賣渡候葉煙草ハ自ラ無稅ノモノト
相成取締ニモ相聞シ候條仕入鑑札ヲ持持スル營業人ノ外ハ煙草
耕作人ヨリ葉煙草買入及賣渡候儀一切不相成旨公布有之度此
段本年七月五日付ヲ以テ本省ヨリ上申候處御聞届相成旨同八
月二日御指令有之候(右ハ既ニ同則第一條但書中ニ煙
草耕作人ニシテ自作ノ煙草ヲ煙草賣買營業人へ賣渡スノミニテ
煙草ヲ受賣セサルモノハ此限ニ非スト有之候上ハ耕作人ヨリ素
人へ直賣ハ不相成儀ニ可有之然ルニ右禁令明掲ノ儀御聞届無之
テハ前書但書ト矛盾致シ候姿ニシテ處分上差支候間右ハ最前本
省ヨリ上申ノ通御聞届相成候歟或ハ但書中「煙草賣買營業人」
ノ八字ヲ除去相成候歟何レトモ御評決至急公達相成候様御取計
有之度右ハ此程當賽大屬山室精へ御談ノ趣モ有之ニ付此段申進
候也

3 大藏省伺 九年七月五日

八年第六十五號ヲ以煙草稅則第一條但書中葉煙草ノ儀云々
刪除相成候ニ付テハ葉煙草而已營業ノ者モ渾テ卸賣ノ別ヲ以
テ一般營業稅徵收候處煙草耕作人ヨリ葉煙草直賣買ノ儀ハ仕入
鑑札ヲ持持シタル營業人ノ外ハ禁止ノ條稅則中明掲無之テハ耕

7 煙草稅則 沿革略記

- 八年二月廿八號(布)告 煙草ハ明治九年一月一日ヨリ課稅ス
- 〳 十月百五十號告 煙草稅則制定
- 〳 十一月百六十五號告 第一條中刪字並八條但書ヲ改ム
- 〳 十二月百九十四號告 稅則中掲載スル煙草印紙ヲ頒ツ
- 〳 十月乙百四十一號大藏(以下大藏ヲ藏ト略ス)百五十號公
布ニ由リ煙草印紙並卸賣營業免許鑑札取扱手續ヲ示ス
- 〳 十二月乙百六十二號藏 乙百四十一號稅則ニ係ル諸費ハ九
年六月迄額外定費ト定ム
- 九年四月五十九號告 稅則中第一則並第三則へ鑑札ノ條ヲ追加
ス
- 〳 二月乙廿二號藏 煙草印紙賣捌手数料ハ八年乙百六十二號
達ニ準ス
- 〳 三月開拓 管内煙草稅則ヲ定ム
- 〳 四月乙卅九號藏 五十九號公布稅則追加ニ由リ煙草出賣鑑
札ヲ製シ下付セシム
- 〳 七月乙六十二號藏 乙卅九號煙草出賣鑑札ノ裏面姓名ノ上
ニ卸賣小賣ノ文字ヲ加書ス
- 〳 十年二月十五號告 稅則第一條但書中煙草賣買營業人へ
ノ八字ヲ削除ス

(官令沿革表 七五)

8 元老院上奏 九年十月三十一日

別紙保釋法ヲ設クル意見書昨三十日本院ノ會議ニ於テ可ト決セリ仍テ謹テ之ヲ上奏ス

(別紙)

保釋法ヲ設クル意見書

刑事被告人ヲ監獄拘留スルモノハ畢竟其罪證ヲ隱滅シ或其逃亡セシコトヲ豫防スル爲メニシテ之ヲ罰責スル爲ニ非ルコト明カナリ然リ而シテ今日實際上其之ヲ處スルヤ罪ニ輕重トナク人ニ強弱トナク概シテ之ヲ獄舎ニ繋ク其權利ヲ盡東シ苦楚ヲ加嘗セシムル亦甚タ酷ナリト云フ可シ況ンヤ審理途ニ無罪ニ歸スルナキヲ保シ難キニ於テヤ現ニ府下未決囚ヲ檢スルニ其獄舎ニ繋留スル凡ソ一室ニ四間毎ニ殆ソト二十名ニ下ラス其疾苦知ルヘシ各地方ノ景況亦推思スヘシ而シテ動モスレハ脫監反獄ヲ圖ル者間々之レアルノミナラス官之カタメ若干ノ吏員ヲ設ク數萬ノ費用ヲ要シ猶且ツ其弊ヲ救フ能ハス依テ案スルニ歐米各州ニ於テハ保釋法ヲ設ケ被告人ヲシテ裁判所ノ招喚ニ應セシムルタメ之カ保證人ヲ立テ假ニ本犯ヲ放置シ以テ其自由ヲ保得セシム亦良法ナリト云フ可シ今此方法ヲ參酌以テ其法則ヲ設ケナハ實ニ官民兩ナカラ其洪益ヲ來シ便利ヲ得ンコト疑ヒ勿カラントス因テ別冊條例取調謹テ仰允裁

9 司法省へ下問 九年十一月二日

別紙元老院上奏保釋法ヲ設クルノ件下問候條意見書早々可申出候也

10 司法省上答 九年十一月二十七日

別紙元老院上奏保釋法御下問ニ相成候處當省ニ於テ異論無之候此段致上申候也

11 法制局議案 十年一月十八日

別紙元老院上奏保釋條例ヲ設クル意見ハ至極允當ノ儀ニ有之且司法省於テモ異議無之ニ付御採用相成可然併シ保證ノ金額ハ素ヨリ裁判官ノ見込ヲ以テ定メシコトナレハ抵當品ヲ以テ換用候ニモ不及儀ニ付第五條但書ハ刪去シ其他一二ノ不明不備ヲ補修相成更ニ該院檢視ニ被附可然裁諸案取調仰高裁候也

12 元老院へ下議 十年一月二十九日

保釋條例ヲ設クルノ件

右其院意見採用相成更檢視ニ被付候事

13 元老院上奏 十年二月二日

去ル一月二十九日本院ノ檢視ニ附セラレシ處ノ保釋法條例ヲ設クルノ件今二月二日本院ノ檢視ヲ經過シ仍テ本案ヲ奉還シテ謹テ上奏ス

(以上、法規分類大全一・治罪門一ノ九)

第五十九號議案

裁判所職制章程等改正案

(大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案)

元老院會議筆記 明治十年一月二十五日

○五十九號議案 裁判所職制章程等改正ノ儀第一讀會

議長 陸奥 宗光

出席議員

- 一番 山口 尙 芳
- 二番 佐野 常 民
- 三番 水本 成 美
- 四番 津田 眞 道
- 五番 福羽 美 靜
- 六番 大久保 一 翁
- 七番 柳原 前 光
- 八番 佐々木 高 行
- 九番 神田 孝 平
- 十番
- 十一番

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

午前第十時十五分開場

○議長曰 本日ハ第五十九號議案第一讀會ヲ開ク然ルニ内閣委員ハ故アリテ議場ニ臨マス各位之ヲ領シ本案大意ノ可否ヲ討論スヘシ

○書記官 本田 親雄 左ノ議案ヲ朗讀ス

大審院職制

長一人

判事ヲ以テ之ニ充ツ

第一 本院判事ノ長トシ課ヲ分チ主任ヲ命シ隨時各庭ニ

臨ミ民事事件ヲ聽理スルコトヲ掌ル

第二 削ル

判事

第一 民事刑事ノ上告ヲ判理シ裁判ノ不法ナルモノヲ破毀シ及ヒ内外交渉ノ事件重大ナルモノ並ニ判事ノ犯罪ヲ審判スルヲ掌ル

第二 死罪ノ案ヲ審閱スルコトヲ掌ル

第三 削ル

屬

職掌ノ條削ル

大審院章程

第一條

大審院ハ民事刑事ノ上告ヲ受ケ上等裁判所以下ノ審判ノ不法ナル者ヲ破毀ノ法憲ノ統一ヲ主持スルノ所トス

第二條

審判ノ不法ナル者ヲ破毀スルノ後它ノ裁判所ニ移メ之ヲ判決セシム又便宜ニ大審院自ラ之ヲ判決スルコトヲ得

第三條

已ニ它ノ裁判所ニ移メ之ヲ判決セシムルノ後其裁判所亦大

審院ノ旨ニ循ハサル時ハ大審院更ニ自ラ之ヲ判決ス

第六條

内外交渉民事事件ノ重大ナル者ヲ審判ス

第七條

各上等裁判所ヨリ送呈スル所ノ死罪按テ審閱シ批可シテ送還ス其否トスルモノハ更ニ律ヲ擬テ還付ス

第八條ヨリ第十二條迄削ル

上等裁判所

職制

長一員 判事ヲ以テ之ニ充ツ

第一 該裁判所判事ノ長トシテ課ヲ分チ主任ヲ命シ隨時各

庭ニ臨ミ民事事件ヲ聽理スルコトヲ掌ル

第二 削ル

判事

第一 管内ノ控訴ヲ受ケ之ヲ覆審スルコトヲ掌ル

第二 死罪ノ獄ヲ判決スルコトヲ掌ル

判事補

事ヲ判事ニ受ケ審判ヲ掌ル

第二 削ル

屬

職掌ノ條削ル

上等裁判所章程

第一條

上等裁判所ハ地方裁判所ノ裁判ニ服セスノ控訴スル者ヲ覆審ス

舊第二條削ル

第二條

各地方裁判所ヨリ具スル所ノ死罪ヲ判決シテ大審院ノ批可ヲ取り然ル後原裁判所ニ付テ宣告セシム

第三條

各地方裁判所ヨリ送呈スル所ノ終身懲役罪案ヲ審批ス

第五條以下都テ削ル

巡廻裁判規則都テ削ル

地方裁判所

職制

判事長并職掌ノ條削ル

判事

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

民事ヲ初審シ刑事懲役以下ヲ審判スルコトヲ掌ル但判事ノ内ヲ以テ其長ト爲ス

判事補

事ヲ判事ニ受ケ審判ヲ掌ル

屬

職掌ノ條削ル

地方裁判所章程

第一條

各地方裁判所ヲ置キ一切ノ民事及刑事懲役以下ヲ審判ス

第二條

地方裁判所ニ於テ審判シタル民事ハ輕重トナク皆初審トス

第三條

民事ノ内外ニ交渉シタル者ハ其ノ輕キハ直チニ之ヲ判決シ其重キハ一面之ヲ聽理シ一而之ヲ司法卿ニ具申スヘシ

第四條

死罪ハ審訊シテ文案證憑ヲ具ヘ擬律ノ見込ヲ附シ上等裁判所ニ遞送シ其行下ヲ得テ宣告ス

第五條

終身懲役ハ擬律案ヲ具ヘテ上等裁判所ノ審批ヲ取り然ル後

宣告ス

判事職制通則都テ削ル

控訴上告手續

第一章

控訴ノ事

第一條 凡ソ地方裁判所ノ初審ニ服セスノ再ヒ上等裁判所

ニ訴ヘ覆審ヲ求ムル者之ヲ控訴ト云

第二條 控訴ハ民事ニ止マリ刑事ニ及ハス

第三條 控訴ハ一タヒスルヲ得再ヒスルヲ得ス

第四條 地方裁判所ニ於テ裁判ノ言渡ヲ爲シタル時原告被

告ノ雙方又ハ一方ノ者其裁判ニ不服ナル時ハ裁判言渡ヨ

リ第七日マテニ裁判言渡ノ翌 裁判言渡ノ事理ヲ熟考シ其

翌日ニ至リ控訴スルヲ得ヘシ但シ訴訟ノ案件商事ニ係

リ急速ニ控訴スルヲ要スルノ場合ニ於テハ七日内ト雖

モ控訴スルヲ得

第五條 地方裁判所ノ裁判言渡ヨリ三箇月^{三十日ヲ以テ一月トス}

ルキハ控訴スルヲ許サス但シ地方裁判所ヨリ上等裁判

所ニ至ルノ距離八里ヨリ遠キハ期限三箇月ノ外八里毎

ニ一日ノ猶豫ヲ増スヘシ

送達スヘシ

總第二十五條以下都テ削ル

第四章

刑事上告ノ事

第二十三條 違警罪及死罪ヲ除クノ外一切ノ刑事皆上告ス

ルヲ得

第二十四條 刑事ニ付上告スルヲ得ヘキノ人

第一 受刑者

第二 檢事^{檢事無キノ地方ハ警察官之ニ代ルヲ得}

第二十五條 上告ヲ爲サント欲スル受刑者ハ裁判言渡ヨリ

第三日迄ニ^{三日間ハ}上告願狀ヲ其裁判所ニ捧ケ又第十日

迄ニ上告趣意明細書ヲ捧クヘシ

但シ裁判所ハ決放ヲ執行スル所ノ地方官ニ其事ヲ達ス

ヘシ

第二十六條 檢事ノ上告セント欲スル者ハ裁判言渡ヨリ二

十四時ノ内ニ上告ヲ爲スヲ受刑者ニ達シ又第十日迄ニ

上告趣意明細書ヲ作り之ヲ司法卿ニ遞送スヘシ

但シ檢事ハ上告ヲ爲スヲ決放ヲ執行スル所ノ地方官

ニ通知スヘシ

第二十七條 檢事及受刑者上告ノ期ヲ過ル時ハ上告ノ權ヲ

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

第六條 控訴ヲ爲ス者ハ其初審ヲ受ケタル地方裁判所ニ届

ケ出ツ可シ但シ添翰ヲ乞フニ及ハス

第七條 前條ノ届ヲ受ケ取リタル地方裁判所ハ裁判言渡ノ

執行ヲ停止ス可シ若シ上等裁判所ノ請求アル時ハ地方裁

判所ニ於テノ訴狀答書口書裁判見込等ヲ差出ス可シ

第三章

民事上告ノ事

第十四條 民事ノ上告スルヲ得ル者ハ已ニ上等裁判所ニ

控訴シ其審判ヲ經タル者ニ限ル

第二十條 大審院ニ於テハ當然ノ上告ナリトシ之ヲ判決ス

ヘキ旨ヲ言渡シタル後二日內ニ被告人呼出狀ヲ仕出ス可

シ此ノ呼出狀ニハ上告狀ノ副本ヲ添フヘシ

第二十一條 被告人ハ呼出狀ヲ受取リタルヨリ三十日內ニ

答辨書ヲ作り自身又ハ代言人ヨリ之ヲ大審院ニ捧クヘシ

但シ被告人ノ住所ヨリ大審院ニ至ルノ距離八里ヨリ遠キ

キハ八里毎ニ一日ヲ増スヘシ

第二十二條 大審院ニ於テ被告人ノ答辨書ヲ受取リシキハ

判事長ヨリ判事ノ中ニ於テ一人ノ主任ヲ命シ一件書類ヲ

取纏メ遅緩ナク一件始末書ヲ作ラシメ然ル後ニ原被對審

ノ日ヲ豫定シ三日以前ニ原被對審ノ呼出狀ヲ原被雙方ニ

失フヘシ

第二十八條 決放ヲ執行スル所ノ地方官ハ受刑者若クハ檢

事ヨリ上告スルヲ達シタル時ハ決行ヲ止メ以テ上告ノ

落着ヲ待テ獄舎ニ於テハ其受刑者ヲ別舎ニ勾置スヘシ^別

ナキ者ハ便宜ニ隨^{ヒ監護スルヲ要ス}

第二十九條 受刑者自ラ上告狀ヲ書記スルヲ能ハサル時ハ

代理人ヲ獄中ニ延キ^{獄中ヲ割リテ應接所ヲ設ケ}上告趣意明

細書ヲ代書セシムルヲ得其代理人ハ明細書ニ本人ト共

ニ姓名ヲ記ス可シ本人自ラ姓名ヲ記スルヲ能ハサルキハ

其事ヲ肩書スヘシ

但シ代理人ヲ獄舎ニ延ク時ハ之ヲ看守者ニ告ケ看守者

ハ之ヲ裁判所ニ届クヘシ

第三十條 受刑者幼年^{十五年末ニ}上告ヲ爲スノ權利アル

ヲ知ラサルキハ其親族^{五等親}代リテ爲メニ上告スルヲ

得

第三十一條 裁判所ニ於テ上告趣意明細書ヲ受ケ取リタル

時ハ其文書類ヲ并セテ三日內ニ之ヲ大審院ニ遞送スヘシ

第三十二條 檢事上告スル時ハ上告趣意明細書及其文書類

ヲ直ニ司法卿ニ遞送シ司法卿ハ上告趣意明細書及其文書

類ヲ檢閲シ相當ノ檢事ヲ之ヲ大審院ニ付セシム

第三十三條 大審院ハ上告ヲ審按シ判文已ニ成ルキハ司法卿ヲ經由ノ原裁判所ニ付シ處行セシム

○一番山口曰 本案改正ノ綱領ニ於テ異議ナシ速ニ第二讀會ニ附センコトヲ望ム

○十九番細川潤曰 本案ノ大意ヲ考ルニ巡廻裁判ヲ廢スルヲ以テ其變革ノ最著シキモノトス是今日財用不足ノ時ニ際シ已ムヲ得サルニ出ルモノニ又不可ナルナシ速ニ第二讀會ニ附スルヲ至當トス條中稍議スヘキモノナキニアラサレモ次會ニ於テ之ヲ陳言スヘシ

○十四番中島曰 大意ニ於テハ裁判權ノ隆類ニ關スル條款ナキニアラス然リト雖モ方今減租ノ恩典アリ隨テ各省費途節省ノ時ニ際シ此改正アル萬已ムヲ得サルニ出ルナルヘシ故ニ本案ヲ以テ第二讀會ニ附スルハ固ヨリ當然ナリ其小節目ニ至テハ次會ニ向テ發言スヘシ

○十三番河野曰 本案改正ノ由テ起ル所以ノモノハ他ナシ費途減省ノ已ムヲ得サルニ出ルナリ已ニ院省費用ノ定額ヲ減スルノ事ヲ以テ院議ニ附セラレサルナリ然レハ則チ其減省上ヨリ成立チタル改正ヲ以テ何ソ全ク否トスルコトヲ得ンヤ第二讀會ニ附スルニ於テ又何ノ異議カアラン

○議長曰 四員ノ議官ハ本案ヲ以テ第二讀會ニ附スヘントス

則チ讀會規則第三條ニ從ヒ之ヲ第二讀會ニ附スヘシ但シ第二讀會ハ第一讀會ヨリ少クモ第二日ノ后ニ開クヲ以テ成規トス然リト雖モ本案ハ最モ緊急ヲ要スルニヨリ爰ニ定規ヲ用ヒス直ニ之ヲ開クヘシ各位其旨ヲ領セヨ

引續キ第二讀會ヲ開ク其筆記ハ別冊ニ載ス

元老院會議筆記 明治十年一月二十五日

○第五十九號議案 裁判所職制章程等改正ノ儀 第二讀會

本日第一讀會ニ引續テ之ヲ開ク

議長 陸奥宗光

出席議員

- 一番 山口 尙芳
- 二番 佐野 常民
- 三番 水本 成美
- 四番 津田 眞道
- 五番 福羽 美靜
- 六番 大久保 一翁
- 七番 柳原 前光
- 八番
- 九番

○十四番中島曰 舊職制ニハ一等判事云々トス本案改正シテ

一等ノ字ヲ削ル汎然不明ヲ覺フ抑這回ノ改正ハ一ニ財用節減ノ主意ニテ寔ニ已ヲ得サルニ出ツルモノト考案スレハ直ニ本案ヲ遵奉セスンハアラス然リト雖モ明治八年四月十四日大審院ヲ置キ以テ審判ノ權ヲ掌クスルノ 聖詔ヲ奉戴ス亦一言セサルヘカラス夫レ判事ト指ス者一等ヨリ七等ニ至ル輕重高下ノ別ナシ今其等級ヲ掲ケサレハ假令ヒ實際一判事ヲ以テ之ニ充ツルモ時宜ニ依リ二等以下七等ニ至ルノ判事ヲ融用スルノ意ナシトスヘカラス是豈ニ終審裁判ノ大權ヲ輕減スルナキヲ得ンヤ故ニ「一等」ノ字ハ舊ノ如ク存スヘシ今費途減省ノ已ムヲ得サルアリ時ニ一等判事ヲ欠クコアラハ次等ヲ逐テ之カ代理タラシムルモ尙ホ其虛位ヲ設ケ其職制ヲ存シテ裁判權ノ貴重ナルヲ表セスンハアラス猶行政官省ノ卿欠官ニ會シ次官ノ代理タルカ如シ次ノ條ハ改正ノ如クノ異議スル處ナシ

○十二番大給曰 十四番ニ同意ナリ大審院ハ他ノ裁判ヲ破毀スルモノニテ全國諸裁判ノ成敗一ニ該院ノ一審ニ係ル裁判權中ノ最上級ニ居ルモノ故最上級ノ判事ヲ置カスンハ相協ハサルナリ故ニ一等ノ字ヲ存スルヲ可トス

○議長曰 十四番動議ヲ起シ十二番之ヲ贊成ス成規ニヨリ之

大審院職制

長一人

判事ヲ以テ之ニ充ツ

本院判事ノ長トシ課ヲ分子主任ヲ命シ隨時各庭ニ臨ミ民

刑事件ヲ聽理スルコトヲ掌ル

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

○議長曰 此ヨリ第五十九號議案第二讀會ヲ開キ逐條朗讀セシムルニ付各員例ニ遵ヒ討論スヘシ

○書記官 本田親雄 左ノ議案ヲ朗讀ス

- 十番 佐々木 高行
- 十一番 神田 孝平
- 十二番 大給 恒
- 十三番 河野 敏錄
- 十四番 中島 信行
- 十五番 齋藤 利行
- 十六番 楠田 英世
- 十八番 秋月 種樹
- 十九番 細川 潤次郎
- 二十番 穴戸 璣
- 廿一番 津田 出

ヲ議場ノ問題トシテ各議員ノ發議ヲ俟ツ

○四番水本曰 明治八年四月十四日 聖詔一發セシヨリ朝野刮目シテ其結果ヲ見ル大審院終審ノ決判能ク民情ヲ暢發セシムルモノアリ天下ノ人皆其美譽ヲ歡喜ス然ルニ方今減稅ノ恩典アリ官省費途ノ減額又已ムヲ得サルニ出ツ然リト雖モ十四番ノ說ノ如ク一等判事ノ欠官ニ會ハ、該時最高等ノ判事ヲ以テ之ニ代ラシムレハ可ナリ一等ノ字ハ必ス明示スヘシ課ヲ分チ云々以下ハ異議ナシ

○十九番細川潤曰 十四番ニ同意ナリ終審判裁所ハ一國唯一院ヲ置ク各國ノ通法ナリ其貴重ナル夫レ寔ニ此ノ如シ然ラハ判事中最上級ノ者ヲ以テ院長ヲラシムルハ固ヨリ當然ナリ必ス一等ノ字ヲ存スヘシ餘ハ改正ノ如クシテ可ナリ

○十六番楠田曰 府縣裁判所ヨリ大審院ニ至ル迄ノ順序ヲ考レハ大審院ハ一等判事ヲ置クカ當然ナルニ似タレト歐米ノ法ニ依レハ判事ハ皆刑法學ノ成業スル者ヨリ拔擢ス故ニ其學識ニ至テハ一般同等ノ人ナレモ其年功ニヨリテ順次ニ上級スルモノナリ故ニ裁判官ノ上下ニヨリテ審判ノ善惡アルナシ況ヤ列庭會議ノ法アリ院長一己ノ心証ニ決スルニアラサルオヤ今大審院々長ヲ一等判事ト定ムルハ他ノ裁判所モ亦其判事ノ等級ヲ明示セサルヘカラス故ニ本案ノ如ク一等

○十九番細川潤曰 先キニ陳述シ盡サ、ル處アリ尙一回之ヲ

演ヘン我カ大審院ノ長タル判事ハ全國裁判ノ中心タル貴重ナル裁判所ノ長タリ又貴重ノ吏員タラスンハアラス夫レ立法行政司法ノ三大權ハ最判然タルヘシ然ラハ則司法ノ大權ハ終審ニアリトセハ大審院ノ改正ハ苟モスヘカラス今人間社會上若シ不正ナル裁判アラハ明治八年ノ 聖詔ニ對シ亦謝スルノ語ナカルヘシ今七等判事ノ如キ人ノ爲ニ牽制セラ、者ヲ以テ此長トセハ裁判ノ大權忽チ他ノ裁判所ニ落チテ終審ノ大權虛無ニ屬スルヤ必セリ故ニ一等ノ字ハ掲クヘキナリ

○十三番河野曰 予ハ第一讀會ニ向テ院省使減額ノ下問ナキ

ニ付テハ敢テ一省改革ノ經綸ヲ論スルヲ得サルノコトヲ陳ヘタリ然ルニ今第二讀會ニ於テ十四番カ一等ノ字ヲ存スヘキノ議ヲ發スルヲ聞テ予モ亦之ニ同意ス明治八年ノ 聖詔ニ付テ考レハ裁判權中ノ最上級ヲ占ムル責任者ノ高等ナラサルハ實ニ熱心シテ論セサルヲ得サルナリ大審院ハ法憲ヲ統一スル所ニテ其長タルモノ一等官ノ地位ヲ占ムル固ヨリ當然ナリ戰時將帥ノ壇ヲ築テ之ヲ待ツカ如ク假令欠官タルモ其官ヲ設ケサルヘカラス其人ナケレハ次官ヲ以テ之ニ代ラシムヘシ必ス一等ノ字ハ存スヘキナリ

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

ノ字ヲ削ルヲ可トス且其第一項本院判事ノ長トシトノ文ハ「院長各課ヲ分チ」云々ト改ムルノ優レルニ如カス

○議長曰 十四番ノ動議ニ付テ十二番ノ賛成アリ成規ニ從ヒ之ヲ問題トシテ衆議ヲ取ル然ルニ今十六番ノ陳述スル所ハ十四番ノ說ヲ否トスルナリ而シテ別ニ第一項ヲ「院長各課ヲ分チ」云々ト改ムヘキノ動議ヲ發シ來ル是レ修正說ナリヤ又ハ論議ノ波及ナリヤ

○十六番楠田曰 然リ論議ノ波及ナリ

○三番佐野曰 十四番ニ同意ナリ行政長官トハ稍其趣ヲ異ニスルニ似タレト長タル者ハ自ラ責任ノアルアリ大審院ハ國內諸裁判所ノ頭腦ナリ其院ノ地位高尚ナレハ其長官モ亦裁判官中最上級ナラスンハアラス十六番ハ歐米ノ裁判官ハ皆同等學識ノ人ナリト云ト雖モ多年ヲ積テ諸裁判所ヲ經歷スレハ其實際ニ熟達スルニ隨ヒ識量モ亦タ進ムヘキモノニモ裁判官中優等ノ人タルヤ必セリ然レハイツレニモ一等判事ノ明文ハ掲載スヘキナリ財用論ニ拘泥シテ大經義ヲ誤ルカ如キハ予ニ於テ之ヲ取ラス

○十一番神田曰 一等ノ字ヲ削ルハ大ニ旨意ノ存スル處ナルヘケレト一等判事ノ欠官ニ會ハ、何レノ級ノ判事ヲモ適用スヘキ融用ノ法アレハ一等ノ字ハ削ラサルヲ可トス

○十番高行曰 大審院創設ニ方リテハ左右大臣ノ中ヲ以テ

院長トスルノ職制ナリシカ後チ一等官ト改ム今又其等級ヲ定メス漫ニ各等ノ判事ヲ以テ融用スルカ如キハ不可ナリ假令費途ノ減省ニ會フモ其節制ヲ他ニ求ムヘシ一等ノ字ハ削ラサルヲ可トス

○議長曰 他ニ發議ナキヲ以テ決ヲ取ルヘシ十四番ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十六人

○議長曰 多數ヲ以テ十四番ノ修正「一等」ノ字ヲ存スルニ決ス

○一番山口曰 十六番ニ於テ院長各課ヲ分チ云々ト改ムヘキノ說アリ固ヨリ「本院判事ノ長トシ」トスレハ結局ヲ掌ラシムトスヘキ文法ナリ既ニ結局ニ掌ルトアル以上首句ニ煩ハシク云々スルニ及ハス余ハ院長ハ課ヲ分チ云々トスルヲ可トス幸ニ賛成アツテ討論アラシム

○議長曰 前刻一等判事ノ修正ヲ論スルニ方リ院長各課ヲ分チ云々ト改メントスル十二番ノ說アリ之ヲ質スニ十六番ニ於テハ議ノ波及ニシテ修正ニアラスト云ヘリ其節一番ニ於テハ別ニ發言スル所ナシ今院長ハ課ヲ分チ云々トセントスルハ別ニ修正說ヲ出スナリヤ

○一番山口 十六番ノ意ヲ助ケタル修正説ナリ

○議長曰 讀會規則第五條ニ書記官議案ヲ朗讀シタルノ後逐條適當ノ順序ニ由テ討論ヲナシトアリ又同一ノ條ニ付キ修正ノ各意見アルキハ之ヲ分別シテ各其可否ヲ決ストアリ然ルニ前刻題號ヨリ本院判事ノ長トシ云々ノ條迄ヲ朗讀セシメタルニ二十四番ニ於テハ判事ノ上ニ一等ノ二字ヲ存スル修正説アリ既ニ問題トナシ討論中十六番ニ於テ院長各課ヲ分チ云々トスル説アリ之ヲ質セハ修正説ニアラスト云ヘリ故ニ只十四番ノ説ニ就テ決ヲ取レリ然ルニ今又一番ニ於テ院長ハ課ヲ分チ云々ト改ムル説アレト既ニ決議セシ後ニアレハ尋常修正ト認メ賛成ニ依テハ討論ヲ許スヘキヤ議長ニ於テ決スル能ハス之ヲ衆議ニ取ルヘシ乃チ一番ノ説ヲ尋常修正ト認ムルニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十四人

○議長曰 多數ニ依テ一番ノ説ハ尋常ノ修正説ト認ムルニ決ス

○十六番 楠田曰 余前刻院長各課ヲ分チ云々ノ説ヲ發言スレハ一等判事ノ決議ナキ内ハ問題外ノ議ヲ發スルヲ禁スル故修正説ニ非スト陳セリ今一番ノ修正ノ如キハ全体余カ發言スヘキ者ニテ一等ノ決スル上ニテ發論スルヲ得ヘキ

○廿一番 津田曰 別段建言セン讀會規則第六條ニ一議官修正ノ意見ヲ出シ他ノ議官之ヲ賛成スレハ議長ハ之ヲ問題トシ各議官ヲシテ討論セシメ而シテ后其可否ヲ問フトアリ然レハ一問題ノ可否ヲ決シ而シテ又一問題出レハ又其可否ヲ決ス各自一々決スル只今ノ通りニスルニテ定例ニ觸ルヲナシト思フ如何

○議長曰 條中明文ナキ故決ヲ取ラン乃チ廿一番ノ建言ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十一人

○議長曰 多數ニ依テ廿一番ノ建言ヲ以テ今後ノ定規ト決ス

又曰 一番ノ修正ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

○議長曰 多數ニ依テ一番ノ修正院長ハ課ヲ分チ云々トスルニ決ス

○十九番 細川潤曰 此所ニハ判事ノ長トシトアリ上等裁判所ノ所ニハ長トシテトアリ執レニモ同文例ニスヘキ者ナレハ余ハ此所ヲモ上等裁判所ニ同ク判事ノ長トシテト改ムルハ可ナラント思フ故心付キヲ陳述ス

○議長曰 只今一番ノ説ニテ院長ハト修正スルニ決セリ

○十九番 細川潤曰 一應ノ心付キヲ述ヘシノミ

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

ト考ヘタリ如何

○議長曰 只今決ヲ取タル上カラハ發言アリテ可ナリ

○十六番 楠田曰 然ラハ余ハ一番ノ説ヲ賛成スヘシ

○廿一番 津田曰 余モ一番ニ同意ス前刻十六番ノ説モアリ其意味ハ一番ノ説ノ如ク聞ユレト文字ヲ成サハル故一番ノ説ヲ可トス

○五番 津田曰 余亦一番ニ同意ス然ルニ余ハ院長ト云フモ尙ホ餘計ナリト思フ同クハ修正ノ修正ヲナシ院ノ字モ削リ單ニ長ハトスレハ長一人トアルニ對シテ可ナリトス

○議長曰 然ラハ五番ノ説ハ討論ニシテ一番ニ同意ニハアラサル歟

○五番 眞道曰 文字上院ノ一字ヲ刪ルノミ意味ハ違ハサレト一番ト違フ所アレハ別説トシテモ可ナラン歟余ハ只修正ノ積リナリ

○四番 水本曰 余モ一番ニ同ク院長ハ課ヲ分チ云々トスルヲ可トス原案イ如ク判事ノ長トスレハ判事ノ首ヲト聞ユヘシ此處ハ大審院ノ長ニシテ判事ノ長ニハアラサル故一番ノ説ヲ可トス

○議長曰 前刻ノ如ク決議後又發言アル様ニテハ不都合ナレハ別ニ意見アル議官ハ今ニシテ發言スヘシ

○議長曰 別ニ發言モナク亦時刻モ移ル故次條ハ午餐後ニ議スヘシ

正午十二時五分閉場
午後一時二十五分開場

○議長曰 前刻引續キノ議ヲ開クヘシ

○三番 佐野曰 前刻前項ハ決議セリ本案第二項ヲ削レルニ付テ發言セント欲ス如何

○議長曰 今第二項ヲ朗讀セシムヘシ

○書記官 本田 左ノ項ヲ朗讀ス

○合員會議ノ議長トシ判事審論ニ岐ニ分ルハ多數ニ決シ兩議平分スルモノハ自ラ之ヲ決スルヲ掌ル

○三番 佐野曰 該項ヲ削リシ主意ハ何故ナルヤ後チノ第八條判事五人以上列庭ノ條及ヒ上等裁判所章程第六條ノ判事三人以上列庭ノ條モ亦削ル要スルニ人員減省ノ主旨ニ係ル歟假令何程ノ理由アルモ合員會議ヲ削ルハ寔ニ不可ナリ夫レ裁判ノ事項ヲ鄭重ニスルモノハ其公審明判ヲ表シテ怨民ナカラシムルニアリ今若シ此貴重ナル精神ヲ除却ス何ヲ以テ裁判ノ公正ヲ期センヤ夫レ府縣ノ裁判ニ服セス之ヲ上等裁判ニ控訴スルモ尙ホ其判決ニ服セス之ヲ大審院ニ上告ス人生ノ至情萬已ムヲ得サルニ出ツ此時ニ當ツテ該院ノ

一審初テ其一身ノ成敗浮沈ヲ期スルモノナリ寔ニ嚴肅ニシテ萬一ノ出入ヲモ警戒セズンハアラサルナリ必ス該項ハ存シ削ルヘカラス

○議長曰 本案朱抹スル所ハ本日ノ議案ニナキ者ナリ然ルニ今ノ發言ハ舊職制ノ第二項ヲ以テ修正スル意ナリヤ

○三番佐野曰 然リ

○五番眞道曰 余ハ三番ノ説ヲ賛成ス

○議長曰 三番ノ説ニ付テ五番ノ賛成アリ之ヲ問題トシテ各位ノ發議ヲ俟ツ

○十三番河野曰 三番ノ説理ナキニアラサレモ予ハ不同意ナリ先キニモ陳言セシ如ク此回ノ改正ハ固ト費途ノ減省ヨリ

來ル苟モ司法一省ノ經費ヲ詳ニシ其増減出納ヲ擅ニスルノ權ナクンハ到底論議ノ貫通シカタクモノアリ今若シ司法全省ノ經濟一々司法卿ノ意中ニ出ルモノトセハ本案改正モ其正算上ニ淵源スルモノニシテ又如何トモスルニ因ナシ本案改正ノ如ク削除スルヲ可トス

○三番佐野曰 十三番ノ如ク臆測スレハ實ニ然リ然ト雖モ判事ハ司法省ノ精神ニシテ大審院ノ命脈ナリ該省中他ノ費途ヲ節シテ判事ノ階級ハ具備セシムルヲ當然トス故ニ舊職制ノ第二項存在ノ議ヲ主張シテ各位ノ賛成ヲ企望ス

ナラハ更ニ不可ナリ畢竟減稅ノ恩典ハ人民愛護ノ主義ニ係ル然ラハ則チ民怨ヲ暢達スヘキノ大審院ヲ節減スルノ理ナシ

○十三番河野曰 各議官ノ説ヲ聞クニ只當否ヲ論スルナリ或ハ別ニ廢スヘキ事アラント云ヒ或ハ節省ノヲハ本院ニテ議スルニ及ハスト云皆不深切ナル論議ナリ夫レ經濟ハ微細ノトト雖モ節セサルヲ得サルヲアリ今ヤ我カ賢明ナル司法卿カ其一省中ノ緩急順序ヲ謀テ大審院ノ吏員ヲ減省スルハ實ニ已ムヲ得サルニ出ルナルヘシ減稅ハ人民愛護ノ爲ナリ然ラハ其裁判ヲ明ニスルヲ爲ニハ費途ヲ格ムヘカラストノ六番ノ説ハ理アルニ似タレト減稅ノ爲メ經費ノ節減ヲ要スル者特ニ大審院ノミニ限ルニアラス今ヤ減稅ノ 聖詔一發シ百度儉省ノ命アリ此時ニ方テ苟モ金穀ニ關スルノ事項ハ一切遵奉シ事ノ當否ハ姑ク置テ論セサル可ナリ到底余ハ本案ノ儘ヲ可トス

○十五番齋藤曰 三番ニ同意ナリ畢竟第二項合員會議ノヲハ敢テ直ニ其人員ヲ要スルニアラス公審明判ヲ表スルノ具ニシテ大審院ノ精神ナリ故ニ人員ノ多少ニ關セス合員會議ノ性質ハ存スルヲ可トス而シテ人員ノ増減ハ時ニ從テ如何ヤウニモ處置シ得ヘキナリ

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

○四番水本曰 三番ニ同意ナリ

○十番高木曰 三番ト同意ナリ抑大審院創設ニ方テ大臣ヲ院長トス後チ一等判事ヲ以テ之ニ換ユ稍其光榮ヲ減スルニ

似タレト尙未タ最高等ノ判事ヲ置ク蓋シ天下人民ヲノ刮目セシムルニ足ルト思ヘリ然ルニ二等以下ヲ以テ之ニ融用スルハ實ニ意想ノ外ニ出ツ況ヤ合員會議ヲ廢シ列庭ヲ止ム豈ニ之ヲ憂ヘサルヘケンヤ財用ノ節度ハ已ムヲ得スト雖モ判事ハ法衙ノ精神ナリ歐米ノ終審裁判所ハ實ニ充分ニ完備スルモノナリ本邦敢テ海外ノ制ヲ墨守スルニアラサレモ已ニ我カ大寶ノ令モ判事ハ重クセリ中世三善ノ封事ニモ判事員ヲ増加スルヲ載セタリ今日明治八年ノ 聖詔ヲ得テ天下之カ爲ニ歡喜ス然ルニ這回ノ改正アル大ニ民ノ心ヲ失フヘシ合員會議ハ必ス存スルヲ可トス

○十一番神田曰 三番ニ同意ナリ本案ノ主旨財用節省ノヲニ係ルモ本案其ノヲ明示セス又減省ノヲハ本院ニ附セラル、ニ非ス然レハ則チ本院ニ在テハ情實ニ關セス義理ノ當然ヲ議スヘシ固ヨリ裁判官ハ大事ノ者故大審院ノ大切ナルト本條ノ要用ナルトヲ以テ上奏スレハ財用繰替ノヲハ別ニ仕方アルヘシ

○六番美田曰 三番ニ同意ナリ此改正カ費途ノ減省ヨリ來ル

○五番眞道曰 費途ヲ減スルモ判事ヲ廢スルニアラス判事ヲ廢セサルハ合員會議ヲ爲シ得サルノ理ナシ歐米ノ合員會議ハ五人七人十三人等ナリ我邦往昔大寶ノ式北條氏ノ法舊幕府ノ評定所一座皆是レ合員會議ノ法ナリ今ヤ開明隆治ノ日

ニ方リ却テ之ヲ廢スルノ理ナシ故ニ三番ノ説ニ同意ス

○一番山口曰 三番ニ同意ナリ大審院創設ノ 聖旨ハ又多言ヲ贅セス今ヤ内外人民頗ル民權論ヲ主張スル者動モスレハ政令ノ如何ヲ批議スルモ特ニ大審院ノ設立ニ至テハ世譽テ之ヲ感賞セサルハナシ然ルニ其大審院ノ精神頭腦タル舊職制第二項ヲ廢スルヤ自餘ノ條款又何ノ爲ニスルヲ知ラサルナリ死罪ハ 宸斷ヲ仰キシニ大審院アリシヨリ之ヲ該院ノ權中ニ附セラル、者ハ蓋シ何ソヤ其公判明審萬失出入ナキヲ信スルニ依ルノミ故ニ合員會議ヲ廢スルハ必ス不可ナリ

○議長曰 三番ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ 起立者十二人

○議長曰 多數ニヨリ舊職制第二項合員會議ノ條款ヲ存スルニ決ス

○議長曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤 左ノ條ヲ朗讀ス

判事

第一 民事刑事ノ上告ヲ判理シ裁判ノ不法ナル者ヲ破毀シ及ヒ内外交渉ノ事件重大ナルモノ並ニ判事ノ犯罪ヲ審判スルヲ掌ル

○議長曰 發議ナキヲ以テ決ヲ取ルヘシ本案ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ本案ヲ可ト決ス

○議長曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤 左ノ條ヲ朗讀ス

第二 死罪ノ案ヲ審閱スルヲ掌ル

○議長曰 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ本案ヲ可ト決ス

○議長曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤 左ノ條ヲ朗讀ス

屬

職掌ノ項ハ削ル

○四番水本曰 本條ハ職制ヲ掲クルノ部ナリ然ルニ只一ノ屬

起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ本案ヲ可ト決ス

○議長曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤 左ノ條ヲ朗讀ス

第二條 審判ノ不法ナル者ヲ破毀スルノ後他ノ裁判所ニ移ノ之ヲ判決セシム又便宜ニ大審院自ラ之ヲ判決スルヲ

得

○議長曰 發議ナキヲ以テ決ヲ取ルヘシ本案ヲ可トスル議官

ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ本案ヲ可ト決ス

○議長曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤 左ノ條ヲ朗讀ス

第三條 已ニ它ノ裁判所ニ移ノ之ヲ判決セシムルノ後其裁判所亦大審院ノ旨ニ循ハサル時ハ大審院更ニ自ラ之ヲ判決ス此ノ時ハ本院判事合員會議ノ判決スヘシ

○三番佐野曰 本條中又合員會議ノ事ヲ刪除ス夫レ該事ノ存スヘキハ先キニ院長并ニ職制中第二項ニ於テ論スルカ如シ舊章程ノ文ヲ存スルヲ可トス

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

ノ字ヲ掲ケテ其職掌ヲ明示セシムハ屬タル者又何ノ事務ニ服スルヲ知ルヘカラス故ニ事ヲ判事ニ受ケ云々ノ章句ナカルヘカラス

○二十一 津田曰 四番ニ同意ナリ

○議長曰 四番ノ說ニ付テ二十一番之ヲ贊成ス即チ議場ノ問題トシテ發議ヲ俟ツ

○六番 福羽曰 他ノ職制ヲ見ルニ則チ屬ニ當ルヘキ録ノ下ニ其職制ヲ掲ケサルナリ同シ休裁ナリトセハ本案ノ儘ニテ可ナリ

○議長曰 四番ノ說ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者七人

○議長曰 少數ナルヲ以テ四番ノ職掌ヲ掲クルノ說ハ取消スヘシ

○議長曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤 左ノ條ヲ朗讀ス

大審院章程

第一條 大審院ハ民事刑事ノ上告ヲ受ケ上等裁判所以下ノ

審判ノ不法ナル者ヲ破毀ノ法憲ノ統一ヲ主持スル所トス

○議長曰 發議ナキヲ以テ決ヲ取ルヘシ本案ニ同意ノ議官ハ

○六番 福羽曰 三番ニ同意ナリ

○議長曰 三番ノ動議ニ付テ六番之ヲ贊成ス則チ之ヲ問題ト

シテ各位ノ發議ヲ俟ツ

○一番 山口曰 三番ノ說理ナキニアラスト雖モ院長并ニ職制第二項ニ合員會議ノヲ明示ス本條ハ他ノ裁判所大審院ノ

判決ニ服セサル該院自ラ反復再審スルヲ云ナリ故ニ本案ノ改正ヲ可トス

○十四番 中島曰 三番ニ同意シテ一番ノ駁議ヲ否トス本條末

節ノ章句ヲ削ルハ前ニ合員會議ノ存スヘキ說ヲ云シカ貫

通セサルナリ職制二項ニ於テ一タヒ合員會議ノヲ載ス然ラハ全案中合員會議ヲ要スルノ部分ニハ必之ヲ掲クヘキナ

○十一番 神田曰 三番ニ同意ナリ

○一番 山口曰 若シ敢テ之ヲ存センヲ要セハ第二條ニ挿入

スヘシ

○十四番 中島曰 第二條ハ大審院他ノ裁判ヲ破毀スルノヲ云第三條ハ其破毀ノ旨ニ從ハサル該院自ラ判決スルノ謂

ニシテ其事ノ鄭重ヲ盡スヘキヲ述フ稍其性質ノ異ルモノアリ故ニ第三條ニ掲クヘキナリ

○三番 佐野曰 十四番ノ說ハ大ニ予カ心ヲ得タリト云ヘシ

○四番水本 成美曰 合員會議ハ大審院中一般ノ裁判ニ用フルニアラズ本條他ノ裁判所ノ大審院ノ旨ニ從ハサルキト七條ノ死罪ヲ決スル時ニ之ヲ爲スノ二會トス今本條ノ末節ヲ削ルハ職制ニ合員會議ヲ存スルノ主義ヲ失スルナリ或ハ一番ノ誤解ナラン

○一番山口 尚芳曰 予カ前説ハ誤解ナリ自ラ其説ノ否ナルヲ知ル依テ取消ヲ請フ全ク三番ニ同意ナリ

○議長曰 三番ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ三番ノ修正即本條末節ハ合員會議ノ章句ヲ存スルニ決ス

○議長曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤 次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

第六條 内外交渉民刑事件ノ重大ナル者ヲ審判ス

○十四番中島 信行曰 議事三條ヲ了リ忽チ六條ヲ議セントス其間四條五條ノ朗讀ナキハ如何

○議長曰 本案ハ下附ノ節通牒ニ改正ノ廉々議定ニ附セラレタリ四條五條ハ改正ナキ故六條ニ移ルナリ

○三番佐野 常民曰 文字ヲ改ムル歟或ハ削ル歟ヲノミ議スルヲナレハ初ノ本院判事ノ長トシトアル句ハ改メタル所ニアラス

起立者十七人

○議長曰 多數ヲ以テ五番ノ修正舊章程ノ「合員會議」ヲ存スルニ決ス

○議長曰 時已ニ移レリ少時退場休憩ノ後再ヒ開議スヘシ

午後第三時退場

午後第三時二十分再開場

○議長曰 先會ヲ逐テ開議スヘシ且是迄朱抹ノ條モ朗讀セシメタレト以後削ルト告ケシムヘシ

○書記官藤澤 次謙 左ノ條ハ削ルト告ク

第八條 大審院ノ審判ハ判事五人以上廷ニ列ス五人廷ニ列セサレハ審判スルヲ得ス

○四番水本 成美曰 本條ハ存スヘシ削ルヘカラス但財用不足ノヲ斟酌スレハ五人ヲ減シ「三人」トシテ存スヘシ

○十二番大給 恒曰 四番ニ同意合員會議ヲ存スルキハ本條モ亦存セサルヘカラス

○議長曰 四番ノ議ヲ問題トシテ各位ノ發議ヲ俟ツ

○十四番中島 信行曰 本條ヲ削除スルハ最モ這回改正ノ主旨ナルヘシト思考ス只裁判上ノ体裁ニノミ拘泥シテ輕易ニ看過スレハ大ニ 聖旨ニ悖戾スルヲモアルヘシ夫レ五人以上トスル片ハ時ニ或ハ判事ノ人員ヲ増ストニモ至ルヘシ現今減租

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

然レモ議シテ可ナルヤ

○議長曰 廉々ト云フハ猶ホ條々ト謂フカ如キ意ニテ議セサレハ窮屈ニシテ迎モ議事ヲ齊頓スルハ難シ此意ニテ今迄議シ來レハ其心得ヲ以テ議スヘシ

○議長曰 本案ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ本案ヲ可ト決ス

○議長曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤 次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

第七條 各上等裁判所ヨリ送呈スル所ノ死罪按ヲ審閱シ批可シテ送還ス其否トスルモノハ更ニ律ヲ擬テ還付ス

○五番津田 眞道曰 本條モ亦舊章程ノ如ク更ノ字ノ上ニ合員會議シノ五字ヲ存スヘシ

○三番佐野 常民曰 五番ニ同意ナリ

○議長曰 五番ノ動議ニ付テ三番ノ賛成アリ則之ヲ問題トシテ各位ノ發議ヲ俟ツ

○十四番中島 信行曰 死ハ重大ノヲタリ必ス合員會議スヘシ故ニ五番ニ同意ナリ

○四番水本 成美曰 五番ニ同意ナリ

○議長曰 五番ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

ノ 恩旨ヲ遵奉セハ百度ニ就テ能ク其實効ヲ呈セスンハアラズ若夫レ五人以上列庭ノ制之ヲ實際ニ考ルニ當ニ其費途ノ多キヲ厭フノミナラス原被兩告ノ者其審判鄭重ニ過キ時日ノ延長スルカ爲ニ意外ノ迷惑ヲ爲ス者アラン故ニ本案ノ如ク削ルヲ可トス

○十三番河野 敏謙曰 十四番ニ同意ナリ譬ヘハ大審院ノ判事ヲ十五名ト見積リ一件五名ノ列庭ヲ要スルキハ一時ニ三件ノ訴訟ヨリ外ニ開キ難シ此十五名ノ中疾病事故ヲ除クキハ僅ニ二件ノ訴訟ヲ審判シ得ヘキノミ之カ爲ニ決判延長シテ原被兩告者ノ費用ニ困スル者アルニ至ラズ若シ裁判ノ満足ヲ企望セハ五名ノ列庭タモ未タ盡セリトスルニ足ラス然ラハ則之ヲ削ルモ敢テ妨礙アルニアラサルナリ

○二十一番出津 田曰 裁判ノ延長スルヲ以テ上告者ノ迷惑ヲ來スヘシトノ説アリ果シ然ラハ合員會議モ亦上告者ノ迷惑ニ係ルトスル乎夫レ然リ豈夫レ然ランヤ故ニ予ハ四番ノ三人ト修正シテ舊章程ヲ存スルノ説ヲ可トス

○十番佐々木 高行曰 死罪ハ具狀奏請シテ之ヲ決セシニ列廷審判ヲ明ナリトシ此生殺ノ大權ヲ以テ大審院ニ委セラレシナリ然ルニ今本條ヲ削ルキハ判事一人ニテモ判決シ得ヘシ該院ノ精神果シテカアル民心ノ疑惑ヲ招カサルヲ得ンヤ予ハ

五人ニシテ猶ホ足ラス十人ニモナスヘキヲ企望ス十四番ハ裁判ノ延滞ヲ慮ル寔ニ驚クヘキノ説ナリ假令何程ニ延長スルモ審判ヲ重シトセハ豈其遲速緩急ヲ論スヘケンヤ斷訟ノ事タル内外人民ニ關涉ス外國ノ人民ニモ大ニ感觸ヲ生スヘシ又審密ニセサルヘカラス止ムヲ得サレハ三人以上トスヘシ

○三番佐野曰本條ヲ存スヘシトスルハ四番ニ同意ナレトモ五人ヲ三人ニ減スルハ不同意ナリ白耳義ハ小國ナリト雖モ法庭十人ノ列席アリ本邦ノ終審院ニ於テ僅々五人ノ列席ハ少數ノ極ト云ヘシ夫レ冗費節制ノヲタル固ヨリ可ナリ然リト雖モ其事ニ依リテ減スヘク減スヘカラサルモノアリ列席ノヲタル則是ナリ今人員ノ多キヲ以テ事ノ延長スル説アレトモ固ヨリ多人數ヲ要スヘキノ事項ヲ多人數ニテ行フニ於テ事ノ延滞スヘキノ理ナシ豈ニ瑣々タル小事ヲ行ニ冗官贅員ヲ設クルト同シカラシヤ事ノ延滞ハ其必要ナル人員ノ多少ニ依ラスノ他ノ源因ヨリ成ルモノアラン列席ノ人員ハ減少スヘカラス余ハ舊章程ノ儘存スルヲ可トス

○六番美靜曰三番ニ同意ナリ今ヤ減租ノ 恩典ハ畢竟人民ノ保護ニ出ツ然ルニ其民情ヲ暢發スヘキ裁判所ノ判事ヲ減スルハ決シテ 聖旨ノ向フ所ニアラサルヲ知ルナリ嚮キニ

チ表面ノ狀貌ヲ以テ論スヘカラス文明國ノ終審院ハ判事列席ノ一事ノミナラス事々件々完備セサルナシ今一々彼ニ同シキヲ能ハサルキハ列席ノ一事ヲ欠クモ亦怪ニ足ラス故ニ十四番ニ同意シテ本案ヲ可トス

○五番津田曰四番三番ニ同意シテ舊章程ヲ存スルヲ可トス夫レ行政ノ事務タル一人ト雖モ其人ヲ得ルキハ行フヘキナリ斷訟ノ事タル否ラス固リ公平至明ヲ旨トス然ラハ則一人ヲ以テ公平トハ謂カタシ是レ列席ノ制アル所以ナリ荷蘭ハ小國ナルモ尙ホ七名ノ列席アリテ加ルニ陪審ノ設ケアリ之ヲ合スレハ十四五名ノ耳目ニヨリテ審判ス實ニ至公至正ト云フヘシ之ニヨリテ之ヲ見レハ本條ハ必ス存スヘシ

○二十一番津田曰余ハ既ニ四番ニ同意ヲ述ヘタリ然ルニ五人以上トスル説追々聞ユレト以上ト云ヘハ五人モ六人モ列席スヘシ余ハ其邊モ斟酌シテ益々四番ニ同意ス

○議長曰四番ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ 起立者九人

○議長曰 半數兩立ニ依リ議長ニ於テ四番ノ五人ヲ三人トシテ本條ヲ存スルノ議ヲ否トス他ニ修正アラハ發言スヘシ
○三番佐野曰 三人ニ就テ定ムルト五人ニ就テ定ムルトハ其多數中ニ就テ定ムルヲ以テ精且ツ詳ナリトスルハ固ヨリ論

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

十番ニ於テ封事ヲ論セラル、如ク昔ヨリ國家ノ亂階ニ公ノ字ヲ失スルニアリ本條ヲ削ルキハ公字ヲ害ス故ニ予ハ三番ニ同意ナリ

○十四番中島曰予ハ前説ヲ主持シテ予ト反對ノ議ニ答ヘントス試ニ思ヘ本邦大審院ノ創設前ニ向テ我カ三千萬中ノ上告者ハ如何ンカセシヤ皆默々冤ヲ吞ンテ其情ヲ發スル能ハサリシニアラス今五人以上ニアラサルヨリハ該院設立ノ効力ナシトスルハ果シテ何等ノ實驗アリヤ五人以上列席ノヲ敢テ否トスルニハ非サレトモ假令五人以上ヲ列スルモ必ス弊害ナシトスヘカラス抑道回ノ改正ハ節省ノ事ヨリ起ルナリ既ニ合員會議ヲ存シ又五人ノ列席ヲモ存スルトセハ改正ノ主義ヲ失スルモノニ本議ヲ廢案トスルノ説ナリト云モ過キタリトセス余ハ改正ノ主意ヲ遵奉シテ再應陳述スルナリ

○十六番補田曰表面ニ就テ云ハ、四番ノ説モ理アルカ如シト雖モ實際ニ考ルニ五人ヲ三人トシテ存スルモ敢テ其効アルヲ知ラサルナリ夫レ院省ノ設ケアル一モ人民ノ保護ニ淵源セサルナシ特ニ大審院ニ限ルヘカラス故ニ該院ヲ以テ減費ノ經綸ニ關セシメサルハ理ナキニ似タリ今我カ司法卿カ大審院ヲ貴重ナリトノ經理スルキハ決メ列席判事ノ多少即

ヲ俟タス同説多數ヲ取ルノ公法ヲ以テセハ五ノ三ニ勝レル當然ノ義ナリ舊章程ノ儘存スルヲ可トス

○四番水本曰予カ三人ニ減スルノ議ハ既ニ廢棄セラル併シ本條ヲ存セント欲スルハ三番ト同意ナリ若シ三番ノ如ク五人ヲ存スルヲ得ハ更ニ可ナリ故ニ之ヲ贊成ス

○議長曰之ヲ問題トシテ各位ノ發議ヲ俟ツ
○六番美靜曰三番ニ同意ナリ

○十三番河野曰余ハ前ニモ陳述スル如ク此回非常ノ節減ニ方ツテハ余輩金穀ノヲ議スル權ナキ上ハ其經濟ハ姑ク主任ノ議ニ任セサルヲ得ス此回ノハ出スヲ減スルニ非ス既ニ入ルヲ減シタリ故ニ是非出スヲ減セサルヲ得ス極度ヲ論スレハ本院トテモ閉ルヲアラン司法省ニ於テモ成ルタケ省費シテ尙ホ不足スル故此改正ニ及ヒタルナラン扱テ人員多キ故裁判延滞スルニアラス必ス別ニ病根アラント云説アレト若シ五人以上トシテ五人ニ足ラサルキハ裁判セサル日アラン即チ延滞ヲ生スルナリ又各國ニ比スル論アレト本院ノ議官トテモ各國ニナキ少人數ナリ必ス各國ニ比スル譯ナシ一人ノ譯々ハ十人ノ諾々ニ勝ルヲアリ故ニ余ハ削ルヲ可ナリトス

○十四番中島曰余ハ十三番ト粗同説ナリ各位ニ於テハ五人

以上列席セサレハ大審院アル効ナシトスレト若シ大審院ナキハ地方裁判ニ不服ナル者ハ上等裁判所ニ上告スルニ止ルヘシ然ルニ大審院アレハ控訴スルヲ得は大審院アルノ効ハアリ必ス五人以上ヲ以テスルニアラサ大審院判事ハ裁判事務ヲ經歷シタル人ヲ擧ケ他ノ裁判ヲモ破毀スルヲ故其審判ニ専ラ注意スレハ必ス五人以上ヲ用ヒスル公平ヲ失フニ至ルヘカラス又法律ハ伸張スヘキ者ナレト各國ノ開ケタル体裁ヲ俄ニ本邦ニ用ユルコトハ得難シ乃チ立法官ノ本院議員ノ如キ少人數ハ各國ニナキ所ナリ到底實際ヲ顧ミテ爲スヘキナリ固ヨリ司法省ニ於テ無用ニ費スコトアルヲ余輩明了ニ承知スル上ハ論スルヲ得ヘシト雖モ未タ本院ニ明ナラハナシ今日八百萬圓ノ歲入減スル上ハ孰レニモ多少減省スヘキハ知レタルコトナリ況ヤ大審院ノ判事ヲ減シテモ其功ナキニ非サレハ余ハ下附議案ノ如クスルヲ可トス

○一番山口 先キニ四番ニ同意セシカ其説ハ已ニ議長ノ判決ニヨリテ消滅セリ依テ今改テ三番ニ同意ス扱五人以上列席スルニ非サレハ功能ナシト云説ヲ否トスル各位ノ説ヲ聞クニ畢竟法律ヲ主ル主意ニ氣付カサルナリ元來法律ハ信用ヲ得ヘキ爲メナリ若シ信用ヲ欠クアレハ數萬ノ金ニ易ヘ難シ本邦從前ナキ事ヲ一昨年昉メテ設立セラレ天下ノ耳目ヲ

以テ聽キ天下ノ腹心ヲ以テ斷スル大審院ナレハ人民ノ信用ヲ取ル多數ヲ以テスル所ニアリ今日信用ノ要件タル條ヲ僅カ一二萬金ノ爲メ輕々削去ルハ最モ不可ナリ

○十番佐々木 余ハ一番ト同説ナリ或議官ハ大審院アル上ハ三人五人列席スルニ非スル一人ニテ善シト云成程眞ノ賢明ナル人アレハ一人ニ如ク者ナカルヘシ今日 聖上御親斷在ラセラルレハヨケレモ一昨年大審院ヲ立テラレ死刑ノ審斷ヲモ任セラレ人員モ鄭重ニ備ヘラレタル上カラハ假令各國ニ比スレハ十分ナラサルモ在來ノ人員ハ備ヘサルヲ得ス又徒ニ各國ノ狀貌ヲ學ブモ實際功能ナキ説アレト今日未タ設立セサル者ハ固ヨリ實際ニ基キ順序ニ運フ可ナリ大審院ノ如キハ既ニ設立シタル者ナレハ中コロ弛フル理ナシ孰レニモ追々ニ進メサルヲ得サルナリ故ニ余ハ四番ノ説廢棄トナル上ハ三番ノ説ニ同意ナリ

○議長曰 時已ニ晡ナリ點燈後再ヒ開場スヘシ
午後第五時三十分退場
午後第五時五十分再開場
○議長曰 引續キ發議スヘシ

○十九番細川潤 抑本案ノ主意タル已ムヲ得サルノ一語ニ止ル今ヤ減租ノ命一發シ各院省ノ費額ヲ節省ス勢ヒ事務ノ

章程ヲ釐革シテ出入其定額ニ合算セサルヲ得ス之ヲ一家ノ經濟ニ譬フルニ其財產ノ幾分ヲ減スルコトアリテ衣食ノ日用ヲ省減スルモ猶ホ足ラサレハ子弟ノ學資モ亦正ニ減省セスンハアラス學資ハ寔ニ必用ノ事ナリ然レモ其活路ノ如何ニ關スルヤ又已ムヲ得サルナリ今本條ヲ削ルハ或ハ信ヲ天下ニ失フヘシ信ヲ失フモ已ムヲ得サルナリ已ムヲ得サルハ金額ノ欠乏ニ因ル又如何トモスルニ由ナシ是レ已ムヲ得サルノ一語ニ止ルノ謂ナリ依テ本條ヲ削ルヲ可トス

○十二番恒 本案ヲ可トスル議者モ列庭ノ法ヲ否トスルニハ非ス只深ク其費途減省ノ一線ニ着目シテ已ムヲ得ス此美事ヲモ廢スヘシトスルニ在ルノミ然ト雖モ予ハ司法全省定額ノ使用如何ヲ詳ニセサレハ果シテ其列庭ヲ廢セサルヲ得サルヤ否ヲ知ルコト能ハス卑見ヲ以テスレハ此列庭ノ一事ヲ存スルモ敢テ司法全省ヲ經濟シ得サルノ理ナカルヘシト想像セラル、ナリ故ニ四番ノ説ニ同意セシカ其説カ取消ニナリシ故ニ今改テ三番ノ説ニ同意ス

○十五番齋藤 余ハ十三番十四番十五番ノ説ニ同意ナリ抑大審院ノ大切ナルニ依テ五人以上トアルハ然ルヘキコトナレト此度ノ改正ハ定額金ノ不足スルヨリ止ムヲ得サルニ出ルナリ十三番ノ發言アル如ク五人以上列席トナレハ三席ヲ開

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

クヘキモ止ムヲ得ス二席ニ止ルコトアリテ裁判ノ延滞ヲ來スヘシ然レハ此度ノ改正ハ止ムヲ得サルコト信用ス然ルニ職制第二條章程第三條ヲ存シ又第七條ノ舊章程ニ依ル所ハ余モ既ニ同意セリ其精神ヲ以テスレハ本條モ存スル方ニ同意スヘシト云フ論モアルヘシト雖モ初ノ二條等トハ本條稍異ナル所アリ彼ニ同意シ此ニ同意セサルヲ不都合トハ思ハサルナリ故ニ原案ヲ助ケテ十三番等ノ議ニ同意ス

○十一番神田 余ハ三番ニ同意ス今外國實際上ヨリ論セン扱實際上ニ付テハ裁判權ヲ我ニ持タントノ論アリ政府ニ於テモ注意アリ既ニ法律改正ノ企モアリ一昨年大審院ヲ設置アリテヨリ外國人ノ交リモ信ヲ厚クスルニ至ル追々裁判權ヲ持スル階梯トナルヘシ今若シ原按ノ如ク本條ヲ刪去スル時ハ一人ノ見込ヲ以テ裁決スルニ至ル然ルハ必ス外國人ノ信用スル心ヲ減スヘシ如何ナル省費ノ時ト雖モ之ヲ減スル時ニアラス故ニ本條ハ之ヲ存セント欲ス貧乏ノコトハ段々説モアレト如何ニ國力貧乏ナリトテモ第一ノ務メヲ欠テ第二ノ務メヲ爲ス理ナシ今國ヲ保ツハ第一ノ務ナリ工部省ト雖モ之ヲ廢スルハ國ヲ保ツニ關ナシ裁判ノ事務ハ國ヲ立ル第一ノ務ナリ故ニ三番ニ同意ス

○十四番中島 每々陳述スレト本案ハ本條ヲ眼目トス十二

番ノ陳述ハ大審院ノ五人以上列席ヲ存スルヲ得サルコトナシトノ説ナリ果シテ五人トシテ裁判ヲ開クヲ得ヘキヤ十五人アレハ差支ナキヤ或ハ二十五人モ三十人モ無キハ差支ルコトモアラシ余ハ司法省ノ計算ヲ知ラスト雖モ今日下附ナル議案ノ主意ハ減省ニアリ又或ル議官ノ説ハ大審院サヘアレハ天下ハ治ル様ニモ聞ユレト現在區裁判所等モ輿論ノアルコトニテ是迄大審院ノ章程トテモ完備スル者ニハ非ス孰レカ改正モアルヘシ若シモ大審院アリテ天下治ルコトナラハ假令ヒ海陸二軍急緊ノ費ヲ減シ之ヲ保存スルモ可ナレト固ヨリ理ナキコトナリ到底是迄ノ章程モ未タ完備ノ者ニ非スト視レハ今日司法定額ノ減スルニ依リ據ナク改正スルコト故余ハ原按ヲ可ナリトス

○十一番 神田 吾カ裁判權ヲ擴張シ外國人民ヲノ吾カ法律ノ下ニ立タシメントスルハ則吾カ政府ノ要典ナリ明治九年大審院ノ創設ハ寔ニ吾カ法律ノ進歩ニシテ全國民庶ノ幸福ト云ヘク又正ニ外國人民ヲノ吾カ法律ヲ甘受セシムルノ端緒ト云ヘシ然ルニ該院ノ精神タル判事列席ノコトヲ廢スル恐ラクハ信ヲ内外人民ニ失シテ法網之ヨリ弛マン冗費ノ減省ハ固ヨリ可ナレモ豈此美學良典ヲ棄ルニ忍ヒンヤ故ニ本案ヲ否トシ修正ニ同意ス

スル所ニシテ列席數員ノ心證ヲ駢セテ其審訊ノ蹟ヲ精究セハ萬一失ナシト云モ亦可ナリ之ヲ一人ノ心證ニ委スル豈ニ公正ト謂フヲ得ンヤ無益ノ器具什物ヲ節スルモ尙ホ幾多ノ減省ヲ得ヘシ司法省ニテ無益ノ事ヲスルコトハナカルヘシト雖モ他ノコトハ精々減スルトモ本條ノ如キ要用ノ所ハ之ヲ存シ百ニ一ツモ人ヲ無罪ニ陷レサル様ニスルハ政府ノ常務ナリ故ニ余ハ本條法律ノ精神タル大審院ノ列席裁判ヲ廢スルハ徹上徹下之ヲ否トス

○十六番 楠田 三番ハ大審院ノ貴重ナル所以ヲ推テ列席裁判ノ存スヘキヲ謂フニ在リ抑モ方今裁判ノ實況ヲ考ルニ一裁判起ルニ方テ判事數名庭ニ列スト雖モ中ニ就テ全權ナル一ノ所長アリ其一己ノ見ヲ以テ其原被ヲ審訊スルニ臨ミ他列席ノ數名又敢テ吻ヲ其間ニ入レテ默聽シテ終ル固ヨリ一人ヨリ二人ナレハ詳ナルコトハアラン然レモ實際五人ノ功ハナシ然ラハ則チ到底所長ノ權中ニ於テ決スルニ同シ然ラハ則チ列席モ亦有名無實ニ屬スルノミ某議官ハ曰ク會計論ハ想像説ナリト嗟是レ何ノ謂ソヤ百般ノ經綸ニ想像ニ出テサルナク百工ノ發明ニ想像ニアラサルハナシ豈ニ想像ヲ以テ駁スルコトヲ得ンヤ畢竟政府ニテ減省トアル以上本案ノ如ク改正セサレハ官省ノ經濟出入相償ハス終ニ其事務ノ妨

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

○十四番 中島 大審院ハ必ス裁判官五名以上ノ列席ヲ要スト云ヘル説アレモ元來五名ノ裁判官ヲ以テ能ク文明各國ニ並頭スヘキ裁判ヲ爲シ得ヘキヤ否予ハ其五名ノ裁判官ニノ明裁審判ヲ遺憾ナキヲ保シ得サルナリ試ニ思ヘ該院從前ノ章程ハ果ノ完備欠クル所ナシトセンカ若シ其職制章程ヲ取テ之ヲ文明各國ノ終審院ニ比スルニ蓋ツルコトナク實ニ吾カ政府ノ光彩ヲ輝揚スルニ足ルモノトモハ假令海陸二軍急緊ノ費途ヲ減スルモ尙ホ且ツ之ヲ存スヘシト雖モ到底其完備ノ章程ニアラストモ之ヲ改正シテ本案ノ如クスルモ亦妨ケナカルヘシ此等ノ一點能ク考察セシムルハアラサルナリ

○三番 佐野 裁判ノ國家ニ効アルハ内外人民ノ信用ヲ得ル所ニアリ大審院ノ判事ヲ減スレハ信用ヲ欠クナリ固ヨリ八百萬圓ノ減スルヨリ止ムヲ得ス省費スルハ余モ萬々承知ノコトナレト本條ノ如キハ又止ムヲ得ス存セサルヲ得ス如何トナレハ内外ノ信用ヲ懸ル所ナレハナリ其院長タル人ノ賢明ナルキハ其人ヲモ得テ其審判ハ誤リナカルヘシ併シ或ハ十一ノ事實ヲ誤ルナシトセス必ス西洋ノ多人數ヲ要スル皮相ヲ學フニ非ス長タル人ノ前ニ調ヘタル法案ニ依テ事實ヲ調フレハ誤ハ少ナカルヘシ然レモ諺ニ云脇眼八目ニテ傍ニ聞テ居ル者ノ事實ヲ得ルコトモアリ此レ西洋ニテ數人ヲ要

碍ヲナスニ至ラン又外國人ノ信ヲ失フ説アレト此改正ハ屈シテ伸ンコトヲ求ムルナリ今少々ノ省費シテ十年ノ後ヲ期スルヨリハ急度省費シテ二三年ニ其効ヲ見ルヲヨシトス本條ハ改正案ノ如クセサレハ實地ニ害ヲ生シ政府ノ進歩モ弛フアラシ故ニ余ハ本案ヲ可トス

○十三番 河野 十六番ノ論議中引証セラレタル事項ハ一々同意ト云ニモアラサレモ本條ヲ削ルノ主意ニ至テハ同意ナリ抑モ大審院ノ貴重ニシテ公益ノ具ナルハ論ヲ俟タス然リト雖モ其裁判官ノ賢愚アリテ萬間然スル無シトスヘカラス夫レ天地間凡百ノ事物善惡共ニ權衡ヲ第一トス譬ヘハ將校カ千里馬ニ騎リタリトモ卒伍羸弱用フルニ足ラサレハ將校ノ伎倆ヲ發顯シ得サルカ如シ裁判權裁判權ト云ハルレモ今吾カ法官ノ体裁タル權ノ字ヲ下シ難シ歐米ノ所謂裁判權ナル者ハ行政ノ下ニ立タス立法ニ寄ラレテ獨立ノ權ヲ有スルナリ吾カ裁判官ハ行政ノ爲メニ羈絆ヲ遁レテ褒貶黜陟一ニ行政ノ爲メニ攬肆セラル何ノ裁判權カ之アラン是本邦今日ノ景況故人數減スルトモ裁判權ノ鞏カラサルコトハナク又外國人ノ信ヲ失フコトナシ併シ人數ノ多キヲ否トスルニハアラサレモ今財用不足ノ已ムヲ得サルモノアツテ院省事務ノ繁簡ヲ酌シ非常節減スヘシトアレハ百度ニ付節制セサ

ルヲ得サルナリ吾カ賢明ナル司法卿聖旨ヲ遵奉シ其統管ノ事務ニ付テ適當ノ整革ヲ加フルニ無用ノコヲ存シ有用ノコヲ除スルコトハナシト信用セハ又他ニ謂フヘキノ語ナカルヘシ故ニ予ハ斷然本案ヲ以テ可トス

○十四番中島信行曰 某議官ノ説ニ依レハ各省ノ費額ヲ擧テ之ヲ大審院ニ入ルヘシト云カ如シ今 天皇陛下減租ノ仁ヲ垂レ萬機經綸ノ時ニ方テ各院省ノ費途ヲ減省スヘキノ命アリ司法卿モ亦其聖旨ヲ遵奉シテ該省ノ費用ヲ減省シ統管ノ事務ヲ取捨シテ允裁ヲ仰キシヲ尙ホ本院ニ下附アリテ其得失ヲ議セシメラル吾輩該省會計ノ乘除如何ヲ詳ニセスシテ猥リニ其事務ノ存廢ヲ論スルハ所謂紙上談兵ノ譏リヲ免レズ概スルニ這般ノ改正ハ寔ニ已ムヲ得サルノ一語ニ止ル然ラハ則チ本案ヲ以テ適當ノ改正ト信用スヘキノミ

○一番山口尚芳曰 十四番ハ會計上ヲ主トシテ論スレモ本案ヲ院議ニ附セラレシハ費途ノ省減ヲ主トスルニアラス裁判權ノ隆頽ヲ察シテ取捨其宜キヲ得ルノ論議ヲ獻スヘシトノ聖旨ニ出ルヲ知ル然ラハ則チ假令費用ヲシテ今日ヨリ増加セシムルモ其義正確間然スヘカラサルノ論權アラハ又或ハ之ヲ採用アラシモ知ルヘカラス死罪ハ實ニ重大ノコトニテ從前ハ親裁ヲ仰テ之ヲ決ス今ハ則チ之ヲ大審院ニ委セラル其

○議長曰 多數ヲ以テ連帶シテ論スルニ決ス
○四番水本成美曰 第九條ヨリ第十二條ニ至ルマテ本案ノ如ク删除スルヲ可トス
○議長曰 四番ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ
起立者十六人
○議長曰 多數ヲ以テ本案ヲ可ト決ス
○議長曰 時已ニ移レリ明日次ヲ逐テ二讀會ノ續ヲ開キ第三讀會モ併テ同日開カン本日ハ爰ニ散會スヘシ
午後第七時二十分閉場

元老院會議筆記 明治十年一月二十六日

○第五十九號議案 裁判所職制章程等改正ノ儀 第二讀會ノ續キ

議長 陸奥 宗光

出席議員

- 一番 山口 尚芳
- 二番 佐野 常民
- 三番 水本 成美
- 四番 水本 成美

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

公審明判信ヲ天下ニ得ル所以ナリ之ヲ院長一人ニ決スルトセハ何ソ死刑ヲ該院ノ權中ニ委セラル、コアラシヤ明治八年ノ 聖詔ハ中外刮目シテ其結果ヲ望ム未タ一二年ヲ出スシテ此盛典ヲ廢絶スルニ至ル天下ノ疑惑果シテ如何ソヤ今本條判事列庭ノ有無ハ僅々一二萬圓ノ出入ニ過キス天下ノ信ヲ失スルト其利害得失言ヲ俟タスシテ知ルヘシ故ニ予ハ到底本條ハ存スルヲ可トス

○議長曰 三番ノ本條ヲ存スヘシトスルニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十一人

○議長曰 多數ヲ以テ本條ヲ刪ラサルニ決ス

○議長曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤次謙 左ノ條ハ削ルヲ告ク

第九條 法律疑條アレハ大審院之ヲ辨明ス

○十九番細川潤次郎曰 第九條ヨリ第十二條ニ至ルマテ連帶シテ論スルヲ可トス

○十一番神田孝平曰 十九番ニ同意ナリ

○議長曰 讀會規則第二條ニヨリ各條ヲ連帶スルノ説アリ即決ヲ衆議ニ取ルヘシ十九番ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十四人

- 五番 津田 眞道
- 八番 大久保 一翁
- 九番 柳 原前光
- 十番 佐々木 高行
- 十一番 神田 孝平
- 十二番 大 給 恒
- 十三番 河野 敏 録
- 十四番 中 島 信 行
- 十五番 齋 藤 利 行
- 十六番 楠 田 英 世
- 十八番 秋 月 種 樹
- 十九番 細 川 潤 次 郎
- 二十番 宍 戸 磯
- 廿一番 津 田 出

午前第十時二十分閉場

○議長曰 昨二十五日第五十九號議案第一讀會及第二讀會ヲ開キ未タ了議ニ至ラス本日尙其次ヲ逐テ之ヲ開ク各位發議討論スヘシ

○書記官藤澤次謙 左ノ議案ヲ朗讀ス

上等裁判所職制

長一員

判事ヲ以テ之ニ充ツ

該裁判所判事ノ長トシテ課ヲ分チ主任ヲ命シ隨時各庭ニ臨ミ民刑事件ヲ聽理スルヲ掌ル

原第二項削ル

○九番柳原曰 昨日決議セシ大審院一等判事ヲ長トスルノ例ニ依テ此所モ舊章程ヲ存シテ「勅任」判事ニ作ルヲ可トス又第一項該裁判所判事ノ長トシテ「ノ字ハ冗長ニ涉ル」所長ハ「ニ作ルヲ可トス第二項ノ削除ハ財用論ニ於テ定ニ已ムヲ得サルノコトニ係ル故ニ本案ヲ可トス

○十八番秋月曰 九番ヲ賛成ス

○議長曰 九番勸議ヲ發シテ十八番之ヲ賛成ス則チ議場ノ問題トシテ各位ノ發議ヲ俟ツ

○四番水本曰 九番ニ同意ナリ

○十九番細川潤曰 「所長」ノ字モ雅馴ナラサレモ前ノ「院長」ト比シテ同文例トナルカ故ニ之ヲ可トス勅任ノ字ヲ存スルハ固ヨリ同意ナリ

○三番佐野曰 九番ニ同意ナリ

○議長曰 九番ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ 起立者十四人

○議長曰 多數ニヨリテ九番ノ修正「勅任」ノ字ヲ存シ又「所長ハ」トスルノ説ニ決ス

○二十番大戸曰 勅任トノミニテハ汎然定則ナキニ似タリ章程ニ照セハ其等級ヲ明示スヘシ譬ヘハ分註ヲ挿入シ「勅任判事欠クレハ此裁判所中等判事ヲ以テ之ニ充ツ」トス人シ若シ勅任判事ノ欠クルニ會シ已ムヲ得スシテ四等判事ヲ代用スルハ名實相背クノ責ヲ來スヘキナリ

○十九番細川潤曰 二十番ノ説ハ適當ナリ之ヲ實際ニ考ルニ只今ノ修正ニテハ名實相背クノ恐レアリ故ニ余ハ二十番ヲ賛成ス

○議長曰 二十番議官ニ問ハントス本條第一項ハ已ニ九番議官ノ修正舊章程ノ勅任ノ二字ヲ存スヘキノ説ニ決セリ然ルニ今又二十番ニ於テ勅任判事トノミ書スルハ汎然定規ナキヲ覺フ故ニ「勅任判事欠クレハ」云々ノ數語ヲ挿入スヘキノ勸議ヲ發シ來ル其説ハ則チ本條ノ「勅任判事」トシテ其欠クルニ會ハ、四等以下ノ判事ヲ應用スルノ意義ヲ明示スヘシト云ニ在リ然ラハ則チ舊ニ本條勅任判事ノ條款ニノミ關スルニアラス大審院職制ノ一等判事ニ付テモ亦同一ノ意

義ヲ寓スヘキナリ今本條其意義ヲ挿入スルトセハ前ノ一等判事ノ下亦挿註ヲ加フヘシトスルニアリヤ

○二十番大戸曰 然リ前ノ大審院職制ノ下ニモ亦同シ意義ヲ加フヘシトスルノミ

○一番山口曰 余モ二十番ニ同意ナリ讀會規則ニ依テ願クハ大審院職制ニ及ホシテ修正セシ

○議長曰 二十番ノ説ニ付キ二人ノ賛成者アリ之ヲ問題トシテ各議官ノ意見ヲ聞クヘシ然レモ大審院職制ハ昨日十四番ノ修正舊章程ノ「一等」ノ字ヲ存スルニ決シ本條ハ只今九番ノ修正「勅任」ノ字ヲ存スルノ議ニ決セリ而シテ今亦回溯シテ既定ノ議ニ論及スルモノハ成規ニ觸ル、モノ、如シ仍テ讀會規則ヲ檢スルニ第五條ニ衆議ノ決定ニ由テ其條款ノ順序ヲ變換シ或ハ各條ヲ連帶シテ討論シ又ハ同一ノ條ニ付キ修正ノ各意見アルモ之ヲ分別シテ各其可否ヲ決スルヲ得ルノ文アリ然ルニ既ニ決議セシ條ニ及フヤ否ハ明文ノ徵スヘキナシト雖モ衆議ノ決定ニ由テト云フヲ視レハ亦敢テ妨ケナキニ似タリ依テ之ヲ衆議ニ決スヘシ乃チ決議セシ大審院職制ヲ連帶シテ論スルヲ可ト思考スル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ大審院ノ職制一等判事ノ所ヲモ連帶シテ討論スルニ決ス乃チ二十番ノ勸議ヲ問題ト爲シ各位ノ發議ヲ俟ツ

○十二番大給曰 二十番分註ヲ挿入スルノ説ヲ賛成ス

○十三番河野曰 二十番ノ説ニハ不同意ナリ今日都テノ職制ヲ見ルニ此ノ如ク分註スル者ナシ卿ノ欠員ハ輔ヲ以テ之ヲ充ツ皆臨時ノ取扱トナレリ之ヲ勅任トセスシテ其裁判所高等トスレハ四等以下又際涯アルコトナク終ニ七等判事ヲ以テモ亦代用スルニ至ラン今日大審院上等裁判所ノ判事ハ高等ヲ置クト定リタルニ非ス他ノ裁判所ニ却テ高等ナル者モアラシ然レハ下等ノ裁判官ニテ其上等ノ裁判ヲ破毀スルノ不都合ヲ生セン昨日一等ノコトニ付テハ余モ之ヲ主張ス若シ次ノ者ヲ充ツルコトヲ註スレハ大審院モ輕クナリ昨日ノ論意モ貫通セス故ニ余ハ二十番ト不同意ナリ

○四番水本曰 十三番ニ同意ナリ大審院ハ一等判事上等裁判所ハ勅任判事ト定メ其欠員ノ時ハ臨時之ニ代ラシム當今玉乃判事西判事皆所長心得ト違セラレタリ此ノ如クニテ可ナリ故ニ余ハ割註ナキヲ可トス

○一番山口曰 二十番ノ説太タ理アリ今勅任判事ヲ所長トスルノ職制ヲ公示シ時ニ或ハ四等以下ヲ代用シ裁判スルハ

内外人民承服スヘカラス或ハ云ハン政府法ヲ制シテ自ラ之ヲ破レリト若シ之ヲ以テ上告スル者アラハ又答フルノ語ナカルヘシ公正ノ頭腦タル法衙一タヒ之ヲ失ス天下又何ノ公正ヲ証スルコトヲ得ンヤ四番ノ説ノ如ク心得トシテハ欺クト謂ヘシ従前ハ慣習故人民異言ナケレト外國人等欺カレサル者ハ承服セサルコトナラン故ニ二十番ノ説ノ如ク挿註ヲ加ヘテ其臨時四等以下ノ判事ヲ應用スヘキノコトヲ豫メ掲載スヘシ

○三番佐野 余ハ十三番ニ同意ナリ大審院ハ五人以上上等裁判所ハ三人以上アル其人員ヲ減スルハ人民不服アラシ然レモ大審院ハ一等判事上等裁判所ハ勅任判事ノ所長ニテ判決スト云章程ハナキコト故人員ノ減スルトハ違ヒ敢テ原被ノ不服ヲ來スコトハアラサルヘシ定規ハ大審院長ヲ一等判事トシ上等裁判所長ヲ勅任判事トシテ其權衡ヲ取り實際ハ猶ホ卿ノ欠員ニ會ハ、輔ヲ以テスル如ク臨機變通ノ法ヲ用フレハ休裁上大ニ宜シカラン故ニ挿註ハ加入セサルヲ可トス

○一番山口 實際ト職制ト違フコトアルモ従前ハ氣付カサルナリ既ニ氣付ク上ハ立法官ニテ改良セシムハアラス又行政諸省輔ノ卿ニ代ル説アレト其代理スルハ必ス之ヲ公告ス

ス院長所長ニテ判決スルニ非レハ心得ト云意ヲ存スルヲ可トス而シテ一番ノ説ノ代理ノコトヲ以テ天下ニ公告云々ハ該裁判官ノ上ニ於テモ亦通用シテ妨ゲナカルヘシ之ヲ職制ニ掲載スレハ却テ不都合ナリ

○十三番河野 二十番ノ故ニ挿註ヲ加フヘシトスルハ昨日來ノ院議ニ背馳スルモノト云ヘシ大審院ニ是非一等判事ヲ置カントスルハ各省ト比肩セント欲スルナリ若シ一等欠ルハ二等ヲ以テシ以下欠クルニ從テ逐次ニ代任スヘシトセハ七等判事モ院長トナル時アラン豈ニ大審院ノ權榮ヲ減省スルモノト云ハサルヲ得ンヤ若シ其裁判所高等云々トスレハ今日大審院ニモ七等判事アリ府縣裁判所ニモ四等判事アリ其實際ハ入亂レテアリ然レハ大審院長ノ欠員ニ際シ或ハ七等判事カ院長ヲ代理スルノ場合ニ至ラハ他ノ裁判所ノ上等ナル判事ノ裁判ヲ破毀スルコトニナリテ權衡ヲ失スル甚シキニ至ルヘシ故ニ挿註ヲ加フルヲ否トス

○一番山口 九番ハ予カ説ヲ以テ杞憂ニ過キタリト謂ト雖既決シテ否ラサルナリ職制章程ハ中外官民ノ知ル處ニシテ其實際毫モ相違フコトアラハ獨リ吾カ邦人ノミナラス中外關涉ノ裁判ニアタリ外國ノ領事ニ於テハ決シテ之ヲ承諾スヘカラサルヲ知ルノミ今此挿註ヲ加フルモ敢テ休裁ヲ失スル

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

若シ公告ナキハ本院ニ於テモ默止スヘケンヤ況ヤ司法ヲヤ若シ公布セサレハ其裁判ハ甘受セス裁判ハ人ノ生死存亡ニ關ス規律最モ嚴肅ナラサルヘカラサルナリ若シ内外人民司法職制章程ノ名實相同シカラサルヲ責ムル者アラハ抑壓威嚴ニアラサルヨリハ之ヲ斥クルノ語ナカルヘシ今此挿註ヲ加フルモ敢テ本條ノ意義ヲ失スルコトニハアラス故ニ挿註ヲ加フヘシトスルノミ

○九番柳原 二十番ニ同意ナリ予カ見ハ信ヲ天下ニ失スルト云カ如ク廣大ナル規模ヨリ論スルニハアラス只行政官省ノ次官カ長官ノ代理ヲナス時ハ之ヲ公告ス司法ノ規則ト云ハ、豫メ之ヲ掲載シテ至當ナルヘシトスルノミ併シ余ハ二十番ノ説ノ如ク之ヲ本文中ニ入ルヲ可トス

○三番佐野 一番九番ノ説ニ據レハ諸省ノ代理トハ亦異ナリ何トナレハ之ヲ掲載スレハ院長ノ欠クルニ會ハ、六七等判事モ院長トナルヲ得ルナリ今四番ノ説ヲ聞ケハ玉乃西ノ如キハ心得ナリ乃チ代理ナリ然ルニ之ヲ掲載スレハ一等ヤ勅任ノ欠ルハ其次官ニテ所長トナルヲ得且舊職制ノ「及ヒ司法卿大審院長ト往復スル」ノ數字ヲ抹スル意ヲ探ルニ他ノ判事モ五ニ往復スルヲ得ルナリ一休行政官ノ長カ必シモ次官ヲ以テ代理タラシムルトハ自ラ異ナルモノニテ必

ニアラス故ニ二十番ノ説ヲ可トス

○十九番細川 此問題ハ余モ賛成セシナリ其後諸説アリ成程十三番ノ説ノ如ク其所高等ノ判事トスレハ地方裁判所ニ五等モアリ大審院上等裁判所ニ六七等モアリ大審院一等上等ハ勅任ト定メ若シ欠員スレハ其次其次トナルハ裁判上ニ不都合ヲ生シ大審院ノ顯榮ヲ剝落スルニ至リ昨日來論スル意ニ背馳セント云ハ尤ナリ故ニ其患ヒヲ避ケテ次等ノ判事ニ代理セシムルノ一法ヲ考定セリ其意ハ二十番ニ粗同ケレト修正案ハ三讀會前ニ提出スル規則ナレハ尙ホ二十番ト協議シ提出スヘシ余ハ一等又ハ勅任ノ欠ルハ代理トナル者ハ其時ノ假任ナルコト判然スル様ニナシ今日ノ實際ニモ違ハス又一等勅任ヲ主張セシ精神ニモ差響キナキ様ニ修正セント欲スルナリ

○議長 書記シテ出サントナレハ本日現ニ其決ヲ取ルコトヲ得サルナリ又之ヲ第三讀會ニ附セントスルヤ或ハ字句ノ曲折ニ於テ二十番ノ修正案ト大差ヲ生シ五ニ相容レスノ終ニ不同意トナルモ量ルヘカラス然ラハ則チ十九番ノ立言ハ成規ヲ攪擾スルト云モ可ナリ

○十九番細川 只謾ニ云ヘハ二十番ト同意ナリ如何トナレハ職制上下實際ト違ヘハナリ而シテ字句上ハ不同意トナ

ルヘキ敷未タ分ラス余修正セントスル意ハ試ニ云ヘハ實際
一等ノ欠ルキハ二等ヲ以テ充テ又勅任欠ルキハ奏任ヲ假リ
ノ心得トスル事實ヲ記シ居カントスルノミ

○二十番 磯戸曰 予ハ畢竟職制章程ト實際ト相違フコアルヲ
憂ルニ止ル文章字句ノ如何様ナルモヨシ實際ニ心得勤ノコ
アレハ該裁判所高等ノ判事ヲ以テ假リニ之ニ充ツトスルモ
可ナリ孰レニモ書テ置ク所ト事實ト違ハサルヲ主トス

○議長曰 各位ニ於テモ讀會規則ハ熟知ナルヘシ然ルニ初メ
二十番ノ修正説ヲ發言スルキハ其意ヲ質問シテ問題トセリ
今ニ至テハ二十番ニ於テモ十九番ニ於テモ到底分ラサルコ
トナレリ故ニ規則ニ依テ決ヲ取ルヲ得サルナリ如何

○十三番 河野曰 何ソ決ヲ取り得サルノ理アラン今二十番動
議ヲ起シ十九番之ヲ賛成シテ後チ紛議ヲ生セシナリ然レニ議
場ノ問題トナル上ハ議長一己ノ存意ヲ以テ之ヲ取消スコ能
ハス又二十番十九番ニ於テモ之ヲ取消シ得ヘキニアラス然
レハ成規ニ從テ決ヲ取ルヘキナリ

○議長曰 今二十番ト十九番トノ發言ヲ以テ問題トナシ衆議
ヲ問フノ結局ニ至テ二十番ノ論說少シク變更スル處アリ因
テ讀會規則ヲ考ルニ第六條中ニ一議官修正ノ意見ヲ出シ他
ノ議官之ヲ賛成スレハ議長ハ之ヲ問題トシ各議官ヲシテ討
ル

○十九番 細川潤曰 余ハ二十番ノ説ヲ賛成ス
○議長曰 他ニ發言ナキ故決ヲ取ルヘシ二十番ノ修正ヲ可ト
スル議官ハ起立スヘシ

起立者八人
○議長曰 少數ナルヲ以テ二十番ノ修正ハ取消ス
○五番 眞道曰 所長ト云フハ贅語ニ屬ス單ニ長トナスヘシ
○十四番 信行曰 無用

○議長曰 無用トスル理由ヲ陳述スヘシ
○十四番 中島曰 所長ノ項ハ既ニ決議アレハ無用トス
○五番 眞道曰 既ニ決スルモ不都合ナレハ之ヲ改メントス
○議長曰 五番ノ説ハ議長ニ於テ無用トス
○二十一番 出津田曰 長一員トアレト大審院ノ文例ニ遵ヒ長一
人ト修正スルヲ可トス

○十九番 細川潤曰 二十一番ノ説ヲ賛成ス
○議長曰 二十一番ノ修正説アリ十九番之ヲ賛成ス因テ問題
トナシ各位ノ發言ヲ竣ツ
○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン二十一番ノ修正ヲ可トスル
議官ハ起立スヘシ

起立者十二人
○議長曰 多數ヲ以テ二十一番ノ修正長一人トスルニ決スヘ

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

論セシメ而シテ后其可否ヲ問フトアリテ其修正ノ説ヲ變シ
タル所尙ホ決ヲ取ルヘキヤ否ヤハ明文ナシ故ニ之ヲ衆議ニ
決スヘシ乃チ二十番ノ説ニ付テ決ヲ取ルヘシトスル議官ハ
起立スヘシ

起立者八人

○議長曰 少數ナルヲ以テ二十番ノ説ハ取消スヘシ

○二十番 磯戸曰 予ハ決シテ變説ニアラス只其章程ト實際ト
相異ナルナキヲ欲ス其文字上假ノ字ヲ加ルト加ヘサルハ衆
議ニ任スヘシトスル意ナリ

○議長曰 既ニ衆議ニ依テ取消シトナル上ハ如何トモスヘキ
ナシ又説ヲ變スルコトヲ論スレハ二十番最初ノ發言ハ其裁
判所高等ノ判事ヲ以テ之ニ充ツト云ヒ又假ノ字ヲ入ルト云
ヒ而シテ文字ハトウナリテモヨシト云フ然レハ假ノ字ハ何
ノ處ニ入ルモ判然ナラス是其説ヲ變シタルト認ムル所ナ
リ

○二十番 磯戸曰 然レハ改メテ修正説ヲ陳述スヘシ乃チ上等
裁判所ノ方ハ勅任判事欠レハ四等以下其裁判所高等ノ判事
ヲ以テ假ニ其員ニ充ルヲ得トナシ大審院ノ方ハ一等判事欠
レハ二等以下其院中高等ノ判事ヲ以テ假ニ其任ニ充ルヲ得
トナスヘシ

○又曰 時已ニ正午ニ及フ午餐後次條ノ議ヲ開クヘシ
正午十二時閉場

午後十二時四十五分再開場

○議長曰 午前會議ノ次ヲ追テ再ヒ開場シ其次項ニ移ルヘシ
○書記官 藤澤 左ノ一項ヲ朗讀ス

判事
第二 管内死罪ノ獄ヲ判決スルコトヲ掌ル
○議長曰 發言ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案ヲ可トスル議官ハ
起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ即チ本案ヲ可ト決ス

○議長曰 次項ニ移ルヘシ
○書記官 藤澤 左ノ一項ヲ朗讀ス

判事補
事ヲ判事ニ受ケ審判ヲ掌ル

○四番 水本曰 第一項ノ「審判ヲ掌ル」ト云モノハ語ヲナサ
ス修正シテ「審判スルコトヲ掌ル」ニ作ルヘシ

○十九番 細川潤曰 四番ノ説ヲ賛成ス
○議長曰 之ヲ問題トシテ各位ノ發言ヲ竣ツ

五九

○議長曰 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン四番ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十四人

○議長曰 多數ヲ以テ四番ノ修正「審判スルヲ掌ル」ニ改ムルニ決ス

○議長曰 次項ニ移ルヘシ

○書記官藤澤次謙 左ノ一項ヲ朗讀ス

屬

○議長曰 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十四人

○議長曰 多數ヲ以テ本案ヲ可ト決ス

○議長曰 次項ニ移ルヘシ

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

上等裁判所章程

第一條 上等裁判所ハ地方裁判所ノ裁判ニ服セスノ控訴スル者ヲ覆審ス

ル者ヲ覆審ス

○一番山口曰 大審院章程第一條末節ノ文例ニ比シテ本條末節モ「覆審スル處トス」ニ改ムヘシ

○四番水本曰 一番ニ同意ナリ

○議長曰 一番ノ動議ニ付テ四番ノ賛成アリ之ヲ問題トシテ各位ノ發議ヲ俟ツ

○三番佐野曰 本案ヲ可トス次ノ處ニモ所ノ字ナキ故此處モ所ノ字ヲ入レサルヲ可トス

○十九番細川潤曰 三番ニ同意ナリ

○一番山口曰 僅ノ「ナレト」文章ハ同一ニスヘキナリ且上等裁判所ハ覆審ト聞ヘテハ不可ナリ是非覆審スル所トスヘキナリ

○四番水本曰 一番ノ説ハ可ナリ予ハ又「ノ」一字ヲ加ヘ覆審スル「ノ」處トスト改ムレハ更ニ可ナリ必竟大審院ハ何々ノ所上等裁判所ハ何々スル所ト其所ヲ示ス文ナレハ同例ニスヘキナリ下條ハ其仕事ヲ掲クレハ審批スノ結ニテ可ナリ

○十一番神田曰 予ハ三番ト同意ニテ所トスノ三字ヲ加ルニ及ハストス本條ハ綱領下條ハ其仕事ヲ載セタル者故本案ノ儘ニテ可ナリ

○一番山口曰 本條ハ上等裁判所章程ノ性質ヲ説クノ條ナリ譬ヘハ元老院ハ法律ヲ議スル所テアルト云フ如シ是非大審院同例ニシテ所ノ字ハ入ルヘキナリ

○議長曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

舊第四條

改正第三條

各地方裁判所ヨリ送呈スル所ノ終身懲役罪案ヲ審批ス

○議長曰 發議ナキヲ以テ決ヲ取ルヘシ本案ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

全員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ即チ本案ヲ可ト決ス

○議長曰 原第五條ヨリ第七條マテハ連帶シテ議セントス則チ其連帶シテ議スヘキヤ否ヲ以テ決ヲ取ラン連帶ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十四人

○議長曰 多數ヲ以テ連帶發議ニ決ス

○書記官藤澤次謙 左ノ條々ハ削ルヲ告ク

第五條

管下代人代書人ノ違律ヲ裁決ス

第六條

民刑ヲ論セス公庭ヲ開クニ判事三人坐ニ列スルヲ要ス

第七條

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ即チ本案ヲ可ト決ス

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

○議長曰 發議ナキヲ以テ決ヲ取ルヘシ本案ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

全員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ本案ヲ可ト決ス

○議長曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

舊第三條

改正第二條

各地方裁判所ヨリ具スル所ノ死罪ヲ判決シテ大審院ノ批可ヲ取り然ル後原裁判所ニ付シテ宣告セシム

○議長曰 發議ナキヲ以テ決ヲ取ルヘシ本案ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

全員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ即チ本案ヲ可ト決ス

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

○議長曰 發議ナキヲ以テ決ヲ取ルヘシ本案ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

全員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ即チ本案ヲ可ト決ス

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

○議長曰 發議ナキヲ以テ決ヲ取ルヘシ本案ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

上等裁判所ノ裁判ニ承服セストイヘ更ニ控訴スルコトヲ得
ス唯タ大審院ニ上告ノ破毀ヲ求ムルコトヲ得

○三番佐野曰 五條七條ヲ削ルハ異議ナシ第六條ハ大審院章
程第八條ニ於テ論セシ如ク之ヲ削レハ裁判ノ精神ヲ失スル
ナリ既ニ其節五人以上ノ列席ヲ存スルニ決スレハ本條モ三
人列席ノコトヲ存セサルヘカラス故ニ六條ヲ五條ト改メテ其
文ヲ存スヘシ

○五番眞道曰 三番ニ同意ナリ

○議長曰 之ヲ問題トシテ各位ノ發議ヲ俟ツ

○二十一番津田曰 三番ニ同意ナリ

○十九番細川潤曰 予ハ大審院ノ部分ニ於テ列席ノ説ニ不同
意ヲ述ヘタリ然レモ同意少ナクシテ列席ヲ存スルニ決セシ
以上本條同一ノ例ヲ以テ存セサルヲ得ス故ニ不同意ナカラ
已ムヲ得スシテ三番ニ同意ス

○議長曰 他ニ發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン三番ニ同意ノ議官
ハ起立スヘシ

起立者十三人

○議長曰 多數ヲ以テ即チ舊第六條ハ存スルニ決ス

○二十一番津田曰 三番ノ第五條トシテ存スヘシト云ハ誤ナ
ルヘシ則チ今ノ改正第四條ニ移スナルヘシ

○書記官藤澤 左ノ條ヲ朗讀シ判事云々削ルヲ告ク

地方裁判所職制

判事長一人 自三等至七等

○十八番秋月曰 此度下付ノ議案ニハ舊職制ニアル所ノ判事
長云々ヲ削リ次ノ判事ノ處ニ其長ト爲スノ文ヲ置クハ不可
ナリ余ハ之ヲ存セント欲ス

○三番佐野曰 余固ヨリ十八番ノ意見ヲ賛成セント欲ス然ル
ニ其修正モ全稿ノ陳述ナキ故一應余ノ意見ヲ述ヘン十八番
ニ於テ前項ノ判事長云々ヲ存シ後項ノ司法卿云々ヲ削ル意
ナレハ全ク同意ナリ若シ兩項ヲ舊職制ノ如ク都テ存セント
欲スル意ナレハ不同意ナリ余ハ大審院上等裁判所ノ同文例
ニナスヲ希望ス

○十八番秋月曰 即チ前項ノミヲ存スル意ナリ

○議長曰 十八番ノ修正ハ前項ノ判事云々ヲ存スルナリ三番
之ヲ賛成ス仍テ之ヲ問題トシ各議官ノ意見ヲ聞カン

○二十番戸曰 前ノ大審院上等裁判所ノ例ニ依レハ十八番
ノ修正ハ然ルヘシ然ルニ地方ニ於テハ或ハ判事兩人ナキコ
モアラン然レハ判事長トハ書キ難キ理ナリ故ニ本案ノ如ク
次ノ條ニ其長ト爲ストスルヲ當然トス

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

○三番佐野曰 二十一番ノ説ノ如シ予カ第五條ト云シハ誤ナ
リ

○議長曰 僅カノコトナレト既ニ決議スル上ハ更ニ決ヲ取ルヘ
シ乃チ第三條トスルニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十五人

○議長曰 多數ニ依テ前ニ決議セシ第五條ハ第三條トスルニ
決ス

○議長曰 巡回裁判規則ハ本案皆之ヲ削ル故ニ連帶シテ決ヲ
取ラントス乃チ連帶スルヲ可ト思考スル議官ハ起立スヘシ

衆員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ連帶シテ決ヲ取ルニ決ス

○書記官藤澤 左ノ條ハ削ルヲ告ク

巡回裁判規則

第一項ヨリ第八項ニ至ル

○議長曰 本案巡回裁判規則ヲ廢スルニ同意ノ議官ハ起立ス
ヘシ

全員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ本案ヲ可ト決ス

○又曰 次條ニ移ルヘシ

○五番眞道曰 十八番ノ説ハ尤ノ様ナレト是迄ノ例ニヨレハ
所長一人ト書スルヲ可トス故ニ余ハ不同意ナリ

○四番成美曰 二十番ノ説モアレト余ハ十八番ニ同意ナリ地
方トテモ判事補アリ其レニ對シテノコトナレハ判事長ト書キ
難キ理ナシ余ハ十八番ノ説ノ如ク修正シテ可ナリトス

○十五番藤曰 余ハ十八番ニ同意ナリ併シ文字上ハ上等裁
判所同一ニスルヲ可トス

○議長曰 他ニ發言ナキ故決ヲ取ラン十八番ノ修正ニ同意ノ
議官ハ起立スヘシ

起立者四人

○議長曰 少數ニ依テ十八番ノ説ハ取消ス他ニ意見アラハ發
言スヘシ

○五番眞道曰 所長一人ト修正スルヲ可トス

○十五番藤曰 五番ノ説ヲ賛成ス

○議長曰 五番ノ説アリ十五番之ヲ賛成ス乃チ問題トシ各議
官ノ意見ヲ聞カン

○十三番河野曰 五番ノ説アレト文字上余ハ不同意ナリ所長
一人トシテハ上等裁判所ノ處ニテ長一人ト云フニ同シカラ
ス且五等七等ノ字モ不可ナレハ余ハ奏任判事ヲ以テ之ニ充
ツトスルヲ可トス

○議長曰 他ニ發言ナキ故決ヲ取ラン五番ノ説ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者二人

○議長曰 少數ニ依テ五番ノ説ハ取消ス他ニ意見アレハ發言スヘシ

○十三番河野曰 余ハ長一人奏任判事ヲ以テ之ニ充ツト修正セント欲ス

○十番佐々木曰 余ハ十三番ノ説ヲ賛成ス

○十五番齋藤曰 余ハ前ニ五番ノ説ヲ賛成ス然ルニ其説取消トナリ更ニ十三番ノ説アリ之ヲ考ルニ五番ノ説ヨリハ更ニ可ナリ故ニ又十三番ニ同意シテ之ヲ賛成ス

○議長曰 五番ノ説アリ十五番之ヲ賛成ス之ヲ問題トシテ各議官意見アレハ發言スヘシ

○一番山口曰 十三番ノ説ハ至當ナリ無論此ノ如ク修正セサルヘカラス

○議長曰 他ニ發言ナケレハ決ヲ取ラン十三番ノ説ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十三人

○議長曰 多數ニ依テ十三番ノ修正ニ決ス

○又曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤 左ノ條ヲ朗讀ス

判事

民事ヲ初審シ刑事懲役以下ヲ審判スルヲ掌ル但判事ノ内ヲ以テ其長トナス

○九番柳原曰 但以下ヲ削レハ餘ハ本案ニテ可ナリ

○十一番神田曰 九番ノ説ヲ賛成ス

○議長曰 九番ノ説アリ十一番之ヲ賛成ス仍テ此ヲ問題トナシ各議官ノ意見ヲ聞カン

○十五番齋藤曰 余ハ九番ニ同意ナリ

○議長曰 他ニ發言ナキ故決ヲ取ラン九番ノ説ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十六人

○議長曰 多數ニ依テ九番ノ修正ニ決ス他ニ意見アレハ發言スヘシ

○一番山口曰 此職制ハ稍修正スヘキアリ何トナレハ此ハ地方裁判所ノ職制ナリ然ルニ長一人云々ト爲シ而シテ判事ノ所ニ至テ民事ヲ初審シ云々ト爲シテハ長ノ所ニ其掌ル所ヲ書セス從前ニテハ司法卿大審院長云々トアリ此度ノ改正ニテハ之ヲ削レ然レハ職アツテ掌ナキニ似タリ故ニ所長ハ民事ヲ初審シ刑事懲役以下ヲ審判スル事ヲ掌ル判事之ニ同シト云ハン

○一番山口曰 九番十三番ノ説アレト余ハ晩レタリトセス乃チ長ノ職掌ヲ改正スル意ハ判事ノ條ニモ其長トスト云處ニマテ注キテアレハ此ニ到テ前條ヲモ修正スル奚ソ晩レタリト云ハン

○二十一津田曰 無用

○議長曰 無用ノ理由ヲ述フヘシ

○二十一津田曰 一番ハ前條ニ連帶シテ論スル意ナラン然ルニ今論スル所ハ判事ノ條ナレハ若シ連帶シテ論セントナラハ前ニ衆議ノ決ヲ取ルヘシ今其手續ナキ故無用トス

○議長曰 一番ニ於テ無用ナラサル理由ヲ辨スヘシ

○一番山口曰 民事ヲ初審シ云々ヲ改正スル意ナレハ無用ニ非ス

○議長曰 一番ノ説ヲ無用トスル議官ハ起立スヘシ

起立者十一人

○議長曰 多數ニ依テ一番ノ説ハ無用ニ決ス

○二十一津田曰 本條ニ付テハ追々陳述アリ既ニ前條ヲ決議シ本條ニ至テ紛々ノ説起ル故ニ余ハ議長ノ許可ヲ得テ兩條ヲ連帶シ論スルヲ得ハ更ニ意見ヲ陳述セント欲ス如何

○議長曰 二十一番ノ説アリ此ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

ト修正スヘキナリ

○議長曰 一番ニ於テハ長ノ所へ掌ヲ入レ判事ノ所ヲハ削ルノ意ナリヤ

○一番山口曰 判事ノ字ヲ削ルノミニテ所長ノ所ニ其掌ヲ置クナリ

○二十番津田曰 一番ノ説ノ如ク判事ノ字ヲ削レハ乃チ余ノ陳述セシ主意モ自ラ立テ満足スレハ余ハ一番ノ説ヲ賛成ス

○議長曰 一番ノ主意ハ長ヨリ直ニ判事補ト次ク意ナリヤ

○一番山口曰 判事補ノ事ハ第二次ニ陳述セント欲ス此所ハ只大審院上等裁判所ノ文例ニ依テ所長ハ民事云々ト其掌ヲ載セント欲スルナリ

○議長曰 一番ノ修正説アリ二十番ニ於テ賛成ス仍テ問題トナス各議官意見アラハ陳述スヘシ

○九番柳原曰 一番ノ大意ハ可ナリ併シ上等裁判所ノ文例ニヨレハ課ヲ分チ云々トスヘシ然ルニ今陳述アル修正ニテハ判事ノ掌モ長ニ同ク聞ヘテ不都合ナラン既ニ十三番ノ説ニ決スル以上今ニシテ此説ヲ出スハ晩レタリ余ハ意見モアレト孰レ三讀會迄ニ熟考シ五人以上ノ賛成ヲ得レハ之ヲ論スヘシ故ニ一番ニハ不同意ナリ

○十三番河野曰 余モ九番ト同論ナリ

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

起立者十二人

○議長曰 多數ニ依テ二十一番ノ陳述ヲ許ス

○二十一番津田曰 前條ハ此度改正ノ本案ニ削リタル判事長一人云云ヲ修正シテ存スルニ決シ次條判事ノ處ニ至テ長ニ掌ナシト云論起リ次條ヲ繰上ケテ前條ニ置カントスル說アレト遂ニ取消トナル然ル上ハ遂ニ職名ノミアリテ其掌ナシ寧ロ本案ノ如クナスノ勝レルニ如カス大審院上等裁判所ノ文例ニハ違ト雖モ此處ハ文例ヲ一變スルモ何ソ不可ナラン併シ但判事以下ノ増補文ハ削ルヲ至當トス

○議長曰 二十一番ノ說ハ前ニ決議シタル十三番ノ修正ハ取消ス意ナリヤ

○二十一番津田曰 前刻以來紛紜ノ論ハ全ク長一人云々ノ所ニ基ク故ニ余ハ本案ノ如クスルヲ勝レリトス

○二十番成美曰 既ニ一番ノ說ヲ取消トナル以上余ハ二十一番ノ說ヲ賛成ス

○議長曰 二十一番ノ說二十番ノ賛成アレト決議ヲ取消スハ讀會規則ニモ十分ナラサレハ先ツ之ヲ衆議ニ決スヘシ二十一番ノ說ヲ問題トナシ之ヲ議スルニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者一人

ヲ問題トス各議官意見アレハ發言スヘシ

○一番山田曰 余モ十四番ニ同意見ナリ元來長アリテ其掌ナキヨリ余ノ意見ヲ陳述スレトモ悲イ哉不辨ニシテ各議官ノ許可ヲ得ス甚残念ナリ然ルニ今連帶シテ論スルニ至リ十四番ノ陳述アルハ甚幸ヒナリ而シテ其陳述アル所余ノ意見ト稍違フト雖モ到底穩當ニシテ最モ然ルヘシ

○三番佐野曰 追々論說アル如ク職アリテ其掌ナキハ不都合ナリ併シ原案ノ儘ニテモ格別差支モナカラン何トナレハ屬トノミアリテ其掌ハ之ヲ書セサルナリ一休大審院上等裁判所ノ文例ヲ推スキハ長タル人ニ責任ヲ負ハスルハ然ルヘシ然レモ余ハ長タル人ノ他ノ判事ト異ナル所ヲ見出サス九番十三番ヨリ三讀會迄ニ修正案ヲ提出スル事モアルヘシト雖モ今日既ニ十四番ノ修正アル上ハ之ヲ決議シテ可ナラン大審院上等裁判所ハ長モ隨時庭ニ臨ムコトアリ地方裁判所ハ舊職制ニテモ他ノ判事ニ同シトアリテ所長ハ課ヲ分チ主任ヲ命シ隨時庭ニ臨ム等ノ事ナシ故ニ十四番ノ如クシテ舊職制ノ判事ニ同シト云フ存スレハ可ナリ

○議長曰 十四番ノ修正ハ上等裁判所ノ文例ニスル意ナリヤ
○十四番中島曰 前刻ハ文章上ヲ詳ニ陳セサレモ余ノ意ハ前條ハ所長ハ課ヲ分チ主任ヲ命スルコトヲ掌ルト爲シ本條ハ民

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

○議長曰 少數ニ依テ二十一番ノ說ハ取消ス

○二十一番津田曰 讀會規則中其條款ノ順序ヲ變換シ或ハ各條ヲ連帶シト云ハ其意廣狹アリ之ヲ廣クスレハ議案ノ全部ニモ涉ルヘシ前條ハ既ニ決シタル處ナレト前キニモ大審院ノ處ニ於テ既ニ決シタル條ヲ連帶シテ論セシ事アリ故ニ余ハ此例ニ依テ意見ヲ陳セシナリ

○議長曰 二十一番ノ陳述ハ然ルヘシト雖モ衆議之ヲ許サレハ議長ニ於テ如何トモスル能ハス故ニ取消トス

○十四番中島曰 前條ニ連帶シテ論スルコトハ既ニ各議官ノ許可ヲ得シ事アレハ各自意見ヲ陳スルヲ得ヘク且本條ニ付テハ九番十三番ニ於テモ三讀會迄ニ修正案ヲ提出スルアラント云ト雖モ未タ三讀會ノ期モ定マラサレハ今日余ノ意見ヲ陳セン前條ニ奏任判事ヲ以テ之ニ充ツトシテ直ニ判事ノ條ニ續テ民事ヲ初審シ云云トシテハ不都合ナリ故ニ前キニ決議セシ大審院上等裁判所ノ例ニ依テ前條モ併セテ修正シ所長ハ課ヲ分チ云云ヲ入レ本條ハ民事ヲ初審シ云云ト爲サント欲ス

○四番成美曰 連帶シテ論スルヲ許サル、時ハ余ハ十四番ニ同意ナリ故ニ之ヲ賛成ス

○議長曰 十四番ノ說アリ四番ニ於テ之ヲ賛成スルヲ以テ之

事ヲ初審シ刑事懲役以下ヲ審判スル事ヲ掌ルト爲シ朱書ノ但以下ヲ削リ去ント欲スルナリ

○十五番藤原曰 余ハ前條ハ十三番ノ說本條ハ九番ノ說ニ同意ヲ發言セリ其後紛議アリテ其議モ追々精密ニナレリ今十四番ノ說ハ甚穩當ナレハ全ク之ニ同意ス

○十四番中島曰 余前說ヲ陳述スルニ付テ三番ノ說アリ因テ亦發明スル所アリ故ニ前條ハ該裁判所長ハ課ヲ分チ主任ヲ命ス他ハ判事ニ同シト修正シ本條ハ朱ノ改正ヲ削ル迄ニテ可ナリトス

○九番柳原曰 余モ大意ハ十四番ニ同シケレト未タ其全稿ヲ得サル故三讀會迄ニ提出セント曰ヒシナリ然ルニ今連帶シテ論スルコトニ至ル上ハ余ノ意見ヲ陳セン十四番ニ於テ發明アルヨリ該裁判所長トスルハ穩ナラス何トナレハ上等裁判所ノ處ニ於テ所長ト改ムルニ決シタレハ其例ニ倣ヒ所長ハトスル至當ナリ

○四番成美曰 余モ陳述セント欲シ未タ發言セサルニ方テ九番ノ陳述アリ既ニ十四番ニ同意ヲ表セシコト故一應陳述セン抑所長ノ主任ヲ命スルハ當リ前ノコトニシテ是非トモ課ヲ分チ主任ヲ命スルコトハ無ルヘカラス若シ之ナケレハ一般ノ判事ノ職掌ノミナリ十四番ニ於テ該裁判所長ト陳述アリシハ

無論間違ナルヘシ此處ハ所長ハ課ヲ分チ主任ヲ命スルヲ掌ル他ハ判事ニ同シト謂フヘシ十四番モ定テ其意ナラン

○議長曰 往々僅カナカラ文字ノ違アリ今決ヲ取ルニ際シタレハ十四番ノ定説ヲ聞カン

○十四番中島信行曰 余ノ心事ハ全ク四番ニ於テ付度セラレタル通りナレハ更ニ陳セス

○議長曰 最早發言ナシト認ル故決ヲ取ラン十四番ノ説ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十人

○議長曰 多數ニ依テ十四番ノ修正ニ決ス

○又曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

判事補

事ヲ判事ニ受ケ審判ヲ掌ル

○十九番細川潤次郎曰 本條ハ本案ヲ可トス

○九番柳原前光曰 十九番ニ同意ナリ

○議長曰 他ニ發言ナキ故決ヲ取ラン本案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者十六人

○議長曰 多數ニ依テ本案ヲ可ト決ス

起立者十三人

○議長曰 多數ニ依テ十九番ノ修正ニ決ス他ニ意見アレハ發言スヘシ

○四番水本成美曰 第一條ニ付テハ尙ホ僅カノ意見ヲ陳セン乃チ各ノ一字ハ削ルヲ可トス

○十一番神田孝平曰 余復四番ノ説ヲ賛成ス

○議長曰 四番ノ説十一番ノ賛成アリ之ヲ問題トス各議官意見アレハ發言スヘシ

○十九番細川潤次郎曰 各ノ字ハ削リテ可ナリ上等裁判所章程ニハ各ノ字アレト必竟數所ヲ指シタレハナリ本條ハ其地方ノ章程ナレハ單ニ地方トシテ至當ナリ

○議長曰 他ニ發言ナキ故決ヲ取ラン四番ノ説ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ四番ノ修正ニ決ス

○又曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

第二條

地方裁判所ニ於テ審判シタル民事ハ輕重トナク皆初審トス

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン本案ニ同意ノ議官ハ起立ス

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン本案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者十六人

○議長曰 多數ニ依テ本案ヲ可ト決ス

○又曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

地方裁判所章程

第一條

各地方裁判所ヲ置キ一切ノ民事及刑事懲役以下ヲ審判ス

○十九番細川潤次郎曰 本條ハ僅カニ修正スヘキ所アリ何トナレハ本案ノ儘ニテハ上等裁判所ノ文例ニ同一ナラス故ニ置

キノ三字ヲ削リ裁判所ハ一切ト續クヲ可トス

○十一番神田孝平曰 余モ十九番ニ同意ナリ故ニ之ヲ賛成ス

○議長曰 十九番ノ説アリ十一番賛成スルニ付之ヲ問題トス各議官意見アレハ發言スヘシ

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン十九番ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

ヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ本案ヲ可ト決ス

○又曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

第四條

死ハ審訊ノ文案證憑ヲ具ヘ擬律ノ見込ヲ付シ上等裁判所ニ遞送シ其行下ヲ得テ宣告ス

○十一番神田孝平曰 本條ハ僅カニ修正スヘキアリ乃チ擬律ノ見込ヲ付スヲ擬律シテト改ムルヲ可トス

○四番水本成美曰 十一番ノ説ヲ賛成ス

○議長曰 十一番ノ説アリ四番之ヲ賛成ス之ヲ問題トシテ各議官ノ意見ヲ聞カン

○十三番河野敏鎌曰 余ハ本案ノ儘ヲ可トス何トナレハ地方裁判所ニ在テハ擬律スル權ナキ故ニ其見込ヲ付スルナリ十一番ノ説ハ權外ノ事トナル故ニ本案ヲ可トス

○四番水本成美曰 十三番ノ駁議モアレト擬律トハ罪人ヲ律名ニ擬スルコトニシテ譬ヘハ斬絞ノ字ヲ當テル丈ケカ擬ノ字ナリ

今一ツ之ヲ解スレハ乃チ見込ナリ故ニ擬律ノ見込ヲ付スト謂フハ重複シテ不可ナリ併シ擬律シテト曰フモ前後ノ語路

穩ナラサレハ或ハ之ニ易ルニ律ヲ擬シノ四字ヲ以スルモ可
ナラン

○十九番細川潤曰 擬律ノ字ニ付テ説アリ仍テ考ルニ次條ニ
擬律案ノ字モアレハ余ハ證據及ヒ擬律案ヲ具ヘ上等云云ト
修正スルヲ可トス

○議長曰 他ニ發言ナキ故決ヲ取ラン十一番ノ説ニ同意ノ議
官ハ起立スヘシ

起立者二人

○議長曰 少數ヲ以テ十一番ノ説ハ取消ス他ニ意見アレハ發
言スヘシ

○十九番細川潤曰 十一番ノ修正取消トナル上ハ更ニ前ニ陳
スル如ク修正セント欲ス

○十一番神田曰 本案ハ孰レニモ修正スヘキ者故余ハ十九番
ノ説ヲ賛成ス

○議長曰 十九番ノ説アリ十一番賛成スルニ付之ヲ問題トス
各議員意見アレハ發言スヘシ

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン十九番ノ説ニ同意ノ議員ハ
起立スヘシ

起立者九人

○議長曰 多數ニ依テ十九番ノ修正ニ決ス

○又曰 次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤 左ノ條ヲ朗讀ス
第五條

終身懲役ハ擬律案ヲ具ヘテ上等裁判所ノ審批ヲ取り然ル後
宣告ス

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン本案ニ同意ノ議員ハ起立ス
ヘシ

起立者十五人

○議長曰 多數ニ依テ本案ヲ可ト決ス

○又曰 従前ノ判事職制通則ハ此度下附ノ議案ニ在テ全ク削
レリ仍テ各條ヲ連帶シテ之ヲ削ルノ可否ヲ議セントス乃チ
連帶スルニ同意ノ議員ハ起立スヘシ

起立者十三人

○議長曰 多數ニ依テ各條ヲ連帶シテ議スルニ決ス

○書記官藤澤 左ノ一則ハ削ルト告ク

判事職制通則

第一條

第二條

大審院ノ訟廷ハ二廷ニ判事五人以上其中一人ヲ主任トス上

等裁判所ハ一廷ニ三人以上其中一人ヲ主任トス上等裁判所
ニ於テハ判事其數ニ足ラサル時ハ判事補ヲ以テ坐ニ列スル
ヲ得但シ補二人ニ至ルヲ得ス

第三條

第四條

第五條

第六條

已ニ審訊シ裁決セントスル時ハ裁判官其ノ廷ヲ退キ議事シ
テ多數ニ就ク 三人ナレハ二人ノ説ニ就キ五
人ナレハ三人以上ノ説ニ就ク 議平分シテ歸一セ
サル時ハ三人ニシテ三説ヲ持シ及ヒ五人ニシ
テ四人兩分均ク一説ヲ持スルカ如シ 主任判事ノ見ル
所ヲ以テ之ヲ決ス

第七條

大審院長及各上等裁判所ノ判事長ハ隨時各廷ニ臨ミ
主任判事ノ事ヲ行フヲ得此ノ時ハ主任判事該廷ニ上席セ
シ者避ケテ通常裁判官ノ列ニ就ク

第八條

第九條

○三番佐野曰 余ハ各條中ニ於テ存セント欲スル者三ヶ條ア
リ今之ヲ陳述セン其一ハ第二條ナリ既ニ大審院ノ處ニテ五

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

○三番佐野曰 然リ孰レニモ通則ノ名ヲ用ヒ其條款ハ改正ス
ヘシ

○十二番大給曰 三番ノ陳述ハ余モ意見ヲ同クス既ニ大審院
上等裁判所職制ノ處ニテ數人合議スルヲ決スル以上ハ此
三ヶ條ナカルヘカラス故ニ之ヲ賛成ス

○議長曰 三番ノ説ハ從來ノ如ク通則トシテ各條ヲ一二三條
トスル意ナリヤ

○議長曰 發言ナキ故決テ取ラン三番ノ説ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者九人

○議長曰 多數ニ依テ三番ノ修正三ヶ條ハ存スルニ決ス

○又曰 引續テ控訴上告手續ヲ議スヘキ處餘リ長クナル故暫時議事ヲ中止ス

午後第三時前十五分

午後第三時

○議長曰 此手續第一章ハ只府縣ノ二字ヲ地方ノ字ニ改メタルノミ故ニ此第一章ハ數條ヲ連帶シテ衆議ヲ取ラントス乃チ連帶スルニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致連帶シテ議スルニ決ス

○書記官藤澤次謙 左ノ第一章ヲ朗讀ス

控訴上告手續

第一章

控訴ノ事

第一條

凡ソ地方裁判所ノ初審ニ服セスノ再ヒ上等裁判所ニ訴ヘ覆

審ヲ求ムル者之ヲ控訴ト云

第二條

控訴ハ民事ニ止マリ刑事ニ及ハス

第三條

控訴ハ一タヒスルコトヲ得再ヒスルコトヲ得ス

第四條

地方裁判所ニ於テ裁判ノ言渡ヲ爲シタル時原告被告ノ雙方又ハ一方ノ者其裁判ニ不服ナル時ハ裁判言渡ヨリ第七日マテニ裁判言渡ノ翌 裁判言渡ノ事理ヲ熟考シ其翌日ニ至リ控訴スルコトヲ得ヘシ但シ訴訟ノ案件商事ニ係リ急速ニ控訴スルコトヲ要スルノ場合ニ於テハ七日内ト雖モ控訴スルコトヲ得

第五條

地方裁判所ノ裁判言渡ヨリ三箇月三十日ヲ以テ一月トスヲ過ルキハ控訴スルコトヲ許サス但シ地方裁判所ヨリ上等裁判所ニ至ルノ距離八里ヨリ遠キキハ期限三箇月ノ外八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ増スヘシ

第六條

控訴ヲ爲ス者ハ其初審ヲ受ケタル地方裁判所ニ届ケ出ツ可シ但シ添附ヲ乞フニ及ハス

第七條

○議長曰 多數ヲ以テ原案ニ決ス是ヨリ次條ニ及フヘシ

○書記官藤澤次謙 左ノ一條ヲ朗讀シ第二十一條ハ削ルト告ク

第二十條

大審院ニ於テハ當然ノ上告ナリトノ之ヲ判決スヘキ旨ヲ言渡シタルノ後二日内ニ被告人呼出狀ヲ仕出ス可シ此ノ呼出狀ニハ上告狀ノ副本ヲ添フヘシ

第二十一條

判事審聽シ若不當ナル上告ナリト決スル時ハ何々ノ理由ヲ以テ上告ヲ受理セサルノ旨ヲ言渡スヘシ

○三番佐野常民曰 舊第二十一條ヲ削リ本條ニ舊第二十二條ヲ合

シテ増補改竄スルノ主意予ニ於テハ了解シ難シ舊第二十一條中ニ曰若シ不當ナル上告ナリト決スルキハ何々ノ理由ヲ以テ上告ヲ受理セサル旨ヲ言渡スヘシトアリ是甚必用ノ條ナリ故ニ舊第二十一條ヲ存スルヲ可トス

○議長曰 三番ノ説ハ舊第二十條ト舊第二十二條ハ合併シ舊第二十一條ハ其次ニ存スル意ナリヤ

○三番佐野常民曰 然リ

○十二番大給恒曰 三番ニ於テ舊第二十一條ヲ存スルノ説ハ予

モ亦同意ナリ

○十番佐々木高行曰 予モ三番ニ同意ナリ

起立者十四人

○議長曰 四番ノ説ハ賛成者ナキヲ以テ之ヲ取消ス原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

○議長曰 四番ハ贅條ト認ム其故ハ上告總則ハ民刑トモ第九條ニ載セテ判然タリ更ニ爰ニ掲クルハ却テ惑ヲ生スルニ至ラン予ハ之ヲ削ルヲ可トス

判ヲ經タル者ニ限ル

○四番水本成美曰 本條ハ贅條ト認ム其故ハ上告總則ハ民刑トモ

第九條ニ載セテ判然タリ更ニ爰ニ掲クルハ却テ惑ヲ生スルニ至ラン予ハ之ヲ削ルヲ可トス

○議長曰 四番ノ説ハ賛成者ナキヲ以テ之ヲ取消ス原案ヲ可

トスル議官ハ起立スヘシ

○議長曰 全會一致原案ヲ可トス仍テ次ノ第三章ノ條ニ及フ可シ

各員悉ク起立ス

○議長曰 前條ノ届ヲ受ケ取りタル地方裁判所ハ裁判言渡ノ執行ヲ停止ス可シ若シ上等裁判所ノ請求アル時ハ地方裁判所ニ於テノ訴狀答書口書裁判見込等ヲ差出ス可シ

○議長曰 此一章ニ付發議ナケレハ原案ヲ可トスル議官ハ起立ス可シ

○書記官藤澤次謙 左ノ一條ヲ朗讀ス

第三章

民事上告ノ事

第十四條

民事ノ上告スルコトヲ得ル者ハ已ニ上等裁判所ニ控訴シ其審判ヲ經タル者ニ限ル

○四番水本成美曰 本條ハ贅條ト認ム其故ハ上告總則ハ民刑トモ

第九條ニ載セテ判然タリ更ニ爰ニ掲クルハ却テ惑ヲ生スルニ至ラン予ハ之ヲ削ルヲ可トス

○議長曰 四番ノ説ハ賛成者ナキヲ以テ之ヲ取消ス原案ヲ可

トスル議官ハ起立スヘシ

○議長曰 三番ノ修正ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者十三人

○議長曰 多數ヲ以テ三番ノ説ニ決セリ是ヨリ次條ニ及フ可シ

○書記官藤澤 左ノ一條ヲ朗讀ス

舊第二十四條

改正第二十二條

大審院ニ於テ被告人ノ答辯書ヲ受取リシキハ判事長ヨリ判事ノ中ニ於テ一人ノ主任ヲ命シ一件書類ヲ取纏メ遲緩ナク一件始末書ヲ作ラシメ然ル後ニ原被告對審ノ日ヲ豫定シ三日以前ニ原被告對審ノ呼出狀ヲ原被告雙方ニ送達スヘシ

○九番柳原曰

本條ニ判事長ノ字アリ蓋シ大審院舊職制ニ本院判事ノ長トシノ字ニ基クヘシ然レモ既ニ判事長ヲ院長ニ改ムルニ決スル上ハ是モ亦院長ト改ルヲ可トス

○四番水本曰

九番ノ説ヲ賛成ス

○議長曰

九番ノ修正ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者十四人

○議長曰 多數ヲ以テ九番ノ修正ニ決セリ是ヨリ次條ニ及フ可シ

○又曰 次ノ舊第二十五條ヨリ以下二條ハ連帶シテ衆議ヲ取

ラントス之ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十六人

○議長曰 多數ヲ以テ連帶ニ決セリ

○書記官藤澤

左ノ三ヶ條ハ削ルヲ告ク

第二十五條

原被告對審ノ節ハ判事列席ニ臨ミ最初ニ專理員一件始末ヲ宣讀シ次ニ原告ノ陳述次ニ被告ノ陳述次ニ原被告交互ノ論辨ヲ審聽シ而シテ原告人上告理アリト決スルキハ何々ノ理由ヲ以テ原裁判所ノ裁判ヲ破毀スルニ付キ更ニ某裁判所ニ於テ裁判ヲ受クヘキ旨又ハ大審院ニ於テ裁判スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第二十六條

若シ原告人ノ上告理ナシト決スルキハ何々ノ理由ヲ以テ上告ヲ斥クル旨言渡スヘシ

第二十七條

大審院ノ破毀ニ因リ移ス所ノ裁判所亦大審院ノ旨ニ循ハサルヲ以テ大審院ニ於テ合員會議ノ判決ヲ爲ス時ハ專理員ヲ命スルニ必ス刑事課ノ判事ヲ用フヘシ

○四番水本曰

前ニ合議列席ノコトヲ存スルニ決シ今又舊第二十一條ヲ存スヘキニ決セシ上ハ此第二十五條第二十六條第

二十七ト條モ存セサル可ラス

○三番佐野曰

四番ニ同意ナリ但本條中專理員トアルヲ主任ト改ムヘシ

○議長曰

四番ノ説アリ三番之ヲ賛成ス仍テ問題トナン各議官ノ意見ヲ俟ツ

○一番山口曰

四番ノ説至當ナリ前ニ舊第二十一條ヲ存スヘキコトニ決セシ上ハ此舊第二十五條以下存セサルヘカラス若シ第二十五條ナキハ第二十二條ニ云云スル送達後ハ如何スルヤ分ラステハ不都合ナリ

○三番佐野曰

已ニ決議セシ後ナレ共第二十五條ノ決議前ニ當リ一議ヲ陳セントス舊第二十一條ハ今般改正ノ第二十條ノ次ニ置クハ不都合ナラン又舊第二十七條ノ專理員ハ主任ノ文字ニ改ムルハ前條ニ同シ然レモ主任ヲ命スル必ス刑事課ノ判事ニ限ルヘカラス故ニ此度削リタル效果シテ然レハ存セサルモ亦可ナラン

○議長曰

只今三番ノ説ハ尙簡短ニ陳述アレ

○三番佐野曰

舊第二十七條ハ必ス存スルヲ要セス

○議長曰

然ハ則チ四番ノ賛成者ニアラサル歟

○三番佐野曰

舊第二十五條第二十六條トモ存スルトノ四番ノ修正説ハ之ヲ賛成ス

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

○議長曰 只今三番ノ説ハ各議官ノ聞ク所ノ如シ衆議ニ依テ之ヲ定ムヘシ乃チ三番ノ説ヲ賛成ト認ムル議官ハ起立スヘシ

起立者ナシ

○議長曰

起立者ナキヲ以テ三番ノ説ハ賛成ニ非スト決ス仍テ四番ノ修正ハ取消ス

○一番山口曰

四番ノ説取消シトナルハ遺憾ナリ予ハ前陳ノ如ク此舊第二十五條以下存スルヲ可トス何トナレハ第二十二條ニ云云送達スヘシトアリ舊第二十七條ハ其送達後ノ取扱ナリ若シ此事ナケレハ初アリテ終リナシ猶ホ客ヲ招キ客來テ何事モナキニ同シ余ハ是非存スルヲ可トス

○議長曰

只今四番ノ説ノ如キハ已ニ取消スニヨリ又之ヲ問題トス可カラス

○一番山口曰

三番賛成シテ自ラ其説ヲ變セシニ由リ玉ノ如キ四番ノ説モ取消ニナリタリ若シ更ニ賛成者アレハ之ヲ問題トナシテ可ナラン

○三番佐野曰

余ノ變説ヨリ四番ノ説迄モ取消サレタルハ甚遺憾ナリ前刻モ十四番ノ説稍ヤ違ヒタル例アレハ余ハ陳述セシナリ故ニ再ヒ問題トナランコトヲ希望ス

○議長曰

前刻三番ノ説ハ新説ナリ若シ賛成者アレハ問題

トナスヲ得可シ一番ノ説ハ問題トナスヲ得サル者トス併シ
尙ホ衆議ニ決スヘシ乃チ一番ノ説ヲ問題トスルニ同意ノ議
官ハ起立ス可シ

起立者六人

○議長曰 少數ナルヲ以テ一番ノ説ハ取消ス

○四番水本曰 只今三番ニ新説アリ予ハ之ヲ賛成ス

○議長曰 前ニ三番ノ説アリ四番之ヲ賛成ス仍テ問題トナシ
各議官ノ意見ヲ聞カン

○五番眞道曰 舊第二十五條ヲ删除スル時ハ手續ノ全備ヲ
欠クナリ故ニ予モ之ヲ存スル方ニ同意ス

○議長曰 三番ノ説ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者十四人

○議長曰 多數ヲ以テ三番ノ説ニ決セリ是ヨリ次條ニ及フ可
シ

○書記官藤澤
次謙 左ノ二ヶ條ヲ朗讀ス

第四章

刑事上告ノ事

第二十三條

違警罪及死罪ヲ除クノ外一切ノ刑事皆上告スルコトヲ得

第二十四條

○十三番河野曰 十一番ノ説アレト元來上告ノ猶豫ヲ與ヘラ
レタル上ハ未タ裁判ヲ受ケサル者ナリ抑モ原告被告ト云フ
ハ刑事ニ用フヘキ者ニテ民事ニ用フルハ不當ナリト聞ク然
レモ今日民事ニ混雜シ用ヒ慣レハ刑事被告ト改ルハ穩當ナ
リ故ニ之ヲ賛成ス

○十六番補田曰 予説ハ既ニ取消トナレト其精神ハ尙存ス故
ニ善ニ從フ流ル、如シノ意ヲ以テ五番ニ同意ス

○十五番齋藤曰 予モ受刑者ノ文字穩當ナラサルハ同論ナレ
ト刑事被告トスルハ不同意ナリ余ハ第二十五條ニ裁判言渡
ノ文字アルヲ以テ言渡ヲ受ケタル者ト改ムルヲ可トス

○十番佐々木曰 上告人ハ地方官ニテ裁判ノ決行ヲ止ル迄ニ
テ同ク受刑人タルヲ免レス故ニ予ハ原案ヲ可トス

○一番山曰 被告人ノ字ハ穩當ナリ余ハ刑事ノ二字ヲ除キ
被告人トスルヲ可トス

○議長曰 五番ノ修正ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者八人

○議長曰 少數ナルヲ以テ之ヲ取消ス

○十五番齋藤曰 第二十五條ノ受刑者ノ文字ハ其條ニ至テ之
ヲ論スヘシ本條第一項ハ言渡ヲ受ケタル者ト改ムヘシ

○十八番秋月曰 之ヲ賛成ス

太審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

刑事ニ付キ上告スルコトヲ得ヘキノ人

第一 受刑者

第二 檢事 檢察官之ニ代ルコトヲ得

○十六番補田曰 第一項受刑者トアル大ニ人民ノ權理ニ關ス
原ト囚人トアルハ不可ナリ今回改テ受刑者トナス尙ホ不可
ナリ元來上告スルヲ得ルハ未タ刑ヲ受ケサルニ因ル若シ刑
ヲ受ル者トセハ上告ハテケヌナリ刑ヲ受ルニ至ル迄ハ大切
ニ扱フヘキナリ故ニ上告者ノ爲メニ文字ヲ改メ被告人トナ
スヲ可トス

○議長曰 十六番ノ説ハ賛成者ナキヲ以テ之ヲ取消ス

○五番眞道曰 更ニ予ノ説ヲ陳述セン受刑者ノ受ノ字甚タ穩
當ナラス必竟刑ヲ受ケス上告シテ或ハ無罪人トモナルヘキ
者ナレハ刑事被告人ト改ムヘシ

○十三番河野曰 之ヲ賛成ス

○議長曰 五番ノ説アリ十三番之ヲ賛成ス仍テ問題トシ各議
官ノ意見ヲ聞カント欲ス

○十二番大給曰 予モ五番ニ同意ス

○十一番神田曰 予ハ原案ニテ可ナリトス何トナレハ已ニ刑
ヲ受ケタル者ナレハ受刑者ナリ被告人トハ裁判ニナラサル
者ヲ謂フヘキナリ

○議長曰 十五番ノ説ニ付十八番ノ賛成アリ之ヲ問題トシ各
議官ノ發議ヲ俟ツ

○四番水本曰 十五番ノ修正説ハ穩當ナリ余ハ裁判言渡ヲ受
ケタル者ト歟刑ノ言渡ヲ受ケタル者ト歟ニ修正セントス併
シ十五番ノ如クニシテモ異論ナシ

○議長曰 十五番ニ於テハ第二十五條ヲ上告ヲ爲サント欲ス
ル者トスル乎果シテ然レハ檢事モ其内ニアル歟

○十五番齋藤曰 尙ホ考ルニ前説ニテハ少ク不都合ナリ第二
十五條ハ言渡ヲ受ケタル者トナスヘキ歟尙ホ其條ニ至テ陳
述スヘシ

○十四番中島曰 十五番ノ説ハ不同意ナリ予ハ元ノ囚人ト是
ヲ改ムルヲ可トス

○十一番神田曰 予ハ十五番ト同説ナリ

○議長曰 十五番ノ説ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者十二人

○議長曰 多數ヲ以テ十五番ノ修正ニ決セリ是ヨリ次條ニ及
フ可シ

○書記官藤澤
次謙 左ノ一條ヲ朗讀ス

第二十五條

上告ヲ爲サント欲スル受刑者ハ裁判言渡ヨリ第三日マテニ

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

七六

三日間ハ上告願狀ヲ其裁判所ニ捧ケ又第十日マテニ上告趣
決行セシ
意明細書ヲ捧クヘシ

但シ裁判所ハ決放ヲ執行スル所ノ地方官ニ其事ヲ達スヘ
シ

○十五番齋藤 本條ハ冒頭ニ裁判言渡ヲ受ケタル者ノ字ヲ
入ルヲ可トス

○十番佐々木 之ヲ賛成ス

○議長曰 十五番ノ説ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ
起立者十五人

○議長曰 多數ヲ以テ十五番ノ修正ニ決セリ是ヨリ次條ニ及
フ可シ

○議長曰 十五番ノ修正説ハ次ノ條々ニ受刑者ノ文字アル所
モ亦前ニ準シテ之ヲ改ムルノ意ナリヤ

○十五番齋藤 然リ

○議長曰 然ハ次條ニ受刑者トノミアル所ハ更ニ之ヲ議スル
ニ及ハスト思フ各員同意ナレハ起立ス可シ

起立者十五人

○議長曰 多數ヲ以テ右ノ如ク決セリ是ヨリ次條ニ移ルヘシ

○書記官藤澤 左ノ一條ヲ朗讀ス
第三十一條

裁判所ニ於テ上告趣意明細書ヲ受ケ取りタル時ハ其文書類
ヲ并セテ三日内ニ之ヲ大審院ニ遞送スヘシ

○議長曰 發議ナキ故決ヲ取ルヘシ乃チ本案ヲ可トスル議官
ハ起立ス可シ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致原案ヲ可ト決セリ是ヨリ次條ニ及フ可シ

○書記官藤澤 左ノ一條ヲ朗讀ス
第三十二條

檢事上告スル時ハ上告趣意明細書及其文書類ヲ直ニ司法卿
ニ遞送シ司法卿ハ上告趣意明細書及其文書類ヲ檢閲シ相當
ノ檢事ヲ之ヲ大審院ニ付セシム

○議長曰 本條ニ付發言ナケレハ決ヲ取ラン本案ヲ可トスル
議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ本案ヲ可ト決ス是ヨリ次條ニ
及フヘシ

○書記官藤澤 左ノ一條ヲ朗讀ス
第三十三條

大審院ハ上告ヲ審按シ判文已ニ成ルキハ司法卿ヲ經由ノ原
裁判所ニ付シ處行セシム

○三番佐野 本條ハ舊第三十八條舊第三十九條ヲ合シテ第
三十三條ト爲シ舊兩條ノ手續ヲ刪除セリ然レモ予ハ兩條ハ
存シ置クヲ可トス從前ハ大審院ニテ斷スレト此節ハ司法卿
ヲ經由スルヲナレハ少ク文字ヲ改メ書記局等ノ字ハ之ヲ削
リ唯其手續ハ存スヘシ其修正文ニ至テハ之ヲ第三讀會ヲ待
テ呈出スヘシ

○四番水本 三番ノ説ヲ賛成ス

○議長曰 三番ニ於テハ兩條トモ舊ノ如ク之ヲ存シ書記局ノ
三字ヲ削ル意ナリヤ

○四番水本 余ノ賛成セシハ三番ノ説ハ兩條ヲ合スル意ニ
非ストスルナリ

○三番佐野 余ノ意ハ全ク四番付度スル如シ併シ大審院ヨ
リ直チニセス司法卿ヲ經由スルヲニナレハ兩條ヲ合シテ存
スルヲ欲ス

○議長曰 三番ニ於テ舊第三十八條同三十九條ヲ存スル説ア
リ四番之ヲ賛成ス乃チ問題トナシ各議官ノ發言ヲ俟ツ

○十三番河野 司法卿ヲ經由セス直チニ處分スヘキ者ヲ司
法卿ヲ經由スルハ此節ノ事柄無益ナリ併シ其精神ハ同意ナ
リ

○議長曰 三番ノ説ハ十三番ト精神違フナリ如何

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

元老院會議筆記 明治十年一月二十九日

○第五十九號議案 裁判所職制章程等改正ノ儀 第三讀會

議長 陸奥 宗光

議長 宗光

出席議員

- 一 番 山口 尙芳
- 二 番 佐野 常民
- 三 番 水本 成美
- 四 番 津田 眞道
- 五 番 柳原 前光
- 六 番 佐々木 高行
- 七 番 神田 孝平
- 八 番 河野 敏鎌
- 九 番 中島 信行
- 十 番 齋藤 利行
- 十一 番 黒田 清綱
- 十二 番 秋月 種樹
- 十三 番 細川 潤次郎
- 十四 番 宍戸 環
- 十五 番 津田 出

午前第十一時開場

○議長曰 本日ハ第五十九號議案ノ第三讀會ヲ開ク乃チ讀會規則ニ依テ先ツ修正案ヲ朗讀セシムヘシ

○十三番河野曰 本日第五十九號議案ノ三讀會ヲ開カル、前

ニ於テ聊カ余ノ意見ヲ陳セン抑本案ハ急施ヲ要スル件ニシテ既ニ内閣ヨリモ常規ニ拘ハラズ一日内ニモ議決スヘキ旨特別ノ達シモアリシ事ナレト一讀會以來紛紜ノ論辨アリテ漸ク本日三讀會ヲ開カル、ニ至ル然ルニ其議論ノ基ク所ヲ察スルニ本案ヲ主持スル議員ニ於テハ今回減税ノコトヨリ諸官省定額金減少ナル際ニ在テハ此改正ニモ及フ事ナラン然レハ會計ノ不足スル上ハ止ムヲ得サレハ本案ノ如クスヘシト謂フナリ又之ヲ駁スル議員ニ於テハ假令ヒ減額ニナルトモ冗費ヲ節減スレハ大審院ノ体裁ヲ存スル丈ケノ金ハ何レソニアルヘク或ハ甚シキハ某ノ省等ハ廢シテモヨキアリト云フニ至ル之ヲ要スルニ共ニ臆想ニ過キス若シ其實際ヲ詳悉シ司法省中ニ於テ別ニ冗費ノ減スヘキアラハ本案ヲ可トスル議員ニ於テモ或ハ之ヲ否トスル事モアルヘク又實ニ司法省ノ定額ニ不足ヲ生シ此ノ改正ヲ爲サ、レハ如何トモ爲ス能ハサルヲ知ル時ハ本案ヲ駁スル議員ニ於テモ其說ヲ變シテ本案ヲ可トスル事モアラン今其實際ヲ調ヘス共ニ臆想空論ヲ以テ徒ニ時日ヲ遷延スレハ折角内閣特別ノ達モ烏有ニ屬シ不都合ナラン然レハ此議論ヲ整頓スルノ早道ハ先ツ司法省定額金ノ不足ノ實際ヲ調フルニアリ余ノ聞ク所ニテハ七萬圓内外ノ不足ヲ生スト云然レトモ其冗費ヲ節

減スルニ方テハ亦緩急順序アルヘシ其仕方ニ於テハ未タ之ヲ知ルヲ得ス仍テ讀會規則ノ附則第二條ニ依リ委員ヲ設ケ司法省定額金ノ實際ヲ取調ヘ其報告書ヲ得テ第三讀會ヲ開キ之ヲ討論セハ可ナラン願クハ賛成者ヲ得テ委員ヲ作ルヲ希望ス

○九番柳原曰 余ハ十三番ノ說ヲ賛成ス抑本案ニ付テハ紛々ノ論アリ一ハ合員會議等ハ公平ヲ示ス者此等ヲ削ルハ不可ナリトシ或ハ合員會議等ヲ削ルハ定額減少ヨリ出ル故止ムヲ得サルナリトス必竟皆其實際ニ付テ論スヘキ者ナリ一休今回改正ノ元素ハ定額節減ノコトヨリスル者ニテ既ニ本院ニ於テモ節減シ書記官ニモ及ヘリ今實際定額金不足ヲ生シ司法省大審院ノ人員ヲ澤山ニ置クヲ得サルニ至レハ如何モ爲ス能ハズ然レハ若シ本案ヲ否トシ修正シテ奏上スルトモ元來止ムヲ得サルノ改正ニ付更ニ再議ニ付セラルコトアラン其時金ノ不足スル事故如何トモスル能ハスト爲シ再議案ヲ可トスルニ至テハ本院ノ体裁ニ於テモ不都合ナラン故ニ委員ヲ設ケ實際ヲ取調ヘタル上ニテ三讀會ヲ開クヲ然リトス先ツ讀會附則ニ依テ委員ヲ設クルノ可否ヲ衆議ニ決シ然ルヘシ余ハ深ク後來ヲ慮リ陳述スル此ノ如シ

○十四番中島曰 十三番別段ノ陳述アリ九番之ヲ賛成スルニ

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

付テ余モ一言セン叔十三番ノ陳述ニテ其事柄ハ明瞭ナリ併シ萬一十三番ノ說此議席ニ於テ廢棄ニ至レハ甚遺憾ノコト故余モ一言ヲ添ヘサルヲ得ス第一本案ヲ否トシ之ヲ修正シテ奏上ナシ若シ其奏議ヲ採用ナク再議ニ付セラル、ニ至レハ急施ヲ要スル者却テ遷延シ大ニ不都合ナリ故ニ委員ヲ設ケ司法省中ノ實際ヲ取調ヘタル上若シ冗費等ノ節減スヘキ者アレハ本案ヲ主張スル者モ其說ヲ變スヘク又實際此上節減スヘキ者ナク修正ノ處ニシテハ事務ノ施行ニ差支ルコト明瞭ナレハ修正論者モ下付ノ議案ヲ可トスルコトアラン執レニモ委員ヲ撰ヒ實際ヲ取調フルヲ肝要ナリトス

○一番山口曰 十三番ノ說ハ穩當ナリ元來本案ハ急施ヲ要スル者ニ付規則ニ拘ハラズ開議ニナリ且内閣委員モ出席セサレハ此度改正ニナル主意モ明瞭ナラス固ヨリ十三番ノ陳述スル如ク執レ減租ニ付諸衙門定額金節減アルニ依ルナルヘシ然レモ委員說明ナキニ因テ各議員ノ議スル所モ亦想像ヲ免レス故ニ本院ニ於テ委員ヲ設ケ實地經驗ヲ調ヘテ見ル時ハ過日來議スル所ノ他ニ如何ナル意見ヲ發スルモ圖ラレス余ハ十三番ノ陳述ヲ至極美ナリトス故ニ之ヲ賛成ス

○議長曰 本日第三讀會ヲ開カントスルニ方テ十三番議員ヨリ別段ノ建議アリ九番十四番一ノ議員之ヲ賛成スルニ付

キ讀會規則附則第二條ニ依テ之ヲ決セントス十三番ノ説ノ如ク委員ヲ設クルニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十三人

○議長曰 多數ニ依テ委員ヲ設クルニ決ス

○三番佐野 起立議長ト呼フ

○議長曰 委員ヲ設クルコトハ既ニ決了セリ若シ別段ノ建議アラハ發言スヘシ

○三番佐野 別段ノ建議ナリ

○議長曰 然レハ發言スルモ可ナリ

○三番佐野曰 十三番ノ陳述アル如ク委員ヲ設ケ司法省ノ實際ヲ取調ヘタル上ニテ三讀會ヲ開クコトハ余固ヨリ同意ナリ必竟此職制章程ヲ改正アルノ是非モ事實ヨリ生スヘク其事實ハ會計上ヨリ生スヘシ然レハ本院ニ於テモ其會計上ヲ詳知スルニ非レハ事實ハ得難キコトナリ既ニ二讀會ニ於テモ種々議論アリ本案ヲ主持スル者ハ會計上ヨリ議ヲ起シ又修正論者ハ此程ノコトハ強テ會計上ニ關セスト云フ是乃チ十三番ノ共ニ臆測ニ出ルト云所ニシテ委員ヲ設ケル説アル故ナリ扱其事實ヲ取調ルニハ第一ニハ合員會議ナリ譬ヘハ上等裁判所ニ於テ死罪案ヲ具シ大審院ニ移スルニ大審院ノ刑事課ニテ死罪ナラスト見込ムキハ民事課ヲモ合セテ會議スヘ

亦之ニ同意ス

○議長曰 既ニ委員ヲ設クルニ決議スル上ハ三番議官ニ於テ意見アレハ建議スルトモ又ハ取調ヘテ其委員ニ託スルトモ可ナラン議長ニ於テハ決議ニ依テ先ツ委員ヲ撰フヘシ即チ三番十番十四番ノ議官ヲ以テ委員ト定ム

○十三番河野曰 前ニ三番ノ建議スル所ハ細密ニ司法省中ノ事務ニ立入ル様ニテ委員權外ノコトニ涉ル如ク聞ユレトモ尙ホ考ルニ惟會計上ノミ取調ルニ止ルキハ大審院上等裁判所等ノ細密ナル處ニ立入ルヲ得ス然レハ合員會議列席裁判等ノ事實ヲ得兼ヌヘシ故ニ三番ノ説ノ如ク委員ハ其レ等ノ調ヲモ爲スヲ然リトス

○十番佐々木曰 余モ三番ノ説ヲ賛成ス抑司法省ノ定額ヲ調ルニ大審院ハ是丈ケ上等裁判所ハ是丈ケ地方裁判所ハ是丈ケト云フニ止レハ別ニ委員ヲ設ルニ及フヘカラス是非トモ此改正ノ如ク大審院上等裁判所ハ減シテ地方裁判所ヲ補ハントセハ一體ノ事務ヲ取調ルニ非レハ分明ナラス故ニ之ヲ賛成ス

○議長曰 三番ノ建議アリ追々賛成者アレハ之ヲ決スヘシ三番ノ説ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十一人

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

シ大抵上等裁判所ニ於テ議シタル者ハ大審院刑事課ニテモ同議ナルヘシ之ニ不同意ニシテ反對ノ論ヲ立ルコトハ誠ニ稀ナルヘシ今一ツハ上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ某裁判所ニ移スルキ合員會議スヘシ是亦稀ナルヘシ此二ツハ極メテ要用ナレハ合員會議ハ存セサル可ラス今日實際ヲ取調ルニ方テハ此迄合員會議ヲ要スルコトハ連々アルコト歟又ハ稀ニアル事歟澤山人ヲ要スル歟會計モ澤山費ル歟ト云處迄委シク取調ヘサル可ラス必竟合員會議ト云フハ五人ナリ十人ナリ其多少ニ拘ハラズ現在ノ人員ニテ合議スレハヨキナリ扱亦列席裁判ト云ハ人員ヲ要スレハ全國ニ僅々ノ上等裁判所ナレハ唯一人ニテ判決セス少クトモ二人ニテハ爲スヘキナリ乃チ判事補ヲ加ルコトヲ存スレハ人員ヲ増スコトハナシ今日委員ヲ設ル以上ハ唯會計上ノ實際ノミ取調ヘテハ不都合アラン故ニ余ハ合員會議列席裁判ニ如何程ノ人ヲ要シ是迄如何程アリテ如何程費ル者ナルヤ等都テ其實際ト會計トヲ取調ヘテ報告アランコトヲ希望ス

○十三番河野曰 三番ニ於テ既ニ委員ヲ撰フハ同意ナリ而シテ合員會議ト列席裁判トニトレ丈ケノ人員ヲ要スル歟大審院上等裁判所ニ於テトレ丈ケノ事カアル歟トレ丈ノ際ヲ費ス歟等ヲ委員ニ託シテ其取調ヲ得度シト云フハ然ルヘシ余

○議長曰 多數ニ依テ三番ノ説ヲ可ト決ス乃チ別ニ委員ヲ設ルヲ用ヒス前キニ撰ヒタル委員ニ於テ三番建議ノ意ヲ領シ取調アルヘシ而シテ讀會規則ニ依テ委員報告書ヲ得タル後三讀會ノ期日ヲ定ムヘシ
正午第十二時三分閉場

元老院會議筆記 明治十年二月七日

第五十九號 裁判所職制章程等改正ノ儀 第三讀會

第六十二號議案檢視ノ後之ヲ開ク

議長 陸奥 宗光

出席議官

- 三番 佐野 常民
- 四番 水本 成美
- 五番 津田 眞道
- 七番 吉井 友實
- 八番 大久保 一翁
- 九番 柳原 前光
- 十番 佐々木 高行

- 十二番 大給 恒
- 十三番 河野 敏 錄
- 十四番 中島 信 行
- 十五番 齋藤 利 行
- 十七番 黒田 清 綱
- 十八番 秋 月 種 樹
- 十九番 細 川 潤 次 郎
- 二十番 宍 戸 璣

午前第十時開場

○議長曰 本日ハ第五十九號議案ノ第三讀會ヲ開ク然ルニ本案ニ付テハ過日頒布スル委員ノ報告書アリ仍テ先ツ之ヲ朗讀セシムヘシ委員ニ於テハ尙ホ書外ノ餘意ヲ演述スルモ亦可ナリ而シテ後本案朗讀ニ及ハントス各議官此意ヲ了シテ發言スヘシ

○書記官藤澤 左ノ報告書ヲ朗讀ス

去月廿九日第五十九號議案第三讀會ヲ開カントスルニ當リ十三番議官ヨリ別段ノ動議ヲ起シ各議官贊成多數之決ヲ以テ委員ヲ撰ヒ該議案ノ旨趣ヲ取調フルニ決セリ依テ議長ノ命ニ因リ某等該件ニ付委員タルノ命ヲ受ク於是直ニ議長ヨリ右之趣内閣へ通牒ニ及ヘリ同三十一日某等内閣ニ至リ岩

倉右大臣參議大久保利通大隈重信大木喬任寺島宗則列席ニ於テ該案ノ旨趣ヲ尋問ニ及ヘリ内閣ニ於テハ大木喬任專ラ其辨明ノ員ト成ル其旨趣ノ大略ヲ聽クニ今般減租ノ事ヨリシテ從テ政府各衙門ノ定額ヲ減シ司法省亦凡二十萬圓ヲ減スルニ決ス蓋シ司法省ノ定額ハ從前凡百四十八萬圓ノ處今般二十萬圓ヲ減シ以後百二十八萬圓ヲ以テ諸般之費用ニ充ントス然ニ各地方裁判所ノ費額百一萬四千五百圓ヲ要ス何トナレハ各地方ノ裁判ハ從前區々ニシテ或ハ地方官ニ於テ兼任セシモノアリシニ終ニ行政司法ノ區域ヲ劃シ盡ク專任裁判官ヲ派遣スルニ決セシニ付此際縱令金額ノ増加スルヲ要スルモ決シテ減少スヘカラス殘額二十六萬五千五百圓ノ内十三萬三千二百圓ハ司法省ノ費用ニ充テサルヲ得ス大審院及ヒ四ヶ所ノ上等裁判所ニ供スルニ僅々拾三萬二千四百八十圓ニ過キス是則費用ノ不足ヲ生スルノ原由ニシテ合員會議列席裁判等ヲ廢止セサルヲ得サル所以也於是甲乙丙號書付ヲ示セリ但シ甲號ハ裁判所構成及ヒ定額ノ沿革ナリ乙號ハ昨年十二月司法省大審院及四ヶ所ノ上等裁判所現實ノ入費ニシテ右ノ金額ハ十二ヶ掛ヶ假リニ一ヶ年ノ費用ヲ概算セシモノナリ丙號ハ地方裁判所ノ本廳及ヒ支廳區廳ノ數ト費用ヲ揭示スルモノナリ依テ某等退テ按スルニ右書

類ハ皆是迄ノ定額費用ノ大略ニシテ報告ヲ爲スニ足ラスト依テ本月一日又内閣ニ至リ更ニ向後施行ノ目的ヲ尋問シ丁戌ノ書類ヲ領受ス丁號ハ以後施行ノ概算ナレハ猶六萬七千三百九十圓ノ不足ヲ生スルニ付更ニ戊號ノ如ク立算セシ由ナレハ現場施行ノ成否未タ知ルヘカラス頗ル苦慮審案中ニ在リトノ趣キナリ然ニ某等又思フニ到底右書類ノミヲ以テ本院ノ議定ヲ充分ニスルノ目的ナキヲ以テ大木喬任ニ建論スルニ更ニ内閣ノ評議ヲ盡シ其考案ヲ變シ其中庸ヲ裁シ金額ヲ融通シ緩急ヲ計較シ從來大審院ノ列席裁判ノ五人ヲ三人ニ減シ上等裁判所ノ列席裁判ノ三人ヲ二人ニ減セハ案スルニ金額ノ増加モ甚僅少ニシテ未タ必シモ現今ノ定額ヲ以テ供給スルニ足ラストセンヤ且縱令其不足アルモ僅々一二萬ヲ出ツ可カラス然レハ則チ内閣ノ評決ヲ以テ大藏モ亦豈ニ其費ヲ供スル能ハサランヤ誠ニ如此ナレハ一昨年四月大審院設立ノ 詔勅ヲ空セス且某等未タ本院議決ノ如何ヲ知ラスト雖モ或ハ十ノ八九ハ必ス其議ニ決定シ以テ内閣ノ望ニ應シ本院ノ面目ヲ持スルニ足ラント岩倉右大臣ヘモ亦同様ノ議ヲ陳シ内閣ノ再議ヲランコトヲ約セリ次イテ二日又内閣ニ至リ大木喬任ニ面シ前日ノ約如何ヲ問ヘリ然ニ今般ノ定額ハ已ニ決評ヲ經タルニ付増額ノ儀ハ行ハレ難ク増額行

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

ハレサレハ今般下附ノ議案ノ如クナラサレハ到底行ハレ難キ趣ヲ演舌セリ次イテ岩倉右大臣亦同様ノ議ヲ答フ於是某等亦内閣トノ應答ヲ止タリ抑某等内閣ト數回應答ノ際受クテル所ノ書類甲乙丙號ハ概テ舊來ノ費額ニ關スルモノニシテ丁戌ハ向後ノ施行ニ關スルモノナリ然ニ甲乙丙號ハ各議官ノ參考ニ供セントスルモ要領亦甚多カラサルニ付只各一部ヲ議長ニ呈置セリ若シ各議官是ヲ見ント欲セハ請フ是ヲ議長ニ乞ハンコトヲ欲ス丁戌ノ二號ハ未タ確定ノモノニハ無之趣ナレハ現在ノ定額ニ基キ立算セシモノニ付各議官ノ參考ニ供セリ希クハ各議官該報告書ニ就キ該案ノ旨趣ヲ了解セラレンコトヲ請フ

- 明治十年二月三日
- 議官 佐々木 高 行
 - 議官 佐 野 常 民
 - 議官 中 島 信 行

再陳該報告書中某等内閣ト應答ノ際司法省ニ於テ定額ノ融通ヲ成シ大審院等ノ列席裁判合員會議等ヲ存センコトヲ論シ或ハ内閣ノ再議ヲ以テ臨時費額ヲ司法省ニ増サンコトヲ乞フ云々或ハ委員之職外ニ似タリト雖彼我對議ノ際如此ナラサレハ以テ内閣ノ旨趣ヲ詳悉スル能ハス對議ノ事情ヲ掲載セサレハ某等内閣關涉ノ實況ヲ明ニスルニ足ラス敢テ希フ各

議官此意ヲ了想アラシコトヲ

○三番佐野 本案ニ付テハ二讀會以來追々議論アリ遂ニ委員ヲ設ケ取調ヘヲナスニ決シ余亦其撰ニ與カリ過日來内閣ヘ尋問セシ事ハ即チ報告書ニ詳ナリ然ルニ尙ホ定額金ノ儀ニ付司法卿ヨリ聞ク所アレハ今一應之ヲ陳述セン扱各議官ニモ領承セラレ、如ク明治八年定額金ノ配當ハ大審院并四箇所上等裁判所ニ三十萬圓本省并ニ各地方裁判所等二十五ヶ所ニ九十五萬圓都合百二十五萬圓ナリ而シテ地方裁判ハ大抵地方官ノ内ニ在リ舊冬裁判ノ事ヲ地方官ヨリ引請ルニ至リ地方官ニハ四課ヲ置キ其一課ニテ裁判ノ事ヲ取扱ヒタレハ四分ノ一ヲ取ルヘキヲ五分ノ一ヲ取リ行政ト引分ルノ決議ナレト右ノ如ク引分ルキハ定額ノ百二十五萬圓ニテハ不足スル趣ナリ仍テ考フルニ佛國司法省本省各裁判所定額金六千六百二十萬ト云本邦ハ百二十餘萬ナリ佛國ト本邦ト人民ノ多寡ヲ比較スレハ本邦ノ定額不足スルハ知ルヘキナリ餘ノ事ナレハ今日施行スル者ヲ半減ニスルコトモアラシ裁判ハ人民苦情アル者ヲ裁判シ之ヲ保護スル者ナレハ其人口ニ應ジ金員ヲ要スヘキ者アラシ初メ司法卿ノ地方ノ裁判ヲ引請ケントスルキハ一應見込ヲ立テ節減スル上尙ホ不足スレハ又内閣ニ請求スル意ヲ以テ先ツ百四十八萬圓ノ額ト定

メタルモ此度二十萬ノ減額トナリ其上ニ彌ヨ地方官ヨリ裁判事務ヲ引請レハ益不足トナル然レモ地方裁判所ハ人民ニ接近スル者ナレハ裁判延滞セハ人民ノ愁アラシコト恐ル故ニ地方裁判所ノ方ヘ取リテ本省大審院等ノ方ヲ減スル外ニ致方ナシト云コト内閣ヘ上申シ此改正ニナリタリ仍テ百二十餘萬ノ内地方裁判所ノ經費ヲ去リ其餘ヲ以テ本省其他ノ經費ニ充テテ丁號ノ豫算ヲ立ルニ六萬圓餘ノ不足ヲ生ス又戊號ノ見込ヲ立ツ此外ニモ造營等ノコトモアルヘシ且此ヲ以テ現場本省大審院上等裁判所ニ施行スル敷其見込ハ未タ確定セス孰レ此改正案決定ノ上ニテ成ルヘク見込ヲ立テ其都合ニヨツテハ追テ内閣ヘ請求シ増額ヲナサントスルノ目途ナリト云余モ此演舌ヲ聞テハ止ムヲ得サルコト歎トモ思フナリ然レモ佛國六百餘萬圓ナレハ本邦百二十萬圓餘ニテ不足スルハ分明ナリ因テ其經濟ノ事ハ司法卿ノ見込ニ委任シ今現場不足スルニ仍テ立會裁判合員會議ヲ廢スルト云一事ヲ質問スルニ報告書ニモ記セシ如ク大審院上等裁判所ニ判事ヲ餘計ニ要スルト然ラサルトニ止ルナリ之ヲ推窮スレハ遂ニ一二萬圓ノコトニ過キス故ニ追々尋問スルニ司法卿ニ於テハ立會裁判合員會議ヲ存スレハ計算モ立兼子又内閣ニテ増額ノ許可ハ行ハレサル故此改正案ニ依テ見込ヲ立ル外ナシト

云一休丁戌ノ豫算ニテモ改正案ノ見込ニスレハ此文ケト云

確答アレハ余モ亦考案ヲ付ルヲ得ヘケレトモ只今見込中ナリトノコト故此上質問スルコトハ止メタリ到底三十萬圓ノ大審院上等裁判所定額ニ近キ員數減スルニ依テ地方裁判所ノ費ヲ引キ去リ本省ノ費ヲ引キ去リ其殘リヲ以テ大審院上等裁判所ノ經費ニ充ルノ見込ナルヘシ余ノ聞ク所凡ソ此ノ如シ畢竟金ノ不足スルコトナレハ止ムヲ得ス改正案ノ如クスヘキ歟其邊ハ尙ホ各議官ニ於テモ篤ト熟考アラシコト希望ス

○議長曰 報告書ハ既ニ朗讀セシメ又委員ノ一人タル三番議官ノ説明モアレハ各員ニ於テ共ニ領承ナルヘシ是ヨリ讀會規則九條十條ニ依テ三讀會ノ手續ニ及ハン乃チ其九條ニ議案ヲ朗讀シタルノ後議官ハ議案ノ大意及各條毎ニ只一回ノ發言ヲナシ發言已ニ畢レハ議長ハ可否ヲ問フテ之ヲ確定スヘシトアリ其十條ニ第二讀會ニ決定セル修正案廢棄セラレルキハ仍ホ原案ニ就テ可否ノ決ヲ取ルトアリ而シテ本案ハ二讀會ニ於テ修正ニ決スレハ無論修正案ヨリ初ムヘシ然ルニ九條ニ議案ノ大意トアルヲ見レハ先ツ其大意ノ可否ヲ決スヘキナリ何トナレハ其大意ニ於テ本案廢棄ト決スルキハ逐條ヲ議スルモ無益ニ屬スレハナリ故ニ大意ヲ決スル爲メ先ツ本案ヲ朗讀セシムヘキ旨ナレト全文ハ長キコト故添書丈

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

ケヲ朗讀セシムルニ付朗讀後各發言アルヘシ而シテ逐條ニ至テハ逐條之ヲ朗讀セシムヘシ

○書記官 左ノ添書ヲ朗讀ス

裁判所職制章程並控訴上告手續改正案右改正ノ廉々其院議定ニ被付候事

明治十年一月廿日 太政大臣 三條實美

議長代理

幹事 陸奥宗光 殿

○十九番細川潤日 曩日一讀會ニ於テ余ノ意見ヲ陳述スレハ各議官ニモ領承ナルヘケレト今一回陳述セン扱其節ハ報告書モナク例ノ如ク内閣委員モナカリシ故原案ノ主旨ヲ探リ見ルニ一等判事ヲ判事トナシ合員會議又ハ列席裁判等ヲ抹スルヲ視レハ全ク本年政事始ニ方リ 宸斷ヲ以テ減租ノ詔アルヨリ各衙門定額金節減ニ及フ獨リ裁判所ノミニ拘ラズ各衙門モ改正アリ乃チ此手續ヨリノ改正ト想像ス然レハ此改正ハ萬々止ムヲ得サル者ナリ畢竟金穀ノ不足スル故忍ンテスル事ナリ乃チ止ムヲ得スト云コトアル以上ハ如何ナル議論ヲ盡ストモ各省ノ定額ヲ増減スル權ナク司法卿ノ權限ヲ奪ヒ司法一省ノ會計ニ立入テ視ルコトモ得サル故ニ余モ止ムヲ得ス改正ノ大意ハ可トナシ只定額ニ關係ナキコトハ修

正スルモ可ナラント陳セシナリ然ルニ追々委員ノ報告書モ頒布ニナリ本日ハ更ニ委員ノ陳述モアリ本案ニ付テ數回應酬ヲ勉メラレシハ我々モ委員ノ勞ヲ察スルナリ叔報告書中司法卿演舌ニ増額行ハレサレハ云々ト次テ岩倉右大臣亦同様ノ議ヲ以テ答フト云是レ書中ノ精神アル所ナリ乃チ余ノ想像ニ違ハサルコト明白セリ然レハ大意ハ一讀會ニ陳スル如ク報告書ヲ得テ余ノ說ヲ補フニ足ル然ルキハ立法ノ源ヲ廣クシ司法ノ權ヲ鞏クスルノ 聖詔ヲ爰ニ持來テ論スル譯ニモアルヘカラス今下附ノ議案ニテモ國家顛覆スルニ至ル譯ニモアルヘカラス人民ノ一身ニ受ル裁判上ニ於テ格別利害アルコトハ必スナキコト信ス唯體裁ノ善惡ニ關スルノミ故ニ大意ハ改正ノ如クシテ稍修正スル丈ケニ止ルヘシ

○九番柳原曰 本日ハ本案第三讀會ニシテ今十九番ノ演述甚詳明ナリ且報告書ニ次ヒテ三番ノ演舌モ親切ナリ抑一昨年四月ノ 聖詔ニ對シテハ余モ此度一等判事合員會議列席裁判等ヲ廢スルハ體裁宜シカラスト考ル故ニ讀會ニ於テ修正說ニ同意セリ然ルニ過日三讀會ヲ開カントスルニ方リ十三番特別ノ建議アルヨリ委員ヲ設ルコトナリ而シテ報告書并ニ三番ノ說ニテ其實況ヲ得タリ乃チ十九番ノ說ノ如ク報告書中間ニモ僅少ノ金額ヲ増加シテ休裁ヲ存セハ四月ノ 詔

勅ニ對シテモ宜シカラント親切獻議セシ趣アレト到頭増額ノ事ハ行ハレサルヲ視レハ實際金ノ闕ルヨリ今回ノ改正トナル明了ナリ然ル上ハ只道理上ノミヲ以テ本案改正ノ意ヲ拒ム譯ナカルヘシ併シ此點ヲ強ク論シ四月 聖詔アツテ元老院設立ナル上ハ苟モ立法權ヲ有スル面目ヲ以テ道理上ヲ主張シ内閣へ上申スルハ至當ニ似タレトモ其結局ノ所ハ遂ニ分ラサルナリ今日本院ノ實際ヲ反顧スレハ下附ナル議案ニモ議定ト檢視ノ別アリ檢視ハ可否ヲ發言スルヲ得ス幸ヒニ本案議定ニ附セラル故此ノ如キ紛議モ起ルナリ若シ檢視ニ附セラレタランニハ此ノ如ク議スルコトモ得ヘカラス前後ヲ熟考スルニ結局ノ分ラサル道理上ヲ論スルヨリハ寧ろ本案ニ決スルヲ却テ本院ノ面目ヲ存スル者トス故ニ余ハ議事條例ニ依テ前說ヲ變シ十三番十九番ノ說ニ從フ大意ノ處ハ此ノ如シ逐條ハ追々陳述スヘシ

○三番佐野曰 報告書且前刻陳述スル如クナレハ司法省ノ定額金不足スルハ余ニ於テモ萬々信用スルナリ其不足スルヨリ今日ノ改正アル亦止ムヲ得サルヘシト雖モ尙ホ再三再四熟考スルニ到底余ハ何分ニモ修正案ノ大意ニ基クテ條理ナリトス抑大審院上等裁判所ハ歐米各國ノ體裁ニ依テ結構セシ者ナラン今佛國ニ依ルニ大審院ハ覆審院ニ當テ上等裁判

所ハ控訴裁判所ニ當ツヘシ控訴裁判所ヨリハ覆審院ニ出ツ同シ人間ニシテ同シ裁判ヲナス者ナルニ其違フ所ハ何レニアリヤト佛ノ教師ニ質問スルニ余ノ二讀會ニ陳スルニ違ハス必竟裁判官モ順々ニ數年ヲ經テ上級ノ裁判所ニ進ムルハ年功熟練ヲ貴フノ外ナラス治安裁判所トテモ同斷ナリ其之ヲ進ムノ精神ハ年功熟練アル者ハ人ノ信用ヲ來スヲ以テスルハ第一ナリ今一ツニハ控訴ハ七人ノ立會裁判ヲナシ覆審ハ十一人ヲ要ス是レ一人ヨリハ二人二人ヨリハ五人ト人數澤山ニテ議スレハ夫丈ケ見落シモナク細密ニモナリ又多數ノ内ニハ才識アル者モアルヘク衆目ヲ通シ公平ヲ示スナリ同シ政府ニテ或ハ前裁判ヲ破毀シ或ハ前裁判ノ如クスルアリ只其熟練ト人數澤山トノ二點ニアリト教師モ答ヘリ是上等ノ役所故夫丈ケノ權ハアル譯ナレト一ツニハ人ノ信用ヲ受ル譯ニシテ政府ヨリ夫丈ケノ權ヲ與ヘタルノミニテハナシ本邦今日ノ裁判官ヲ以テ考ルニ彼此優劣ヲ定ムルハ甚タ難シ勿論上級ノ裁判所ニハ夫丈ケ學問アル人ヲ撰任シテアルヘケレト是迄法律學校ヲ經過シ其科場ニ上リシト云フニモアルヘカラス又數年ノ功勞ヲ以テ撰ヒタルニモアルヘカラス然レハ二點ノ内一ノ信用ヲ受ル點ハナシ唯人數ヲ増スノ一點アルノミ既ニ上等裁判所ノ三人列席ハ佛ノ七

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

人ニ比スレハ半ハヨリ減セリ二讀會ニモ或ル議官ニ於テ大審院ノ五人ヲ三人トシ上等裁判所ノ三人ヲ二人トスル說ハ蓋シ此點ニアラン且佛ノ覆審院ハ破毀スル迄ナリ本邦大審院ニテハ一度破毀シテ他ノ裁判所ニ移シ其裁判所ニテ大審院ノ旨ニ違フキハ大審院自ラ裁判ス且外國ニ係ル事件ヲ裁判ス都テ佛國ニモナキ無上ノ權ヲ有ス就中外國交際ハ大切ノ事ナリ從來其裁判ニ不服アリテ度々外國公使ヨリ外務卿へ迫リシコトヲ聞ケリ從前ノ合員會議ニ在テモ尙ホ不服ヲ唱フ此ノ如シ況ヤ人數ヲ減シ僅々二人ニテ裁判スルコトナレハ如何アルヘキヤ又內國人トテモ信用ヲ失フヘシ元來熟練ト人數トヲ以テスル精神ナリ之ヲ去テ内外人民ノ信ヲ得ルハ難カラン是余ノ最モ憂ル所ナリ何レニモ會計上ノ事ハ大臣參議并ニ司法卿ノ演舌ヲ信スルヨリ外ナシ然レトモ尙ホ熟考スルニ合員會議列席裁判等ノ天地間ニ切要ナルコトヲ講究シテ上ノ事ナレハ格別ナレト恐クハ内閣ニモ此區域ニ進入シ經濟論ト裁判權ト彼此ノ輕重ヲ比較シ詳ニ考ヘサルヨリ容易ニ此改正ニ及ヒシナラン故ニ彼此ヲ比較シ細密ニ論究セサルヘカラスナリ今事實上金額人員ヲ増減スルハ行政ノ事ニシテ本院ニテ議スルヲ得サレト合員會議列席裁判等ノ事ハ既ニ成律ナル故本院ノ議ニモ付セラレシ

ナリ而シテ此改正ヲ不可トスル精神ハ何クニ在リト云ヘハ
乃チ此成律ヲ容易ニ變更スルヲ宜シカラストスルナリ又
經濟論ト裁判權トヲ比較シテ論セン合員會議列席裁判等ヲ
存スルニ金額ヲ要スル幾何ノ蓋シ一二萬圓ヲ出サルヘシ試
ニ之ヲ説ク大審院ノ十人ニ六人ヲ増シ且列席三人トシテ
見レハ五席ヲ開クヲ得ヘシ其増ス所ノ六人ヲ五六等トミレ
ハ一萬圓位ナリ上等裁判所ハ二人ノ列席トスレハ二組増シ
テ八人ナリ此モ六七等トミレハ一萬圓位ナリ此ノ如ク増加
スレハ成律ヲ廢スルニ及フヘカラス然レハ成律ヲ廢スルト
廢セサルトハ詰リ僅々二萬圓ノ争ヒニ過サルナリ元來四月
ノ 聖詔ニ對シ大審院ノ體裁ヲ存スルハ云迄モナシ第一大
審院上等裁判所ハ刑事ノ死ニ及フ者民事ノ大ニ纏レル者等
ヲ判決シ全國人民ヲ保護シ人民ノ信用ヲ受ルニハ成律ノ精
神ハ存シ體裁モ鄭重ニセサル可ラス我カ武家ノ時代ニテモ
鎌倉ノ間注所舊幕ノ評定所ノ如キ事ニヨツテハ將軍モ其庭
ニ臨ムアリ其之ヲ鄭重ニスル所ハ外國ノ裁判所ニ異ナラス
ト云フモ亦可ナリ況ヤ王政隆盛ノ今日ニ於テ裁判ノ事柄ト
會計上下其得失ヲ比較スレハ僅々一二萬圓ハ百分ノ一ナリ
而シテ一二萬圓ノ事ハ別ニ仕方アルヘシ假令ヒ五人ヲ三人
ニナシ三人ヲ二人ニナシテナリトモ僅カノ金ノ爲メニ全ク

成律ヲ廢シテハ折角人民ヲ保護スル 聖詔ニ對シ決シテ宜
シカラス内閣トノ對論ハ報告書并ニ前刻陳述スル如シ而シ
テ余ノ意見ハ今陳スル如ク何分ニモ修正案ノ如クセンコトヲ
冀望ス

○十二番大給 本案ハ曩日二讀會ニ於テ大畧ハ決議シ委員
ヲ設ケ修正案頒布ノ後更ニ委員ヲ設ケ内閣ト應酬アリテ實
際ノ細密ナルヲ知ルヲ得タリ其報告書ニ就テ考ルニ如何ニ
モ止ムヲ得サル事ニテ畢竟減額ニ付修正案ノ如ク職制ヲ改
メサレハ司法省ニ於テ裁判所ヲ取扱フコト能ハサルコト明カナ
リ何分本院假リニ議定セシ如クニテハ行ハレスト司法卿ノ
演舌モアリタル趣ナレハ致シ方ナシ併シナカラ一昨年四月
聖詔ヲ以テ大審院ヲ立テラル、以來民刑ノ上告ヲ判理シ
裁判ノ不法ナルヲ破毀スル等最モ貴重ナル裁判統一ノ權ヲ
附與セラル實ニ千古ノ美事ナリ仍テ歐洲其他ノ規律ヲ斟酌
シ最モ才識優等ニシテ法律ニ熟シ 天皇陛下ニ重ンセラル
ル判事ヲ以テ其長ト定メラレ且合員會議等ノ周密ナル規則
ニ定メラルは大審院ノ氣骨ナリ今此氣骨ヲ取除ケ他ノ裁
判所ニ異ナルナシ畢竟重任ヲ與ヘラル故ニ人民モ信用ス一
昨年四月迄ハ司法ノ事モ因循ナレト四月 聖詔アツテヨリ
人民モ 天皇陛下ノ厚ク御世話ヲラセラル、ヲ感戴ス然レ

ニ今回ノ改正ニテ大審院ノ長タル者モ六七等ノ判事ニテ宜
シク時ノ都合ニ任スルニ至リ其上合員會議等ヲ廢シテハ折
角大審院ヲ設立アリシ詮ナク殆ト骨ナキ者ノ如シ故ニ大審
院ヲ設立アル上ハ此丈ケノ骨ハ存セント欲ス然ルニ之ヲ存
セント欲スレハ又金額ニ關スト云扱其金額ノコトヲ報告書并
ニ三番ノ陳述ニ就テ考ルニ司法卿ノ演舌ニ於テハ丁戊ノ如
ク豫算シテモ其實際如何アラン尙ホ考中ト云フ如ク又實際
ニ方テ尙ホ不足スレハ増額ヲ内閣ニ請求セントスル口氣ア
ル如シ然ルキハ減額モ實地ニ於テ或ハ増サ、ルヲ得サル場
合アルニ似タリ是戊號ノ如ク實地ニ施行スルト視テ此ノ如
シ而シテ修正案ニ依テ増額スル所ハ如何ト云ヘハ三番意見
ノ如ク一二萬圓ニ過キサルヘシ此一二萬圓ノ金額ヲ増加ス
ルト人民保護ノ裁判權ヲ大審院ニ任セラル、有難キ御主意
ヲ存スルト其輕重ヲ比較スレハ増額ノ輕キモノニテ早ク申
セハ一二萬圓ニテ人民ノ信用ヲ買フ誠ニ安直段ナリ全國人
民ノ生命ニモ關スル大切ノ事ヲ一二萬圓ニテ買得ラル、ト
セハ其損得ハ一聞シテ判然タリ故ニ余ハ本日三讀會ニ付テ
僅ノ修正ハ可ナレトモ曾テ二讀會ニ修正セル骨子ハ失ハサ
ルヲ希望ス

○十三番河野 本案ニ付テハ一讀二讀ノ會ニ於テ余ノ意見

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續修正案

ハ陳述セリ本日三讀會ニ於テハ曾テ頒布アル委員ノ報告書
ヲ得ルヨリ益前説ノ誤ラサルヲ知ルナリ初メ余ノ原案ヲ可
トスル所以ハ其事ノ可否ヲ論スルニ非ス金ニ相談フセ子ハ
ナラヌ場合アル故ナリ譬ヘハコ、ニ此程ノ餘金アリ此ヲ以
テ彼レヲ補フト云ニ非レハ修正ノ説ニ同意シ難キヲ論セシ
ナリ而シテ報告書ニ就テ考ルモ彌ヨ金ノ不足ナリ然レハ假
令ヒ道理上修正説ヲ可ト決スルトモ到底行ハレサル事ナリ
或ル説ニハ一昨年四月裁判權ヲ鞏クス云々ノ 聖詔ニ對シ
合員會議等ヲ廢シテハ不都合ナリト論スレトモ本年一月減
稅歲出費用節減ノ 聖詔アリ彼モ 詔ナリ此モ 詔ナリ齊
ク 詔ナレハ後ノ 詔ヲ重ンスヘキナリ節減ニ付テハ本院
ニ於テモ改革ヲナセリ一体此度ノ事ハ豫備豫算スルニ非ス
入ヲ減シテ出ヲ切付ルナリ然レハ其切付タル金額ヲ以テ其
省ノ緩急ニ應シ充テハメルハ即チ 詔ヲ奉スルナリ然ルニ
人民ノ信用ヲ二萬金ニテ買フハ安キ者ナリト云説アレト勿
論其買フヘキ金サヘアレハ二萬ノ幾倍ニテモ買フハヨケレ
ト金ノナキ時ニ在テハ二萬ハオロカ千金ニテモ買フヲ得サ
ル場合モアルヘシ司法卿ハ其全省ニ於テ緩急ノ適度ヲ計リ
タルニ金額不足スルハ委員ニ於テモ陳述セリ然ル上ハ本院
ニ於テ如何様議スルトモ致シ方ナシ又合員會議等ヲ廢スレ

ハ大審院ハアレトモ無キニ同シト云極ニハ至ルヘカラス假令ヒ其勢ヒ微々タル者トナルモ所謂告朔ノ餼羊ヲ存スル者ニシテ若シ又金ノアル時ニ至レハ興起スヘキナリ併シ其精神アル所ハ假令ヒ會計ニ關スルモ修正スヘキ所モアラン然レトモ立會裁判ノ精神ハ其實際乏シ各議官ニ於テモ試ニ身ヲ其地ニ置テ思フヘシ信用アル人ノ少ナキヲ善シトスル歟凡人ノ多キヲ善シトスル歟誰ニテモ下等ノ多人數ヨリハ高等ノ一人ヲ善シト爲スナルヘシ歐米等ハ各熟練ノ人故多キヲ善シトスレト本邦不熟ノ者多キトテ何ニナスヘキヤ余ハ曾テ陳述スル如ク今回ノ改正ハ已ムヲ得サル事故報告書ヲ信シテ大体ハ内閣下附ノ如クスルヲ可ナリトス

○十番佐々木曰 余モ委員トナリ追々内閣ト尋問セリ其譯ハ報告書并ニ三番陳述ノ如シ投本案ノ大体ニ於テハ余三番ト意見ヲ同クシテ嚮キニ二讀會ニ陳述スル所ト異ナラス本日三讀會ニ及ンテ尙ホ一應之ヲ陳セン抑裁判權ノ人民保護ニ大切ナルハ言ヲ俟タス古ヨリ和漢トモニ裁判ニ依テ大ニ人民ノ權利ヲ伸ルコトヲ見ル虞舜ノ聖人モ裁判ノコトヲ丁寧ニ示セリ裁判ノ善惡ヲ以テ世ノ善惡ヲモ見ルヘキナリ支那ニテモ往々其弊アリ漢文帝肉刑ヲ廢シ笞杖ニ換フ然レ却テ笞杖ノ爲メニ命ヲ落スアリ畢竟裁判ノ淵源ニ派ル事ヲ失スル

ヲ以テシ列席裁判員會議モ廢スルニ至テハ大審院ノ精神ヲ失フナリ或ル議官ノ說ニハ列席裁判員會議ヲ廢スルトモ大審院ノ驗ナキコトハナシトアレト固リ大審院存スル以上ハ聊カ其功能ハアルヘシ併シ人數ヲ餘計ニカクルニ依テ大審院ノ精神ハ備ハル譯ナリ元來地方裁判所上等裁判所大審院ト順ヲ追テ設ケタルハ其裁判スル人ノ二人聽クヨリハ三人三人ヨリハ五人聽クヲ公平トスル主意ニテ十三番ノ凡人多キヨリ優者ノ一人ヲ善シトシ歐米ハ熟練スル人故多キハヨケレト本邦ハ不熟故多キモ其功ナシト云說ハ余ニ於テ服セス十三番ノ說ハ行政ノコトニシテ立法司法ノコトニアラス立法司法ハ一人ニテ處置スルコトハナシ文明國ノ上ヨリ云ヘハ衆議ニ決スルハ律意ナリ乃チ上下院ノ如キ多數ヲ以テ決ス行政官ハ一人ニテ決スト雖モ此モ亦八人ナリ十人ナリ一體ノ者ニテ大事件ハ頭ヲ聚メテ議ス其一人ニテ決スルハ武官兵ヲ出ス時ノミナリ賢明ノ一人ニ任スルヲ善シト云フハ獨り裁判ノミナラス議官モ事ニ詳ナル一議官ニテ善キ譯ナリ十三番ノ說ハ今日一體ニ歐米各國ノ體裁ヲ斟酌スル主意ニ違ヘリ且裁判ハ一人ヨリハ人ノ澤山アルヨシ歐米各國ノ大審院ハ人ヲ餘計カケ新聞紙屋ノ傍聽ヲモ許シ裁決ハ新聞紙ニ載セ天下ニ廣布シ人民モ之ヲ觀テ安心スルナリ本邦ト

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

故ナリ都テ支那ニテハ裁判上ノ事ニ就テ別ニ考ル所ヲ見ス余モ是ニ於テ如何アラント憂ル所ナリ本邦裁判上ノ事ハ鄭重ナル者ニシテ三奉行寄合等アリ其事件ノ大ナル伊達騷動ノ如キハ板倉内膳正立會ヲナス世上ニハ酒井雅樂頭ノ私スル說アリ然ルニ酒井ハ板倉ト從來懇意ニシテ一時酒井其審判ニ惑ヒタルヲ板倉ニ頼テ大ニ力ヲ得タリト他日之ヲ謝スルノ書翰今尙ホ存スト云是立會裁判ノ功ナリ歐米各國ハ都テ此意アリ追々吟味スルニ裁判ノ方法整ヒタルハ實ニ驚クヘク感スヘキコトニテ其裁判モ行届キ人民保護モ行届ク所以ハ如何ント考ルニ列席裁判ナリ合員會議ナリ一人ヨリハ二人二人ヨリハ三人ト大勢寄合フニアリ歐米ニハ陪審モアリ其上高等ノ裁判所ニ於テハ必ス判事モ大勢列席ス佛國ノ大審院ハ三番陳述ノ如シ各國トモニ列席人數ノ多少ハアレト大抵五人以上ナリ詰リ列席等人數ノ多キヲ以テ公平ヲ取ルナリ一昨年大審院ヲ立テラル、ニ方リ初ハ左右大臣ノ内ヲ以テ院長トセラル、職制ナリト覺フ本邦大審院ハ佛國ニ模擬セシ者歟然レトモ佛ニ在テハ司法ヨリハ下等ニナセリ初メ貴重ナル高等ノ院長ヲ置カル、所ハ却テ米國ニ似ル者アリ其後改マリテ院長ハ左右大臣ヲ以テセス一等判事ヲ以テスルニ定レリ然ルニ今日復改正トナリ院長モ普通ノ判事

ヲモ大審院ヲ立ル上ハ裁判スル者ノ一人ニテ善シト云譯ハナシ既ニ先日大審院建築落成ニ方リ外國人之ヲ見テ且賞シ且問フ判事ハ幾人列席ヲ要スルヤト乃チ五人以上列席裁判スル事ヲ答ヘシニ然レハ可ナリト喜色ヲ生シ建築ノ美ヲ贊セシテ五人列席ヲ贊セシト云今此列席裁判等ヲ廢スレハ大ニ外國人ノ侮ヲ受ルアラン又 聖詔ニ付テ彼モ一時此モ一時ト云ヘハ譯モナケレト事ニハ輕重大小アル者ニテ大審院ノ體裁ハ大體ニ關係スル者ナリ政事上大體ニ關係スル者ハ容易ニ變スヘカラス人或ハ大體ニ關セスト爲ス者アラン余ハ然リトセス從前死罪ハ 宸斷ヲ仰クコトナレト今日ハ大審院ニ委シ斷決セシム畢竟其裁判ヲ公明正大トスレハナリ大審院ノ貴重ナル所ハ西洋風ナル白塗リノ家ニアラス必ス高等裁判官數人列席スル所ニアリ故ニ是非トモ列席裁判合員會議等ヲ廢スヘカラス二讀會ニ於テ或議官ノ說ニ列席合員會議等ハ裁決延滞ヲナスト云ヘトモ余ハ其延滞ノ原因ハ別ニアリトス既ニ司法卿ニモ延滞スル噂アリ之ヲ談シ詰ムレハ或ハ云人員拙ハス或ハ云書類巡閱等ニ依ルトスレト余復タ之ヲ然リトセス何トナレハ列席ハ日々爲ス者ニアラス書類ヲ見ルニ一人十日見ルトモ其日數知ルヘキナリ其疑獄難件ニ至テハ明裁判官ト雖モ數年ヲ費スヘシ是ハ別段ノコトナリ

或ハ民事ノ刑事ニ關涉スル者等ノ上告ニテ地方裁判所ノ吟
味行届カスツテ大審院ニ於テハ其事詳ナラス地方ニ照會シ
再三往復スルニ日月ヲ費スヲアラン畢竟訴訟法治罪法ニ熟
セサル故ナリ又裁判官ノ入替等ニ因テ延滞スル者モアラン
其レ等ノコトハ別ニ延滞セサル方法モアルヘシ金額ノ事ハ困
難ナレト此モ亦方法アルヘシ他ノ擔任ナレハ言ヒ難キコトナ
レト詰リ一二萬圓ト見レハ本省ヨリ出スコトヲ得ヘシ今丁號
ノ豫算ヲ檢スルニ内國生徒費一萬二千圓トアリ余ハ今日ニ
方テ之ヲ廢スルモ可ナリト司法卿ハ廢スヘカラスト云畢
竟互ニ見ル所ノ違フニアリ大休ヲ以テ論スレハ僅カ一二萬
圓金額ノ爲メニ日本裁判權ノ精神頭腦タル大審院ノ休裁ヲ
變シ内外人民ノ信用ヲ失スルハ極メテ不可トス故ニ余ハ二
讀會ニ於テ修正セシ如クセンコトヲ希望ス併シ列席裁判人數
ノコトハ尙ホ其條ニ至テ陳述スルアラント欲ス

- 議長曰 議論中ナレト既ニ正午ヲ過ル故暫ク議事ヲ中止ス
午後一時前十五分退席
- 議長曰 午後一時三十分第二席
- 議長曰 午前引續キノ議ヲ開ク
- 三番佐野曰 本日ハ一回ノ發言ヲ許ス規則ナレト最前報告
書ニ次テ陳述スヘキ事ヲ落セリ故ニ今一回議長ノ許可ヲ得

再應之ヲ陳述スルナリ

○四番水本曰 本案ニ付テハ曩キニ一讀二讀ノ會ニ於テ余ノ
意見ハ陳述セリ其後委員ノ報告書並ニ豫算表ヲ得テ篤ト考
ルニ大審院上等裁判所地方裁判所ト其等級ヲ立ル以上ハ是
非其甲斐ナカルヘカラスト一昨年四月ノ 詔勅アレハ裁判ノ
コトモ必ス其體裁ヲ立テサルヲ得ス其節大審院ノ位置ハ元老
院ノ次諸省ノ上ニアリテ其長官ハ左右大臣ノ内ヲ以テス其
後七月ニ至リ左右大臣ノ長官モ消ヘタル後其位置モ開拓使
ノ上諸省ノ次ニ定メラレ諸寮ノ諸省ニ於ケル如ク大審院ノ
判事ハ司法卿ヨリ管スレハ大審院ノ一種特立タルコトハ取消
シニナル事ナシ其譯ハ朝廷儀式日ニハ必ス大審院長其班ニ
參ス猶ホ諸省ノ長官ニ同シ諸寮ノ頭ハ班ニ參スルヲ得ス是
大審院堂々獨立タル所ノ御扱ヒナリ畢竟裁判權ヲ鞏クスル
故ノ御扱ニナリテアレハ其體裁ハ存スル様ニスヘキナリ併
シ其レトテモ莫大ノ金ノ入ル事ナラハ此節柄申シ出難キ譯
ナレト僅カ一二萬圓ノコトナラハ司法省中ニテ何トカ操合ノ
仕方アラン今日本院ニ於テ司法省定額金ノ内ニテ操合セノ
仕方アラント云モ臆測ヲ免レスト雖モ司法省ノ豫算表モ元
來宛テ試ミタルニ非レハ其仕方ナシト云モ同ク臆測ナリ然
レハ僅カ一二萬圓ハ司法省定額中ヨリ出シ得又事ハナカル

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

テ岩倉右大臣演舌ノ事ヲ陳述セシ如何

- 議長曰 報告書外ノ事ナレハ衆議ニ決スヘシ
- 三番佐野曰 報告書ニ登記セサル者ナリ
- 議長曰 三番ニ於テ報告書外ニ陳述スルアラントス其陳述
ヲ許ス可トスル議官ハ起立スヘシ
- 起立者十四人
- 議長曰 多數ニ依テ三番ノ陳述ヲ許ス
- 三番佐野曰 前刻陳述セシ如ク余内閣ニ於テ右大臣司法卿
ト應對ノ際増額ノ事ハナリ兼ルトノ演舌アル前ニ余裁判ノ
大休ヲ存スルコトニ付僅カノ金額ヲ増セハ宜シキニ何故増額
ハナラサル歟ト尋ヌルニ右大臣ニハ委員ノ建言モ委細承知
セリ然レトモ何分金額ヲ増スコトハナシ難シ併シ増額ノ事ハ
委員ノ考ニシテ元老院ノ決議ト云ニハ非ルヘシ若シ決議上
申トナラハ又評議ヲ加ルコトモアラントノ答アリ乃チ其決議
ニモアラサルヘシトノ答ハ余モ實ニ然リトセリ畢竟余ハ其
結局ヲ考ヘテ建言セシ迄ニテ元來内閣ニモ是非トモ改正案
ノ如クセサルヲ得サルコトナレハ本院議定ニ附セラル、譯ハ
ナク其決議ニヨリテハ又評議アラン爲メ下附ニナリタル者
ト思考シ引取リタリ然レハ本院決議スル所ヲ以テ上申スル
モ一切無益ナラント其意味間違アリテハ相ナラスト考ル故

ヘシ一體三ツノ裁判所ヲ置ク所以ハ人民ノ爲メナリ地方裁
判ニ於テ人民疑念アルヨリ上等三人以上ノ裁判ヲ受ケ其裁
判ニモ不服アルヨリ大審院五人以上ノ裁判ヲ受ルナリ大審
院ニ上告シテ其裁判モ亦彌原裁判ノ主意ニ同シケレハ首ヲ
切ラル、モ最早ヤ致方ナシト安堵シテ刑ヲ受ケ民事ノ曲直
ニ於テモ何ントシテモ致方ナシト安心シテ身代限迄スル
ニ至ルヘシ無智ノ細民ニテ此ノ如ク又其狡黠ニシテ上等裁
判ヲ欺キ又大審院ヲ欺キ其罪ヲ飾ラントスル者モ其公審明
判欺罔スルヲ得サルヲ知ラハ其跡ヲ消滅スヘシ然ルニ地方
裁判一人ニテ判シ上等裁判モ六七等判事一人大審院モ五
六等判事一人ニテ判スル事トナレハ人民モ信用セサルヘシ
到底原案ノ如クシテハ其實際ニ於テモ其體面ニ於テモ不都
合ナリ既ニ一讀會ニモ紛紜ノ説アレト余ハ強テ無理ニ多人
數ヲ要セストモ善キ事故警ヘハ大審院ノ五人ハ三人上等裁
判所ノ三人ハ二人ト改メテモ其體面ヲ存スレハ四月 聖詔
ヲモ汚サス此度節減ノ意モ立テ一舉兩全ナラント思考シ之
ヲ論スレトモ其說何分行ハレス遂ニ舊ノ如ク大審院ハ五人
上等裁判所ハ三人ト修正スルニ決セリ其後司法省豫算表ヲ
視レハ大審院ハ奏任十一人トアリ然ルモ五人ヲ三人ト改
ムレハ三席ヲ開キ尙ホ二人ノ豫備アリ然レハ司法ノ積リニ

テモ三人ト改ムルコトキニ譯ナシ要スルニ議官ノ説モ推量
算司法ノ豫算モ推量ナリ同ク推量トミレハ議官ノ説行ハレ
スト云フ譯ナシ余ハ執レニシテモ一二萬圓ハ何様ニカ出シ
得ヘク考フナリ故ニ大審ハ三人上等ハ二人地方一人此ノ
如クシテ足レリ或ハ 詔ノ前後ニ輕重アル説アレト前 詔
モ人民保護ニアリ後 詔モ人民保護ニ外ナラス同シ保護上
ノ事故後 詔ヲ以テ前 詔ヲ取消ス事アルヘカラス其他ハ
三番十番ニ於テ和漢西洋ヲ引證シ陳述アレハ余ハ只今日ノ
事實ニ就テ一讀會以來論スル所ヲ主張スルナリ

○五番^{津田} 余ハ本案ヲ否トス其所以ハ一昨年四月ノ 聖
詔モ茲ニ至テ殆ト烏有ニ屬ス實ニ歎息ニ堪ヘサルナリ元來
大審院上等裁判所地方裁判所ト其順序ヲ立テ設クル者ハ其
意如何トナレハ地方ニテ有罪トシ或ハ民事ノ曲ト裁決スル
者モ上等ノ裁判ニテ無罪トシ勝訴訟ト決スル事モアリ今一
ツ上クレハ大審院ニテ破毀スルコトモアリ一等ツ、權限ヲ廣
クシテ其下タノ裁判ヲ取消シ國內ノ裁判權ヲ統一セシムル
ニアリ故ニ其職制章程モ各同シカラス同シ人ノ裁判官トナ
リタルニ階級ノアル譯ハナキ筈ナレト三番ノ陳述アル如ク
段々上ヘノ裁判所ニハ自ラ其裁判所ヲ經歷シ熟練シタル裁
判官ヲ擧クレハ少シニテモ上ヘノ裁判所ノ裁判ハ事理ニ通

上等裁判所ノ三人ハ各國ノ比例ヲ以テ立テラル、ナラン然
レトモ政事ハ日ヲ追テ變スルコト故今八百萬圓ノ金額減スル
時ハ又止ムヲ得ス本案ノ如ク改正セサルヲ得サルコトアリ條
理上體面上ヨリ論スレハ此議場ニ現出スル合員會議列席裁
判ヲ要用トスル説ニ同意スルモ計リ難ケレト苟モ會計上ヨ
リ考レハ其不足スル上ハ如何程之ヲ論スルモ到底空論ニシ
本案ノ如クセサレハ如何トモ爲スヲ知ラス扱テ地方裁判ハ
元ト地方官ニテ行政司法ヲ兼テタルヲ稍々之ヲ引分ケ裁判
一方ノ官ヲ置クニ赴ク所ニシテ地方人民ニ直接スル裁判所
ナレハ最モ大切ナリ本邦ハ全國僅カ四ヶ所ノ上等裁判所ニ
テ其道路モ未タ便ナラス表面ノ體裁ハ大審院上等裁判所大
切ナレト實際ハ却テ人民ニ直接スル地方裁判所大切ナリ且
地方トテモ一裁判所ニテ一二縣ヲ兼ヌルハ今日ノ有様ナリ
若シ今日大審院上等裁判所ニ其レ程力ヲ盡スコトナレハ先ツ
地方ニ力ヲ盡サ、ルヲ得サル場合トナレリ故ニ地方ニ充ル
百一萬何千圓ノ内ヲ取テ大審院上等裁判所ヲ補フコト能ハス
元來大審院上等裁判所ヲ設立アルキ司法卿ヨリ内閣ヘ答ア
ル所ハ三十萬圓ヲ以テ其經費ニ充ルナリ今日ハ二十六萬圓
餘ヲ以テ本省大審院上等裁判所ノ經費ニ充テサルヲ得ス到
頭元額ノ過半ヲ減スルナリ丁戌ノ豫算ニ此ノ如クナルト云

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

シ明白ナルニ極マリテアリ又地方裁判所ヨリハ上等裁判所
ハ人員多ク其上等裁判所ヨリハ大審院ハ又多キ原則ナリ合
員會議列席裁判等ハ元ノ如クシテモ歐米各國ノ上等裁判所
大審院ノ人員ニ比スレハ極メテ僅少ナリ今尙ホ之ヲ下附議
案ノ如ク改正スレハ大審院上等裁判所モ地方裁判所ニ異ナ
ル所ナシ地方ノ一人ニテ裁判スル者ヲ上等ニテモ一人ニテ
取消シ裁判スル時ハ人民モ安ンセス一昨年大審院ヲ設立ア
ル御主意モ所謂縮言汗ノ如ク消ヘテ失セルヲ甚ク歎息スル
ナリ元來減租ノ 詔アリテ此節減ニ及フ事ナレト第二讀會
ニ於テ修正スル如クシテ可ナリ然ルニ尙ホ已ムヲ得サル都
合ヲ謀テ大審院ハ三人ノ列席上等裁判所ハ二人ノ列席ト修
正スル議アリ若シ其議ニ決定ナルキハ余ハ乃チ涙出テ吳ニ
女ハスト同斷ニテ同意スレトモ若シ其議モ變シ衆議原案ヲ
可トスルニ至ラハ余ハ泣ント欲スルモ涙ナキヲ憂ルナリ

○十四番^{中島} 本案ニ付テ余ノ意見ハ曩キニ二讀會ニ於テ
充分陳述セリ其意本案ノ主意ハ本年一月ノ 聖詔ニ因テ各
省用度節減ヨリ生スルト推察スル故只體面上ヲ考ルトモ會
計上ニ立入ル譯ニ非レハ一步ヲ枉ケテ其主意ニ付テ陳述セ
シナリ其後委員トナリ尙ホ實際ヲ推究スレハ誠ニ止ムヲ得
サル場合ナリ一應ハ條理上體面上ヨリ見レハ大審院ノ五人

フモ實ハ空ナルコトニテ恃ムヘキニ非サレトモ執レニモ大改
正ヲ要スルハ尤モ千萬ナリ既ニ内閣ニ於テハ各衙門ノ定額
ヲ極メ又租稅モ極メ五ヶ年居ヘ置ノ内定ナリト云既ニ定額
ノ極リタル上ハ其ヲ以テ經濟スルハ司法卿ニ在リ余カ輩ニ
在テ其會計上ニ立入ル事ハ空論ナリ乃チ報告ノ次第前後ヲ
通考スレハ分明ナラン扱合員會議列席裁判ヲ廢スレハ大審
院モアルニ甲斐ナキ説アレト余ハ然トセス大審院ノ其國ニ
益アルハ合員列席ノ有無ニ非ス合員列席等アレハ人民ノ信
用ヲ得ルトスレトモ畢竟想像ナリ譬ヘハ列席ニテ死罪ヲ言
渡ス時其死囚實ニ感服スルニ非ス必竟國法ニテ押付ルナリ
其裁判スル人ノ一人ヨリ二人アルノ善キハ固リナレト人
民ノ安心スルコトハナシ併シ裁判所ノ等級多キハ善ナリ地方
裁判ニ不服ナレハ上等裁判所ニ出ツルヲ得併シ上等ハ地方
ヨリ熟練スル者ナリト認ムルノミニアラス人替レハ品替ル
ニテ其漏レタルコト出ツルアラシ其上等ヨリ大審院ニ出ル
モ亦同シ段々一二三ト裁判ヲ經歷スル間ニ於テ詳ナルヲ得
ヘシ是功驗ノアル所ナリ只裁判官ノ餘計アルヲ善シトスレ
ハ限リナキコトナリ凡ソ物ニハ大概程ノアル者ニテ其宜キヲ
得ルヲ要トス到底司法省ノ内國生徒ヲ廢スル迄ニ立入ル論
ハ出來難キコトナリ丁戌豫算ハ六萬圓ノ不足ヲ生スル故戌號

五人ノ賛成者ヲ要スヘシ併シ題號ニ落字アルヲ以テ之ヲ入ルヲナレハ可ナラン果シテ然レハ尙ホ衆議ニ詢ハン

○四番水本曰 固リ落字ナリ

○議長曰 四番議官ニ於テ修正案題號ニ大審院ノ三字ヲ誤脱スル故今其三字ヲ補ハントス之ヲ修正ノ説ト看做スヘキ歟畢竟落字ト視レハ印刷ノ誤書寫ノ誤ト同ク直チニ其落字ヲ加ルヲ許スヘキ歟議長ノ見ヲ以テ定メ難キ故衆議ニ決セン乃チ落字トシテ加入スルヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者十一人

○議長曰 多數ニ依テ大審院ノ三字ハ落字トシテ加入スルニ決ス

○又曰 他ニ發言ナキ故決ヲ取ラン修正ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○又曰 全會一致ニ依テ大審院云々ヨリ一等判事云々ハ修正案ニ決ス

○書記官藤澤 左ノ項ヲ朗讀ス

修正案

第一 院長ハ課ヲ分チ主任ヲ命シ隨時各庭ニ臨ミ民事事件ヲ聽理スルヲ掌ル

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン修正ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○又曰 全會一致ニ依テ第一項ハ修正ニ決ス

○書記官藤澤 左ノ項ヲ朗讀ス

修正案

第二 合員會議ノ議長トシ判事審論ニ岐ニ分ル、モノハ多數ニ決シ兩議平分スルモノハ自ラ之ヲ決スルヲ掌ル

○十三番河野曰 本條ノ如キ合員會議等ノ稍金額ニ關スル事務ハ減スヘキナリ其理由ハ曩キニ大意ヲ議スルニ方リ陳述スレハ今別ニ陳述セサレモ本條ハ削リ去ル可キナリ

○十番佐々木曰 余モ大意ヲ議スル時ニ陳述スル如ク固ヨリ修正案ノ如クスルヲ可トス抑合員會議ハ訟庭ニ其箇條少ナキ事ナリ此設ケアリテ裁判事務ノ延滞スル事ハナシト信ス

畢竟一度上等へ還附シ又送附シ來ルアリ事ヲ鄭重ニスル譯ナレハ誠ニ肝要ナリ此條ハ設ケサルヘカラス

○三番佐野曰 余モ細説ヲ要セサレト一應陳述セン十番ノ説モアル如ク合員會議ハ訟庭ニ少ナキヲ以テ裁判中至重ノ精神ナリ合員會議ヲ要スルハ上等裁判所ニテ念ヲ入レ吟味シタルヲ再ヒ大審院ニテ反對ノ見込アルト今一ツハ上等

ノ裁判ヲ不可トシテ他ノ裁判所ニ移スト僅ニ二度ノミ同シ人間ニテ異見ヲ起ス時ハ自分ニモ反省シテ考ヘサルヘカラス大審院ニテ反省ヲ表スル道ハ何ヲ以テスルヤ蓋シ合員會議ナリ畢竟他ニ問テ道理ヲ見決スル譯ナレハ合議ハ止ムヘカラサル事ナリ本邦裁判官ノ或ハ行政官ニ從フハ余モ同歎ナリ夫故ニ合議ヲ要スルナリ三等官ハ行政官ニ從ヒ一等官ハ從ハサル歟未タ知ラスト雖モ警視ノ三等官ハ行政官ニ從ハサル事ハナカルヘシ從前章程ニテハ都テ等級ヲ立ツ此度改正ノ處ニテハ大審院ヲ初メ其他皆單ニ判事トセリ是歐米同様判事ニ等級ヲ設ケサル政府ノ見込ナリヤ併シ職制章程ノ下附アレハ本院ニ於テ之ヲ論スヘキハ成律ニ關スル故ナリ而シテ其法律ニ關スル點ヲ推セハ合員會議等ニアリテ其一等ノ二等ニナルハ法律ニ關スルニ非サルヘシ今一等判事ノ裁判ニ等判事ノ裁判トテ人民ニ於テ彼此言フコトハアルヘカラス然レモ控訴ハ上等裁判所上告ハ大審院大審院ハ五人以上上等裁判所ハ三人以上ノ列席裁判又合員會議等ノ事ハ遍ク人民ニ布告セリ然ルニ今日之ヲ變スル故内閣ヨリモ本院ノ議ヲ要スルナラン若シ會計ニ關スル事ハ論スルモ益ナキ事ナラハ初メヨリ下附ナキニ如カス余ニ於テハ法律ニ關スル故司法卿ニモ内閣ニモ評議ノ上問題トモナリ又合

員會議等ハ事ヲ鄭重ニシ過チナカラシムル設ケナレハ此改正ノ可否ヲ諮詢アル所ニシテ 天皇陛下ノ聖旨ハ本院議定ノ當否ヲ聞召シテ批可アラセラルヘキコトナルヘシトス然ルニ會計上ニ關スル事ハ本院ニ於テ議シ得難キコトスレハ議定ニ附セラル譯ナク檢視ニテ宜シ必竟數人ニ依ルト一人ニ依ルト其公平ヲ取ル所ハ執レニアリヤ僅カ會計上ニヒクヒクシテ裁判ニ關スル法律ヲ變スルハ政府ノ御爲ニ非ス故ニ余ハ修正案ノ如クナサント欲ス

○五番津田曰 本條ハ修正ヲ可トス是非合員會議ノナクテナラサルコトハ各員ニモ種々論セラレテ明瞭ナレハ別ニ陳述ヲ要セス前刻食事間ニ三番ノ噂ヲ聞クアリ其一言以テ之ヲ蔽ヘリ某官會テ教師ボアソナード氏ニ合員會議ノ多數ヲ要スルハ如何ト問ヒシニ教師ハ元老院ノ會議モ議長一人ニテ決セサルト同シト答ヘシ由ナリ如何ニモ裁判ノ事モ公議輿論ヲ以テスルコト猶本院ノ多數ニ決シ公平ヲ取ルニ同シ故ニ裁判ノ一人ニテ決スルハ公平ナラス是修正ヲ可トスル所以ナリ

○四番水本曰 余モ修正案ヲ可トス抑合員會議ノ有無ハ大審院ノ會計上ニ關スルコトナシ其譯ハ合員會議ハ人數ノ多キヲ要スル故會計ニ關スト云フト雖モ決シテ然ラス大審院ノ人

數警へハ從前九人アリ此度改正ニテ八人ニ減スルトモ其減シタル人數集マレハ合員會議ナリ又合議ニ付テ首ヲ聚ムレハ事延滞スル説アラン併シ合員會議ヲ要スル件ハ他ノ裁判所ニ移シテ其裁判所大審院ノ旨ヲ用ヒサル時ト死罪案ヲ斷スル時トノ二ツナリ此二ツハ誠ニ稀ナル事ニテ余前官中上等裁判所ヨリ送付スル死罪案一二アルノミ又他ノ裁判所ニ移シテ之ヲ用ヒサル者モ亦少ナシ余滿一年在官中一ツモアルナシ然レハ合員會議ニ付テハ金ノ費ユルコトハナク又際ヲ費スコトモナシ一年ニ一度首ヲ聚ムル位ニテ年内ニ僅ノコトナレハ事ノ延滞スルコトハナシ合員會議ハ五人ニテ議シテモ合員會議ナリ此度ノ定額ニ關セス司法卿演舌ニ事ノ延滞スル噂アリケレト全ク然ラス合員會議ノ廢スヘカラサルハ十番三番五番ノ説ニ詳ナレハ余ハ只實歴スル所ヲ以テ會計ニ關セサルト延滞スルナキヲ陳述スルナリ

○十二番大給 曰 余モ修正案ニ同意ス曩キニ大意ヲ議スル節粗陳述スル如ク大審院ニ一等判事ヲ置クハ之ヲ重シスルナリ七人ヲ五人トスルハ氣骨ヲ存スルナリ今此規則ヲ丸テ取消スルハ氣骨ヲ失フナリ孰レニモ成法ノ大体ハ存セサル可ラス大審院ヲ設立アリテ裁判ノ重キ死罪迄モ委託セラルハ大体ノ存スル故ナリ今之ヲ變スルハ甚不可ナリ若シ金額

ノ多少ニ依テ止ムヲ得ス改正スルコトナレハ其大体ニ關セサルコトニ止ルヘシ況ヤ四番ニ於テ實地經驗ノ説アリテ全ク金額ニモ關セサルハ余ハ修正ニ同意ス

○十九番細川潤 曰 余ハ一讀會以來ノ説ニテ萬々止ムヲ得サルニ出ルヲ以テ下附ノ議案ノ如クスルヲ可トス列席裁判モ實際止ムヲ得ス之ヲ廢スル上ハ合員會議ハ尙更廢スヘキナリ會計上ニ關セサル説アレト豫算表ヲ以テスレハ六萬七千餘圓ノ不足アリ畢竟止ムヲ得サル時ハ或ハ大審院ヲモ廢シ上等裁判所モ一二ヶ所ニ縮ムヘキ時モアラン其時到レハ我輩人民トシテ裁判權ノ下ニ立ツ能ハス實ニ杞憂ニ堪ヘサルナリ今人民裁判權ノ下ニ立ツヲ以テ考レハ裁判所ノ數ヲ減スルニ至ラスシテ省減シテ裁判所ヲ立ル仕方ヲ肝要トス故ニ余ハ合員會議列席裁判ハ廢シテモ大審院上等裁判所ハ存セント割愛シテ内閣ニ同意スルナリ追々各員ノ議ヲ聞クニ合員會議ハ其事稀ニ有ル者ニシテ金ニモ關セス延滞スルコトモナシトアレト大審院設立以來日尙ホ淺ク政表上未タ其功驗ヲ見ル稀ナリ從前他ノ裁判所ニ移シ大審院ノ旨ニ從ハサル者ナカリシハ偶然ノ幸ニシテ今後不幸ニシテ移スル毎ニ一々其旨ニ從ハサル時ハ如何或ハ年中幾何アルヲ知り難シ其死罪案ノ否トスル者ハ少ナカラシ然レモ上等裁判所ニ

テ死罪案ヲ誤ルコトツアルキハ二ツモ三ツモアルヘキ譯ナリ僅々タル兩條ナレハ少ナキニ似タレモ若シ不幸ニシテ多キ時ハ致方ナシ又合員會議スルト否ラサルト其事務ノ遲速如何ント云ヘハ人數ノ首ヲ聚ル丈ケハ延滞スルハ必然ナリ近來大審院ニ上告スル者月々多クナリ益延滞スル故大抵半年ハカ、ルナリ其内入組タル者ハ一年二年モカ、ルアリ今日ノ形況ヲ以テスレハ合員會議ヲ存スレハ從前ノ裁判官ヲ増加セサルヲ得サル場合ナレハ之ニ反シ人數ヲ減スル時ハ大ニ延滞スヘシ今合員會議ヲ廢スルハ僅ノコトナレト所謂塵積ンテ山トナル譯ニテ此等ヨリ省減セサルヲ得サルナリ右ノ理由ナルヲ以テ本條ハ削ルヲ可トス

○議長曰 他ニ發言ナキ故決ヲ取ラン修正案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者六人

○議長曰 少數ニ依テ修正ノ第二項ハ廢棄ス

○又曰 今決議ニ依テ廢棄スル修正ノ第二項ハ舊職制ノ文ニシテ原案ニ於テハ都テ朱抹セリ乃チ原案ノ如ク削リ去ルヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

○議長曰 多數ニ依テ原案ヲ可ト決ス

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

○又曰 三番議官發病退席スル旨ヲ聞届ケタリ各員此意ヲ領スヘシ

○書記官藤澤 左ノ項ヲ朗讀ス

原案

判事

第一 民事刑事ノ上告ヲ判理シ裁判ノ不法ナル者ヲ破毀シ及ヒ内外交渉ノ事件重大ナルモノ並ニ判事ノ犯罪ヲ審判スルヲ掌ル

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致原案ヲ可ト決ス

○書記官藤澤 左ノ項ヲ朗讀ス

原案

第二 死罪ノ案ヲ審閱スルコトヲ掌ル

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致原案ヲ可ト決ス

○書記官藤澤 左ノ項ヲ朗讀ス

原案

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致原案ヲ可ト決ス

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

原案

大審院章程

第一條

大審院ハ民事刑事ノ上告ヲ受ケ上等裁判所以下ノ審判ノ不法ナル者ヲ破毀ノ法憲ノ統一ヲ主持スルノ所トス

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致原案ヲ可ト決ス

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

原案

第二條

審判ノ不法ナル者ヲ破毀スルノ後他ノ裁判所ニ移ノ之ヲ判決セシム又便宜ニ大審院自ラ之ヲ判決スルヲ得

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致原案ヲ可ト決ス

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

修正案

第三條

己ニ他ノ裁判所ニ移ノ之ヲ判決セシムルノ後其裁判所亦大審院ノ旨ニ循ハサル時ハ大審院更ニ自ラ之ヲ判決ス此ノ時ハ本院判事合員會議ノ判決スヘシ

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン修正案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者五人

○議長曰 少數ニ依テ修正案ハ廢棄ス

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

原案

第三條

己ニ他ノ裁判所ニ移ノ之ヲ判決セシムルノ後其裁判所亦大

審院ノ旨ニ循ハサル時ハ大審院更ニ自ラ之ヲ判決ス

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者九人

○議長曰 多數ニ依テ原案ヲ可ト決ス

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

原案

第四條

陸海軍裁判所ノ裁判權限ヲ越ユル者ハ其ノ裁判ヲ破毀ノ之ヲ當然ノ裁判所ニ付ス

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致原案ヲ可ト決ス

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

原案

第五條

各判事ノ犯罪其ノ違警犯ヲ除クノ外大審院之ヲ審判ス

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

原案

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致原案ヲ可ト決ス

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

原案

第六條

内外交渉民刑事件ノ重大ナル者ヲ審判ス

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致原案ヲ可ト決ス

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

修正案

第七條

各上等裁判所ヨリ送呈スル所ノ死罪案ヲ審閱シ批可シテ送還ス其否トスルモノハ合員會議シ更ニ律ヲ擬ノ還付ス

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン修正案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者四人

○議長曰 少數ニ依テ修正案ハ廢棄ス

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

原案

原案

第七條

各上等裁判所ヨリ送呈スル所ノ死罪案ヲ審閱シ批可シテ送還ス其否トスルモノハ更ニ律ヲ擬ノ還付ス

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者十人

○議長曰 多數ニ依テ原案ヲ可ト決ス

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

修正案

第八條

大審院ノ審判ハ判事五人以上庭ニ列ス五人庭ニ列セザレハ審判スルコトヲ得ス

○四番水本曰 余ハ二讀會ニ於テ五人以上ノ列庭ヲ要スルコトヲ主張セリ 叔裁判所ノ等級ヲ立テ其長モ大審院ハ一等判事上等裁判所ハ勅任判事地方裁判所ハ委任判事ト定ムル以上其事ヲ判スルニモ地方ハ一人上等裁判所ハ三人以上大審院ハ五人以上ト等級ヲ立テサレハ控訴上告ヲナス甲斐モナシ折角大審院上等裁判所ヲ置カレタル体面ニ對シ三人以上五人以上ノ説ヲ主張スレトモ金額ニ關スル論アル故三人ヲ二

人トシ五人ヲ三人ト改メ其体裁ヲ存セントス是金額ノ不足スルヲ以テ是非ナク止ムヲ得サルノ論ナリ余ハ亦此論ヲ以テ止ムナケレハ五ヲ三ト改メ三ヲ二ト改ムルニ止メント欲スルナリ

○十二番大給曰 余モ四番ト意見ヲ同クス前刻モ陳述スル如ク列席裁判ハ大審院ノ氣骨ヲ存スル一部分ナリ 天皇陛下ノ大審院ヲ鄭重ニ遊サル、モ此處ニアリ或ハ大審院ノ功能ハ高等ノ判事ヲ其長トスルニアリト云説アレト余ハ未タ備ハラストス何トナレハ一等判事ヲ置クハ体ナリ列席裁判ハ用ナリ必竟其實用ハ此條ニテ働ヲナス乃チ氣骨ノ在ル所ナリ此條ヲ廢スレハ体用ノ肝要ナル働ナキニ至ル誠ニ殘念ナリ一度設ケタル成法ヲ僅カノ金ノ爲メ改メ告朔ノ餼羊トスルハ如何ニモ遺憾ニ堪ヘス併シ止ムヲ得サル場合ナレハ五人ヲ三人トシ三人ヲ二人トスルモ然ルヘケレト余ハ修正案ノ如クスルヲ可ナリトス最早此説ヲ唱ルモ廢棄トナルヤ計リ難シト雖モ滿腔思ヒ込テ陳述スル此ノ如シ

○五番津田曰 余モ修正案ヲ可トス其所以ハ曩キニ陳述スル如ク裁判權ヲ鞏クスルハ此條ニアリ此條ヲ削レハ四月ノ聖詔モ故紙ニナルヘシ元來本邦人ハ卑屈奴隸ノ根性未タ消セス其卑屈ナリ奴隸ナル裁判官ノ行政官ノ鼻息ヲ伺ヒテ裁

判ヲナスヲ歎息スルニ堪ヘス今金ノ爲メニ此改正ヲ要スルトアレト余ハ五人列庭ヲ存スルモ強テ費用ニ關セスト思フナリ既ニ報告書ニモ大審院ノ判事ハ委任十一人トアリ此丈ケハ司法卿モ備フ積リナリ然レハ五人宛ニシテ二席ヲ開クヲ得一體裁判事務ニ於テハ判事ハ主人ナリ司法卿以下ノ官員ハ客ナリ譬ヘハ判事ハ役者ナリ卿以下ハ淨瑠璃語リ義太夫ナリ判事ハ相撲取ナリ卿以下ハ世話人ナリ芝居相撲モ役者相撲取ナケレハ興行スヘキ由ナシ乃チ止ムヲ得サルノ時到レハ假令ヒ司法省ハ廢スルトモ裁判官ハ存シテ裁判事務ハ依然存セント欲ス然レハ如何シテ之ヲ存スルト云ヘハ司法省ノ事務ハ正院ナリ内務ナリ他ノ省ニテ關スルモ可ナリ若シ萬々止ムヲ得サレハ四番ノ説ノ如ク五人ヲ三人ト改メテナリトモ列席ノ体ハ存セント欲ス萬一四番ノ説モ行ハレサルニ至テハ實ニ本邦ノ進歩モ今日絶ユルト考ヘ只涙ノ潸然タルヲ覺フ故ニ余ハ飽迄修正案ニ決センコトヲ希望ス

○議長曰 十九番議官所勞ニ付暫時退席センコトヲ乞ヒ且十四番議官ニ代理ヲ托セリト云果シテ然リヤ

○十四番中島信行曰 然リ

○議長曰 然レハ十九番ハ退席スル可ナリ

○十三番河野曰 本條ニ付修正ノ主意ヲ陳述アル所ハ甚明瞭

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續修正案

ナリ獨リ如何セン本年一月ノ 詔勅ハ會計上節減ノ事ニシテ冗官冗務ヲ省クヘシト云フニ非ス費用ノ事ニテモ省クヘシトノナルハ明瞭ナリ然レハ假令ヒ要領ノコニテモ省カサルヲ得サルナリ或ハ三人以上ト改ムル説アレト修正案ニ五人以上トアレハ此外ニ修正ハナキ譯ナリ既ニ五人以上トスレハ判事二十人ヲ置カサレハ四席ヲ開クヲ得大審院ハ出訴ノ順序ヲ以テ裁決スル故昨年ノ訴モ今年中セチハ分ラサルニ至ルヘシ然レハ五番ノ涙ヲ流サレタルト同ク又他ノ點ニ涙ヲ流ス處アラシ審判ハ五人列席ヲ要セストモ一人ニテ大抵間違フヘキ者ニ非ス五人列席ヲ要スレハ其延滞スルハ尋常ノ事ナリ今萬一ノ事ヲ慮ルヨリハ時々延滞ノ害ヲ受ルヲ慮ルヘキナリ訴ル事ノ一年モ延滞シテハ原被共ニ其迷惑謂フヘカラス其爲メニ遂ニ身代ヲ失フニ至ル者アラン今日在來ノ裁判官ニ人員ヲ増スコトハ迎モ行ハレス然レハ事務ノ運ハサルハ當リ前ナリ余ハ延滞ノ爲メニ涙ヲ流スナリ執レニモ此定額ニテ事ヲ足スヘシト云仕方故原案ノ如ク決議アラシコトヲ希望ス

○十番佐々木曰 院長ハ一等判事トシ且列席裁判ヲ要スル事

ハ曩キニ大意ヲ論スル時陳述セリ十三番ニ於テモ一等官ヲ

院長トスルニ付テ陳述アリ至極尤ナリ叔裁判ノ事ハ一人ニ

テ判決スルノ甚宜シカラサル事ハ業已ニ一般ノ公論アリ今日判事ノ終身官ニアラサルハ残念ニテ如何ニモ行政官ノ鼻息ニ依ラサレハ不安心ノ事アルヘシ其レ等ノ時ハ一人ヨリハ二人列席ニテ裁判スレハ可ナラン會計ノコトハ各員ノ陳述モアリ固ヨリ減スル上ハ致シ方ナシ併シ尙ホ其仕方ハアラシ既ニ五番ニ於テハ假令ヒ司法省ヲ廢シテナリトモ大審院ヲ立ルノ説アリ甚尤ナレト余ハ司法省ヲ廢スル迄ニ論究セズ米國ハ大審院ヲ重シ司法省ハ殆ント檢事局ノ如キ者ナリ故ニ余ハ五番ノ説ヨリハ寧ロ米國ノ如クスルヲ可ナリトス又事務延滞ノ説アリテ頻リニ涙ヲ流サル、由ナレト其延滞ノ事ハ別ニ原因アリ五人會議スルニ因ルニ非ス嚮キニ上告ノ景況ヲ辨セシニテ領承ナラン其一二年モ延滞スル程ノ事件ハ決シテ列席ニ因テ延滞スルニ非ス假令ヒ合員會議列席裁判ヲ廢スルトモ其方法ヲ改メサレハ事務ノ延滞スルハ猶ホ舊ノ如クナラン故ニ余ハ都テ修正案ノ如クスルヲ可ナリトス

○十四番中島 此修正ニ付テハ過日來追々陳述スル如ク五人以上列席ノ事ヲ存スレハ會計ヲ増サ、ルヲ得ス必竟五人ナレハ公平ヲ得ルト云修正論ノ主意ナレト其公平ノ替リニハ又延滞ヲ生スル弊アリ而シテ延滞ハ列席ノ爲メニ非スト

云其界ニアラン若シ此ノ如キ場合ニ於テハ同論ノ議官ニ託シテ可ナリヤ三番ハ所勞ニテ退院セリ十九番ハ院中ニテ加養スルナリ其分界ヲ分別セサレハ一度出席シテ同論ノ者ニ託シ歸ルコト始マレハ關係スル所大ナラン

○議長曰 加養中退席スル者ハ代理ヲ託セサレハ譬ヘハ決議ニ方リ中間ニテハ十三人トナリ末ニ復タ十四人トナルノ不都合アラン故ニ其加養中ハ同意ノ者ニ託スヘシ三番ノ全ク退院スルト異ナリ今加養中同意ノ議官ニ代理ヲ委任スルヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者三人

○議長曰 此事ハ取消スヘシ尙ホ考ルニ加養シテ再ヒ出席スレハ其時ノ員數ニ依テ決テ取り然ルヘキ敷議事條例第十八條ニ會議中議官事故アリテ議場ニ臨マス云々トアリ此ハ初ヨリ出テサル者ヲ謂フナラン併シ十九番ノ如ク前後ニ出テ中間ニ出テサル場合ニモ此條ヲ通シ用フヘキヤ乃チ通シ用フヘシトスル議官ハ起立スヘシ

起立者五人

○議長曰 少數ナレハ十八條ハ通用セサルニ決ス然レハ如何シテ可ナリヤ

○十三番河野曰 此事ハ容易ナラス他日篤ト議決シテ可ナラ

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續修正案

十番ノ説ナレト今日余ノ聞ク所ハ列席裁判ハ遂ニ延滞スルニ歸セリ然レハ延滞ト公平トハ齊キ利害アリ今マ數百里外ヨリ出テ訴ルニ方リ其裁判ニハ勝ツヲ得ルモ延滞ノ久シキ間ニ家産ハ蕩盡シテ利ヲ失フ事往々アリ余ハ公平ト延滞トノ利害ハ孰レニアルヲ知ラサルナリ此度ハ非常ノ節減故此丈ケノ改正ヲ爲サ、ルヲ得サル場合ナレハ本案ヲ下附セラ、ル、ニ際シテハ内閣ニモ評議ヲ盡セシナラン余カ輩モ身ヲ其地ニ置テ考フヘキナリ乃チ余ハ此改正ハ敢テ無理ナラサル事トス既ニ一等判事ヲ存スレハ大審院ヲ維持スルニ足ル其以下ノ修正ハ不可ナリトス

○十四番中島 別段ノ陳述ヲナサン十九番ニハ全ク余ト意見ヲ同クスルヲ以テ余ニ代理ヲ托シテ退席セリ然ルニ此ノ如キ例アリヤ否ヤヲ知ラス議長專斷ニテ可ナリヤ又ハ衆議ニ決スヘキヤ決議ノ前ニ方リ此事ヲ建言ス

○議長曰 代理退席ノ事ハ本院正院ニアリシ頃例アリト覺フ且各國ニハ固ヨリ例アル事故議長ニ於テ開届ケタリ併シ章程上明文ナキ故衆議ニ決スヘシ

○十番佐々木曰 決議前ニ一應陳述セン代理退席ノコトニ付テ議長ニ於テハ例アリト覺フト云フト難ク十四番ノ例ナシト云ノ意ハ十九番退院スルニアラス病氣ニテ院中ニ加養スト

然ルニ十九番ハ此席ニ堪ヘス退出スト聞ケリ然ル上ハ末ニ再出スル事ハナカルヘシ故ニ退院スル者ト同視シテ決議スル可ナラン

○十四番中島曰 代理退席ノコトハ決議ノ際關係スル所最モ大ナリ乃チ十九番ハ退院スルニアラス院中ニ加養スル趣故強テ出席ヲ促スヲ可ナリトス

○議長曰 十九番ハ議長ニ於テモ退院スルニ非スト思フ然レモ今日ハ會議ノ決ニ依テ十九番欠席スル時間ハ決議ノ數ニ加ルヲ得ス又十八條ノ事ハ他日ニ譲リ今日ハ議長ノ職ヲ以テ今日ノ決ノ通り此議事ヲ整頓スヘシ

○十三番河野曰 十九番ノ退院スルハ余既ニ之ヲ聞ケリ然レハ過日モ津田議官中間ヨリ引取リシ例アリ兎ニ角此席ヲ退ク以上ハ決議ノ數ニ加ルヲ得サルナリ

○議長曰 十三番ノ説ノ如ク一旦退席スレハ三番ト同視シテ可ナリ而シテ十八條ハ他日之ヲ議セン

○十四番中島曰 尙ホ一應陳述セン十九番ノ今日引取リタルハ假令例アルモ其例少ク違フ所アラン何トナレハ本條ニ付テハ十九番ニ於テ意見アリ最モ懸念スル所ニテ代理ノ開届ケアル故引取リタリ若シ開届ケナキハ引取ルコトナカルヘシ余ハ尙ホ此院中ニ加養シテ在リト思フ先ツ其在ヤ否ヤヲ

檢スルヲ可トス

○議長書記官ヲシテ十九番議官ノ在否ヲ檢セシムルニ既ニ退院セル旨ヲ復命ス

○議長曰 十九番議官ハ既ニ退院スル趣ナレハ十四番ノ疑問ハ之ヲ實際ニ徵スル由ナシ仍テ退院スル以上ハ決議ノ數ニ加ルヲ得ス現在ノ人員ニ付テ決ヲ取ラン乃チ修正案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者五人

○議長曰 少數ニ依テ修正案ハ廢棄ス

○又曰 今決議ニ依テ廢棄スル修正ノ第八條ハ舊章程ノ文ニシテ原案ニ於テハ都テ朱抹セリ乃チ原案ノ如ク削リ去ルヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者八人

○議長曰 多數ニ依テ原案ヲ可ト決ス

○又曰 議事既ニ數刻ニ及ヘリ暫ク中止スヘシ

午後四時五分退席

午後四時五十分三次席

○議長曰 前刻ニ引續テ次條ヲ議スヘシ

○五番眞道曰 本日ノ會議ハ既ニ數刻ヲ移シ且ツ第八條決議スル上ハ此後條ニ至テハ強テ六ヶ數キヲナシ然レハ各條ヲ

連帶シテ決議スレハ可ナラン

○十二番大給曰 余ハ五番ノ説ヲ賛成ス

○議長曰 連帶トハ如何連帶スル意ナリヤ第九條ヨリ第十二條迄ヲ指ス歟

○五番眞道曰 然リ

○議長曰 連帶スルコトハ二讀會ニ於テハ例アレト三讀會ニ於テハ未タ例ナキ故衆議ニ決セン乃チ連帶スルヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○十三番河野曰 只今ノ決議ハ第九條ヨリ第十二條ヲ連帶スルコトナレト都テ議長ノ見計ヲ以テ各條連帶スルヲ得ヘキ場合ニ於テハ各條毎ニ決ヲ取ラス連帶シテ決ヲ取ル可ナラン

○四番水本曰 余ハ十三番ノ説ヲ賛成ス

○議長曰 十三番ノ説ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ニ依テ各條連帶スルヲ得ヘキ場合ニ於テハ議長ニ於テ連帶シテ決ヲ取ルニ決ス

○書記官藤澤大謙 左ノ條ヲ朗讀ス

修正案

○書記官藤澤大謙 左ノ條ヲ朗讀ス

修正案

判事補

事ヲ判事ニ受ケ審判スルコトヲ掌ル

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン修正案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致修正案ヲ可ト決ス

○書記官藤澤大謙 左ノ條ヲ朗讀ス

原案

屬

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致原案ヲ可ト決ス

○又曰 上等裁判所章程ハ第一條ヨリ第三條迄ヲ連帶スヘシ

○書記官藤澤大謙 左ノ條ヲ朗讀ス

原案

上等裁判所章程

上等裁判所職制

長一人 勅任判事ヲ以テ之ニ充ツ

所長ハ課ヲ分チ主任ヲ命シ隨時各廷ニ臨ミ民事事件ヲ聽理スルコトヲ掌ル

○十三番河野曰 本條ハ修正案ヲ可トス

○十二番大給曰 十三番ヲ賛成ス

○議長曰 他ニ發言ナキ故決ヲ取ラン修正案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致修正案ヲ可ト決ス

○書記官藤澤大謙 左ノ條ヲ朗讀ス

原案

判事

第一 管内ノ控訴ヲ受ケ之ヲ覆審スルコトヲ掌ル

第二 死罪ノ獄ヲ判決スルコトヲ掌ル

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン判事以下二項原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致原案ヲ可ト決ス

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續改正案

第一條

上等裁判所ハ地方裁判所ノ裁判ニ服セスノ控訴スル者ヲ覆審ス

第二條

各地方裁判所ヨリ具スル所ノ死罪ヲ判決シテ大審院ノ批可ヲ取り然ル後原案裁判所ニ付ノ宣告セシム

第三條

各地方裁判所ヨリ送呈スル所ノ終身懲役罪案ヲ審批ス

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致原案ヲ可ト決ス

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

修正案

第四條

民刑ヲ論セス公庭ヲ開クニ判事三人坐ニ列スルヲ要ス

○四番成美曰 本條列席ノ事ハ既ニ大審院ノ列席五人ヲ要スル條廢棄トナル上ハ固ヨリ此ニ到テ論スヘキニ非ス故ニ余

モ是非ナク說ヲ變シテ原案ニ同意スルノ外ナシ

○議長曰 修正案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者ナシ

○議長曰 起立者ナキ故修正案ハ廢棄ス

○又曰 今決議ニ於テ廢棄スル修正ノ第四條ハ舊章程第六條ノ文ニシテ原案ニ於テハ都テ朱抹セリ乃チ原案ノ如ク削リ去ルヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者十二人

○議長曰 多數ニ依テ原案ヲ可ト決ス

○又曰 舊章程第七條ヨリ巡回裁判規則ハ原案ニ於テハ都テ朱抹セリ乃チ原案ノ如ク削リ去ルヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ニ依テ原案ヲ可ト決ス

○又曰 地方裁判所職制ハ判事補迄ヲ連帶スヘシ

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

修正案

地方裁判所職制

長一人 奏任判事ヲ以テ之ニ充ツ

所長ハ課ヲ分チ主任ヲ命スルヲ掌ル他ハ判事ニ同シ

判事

民事ヲ初審シ刑事懲役以下ヲ審判スルヲ掌ル

判事補

事ヲ判事ニ受ケ審判スルヲ掌ル

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン修正案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ニ依テ修正案ヲ可ト決ス

○書記官藤澤次謙 左ノ項ヲ朗讀ス

原案

屬

○議長曰 原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致原案ヲ可ト決ス

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

修正案

地方裁判所章程

第一條

地方裁判所ハ一切ノ民事及刑事懲役以下ヲ審斷ス

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン修正ヲ可トスル議官ハ起立

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續修正案

スヘシ

起立者十一人

○議長曰 多數ニ依テ修正ヲ可ト決ス

○又曰 第二條第三條ヲ連帶スヘシ

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

原案

第二條

地方裁判所ニ於テ審判シタル民事ハ輕重トナク皆初審トス

第三條

民刑事ノ内外ニ交渉シタル者ハ其輕キハ直ニ之ヲ裁決シ其ノ重キハ一面之ヲ聽理シ一面之ヲ司法卿ニ具申スヘシ

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致原案ヲ可ト決ス

○書記官藤澤次謙 左ノ條ヲ朗讀ス

修正案

第四條

死罪ハ審訊ノ文按證憑及ヒ擬律案ヲ具ヘ上等裁判所ニ遞送シ其行下ヲ得テ宣告ス

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン修正案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者十一人

○議長曰 多數ニ依テ修正案ヲ可ト決ス

○書記官藤澤大謙 左ノ條ヲ朗讀ス

原案

第五條

終身懲役ハ擬律案ヲ具ヘテ上等裁判所ノ審批ヲ取り然ル後

ニ宣告ス

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ニ依テ原案ヲ可ト決ス

○又曰 修正ノ判事職制通則三條アリ之ヲ連帶スヘシ

○書記官藤澤大謙 左ノ條ヲ朗讀ス

修正案

判事職制通則

第一條

大審院ノ訟廷ハ一廷ニ判事五人以上其中一人ヲ課長トス上

等裁判所ハ一廷ニ三人其中一人ヲ課長トス上等裁判所ニ於テハ判事其數ニ足ラサル時ハ判事補ヲ以テ坐ニ列スルコトヲ得但シ補二人ニ至ルコトヲ得ス

第二條

已ニ審訊シ裁決セントスル時ハ裁判官其ノ廷ヲ退キ議事シテ多數ニ就ク三人ナレハ二人ノ説ニ就キ五議平分ノ歸一セサル時ハ三人ニ就ク三人以上ノ説ニ就ク四課長ノ見ル所ヲ以テ之ヲ決ス

第三條

大審院長及各上等裁判所ノ長ハ隨時各廷ニ臨ミ民刑ヲ課長論セスノ事ヲ行フコトヲ得此ノ時ハ課長判事該廷ニ上席セシ者避ケテ通常裁判官ノ列ニ就ク

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン修正案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者ナシ

○議長曰 起立者ナキニ依テ修正案ハ廢棄ス

○又曰 判事職制通則ノ各條ハ原案都テ朱抹セリ乃チ原案ノ如ク削リ去ルヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ニ依テ原案ヲ可ト決ス

○又曰 控訴上告手續第一章第一條以下第七條并ニ第三章第十四條ニ至ル迄連帶スヘシ

○書記官藤澤大謙 左ノ條ヲ朗讀ス

原案

控訴上告手續

第一章

控訴ノ事

第一條

凡ソ地方裁判所ノ初審ニ服セスノ再ヒ上等裁判所ニ訴ヘ覆審ヲ求ムル者之ヲ控訴ト云

第二條 控訴ハ民事ニ止マリ刑事ニ及ハス

第三條 控訴ハ一タヒスルコトヲ得再ヒスルコトヲ得ス

第四條 地方裁判所ニ於テ裁判ノ言渡ヲ爲シタル時原告被告ノ雙方又ハ一方ノ者其裁判ニ不服ナル時ハ裁判言渡ヨリ第七日マテニ裁判言渡ノ翌 裁判言渡ノ事理ヲ熟考シ其翌日ニ至リ控訴スルコトヲ得ヘシ但シ訴訟ノ案件商事ニ係リ急速ニ控訴スルコトヲ要スルノ場合ニ於テハ七日内ト雖モ控訴スルコトヲ得

第五條 地方裁判所ノ裁判言渡ヨリ三箇月三十日ヲ以テ一月トスヲ過ルルハ控訴スルコトヲ許サス但シ地方裁判所ヨリ上等裁判

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續修正案

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續修正案

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續修正案

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續修正案

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續修正案

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續修正案

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續修正案

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續修正案

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續修正案

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續修正案

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續修正案

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續修正案

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續修正案

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續修正案

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續修正案

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續修正案

スヘシ

第二十一條 判事審聽シテ當然ノ上告ナリトシ之ヲ判決ス
ヘキ旨ヲ言渡シタル時ハ其後二日內ニ被告人呼出狀ヲ仕
出スヘシ此ノ呼出狀ニハ上告狀ノ副本ヲ添フヘシ
○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン第二十條第二十一條修正案
ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ニ依テ修正案ヲ可ト決ス

○書記官藤澤 左ノ條ヲ朗讀ス

原案

舊第二十三條改正第二十一條 修正案ノ順序 被告人ハ呼出
狀ヲ受取リタルヨリ三十日內ニ答辨書ヲ作り自身又ハ代
言人ヨリ之ヲ大審院ニ捧クヘシ但シ被告人ノ住所ヨリ大
審院ニ至ルノ距離八里ヨリ遠キハ八里毎ニ一日ヲ増ス
ヘシ

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン本條原案ヲ可トスル議官ハ
起立スヘシ

起立者十一人

○議長曰 多數ニ依テ原案ヲ可ト決ス

○書記官藤澤 左ノ條ヲ朗讀ス

修正セサルヲ得ス止ムヲ得ス其意見ヲ陳セン抑モ本條ニ判
事列席庭ニ臨ミトアリ列席ノ一ハ曩キニ大審院上等裁判所
章程中ニ於テ五人以上三人以上ノ廢棄セラル、上ハ本條
ニ列席ノ字ヲ存スルヲ得ス然レモ列席ノ字アルニ因テ全ク
本條ヲ棄ルハ甚遺憾ナリ仍テ余ハ列席ノ二字ヲ削リ去テ判
事庭ニ臨ミト接續セハ可ナリト幸ニ贊成者ヲ得テ此ノ如
ク修正ノ修正ヲナサント欲ス

○五番津田 余ハ四番ノ説ヲ贊成ス

○十二番大給 余亦四番ヲ贊成ス

○十五番藤澤 余亦同意ナリ

○十八番柳原 余モ同ク贊成ス

○十番佐々木 余亦然リ

○議長曰 本條ニ付テハ四番ニ於テ修正ノ意見ヲ提出アリ既
ニ五名ノ贊成者アレハ讀會規則第十條ニ依テ可否ヲ決セン
乃チ四番ノ修正ヲ用フヘシトスル議官ハ起立スヘシ

起立者十二人

○議長曰 多數ニ依テ四番ノ修正ヲ用フヘキニ決ス

○又曰 四番ノ修正ハ讀會規則第十條ニ依レハ修正案ヲ頒ツ
迄決議ヲ延スヘキ者ナレト必竟僅々二字ノ事ニシテ且ツ本
案ハ急施ヲ要スル件ニ付修正案ヲ頒ツヲ須非ス本日決議シ

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續修正案

修正案

第二十三條 大審院ニ於テ被告人ノ答辨書ヲ取リシキハ院
長ヨリ判事ノ中ニ於テ一人ノ主任ヲ命シ一件書類ヲ取攝
メ遲緩ナク一件始末書ヲ作ラシメ然ル後ニ原被對審ノ日
ヲ豫定シ三日以前ニ原被對審ノ呼出狀ヲ原被雙方ニ送達
スヘシ

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン本條修正案ヲ可トスル議官
ハ起立スヘシ

起立者十一人

○議長曰 多數ニ依テ修正ヲ可ト決ス

○書記官藤澤 左ノ條ヲ朗讀ス

修正案

第二十四條 原被對審ノ節ハ判事列席庭ニ臨ミ最初ニ主任
判事一件始末ヲ宣讀シ次ニ原告ノ陳述次ニ被告ノ陳述次
ニ原被交互ノ論辨ヲ審聽シ而シテ原告人上告理アリト
決スルハ何々ノ理由ヲ以テ原裁判所ノ裁判ヲ破毀スル
ニ付キ更ニ其裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケヘキ旨又ハ大審院
ニ於テ裁判スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

○四番水本 本日ハ第三讀會ナルヲ以テ修正ノ意見ヲ出ス
ヲ得サル規則ナレト段々決議ノ都合ニ因テ本條ニ至リ聊カ

テ然ルヘキ歟或ハ規則ニ遵ヒ延日スヘキ歟之ヲ衆議ニ決セ
ン乃チ本日決議シテ可ナリトスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ニ依テ本日決議スルニ決ス

○又曰 第二十四條四番ノ修正ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者十人

○議長曰 多數ニ依テ四番ノ修正ヲ可ト決ス

○書記官藤澤 左ノ條ヲ朗讀ス

修正案

第二十五條 若シ原告人ノ上告理ナシト決スルハ何々ノ
理由ヲ以テ上告ヲ斥クル旨ヲ言渡スヘシ

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン修正案ヲ可トスル議官ハ起
立スヘシ

各員悉ク起立ス

○又曰 全會一致ニ依テ修正案ヲ可ト決ス

○書記官藤澤 左ノ條ヲ朗讀ス

修正案

第一 刑ノ言渡ヲ受ケタル者

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン修正案ヲ可トスル議官ハ起
立スヘシ

起立者十二人

○議長曰 多數ニ依テ修正案ヲ可ト決ス

○書記官藤澤 左ノ項ヲ朗讀ス

原 案

第二 檢事 檢事無キノ地方ハ警 察官之ニ代ルヲ得

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン原案ヲ可トスル議官ハ起立 スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ニ依テ原案ヲ可ト決ス

○又曰 第二十八條以下三十三條迄修正アリ之ヲ連帶スヘシ

修 正 案

第二十八條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲サント欲スル

時ハ其言渡ヨリ第三日迄ニ 三日間ハ 上告願狀ヲ其裁判所

ニ捧ケ又第十日迄ニ上告趣意明細書ヲ捧クヘシ

但シ裁判所ハ決放ヲ執行スル所ノ地方官ニ其事ヲ達ス

ヘシ

第二十九條 檢事ノ上告セント欲スル者ハ裁判言渡ヨリ二

十四時ノ内ニ上告ヲ爲スコトヲ刑ノ言渡ヲ受タル者ニ達シ

又第十日迄ニ上告趣意明細書ヲ作り之ヲ司法卿ニ遞送ス

ヘシ

但シ檢事ハ上告ヲ爲スコトヲ決放ヲ執行スル所ノ地方官ニ通知スヘシ

第三十條 檢事及刑ノ言渡ヲ受タル者上告ノ期ヲ過ル時ハ上告ノ權ヲ失フヘシ

第三十一條 決放ヲ執行スル所ノ地方官ハ刑ノ言渡ヲ受タル者若クハ檢事ヨリ上告スルコトヲ達シタル時ハ決行ヲ止

メ以テ上告ノ落着ヲ待チ獄舎ニ於テハ其刑ノ言渡ヲ受タル者ヲ別舎ニ勾置スヘシ

別舎ナキ者ハ便宜ニ 隨ヒ監護スルヲ要ス

第三十二條 刑ノ言渡ヲ受タル者ハ自ラ上告狀ヲ書記スル

コト能ハサル時ハ代理人ヲ獄中ニ延キ獄中ヲ副リテ應接所ヲ

ルヲ上告趣意明細書ヲ代書セシムルコトヲ得其代理人ハ明

細書ニ本人ト共ニ姓名ヲ記ス可シ本人自ラ姓名ヲ記スル

コト能ハサル時ハ其事ヲ肩書スヘシ

但シ代理人ヲ獄舎ニ延ク時ハ之ヲ看守者ニ告ケ看守者

ハ之ヲ裁判所ニ届クヘシ

第三十三條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者幼年十五年未ニシテ上告

ヲ爲スノ權利アルコトヲ知ラサルハ其親族 五等親代リテ

爲ニ上告スルコトヲ得

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン修正案ヲ可トスル議官ハ起

立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ニ依テ修正案ヲ可ト決ス

○書記官藤澤 左ノ條ヲ朗讀ス

原 案

第三十一條 修正ノ順序 裁判所ニ於テ上告趣意明細書ヲ受

取タル時ハ其文書類ヲ并セテ三日内ニ之ヲ大審院ニ遞送

スヘシ

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン原案ヲ可トスル議官ハ起立

スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ニ依テ原案ヲ可ト決ス

○又曰 第三十五條第三十六條ノ修正案アリ之ヲ連帶スヘシ

○書記官藤澤 左ノ條ヲ朗讀ス

修 正 案

第三十五條 大審院ハ上告ヲ審按シ上告不當若クハ理ナシ

ト決スル時ハ理由ヲ付シタル判文ヲ原裁判所ニ發付シ上

告人ニ傳達セシメテ後決行セシム上告理アリト決スル時

ハ原裁判ヲ破毀シテ更ニ它ノ裁判所ニ移シ若クハ大審院

自ラ之ヲ審判スヘキノ旨ヲ判シ若クハ單ヘニ其擬律ヲ平

翻ノ原裁判所ニ發付シ處分セシム其判文ハ並ニ理由ヲ付

大審院及裁判所職制章程并控訴上告手續修正案

スヘシ

第三十六條 檢事上告スル時ハ上告趣意明細書及ヒ其文書

類ヲ直ニ司法卿ニ遞送シ司法卿ハ上告趣意明細書及ヒ其

文書類ヲ檢閲シ相當ノ檢事ヲ之ヲ大審院ニ附セシメ大

審院ニ於テ判文已ニ成ルハ司法卿ヲ經由シテ原裁判所

ニ付シ處行セシム

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン修正案ヲ可トスル議官ハ起

立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ニ依テ修正案ヲ可ト決ス

○又曰 本案今三讀會ヲ經過ス乃チ本日ノ決議ヲ以テ確定ノ

者トシ例ノ如ク上奏スヘシ且修正案ノ條數増加スルニ隨テ

原案ノ條目自然相違スル者ハ都テノ順序ニ隨テ其條目ヲ改

ムヘシ各員其旨ヲ領スヘシ

午後第五時三十五分閉場

註 右は明治十年一月廿日內閣より下附二月七日會議に於て題 號并大審院職制中共三件。上等裁判所職制中三件。地方裁判所 職制中四件。同章程中二件。控訴上告手續中十四件は修正增加

十可きに決し其他は原案を可決す。仍て修正増加せる所以を撮録し同月十日上奏、二月十九日太政官第十九號を以て布告。

1 司法省上申 十年一月日附

兼テ御頒布相成候司法省并ニ檢事職制章程大審院并ニ各裁判所職制章程及ヒ控訴上告手續ノ儀是迄實地施行候處追々差支ノ厭モ有之候ニ付別冊ノ通至急御改正相成度此段上申仕候也

2 法判局議案 十年一月日附

別冊司法省上申審案候處其各裁判所職制章程并控訴上告手續ハ實地經驗ニ因リ多少ノ差支アルヲ以テ改正ヲ要求スル者タリ因テ上申ノ通り許可相成可然但シ右ハ舊布告ヲ改正スルノ件ニシテ必ラス元老院ノ議定ヲ經ヘキ者トス其檢事章程ハ舊章程ノ第四條第五條ヲ削ルニ過キス因テハ全部ヲ改正スルニ及ハス只タ第四條第五條當分施行ニ及ハサル旨御指令可然歟其檢事ノ等級ヲ削ルヲ要スル如キハ別ニ御達有之可然仍ホ全部改正ニ及ハサルヘキ歟司法本省職制章程改正ニ就テハ新タニ丞ヲ改メテ書記官トシ録ヲ改メテ屬トスルニ因テ起ルニ過キス然ルニ此事一體諸省ニ關係スル者ニシテ獨リ司法省ニ止マラス今一々諸省ノ職制章程ヲ改作スルハ煩雜ニ涉リ然ルヘカラス因テハ一般ニ舊章程ヲ存シ猶心得達ヲ以テ告諭可有之歟就テハ該省ニ限ルノ職制章程

程改正案ハ御採用不相成可然歟
右併セテ御指令案取調仰裁候也

3 法制局議案 十年二月十四日

別紙裁判所職制事務章程并控訴上告手續改正案ハ元老院上奏修正案ノ通ニテ可然司法本省職制并事務章程檢事職制并事務章程ハ附箋ノ通改正相成可然諸案取調仰高裁候也

(以上、法規分類大全第一編官職門三ノ一七)

第六十號議案

利息制限法

元老院會議筆記 明治十年二月五日

○第六十號議案 利息制限第一讀會

議長 陸奥 宗光

出席議員

三番	佐野常民
四番	水本成美
七番	吉井友實
八番	大久保一翁
十番	佐々木高行
十一番	神田孝平
十二番	大給恒
十三番	河野敏録
十四番	中島信行

利息制限法

十五番 齋藤利行

十六番 楠田英世

十七番 黒田清綱

十八番 秋月種樹

十九番 細川潤次郎

二十番 宍戸璣

廿一番 津田出

山崎直胤

内閣委員 番外 太政官少書記官

午前第十時三十五分開場

○議長曰 本日ハ第六十號議案ノ第一讀會ヲ開ク其主旨ハ委員ノ説明ニ於テ之ヲ領シ其大意ノ可否ヲ討論スヘシ

○書記官 藤澤 左ノ議案ヲ朗讀ス

利息制限法

第一條 凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト法律上ノ利息トス

第二條 契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘキ所ノ利息ニシテ元金百圓以下ハ一ケ年ニ付百分ノ貳拾貳百圓以上千圓以下百分ノ拾五、壹割千圓以上百分ノ拾貳、壹割以下トス若シ此限ヲ超過スル者ハ總テ裁判上無効ノ

者トシ仍ホ法律上ノ利息ニ引直サシムヘシ

第三條 法律上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定限内ノ利息ノ高ヲ定メサルハ裁判所ヨリ言渡ス所ノ者ニシテ元金ノ多少ニ拘ラス百分ノ六トス

第四條 第二條ニ依リ定限利息ノ外總テ人民相互ノ契約ヲ以テ禮金棒利等ノ名目ヲ用ル者アルハ總テ裁判上無効ノ者トス

第五條 返還期限ヲ違フルハ負債主ヨリ債主ニ對シ若干ノ償金罰金違約金科料等ヲ差出スヘキコトヲ約定スルコトアルハ概シテ損害補償ト看做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事實受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量スルハ之レニ相當ノ減少ヲ爲スコトヲ得

附則

此法布告以前ニ係ル貸借ニテ本法ニ矛盾スル者ハ明治十年五月三十一日迄ニ示談ヲ遂ケ其証書ヲ書改ムヘシ若シ其示談ノ行届カサルカ若クハ事故アリテ書改ヲ爲シ得サル者タリハ明治十年五月三十一日以後ハ本法ニ依テ裁判スヘシ
○一番山崎 過日本院議定ニ附セラレタル第六十號議案ノ第一讀會ニ付テハ余内閣委員トシテ出席セリ仍テ本案起草ノ主意ヲ説明スヘシ抑今日貸借上ノ景況ハ古今未曾有ノ

キノ説ヨリ廢止スルノ説^(野カ)起ル歟又ハ明治初年ノ人民ハ英國制限ヲ廢スル年間ノ地位ニ進ムト認メシヨリ起ル歟或ハ其制限ヲ無用ノ者トセル歟假令其理由ハ孰レニ在ルモ今日經濟上ニ在テ利足制限法ヲ立ルハ人民保護上最モ急務ナリ而シテ此制限法ハ商賣上ニモ關係スル制限ナレハ世上ノ融通ニモ差響キナキニ非スト雖モ公平實着ノ精神ニ基キ貸主ニ於テ無法ノ事ナク借主ニ於テ格外ノ害ヲ蒙ラサル其中庸ノ制限ヲ立ルハ人民保護ノ主意ニ適セル者ト稱スヘシ是此制限法ヲ立ル主意ナリ要スルニ從前貸借上不當ノ大弊ヲ一洗シテ民事裁判ノ餘裕アラシムルノ主意ニ出ツ希クハ各議官ニ於テモ實着公平ノ思想ヲ以テ速カニ本案ニ同意アラントヲ希望ス

○十六番補田 本案ニ付テハ段々委員ノ説明アル如ク如何ニモ歐洲ニ於テハ此頃迄利息制限法アリ其此頃迄此法ノ行ハレタル原由ト其經濟學者ノ此法ノ無益トシテ改正シタル實效トアリ之ニ因テ見レハ今去ル百年内ノ形勢ニテ此法ヲ要セサルコト分明ナリ一休歐洲往古猶太ニ於テハ利息ヲ高ク取リタルコトアリ其本ハ農ヲ勸ムル國体ニテ金ヲ内國ニ貸スコトヲ禁シタレ之ヲ外國ニハ貸スコトヲ免許セルニ付高利ヲ以テ貸スコトナレリ故ニ各外國ニ於テハ猶太ノ惡弊ニ

利息制限法

高利ニシテ各國トモニ其比無キ所ナリ而シテ僅カニ返金ノ期限ヲ過去レハ輒チ罰金ヲ出ス等アリ其人民互ニ違約罰金等ヲ約定スルハ敢テ政府ヨリ支ヘサルコトナレト各國共ニ制限アリテ之ヲ裁判スルコトハナシ昨年十一月司法省第十八號ヲ以テ各裁判所ヘ達セシ事ハ司法卿ノ權限外ニ涉ルヲ以テ既ニ本院ヨリ上申ノ趣アリシ事モアリ併シ司法省ノ達ハ元來利息ニ制限ナキヲ以テ不當ノ償金等モ各裁判所ニ於テ或ハ相當ナリト看做スアリ司法卿モ之ヲ傍觀スルニ忍ビサルノ心ヨリ達シタルナルヘシ故ニ政府ニ於テハ司法卿ノ權限外ニ涉ルノ疎漏ヲ問フニ止リ其事タルヤ貸借上利息ノ弊害ヲ防カシメメノ布達ナレハ之ヲ取消スヘカラス更ニ遍ク之ヲ布告スヘキニ決シ尙ホ取調ルニ各國共ニ元トハ利息ノ制限アリ追々人民開明ニ至リ法律モ進歩スルニ隨テ今日ニ在テハ制限法ハ廢止セリ其以前ハ英國モ千六百年代ハ一ケ年ノ利息八歩ト定ム千八百年代ニ到リ六歩ト定ム其後遂ニ法律ヲ以テ制限スルコトハ廢止ス今日英人ノ説ニ其八歩ト云ヒ六歩ト云フ乃チ英國開化進歩ノ度ヲ見ルニ足ルト本邦ニ在テモ慶應年間迄ハ舊幕ヨリ定ムル制限アリ明治元年ニ到テ全ク之ヲ廢止セリ其之ヲ廢止スルノ理由ハ果シテ孰レニアリシヤ今之ヲ知ル能ハス或ハ洋學者流歐洲ニ利息制限ナ

做フ可ラサル様ニ布令シタルナリ委員ノ説明ハ歐洲往昔ヨリ千八百年内迄ノ景況ナリ佛國ニ於テ一步ノ利ヲ取ラサルコトニ定シカ其レ連モ遂ニ廢セリ必竟制限アリテモ或ハ前金禮金等ノ名ヲ以テ禁網ヲ脱スルヲ得レハナリ譬ハ證書ニハ百圓ノ金ヲ借ルニ法律上ノ百分ノ二十乃チ百二十圓ト書シ其百圓ノ内金ニテ實ハ九十圓請取レハ現ニ三割程ノ利息ナリ而シテ返還滞リ裁判トナル時ハ借主其實九十圓借リタルコトヲ辨解スルトモ其確証ヲ舉ル能ハス然レハ證書ニ因テ裁判スル外ナシ歐人早ク意ヲ茲ニ注キ之ヲ禁スルニ貸借上若シ欺罔ノコトアリテ其事顯ハル、時ハ其金ヲ没入スルノ法ヲ設ケタリ然レモ其弊ヲ救フ能ハス遂ニ條理上ト法律上ニ因テ之ヲ廢セリ是ヲ以テ本案ノ徒法ニ屬スルヲ知ルヘキナリ曩キニ司法省ニテ法律上ノ利ヲ百分ノ六トスヘシト取調ヘタルニ遂ニハ法律上ノ利足モ立テ置クコト不可トセリ當時教師ボアソナード氏ニ質セシニ又ク同意ナリト云ヘリ元來利息ヲ取ルノ可否ハ分ラズ各國ニ於テハ利息ヲ取ルハ雙方便宜ヲ得ル交易ナリト云説モアリ抑モ金銀ノ定價ヲ政府ニテ一定スルハ宜シカラス又一定スルコトハ決シテ爲シ得サルコトナリ試ニ云ヘハ開港場ニテ洋銀ノ相場内國ニテモ金銀貨ノ相場共ニ相違アリ今強テ高利ヲ防カントスルヨリハ寧

ロ身代限ヲセサル様ニスルヲ宜シトス英國ニテハ銀行ニテ取扱ヲナス故自然高利ノ金ナシ本邦ニテ其レ丈ケノ事カテキレハ甚宜シト雖モ今日ハ諸省ノ定額金迄節減スル場合ナレハ夫等ノコトハ言モ益ナシ此制限法位ニテ舊弊ヲ救フコトハテキサルヘシ又佛國ニテハ商法ノ利息ハ五歩民法ハ六歩ト定ム或ハ百圓ノ金ヲ借テ返サス之ヲ訴ル時契約ノ利息定メナキハ乃チ五歩六歩ノ法ヲ以テ定ムルナリ本邦ノ法律細カナラス未タ此制ナシ故ニ偶マ利息ノ高ヲ定メサル者アル時ノ爲メ法律上ノ利息ヲ定ムルハ尙可ナラン併シ法律ハ一旦定ムレハ容易ニ替ヘ難シ追々開明ニナレハ利息ハ安クナル故不都合アラシク各國ニテハ法律上ノ利息ヲ定メス裁判官ハ時ニ取テ之ヲ定ルコトナリ其時ノ相場ハ銀行ノ相場ニヨルトス伊斯巴尼亞ノ如キ四分五裂ノ國スラ法律上ノ利息ハ廢セシトコトナリ故ニ法律上ノ利息ハ定メサルヲ可トス若シ歐米人ノ上ニ出ル美舉良典アラハ格別ナレト今日信スル所ハ此制限法ヲ布達セハ其實ハ百二十圓ト書シテ九十圓借ル如キ法網ヲ脱ル者アリテハ却テ徒法トナリ人民政府ノ仕事ヲ嘲弄スルニ至ラン是レ政府ニテ行政權ヲ拋擲スルナリ併シ本邦ノ如キ金利ノ高キ國ハナシ必竟ハ民利ノ興ラサルニ因レハ利息ノ制限ヲ立ルヨリハ民利ヲ興ス様ニスルヲヨシ

ルアリ亦之レ無キ者アリ人民ノ法ヲ脱スル者アルモ敢テ政府ニハカマハヌコトナレト法庭ニ出ルニ至テハ之ヲ制スルノ法ナカルヘカラス前刻モ陳スル如ク慶應三年迄ハ利息ニ制限法アリ今日政府ニ於テ此法ハ立ツヘキ筈ト云フコトハ人民ノ腦髓ニ殘レリ若シ此法ヲ立ル時ハ此外人民相互ニスルコトハ致方ナシト雖モ法庭ニ持チ出シ其效ナキナリ然レハ人民モ裁判上其效ナキコトハ爲サ、ルヘシ必竟証書ヲ取置ク者ハ返済ノ滯ルキ官ニ依テ請求スル爲メノ精神ナリ然ルニ立法官ニテ法ヲ立ルニ當リ人民ノ之ヲ脱スル者アル故效ナシト云ヘハ立ルコト能ハス萬一脱スル者アルトモ其レハ致シ方ナシ又高利故此法ヲ立ルトスレハ今日本邦ノ高利ハ古今各國トモナキ高利ニテ乃チ此一割五分一割二分トテモ各國ニナキ高利ナリ只此法ヲ立ル精神ハ貸主無法ノ姦ヲ制シ借主無法ノ損ヲ受ケサル爲メニシテ今日ノ弊害ヲ防カントスルニアリ又法律上ノ利息制限ナシト云フ其原由ハ如何アラン英國杯ニテモ法律上ノ利息アリ若シ此法ナキハ人民貸借上期限アリテ其利息ヲ定メサル者ヲ法庭ニ持チ出ス時ハ裁判上如何スルヤ其時ハ法律上ノ利息ヲ以テ定ムルノ外ナカルヘシ實掛代金會社金ノ滯等ヲ裁判スルニ何ノ利息ヲ以テ定ムルヤ法律上利息ノ制限ナシトハ實ニ驚クヘキ説ナリ又

利息制限法

トス本案ハ余ハ廢棄セラレンコトヲ希望ス

○十八番 種樹月曰 余ハ十六番ニ同意ナリ一體貸借ノ利息ハ文明國ニ於テハ低シ不文明國ニ於テハ高シ是レ人民ノ互ニ信ヲ得ル深淺ニ因ルナリ今日本邦ハ謂フニ忍ヒサルコトナレトモ國貧ニシテ人民モ開ケス貸借上ノ約ヲ破ルアリ是人民相信スルヲ得サルニ因ルナリ乃チ利息ノ高クナル原因ナリ故ニ制限法ヲ立ルトモ其實際ハ行ハルヘカラス舊幕ノ時モ盲人ハ御定ノ利息ニ証書ヲ書シテ無限ノ禮金ヲ取ルアリ必竟借主ノ貧ナルニ由テ貸主ノ望ミニ任セサレハ衣食スル能ス如何様ノ高利ニテモ之ヲ借ルニ至ルナリ今日天下人民ノ貧ヲ救フ道ナキ上ハ利息ノ制限ヲ立ルモ其功ナク却テ融通ヲ妨クルコトナリ人民ノ迷惑ヲ來サン故ニ余ハ廢案トスルヲ可ナリトス

○番 山崎曰 本日ハ一讀會ニ付テ討論ハ要セサレトモ十六番十八番ノ陳述ハ高妙ニシテ其要點ヲ汲取り難シ併シ其要點トスル所ハ第一民法網ヲ脱ル故ニ此制限法ハ効ナキ者故立テサルヲ宜シトス第二法律上ノ利モ定メサル宜シ況ヤ契約上ノ利ヲ第三ハ此法ヲ立レハ却テ不融通トナル此三ツナリ然ルニ凡ソ民法トハ公法ニ對シテ云ナリ公法サヘ脱スルコトヲ得ヘシ況ンヤ民法ヲヤ而シテ民法ニハ罰則ノア

此法ヲ立ルニ別ニ役人ヲ要スルニ非ス乃チ裁判ヲ完然ナラシムル爲メニテ其費用ヲ要スルコトナキ上ハ不融通ヲ來スコトナシ故ニ十八番十六番ノ説ハ其要點ヲ考ルニ都テ本案ヲ動かスニ足ラス

○十三番 河野曰 本案ノ大意ハ可ナリ唯一二ノ修正スヘキアルノミ修正ノ説ハ第二讀會ヲ待テ陳スヘシ其利息ニ制限ヲ立ルハ可ナリ先ツ此法ヲ設ルニ付テ實地益アル歟又之レナキ歟ト云フ是レ今日討論ノ種ナリ抑本邦今日ノ有様ヲ視レハ余ハ此法ハ實益アリトス凡ソ人定法ハ實益アリト認ムルコトハ之ヲ立ル可ナリ既ニ實益アレハ道理亦之ニ附屬スル者ナリ委員説明アル如ク現今高利ノ弊害ハ喋喋スル迄モナシ孰レ借ル者ハ如何ナル高利ニテモ借ラサルヲ得サル場合モアリ貸主ハ此ノ如キ高利ニ非ルモ充分相當ノ利潤ヲ得ルノ手段アラン彼ノ禮金手数料ノ如キ非常ノ高利ヲ取ルカ如キ必ヤ之ヲ制限セサル可ラス然ルニ此法アレハ金ノ貸シ手カナクナリ不融通トナルト論スルハ太タ事情ニ暗シ今日金ヲ貸ス者ハ概シ華族又ハ官員ナリ相當ノ利息ニテモ商家賣買ノ利ヨリ多シト云位ナリ此法立ツトモ銀行ヘ預ケ置ケハ八朱ノ利アリ決テ產ヲ失フノ憂ヒハナシ況ヤ華族ヤ役人ノ金ト云フ者ハトレ丈ケニテモ利アレハ庫藏ニ貯フルニ優ル

故決シテ不融通トナルコトハナカルヘシ又法網ヲ脱スル説アリ勿論其レモアラン併シ委員説明ノ如ク假令ヒ脱スルアルモヨシ元來民法ハ人ノ惡意アルヲ見込テ立ルニ非ス人民ヲ善良ナル者ト見込モ此法ハ人民ノ遵奉スル者ト見込テ立ルナリ余曾テ英國ニ在テ聞ク所アリ其話ニ云フ一ノ有名ナル虛言家アリ然ルニ其人ノ終身言フ所ヲ閱スレハ失張虚ヨリハ實事多シト是良民ノ多キヲ知ルニ足レリ今此法ヲ立ルトモ貸ス位ノ人ハ十五六ハ此法ニ遵テ貸スヘシ其時ハ人民ハ其利ノ安キ者ニ就テ借ルヘシ然ルモ追々皆安利トナルヘシ近日裁判所ノ有様ヲ聞クニ裁判所ニテ審判中借金ノ額大ニ嵩ミ爲ニ身代限ヲスルニ至ル者アリト云ヘリ如何トナレハ裁判ハ宣告ノ日迄利ヲ算スル者ニテ証書面ニ若シ期限ヲ過クルモ百圓ニ付貳十圓ノ利息ヲ拂フト云フ如キ別ニ契約スル者アリ元ト貸主ニ於テハ其利ヲ取ルヲ欲スルニ非ス期限ヲ誤ラサラシムルノ爲メノ術ナリ然ルニ其裁判延引スルモ莫太ノ利トナルアリ初メ訴ル時ノ金高ハ返スヲ得ルアルモ後莫太ノ利息ノ爲メニ身代限ヲスルニ至ル其レ等ノ弊ハ此法立テハ適面ニ利益ヲ與ルナリ故ニ余ハ本案附則等ハ修正スヘキアレト制限法ハ最モ然ルヘキトス

○十二番大給 曰 本案ニ付テハ委員ノ説明モ詳ニシテ甚タ時

勢ニ適シタル法ナリトス抑モ法ハ時勢ヲ斟酌シ社會ノ進歩度合ニ付テ立ツヘキ者ナリ十三番陳述モアル如ク今日貸借上不法ノ取引アルヨリ遂ニ身代限ヲ出スニ至ル者アリ余モ現在心得ルナリ彼ノ日歩違約金其他苛酷ナル約定アリテ元ト貸借上ノ定ノ利ヨリ高シ僅カニ一二月ヲ經過スレハ一倍ノ金ニモ及フ等アリ是レ今日ノ弊ナリ此弊ヲ防ク爲メニハ此制限法ヲ設ルヲ至當トス併シ追々社會ノ進歩スルニ隨テハ又之ヲ改ル時モアルヘシ且條中ニハ修正スヘキ者ナキニ非サレト大意ニ於テハ人民相互ノ權利ヲ保護スル者ナレハ余ハ之ヲ可トス

○十四番中島 曰 本案ハ余ハ不同意ナレハ今其所以ヲ陳セン前刻委員説明ヲ聞クニ其要點ノアル所第一人民取引上高利ナル故之ヲ防クノ爲メナリ第二ハ法律上ノ利息ヲ定ムルニアリ法律上ノ利息制限アルハ又タ然ルヘキコトナリ授權利罰金等今日利息ノ利息ヲ制スルハ要用ナレト此ハ要價規則ニ入ルヘキ者ナリ併シ本邦未タ其制ナキ故其等ハ別ノ仕方ヲ以テ制スヘシ人民契約上ノ利息ヲモ政府ヨリ制限スルハ不同意ナリ古來經濟家ノ精神ハ時ニ依テ變通スルモ其大眼目ハ千古ヲ貫キ變易スル者ニ非ス今日法ヲ制シテ利息ヲ制限スルハ實際ニ行ハレス又契約上ノ制限ハ爲ス能ハス元來人

ト人トスルコトニテ其時ノ都合ニヨリテハ如何様ノ高利ニテモ貸借スルコトアルヘシ若シ政府ヨリ人ノ契約上ニ迄立入ルトシテ視レハ貨幣トモ物品ノ一ツナリ然レハ物品ノ相場上下スルモ金銀貨幣ノ相場ヲ上下スルモ皆同様ナリ金ヲ貸ス人多キ時ハ利ハ安クナリ貸ス人少ナキ時ハ高クナル道理ニテ今日高利ノ弊ヲ防クニ此制限法ヲ以テスルモ逆モ制スル能ハス必竟高利ノ弊ハ貨幣ノ少キト契約ノ密ナラサルニ因ルヘシ之ヲ制セントスルハ譬ヘハ何屋ノ羅紗ハ高キ故何程ニ賣ルヘシト謂フカ如シ到底此法ハ棄廢スルヲ可トス併シ法律ノ利息ハアリテ可ナリ又利息ノ利息ハ要價規則ニ入ル者ナラン其レハ討論ノ時ヲ俟テ陳スヘシ

○十三番河野 曰 十四番ノ駁議ハ杜撰ナリ其意人民ノ契約上ニ立入ルヲ不都合トス固リ此義ヲ擴充スレハ人家ノ味噌醬油ノ世話ニモ立入ルヘキニ至リ不都合ナリ今利息ニ利ノ付ヲ高利トスレト元金ニ高利ヲ取ルモ利ニ利ヲ付ルモ同シコトニテ無適法ナル事ハ人民ト人民トノ間ニモ立入ルコトアルヘシ只其義ヲ擴充セサレハ足ルナリ人民ト人民トノ間ニハ立入ラサル道理トスレト時トシテハ社會ノ公益ニ依テハ立入ル場合アリ昔者英國ニテハ人足ノ貨錢迄モ政府ニ制限シタルコトアリ余ハ本案ニハ不都合ノ所モアレト今日此法ヲ立ル

精神ニ於テハ完全ニシテ假令ヒ法網ヲ脱スル者アルトモ其幾分カラ救フコトヲ得ルノ公益アリ併シ今日之ヲ布告セハ忽チ金ノ貸シ手ナクナリ金ノ融通壅塞スト云明證アレバ余モ再考シテ或ハ善ニ邊ル心ヲ以テ從フコトアルヘシト雖モ其証ナキ以上ハ同意スルヲ得サルナリ

○十九番細川 曰 本案ニ付テハ余一昨年左院ニ奉職中利息制限ノ議起レリ其時ハ今日ト反對ノ説ヲ立テタリ必竟其時ノ議案ハ一時金銀不融通ヲ生セントスル如キ苛酷ノ法ナレハナリ其節退テ本邦今日ノ有様ヲ顧ミ之ヲ實際ニ徵セシコトアリ而後今日迄熟考スルニ目前ノ弊害アル實ニ止ムヲ得サルコトナルヲ發明セリ今其熟考スル所ヲ簡短ニ陳述セン抑モ貸借トハ人ノ貧乏ニ及ンテ借ルアリ又商賣上一時融通ニ借ルアリ今概シテ之ヲ辨別スルニ貧乏ニシテ借ル者ニハ其利ヲ安クシ商賣上ニテ借ル者ニハ之ヲ高クスレハ當然ノ性質ヲ持ツニ似タリ然ルニ今日高利ノ金ヲ借り商賣シテ可ナル乎ト其實際ヲ考レハ商賣上ハ定利ノ甚タ薄キ者ナリ三井大丸ノ吳服屋ノ如キモ一ヶ年百分ノ五ニ過キスト云フ其他米商ノ如キ者ニテモ二割ヲ過ルハ難シ正路ノ所ハ一割五分ヨリ二割ナリ然ルモ此制限ノ利ヨリ高利ナル金ヲ借テ商賣スレハ其利益ハ萬々ナク所謂算當ニカ、ラサルモノナリ今

日貸借上ハ百圓ニ付一ヶ月五圓或ハ八圓ノ利アリ古今未曾有萬國ニ其例ナキ所ナリ然レモ貸借ノ雙方トモ承諾シテ其証文中ニ明言スト雖其結果ハ薄利ノ商賣柄故遂ニ其爲メニ斃ル、ニ至ル況ンヤ貧乏士族ノ僅カノ公債証書ヲ宛ニシテ借ル者ハ身代限ヲ出スニ至ラスシテ活路ヲ得ルコトハ萬々ナキ筈ナリ其此ノ如キ無茶苦茶ノ貸借ヲナスモ必竟ハ國民ノ富殖ナラサルニ出ルナリ又一ツニハ維新ノ初舊政府ノ所謂御定利息ナル者ヲ廢スルヨリ一時ハ融通ヲ生スルモ遂ニ金ヲ貸ス者ハ高利ヲ貪リ其止ムヲ得ス借ル者ハ切迫ノ餘リ高利モ厭ハサルヨリ勢ヒ今日ノ有様トナレリ乃チ身代限リノ多キハ其明証ナリ又裁判所ノ繁多ナルモ其明証ナリ今此弊ヲ防ク其法ナガルヘカラス乃チ近年迄アル所ノ御定利息ノ法ト之ニ加ルニ海外諸國ノ法トヲ斟酌シテ制限法ヲ立ルニ在リ一昨年中全國ノ身代限ヲ算スレハ一萬餘ナリト云今ニシテ此弊ヲ防ク法ヲ設ケサレハ到底天下ノ窮民ヲシテ死地ニ陥ラシムルニ至ラン若シ此法ヲ布告スレハ現在裁判所ヘ出ル者モ大半ヲ減スルニ至ルヘシ故ニ余ハ本案ノ大意ニ於テ甚タ然ルヘキトス

ルニアラス又社會上惡者ハアルヘカラスト云説アレト警ヘハ月ニ幾分ノ利ヲ得ント其レ丈ケノ金ヲ以テ商賣ヲナス者其目途違テ意外ノ損失ヲセハ是非トモ他ニ就テ金ヲ借ラサルヲ得ス其節正直ナル商人ニテ制限ノ利息ヨリ外ニ利ヲ出サスト云ヘハ金ヲ貸ス者ハナカルヘシ然レハ身代限ヲ出スニ至ル故是非ナク法外ノ利息ヲ出シテモ之ヲ借ルニ至ルヘシ是レ此法ノ實際ニ行ハレサル所以ナリ且又金銀貨幣ノミナラス本邦ニテハ茶ナリ紙ナリ金銀貨幣ノ利息ナリ皆同シ之ヲ其利ハ何割ト一概ニ定メナハ金銀ノ融通ヲ止メ社會ノ不融通トナラン今日之ヲ布告スレハ如何アラン彼外國人ノ追々經驗上ニヨリ遂ニ行ハル可カラスト云フ者ヲ今日ニ在テ之ヲ布告スル故余ハ甚不都合ナリトス

○十六番 補田曰 前刻余ノ陳述スル意何分貫徹セサルニ似タリ余ノ陳述スル所ハ實際ノ經驗法ニテ決シテ空想ヲ以テス

○十三番 河野曰 十六番ノ説ハ余ニ於テハ承知ノ上ノコナリ然ルニ一商人ノ損毛シテ金ヲ借ル警諭ハ本案ニ關セス本案ハ裁判所ニ出ルニ至テ制限外ノコトハ効ナキニ止ルノミ禁制法ニハ非サルナリ今日此制限アルモ外商賣ノ釣合ヒヲ考レハ金貸シハ隨分利益アル故差支ユルコトナシ又物品モ通貨ト同シト云フト雖モ今日ハ金銀貨幣力第一相場ノ立つ原ナリ他ノ物品ハ平均相場ハテキサルヘシ然レハ無適法ナル高利ハ是非此ノ如クナルヘキ其理由アレハ格別ナレト元來物品

其他ノ比較ヨリ生セシニ非ス只一時ノ流行ニシテ全クハ舊幕ノ定利廢止セシヨリ不圖シタルコトニテ高クナル迄ナレハ他ニ慮ルニ及ハス余ハ斷然本案ヲ可ナリトス

ニモ貸ス者ニハ法ヲ脱テ禮金等ヲ取ルコトアラン其レ連テモ民間ニ在テハ毒ニモ藥ニモナラサルヘシ唯裁判上ニ取テハ都合ヨキコトアラン故ニ本案ハ存スルモ亦可ナリト云フナリ

○十四番 中島曰 前刻モ陳述スル如ク余ハ契約上ノ利息迄政府ノ立入ルヲ不可トスルナリ其罰金ヤ利息ノ利息ヲ制スル等ハ要償規則ノ點トシテ之ヲ別ニセシ故余説明不分明ナリト覺フ一體約束ヲ破ル者ハ其破約ノ廉ヲ以テ矢張り要償ノ點ニ引付クヘキナリ扱十三番ニ於テモ貨幣ニハ制限ヲ付ケラル、ニ似タレモ金貨澤山ナレハ其直段ハ低クナリ少ナケレハ高クナル者ニテ直段ノ制限ハ付ケ難シ又商法ニテ一割ニ割ノ利ト云フハ想像ナリ昨年生糸ノ高價ナルモ三割ノ利ナル金ヲ借テ商法スルモ益アリシト云到底相互ニ契約スル利息ハ定ル能ハス若シ強テ之ヲ定ルトモ人民ハ法網ヲ脱スルアラン必竟金ヲ貸ス人多ケレハ其利ハ安クナルナリ其安クナルハ制限法アル故ニアラス此法ヲ立テラレ其法ヲ脱スル者アルモハ徒法トナリテ益ナシ故ニ余ハ本案ハ廢棄スルヲ可トス

○十二番 大給曰 今一應陳述セン前刻モ陳述スル如ク本案ノ大意ハ可ナリ其譯ハ十一番ノ論ノ如ク可モナク不可モナキ如キト云フノ一點ニ非ス元來人民ノ頼ム所ハ政府ヲ確實ナル者ト認メ法律ヲ能力アルモノトシ互ニ契約ヲスルモノナリ乃チ利息ノ事抔人民此規則ヲ守ラスシテ不相當ノ利息ヲ付ル約束ヲスルトモ其人ノ都合次第ニシテ政府ノ敢テ知ル所ニアラス只裁判上ノ効ナキ者トシテ此規則ニ引直ス迄ナリ其法ヲ脱スル者ハ密ナル法ニテモ脱スルナリ扱本案ヲ布告スル其効能ハ如何ト云フニ人民相互ノ契約ハ政府ニテ構ハスト雖モ彼ノ書替禮金手數等法外ナル約定ハ裁判上効ナキ者トナレハ今日ノ如キ無適法ナル約定ハセヌコトナルヘシ乃チ此丈ケ利益アリ而シテ彼金貸シ先生ノ活計ヲ如何ト看レハ隨分一割五分二割ト視レハ敢テ營業ニ支ユルコトナシ故ニ余ハ本案ヲ二讀會ニ附セント欲ス

○十一番 神田曰 余ハ本案ヲ可トスルナリ其可トスル所以ハ甚タ輕微ナル一點ニアリ元來此制限ノ利ハ二割ニシテ隨分高キコトナレハ之ヲ施行スルトモ金ノ貸シ手ハアルヘシ此上

○議長曰 六十號議案大意ニ付テハ追々討論アリタレハ最早此會ヲ終ル可キノ機會到レリト思フ而シ讀會規則ニ依テ第二讀會ノ期日ヲ報スヘキ管ナレト數箇ノ議案延滞アレハ操

合ノ上追テ報スヘシ

○又曰 第五十九號議案ニ付テハ曾テ委員ヲ定メシ處頃日報
告書ヲ以テ復命アリ本案ハ急施ノ者ニ付明後七日例刻第三
議會ヲ開クヘシ然ルニ報告書ニ添ル數號ノ計算書アリ其甲
乙丙ノ三號ハ頒布セシ議長手許ニ在リ各議員ニ於テハ明日
參院ノ上一覽アルヘシ其丁戊ノ二號ハ後刻頒布セントス仍
テ過日相達シタル明後日五十五號ノ會議ハ延會トス
正午十二時三十五分閉場

元老院會議筆記 明治十年三月九日

○第六十號議案 利息制限第二讀會

議長 陸奥宗光
代理

出席議員

- 一 齋藤利行
- 二 津田真道
- 三 穴戸 璣
- 四 大久保 一翁
- 五 水本 成美

十六番 大給 恒
十七番 松岡時敏
十八番 福羽美靜
内閣委員 番外 尾崎三郎
内閣委員 番外 山崎直胤
少書記官 二番

○議長曰 本日ハ第六十號議案第二讀會ヲ開ク各員例ニ遵ヒ
討論スヘシ
○書記官 本田 左ノ條ヲ朗讀ス

利息制限法

第一條 凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト法律
上ノ利息トス

○十五番 水本 成美曰 本案ニ付テハ曩キニ一讀會ニ於テ委員ノ說
明モアリ即今金銀貸借ノ弊ヲ防クニハ至極良法ナリ元來佛
國民法ノ千九百七條ニ出ル者ヲ内閣ニ於テ折衷セラレタリ
ト見ユ今日ハ制限ノ法ナキ故ニ種々ノ弊害アリ故ニ此法布
告アレハ大ニ世益アルヘシ抑此制限法ハ佛國ニモ民法契約
上ハ七朱商法ハ六朱法律上ハ五朱ト夫々區分アリ本案モ之
ニ比シテ相當ナラン或ハ民法契約上ト商法トノ區分ヲ立ツ
ルヲ宜シト云フ說アラン然レトモ先ツ民法ノ制限ニテ可ナ

ルヘシ且又一讀會ノ節此法ハ布告スルモ實際ニ行ハレス徒
法トナラント云說アリ此ハ定メテボアソナ^[F]ソ氏ノ說ヨリ
出テタルナラン乎必竟同氏一家ノ說ニテ法アツテモ制スル
能ハスト云談ニ過キス偶マ^[F]法ヲ脱スル者アルヲ以テ其法ヲ
概シテ徒法トスルハ不可ナリ或ハ又能力ナキ法律ト云說モ
アレ然レトモ法律ハ如何様ニ能力ヲ付ルトモ人民之ヲ犯
ス者アリ譬ヘハ放火強盜律ノ如キ死ニ入ル程ノ者ナリ然
ルニ矢張り放火強盜スル者アリ余ハ本案ニ於テ力ノ不足ナ
ル所モ見出サス又徒法タル所ヲモ見出サ、レハ此儘ニテ可
ナリトス

○十六番 大給 恒曰 余ハ十五番ニ同意ナリ各條ニハ稍ヤ意見ア
レト其レハ其條ニ至テ陳述スヘシ

○議長曰 他ニ發言ナキ故決ヲ取ラン本條原案ヲ可トスル議
官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ニ依テ第一條ハ原案ヲ可ト決ス

○書記官 本田 左ノ條ヲ朗讀ス

第二條 契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘ
キ所ノ利息ニシテ元金百圓以下ハ一ケ年ニ付百分ノ貳拾
貳百圓以上千圓以下百分拾五壹割千圓以上百分拾貳壹
割

利息制限法

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン本條原案ヲ可トスル議官ハ
起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ニ依テ第二條ハ原案ヲ可ト決ス

○書記官 本田 左ノ條ヲ朗讀ス

第三條 法律上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定限内ノ
利息ノ高ヲ定メサルキ裁判所ヨリ言渡ス所ノ者ニシテ元
金ノ多少ニ拘ラス百分ノ六六分トス

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン本條原案ヲ可トスル議官ハ
起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ニ依テ第三條原案ヲ可ト決ス

○書記官 本田 左ノ條ヲ朗讀ス

第四條 第二條ニ依リ定限利息ノ外總テ人民相互ノ契約ヲ
以テ禮金棒利等ノ名目ヲ用ユル者アルハ總テ裁判上無効
ノ者トス

○十六番 大給 恒曰 本條ハ聊カ異見アリ然ルニ第五條ヲ連帶ス
ルニ非レハ其說ヲ盡ス能ハス今連帶シテ說クヲ得ヘキヤ

○議長曰 連帶シテ論スルモ可ナリ

○十六番大給 恒曰 本條禮金棒利ノ下ニ第五條ノ罰金違約金ノ字ヲ入レ第五條ニ科料トアルハ取除クヲ可トス何トナレハ第五條ニ返還期限ヲ違フルハ云トアリ其文ヲ味フニ人民相互ニ約束セシコアルトモ法庭ニ出テ裁判官ノ採上ル所ハ債主ノ受ケタル損害ノ補償ノミニテ裁判官ノ取捨スル所ナリ然ルハ罰金違約金ハ功能ナキ者ニシテ禮金棒利ト同シ故ニ無効ノ者ハ都テ第四條ニ組入ルヲ明了トス果シテ此ノ如クスレハ人民其效ナキヲ知リ初ヨリ約束セサル事トナルヘシ其他ハ第五條ニ至テ陳述スヘシ

○十五番水本曰 余ハ十六番ノ説ヲ賛成ス

○議長曰 本條ニ付テハ十六番ノ説アリ十五番之ヲ賛成ス仍テ之ヲ問題トス各議官其可否ヲ討論スヘシ

○一番尾崎 三郎曰 十六番ノ修正ハ禮金棒利ノ下ニ罰金違約金ヲ加ヘントスル意ナレト元來禮金棒利ト罰金違約金ハ其性質違フナリ何トナレハ第四條ノ禮金棒利ハ利金ノ一部分ト認メテ裁判上ニ採上ケサル者ナリ第五條ノ罰金違約金ハ利息外ト認ム警ヘハ千圓ニ壹割貳歩ノ利ニテ何ヶ月限ノ東ヲナシ其期限ニ返済セサルハ罰金ヲ幾箇出スト云フアリ之ヲ裁判官ノ律眼ニテ取捨シ其期限ニ違タルニ因テ商法

ハ初ヨリ約束セサル様ニスヘキナリ

○一番齋藤 曰 十六番修正ノ説アレト余ハ不同意ナリ其譯ハ番外一番ノ辨解ニテ禮金棒利ト罰金等ノ性質異ナル所甚明了ナリ十六番ニハ其性質異ナラスト云ト雖モ甚タ明了ナラス既ニ性質異ナル以上ハ之ヲ一條中ニ混同スルハ不可ナリ第五條ハ概シテ云ヘハ損害ヲ償フ者ナリ十六番ハ此ヲ以テ禮金等ニ同ク無効ノ者ト爲スト雖モ第五條ハ事實受ケタル損害ニ適當ナル償金ハ採上ケサル者ナリ第四條ハ全ク無効ノ者ナリ故ニ余ハ十六番ニ不同意ナリ

○一番尾崎 三郎曰 修正説ニ付テ尙ホ陳述セン十六番陳述ノ要ヲ摘スレハ禮金ト曰ヒ罰金ト曰ヒ其名ハ異ナルトモ其實ハ同一ノ者トスルナリ然ルニ其同一ノ者ニ非ル所ハ只今一番ノ陳述ニテ明瞭ナリ畢竟禮金等ハ假令ヒ互ノ約束アルモ裁判上無効ノ者ナリ罰金等ハ裁判官ニ於テモ幾分カ損害ヲ受タリト見ルハ其幾分ハ償ハシムルナリ余ハ飽迄モ本案ニテ可ナリトス

○十七番松岡 曰 十六番ノ修正説ハ不適當ナリ其譯ハ番外一番ノ辨解ニテ明了ナレハ別ニ贅言ヲ要セス余ハ本案ヲ可トス

○十六番大給 恒曰 罰金ハ損害ヲ償フ者ニテ禮金等ト其性質ヲ

上ノ損害ハスコモアリ彼ノ棒利等ハ一切採上ケサル者ナリ違約金等ハ取上ルト取上ケサルトノ區別アリ是性質ノ違フ所ナリ若シ之ヲ同一ニ混スルハ實際指支ユルナリ且又科料ノ字ハ取除ク説ナレト矢張り存スルヲ精密ニシテ可ナリトス元來違約金ト同シ者ナレト今日ハ名目ヲ種々ニ替ルコアレハ原案ノ如ク存スルヲ可トス故ニ都テ原案ノ儘ヲ可ナリトス

○十六番大給 恒曰 余ノ修正説ニ付テ番外一番ノ駁議アリ固ヨリ棒金等ト罰金等ハ名目ノ異ナル者ナリ然レトモ償金罰金違約金科料モ此名目ニテ直チニ裁判官ノ採上ル者ニ非ス採上ル者ハ其中ニ就テ事實損害ニ掛ルノ部分ノミ然レハ償金罰金等ハ全ク有効ノ者ニアラス種々名目ハ異ナルトモ元金ノ利息ト事實損害ノ償金トハ採上ル迄ニテ其外ハ實際無効ノ者タルコトハ禮金棒利ト同一ナリ同ク無効ノ者ト看做サハ第四條ニ入ルヲ可トス乃チ第四條トモ互ニ定約スルハ宜シケレト裁判上ニ至テハ採上ケサル者ナリ第五條モ亦同シ然ルニ性質違ヒ名目違フ故ニ其條ヲ分ツト云ト雖モ其事實ハ同シケレハ一條ニ集ムルニ如カス一體人民ニハ事ノ分リ易キヲ宜シトス乃チ本案ノ如キ前條ト後條ト同シキコトナレハ一條トナシ早ク其趣キヲ合點サセ約束スルトモ効ナキコト

異ニスル説アリ然ルニ罰金ハ返済ノ期ヲ誤ル故ニ取ル者ナリ違約金モ亦同シ然レハ事實損害ノ補償トハ看做スヘカラス固ヨリ貸借ノ間ニ於テ損害ヲ負ハスコアレハ其損害ヲ償フハ當然ナリ其償ノコトハ第五條ニ至テ別ニ修正説ヲ陳述セシニ休損害ヲ償フコトハアルヘシト雖モ罰金ハ損害ノ償ニアラス假令定約スルコトアルモ裁判官ノ採上ケサル者ナリ裁判上無効ノ者ハナルタケ初ヨリ斷念シテ約定セサル様ニスルヲ宜シトス若シ名目ノ異ナルニ因テ之ヲ分チテ兩條ニ置クハ錯雜シテ見苦シカラン第五條ハ事實損害アル者ハ裁判上採上ル様ニ發輝ト見分ケノ付ク様ニスルヲ宜シトス只今迄ノ討論ハ未タ余カ意見ノ要點ニ至ラサル故全ク甘默スル能ハス

○一番尾崎 三郎曰 十六番尙ホ陳述スル所ヲ聽クニ前説ヲ變セラレタル點ヲ見出セリ其初説ハ罰金違約金等モ裁判所無効ノ者故禮金棒利ノ方ニ組入ルヲヨシトシ後説ハ罰金等ハ約東サセテモ其中無効ノ者モアレハ初メヨリ人民ニ約束サセヌ様ニスルヲヨシトス執レニセヨ罰金ヲ棒利ト同ク無効ノ者ト看做スハ不可ナリ今日民間ニ行ハル、所ハ償金ト云フハ少ナク罰金ト云フ多シ其實ハ自身ノ損害ヲ償フ爲メナリ然ルニ其罰金ハ止メ償金ノコトハ裁判官ニ於テ處分スルト云

フハ事實ヲ考ヘサルコニテ人民却テ迷ヲ生セン故ニ十六番ノ修正ハ不都合ナリ

○十六番大給 番外一番ノ駁議ニ對シ余ノ說前後變更セサル所以ヲ陳セン抑モ罰金等ヲ無効ノ者トスルトハ委員ニ對シテ云ヒシナリ畢竟罰金禮金ハ同一ノ者ナリ然ルニ却テ人民ノ迷ヲ生セント云ハ其意ヲ解セス何故ニ迷ヲ生スルヤ余ハ迷ヲ生スルコトナシト認ムルナリ今罰金違約金科料等ノ名目ヲ立ルトモ其レ等ハ名モ實モ採上ケサルナリ第五條ノ採上ル所ハ何ソ惟事實受タル損害ノ償金ニ止ルノミ其外採上ケサレハ無効ニ屬ス果シテ無効ナレハ之ヲ條中ニ掲ケサルニ如カス今裁判所ニ於テ採上ル正味ノ所ハ償金迄ニテ罰金以下ハ書テアルトモ裁判所ニ通ラサル者ナリ之ヲ書テオケハ人民却テ迷ヲ生セン第四條ハ初メヨリ採上ケサル者ヲ云ナリ第五條ハ譬ヘハ赤色ヲ白色ニ替ヘ種々ノ名目アルモ採上ケサルナリソノ名目ハ種々立派ニアルモ其實損害アリト看做サ、ル時ハ採上ケス是色ノ替ル所ノ種々ノ名目ハ此ニ至テ皆消ルナリ故ニ第五條ハ實際補償ノコトヲ掲ケ其外ハ第四條ニ掲ケ人民ヲ迷フコトナカラムルヲ可ナリトス

○十八番美靜 余ハ十六番ト全ク反對ノ說ナリ第五條ノ罰金等ヲ第四條ノ禮金同様無効ノ者トスルハ甚タ暴ナル仕道

ル概シテ損害補償ト看做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事實受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量スルキハ之レニ相當ノ減少ヲ爲スコトヲ得

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン本條原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者六人

○議長曰 多數ニ依テ第五條ハ原案ヲ可ト決ス

○書記官本田 左ノ條ヲ朗讀ス

附則

此法布告以前ニ係ル貸借ニテ本法ニ矛盾スル者ハ明治十年五月三十一日迄ニ示談ヲ遂ケ其證書ヲ書改ムヘシ若シ其示談ノ行届カサルカ若クハ事故アリテ書改ヲ爲シ得サル者タリ也明治十年五月三十一日以後ハ本法ニ依テ裁判スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ニ依テ附則ハ原案ヲ可ト決ス

○又曰 第三讀會ハ來ル十二日例刻ヨリ開クヘシ

○外一番尾崎 本案三讀會ノ期ヲ達セラレト今日未タ正午ニ至ラス時間裕餘アレハ午餐後ニ於テ開議アランコトヲ希

ナリ畢竟禮金等ハ採上ケサルヨシ是今時ノ弊風ニ關スルコトニテ其爲スヘカラサルヲ示ス所ナリ罰金等ニ至テハ人民ノ契約上ニナルコトニテ敢テ制セサルコトナレ其違約ニ因テ其内幾分力取ルヘキ者アレハ裁判官之ヲ斟酌シテ償ハシムル者ナリ之ヲテテ無効ノ者ト同一ニスルハ甚タ不可ナリ

○外一番尾崎 尙ホ一言セン十六番ニ於テハ追々蘇秦張儀ノ辨ヲ振ヒ赤キヲ白シトシ有ヲ無トシ變化極リナキ說アレト余ニ於テハ矢張り赤キハ赤ク有ハ有トス其所以ハ各議官ニ於テモ領承アルヘケレハ今復喋々セス

○議長曰 追々討論アレト最早決議スル機會ヲ得タリト認ム乃チ本條十六番ノ修正說ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者二人

○議長曰 少數ニ依テ十六番ノ修正ハ廢棄ス

○又曰 他ニ修正說ナキ故決ヲ取ラン原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者六人

○議長曰 多數ニ依テ第四條ハ原案ヲ可ト決ス

○書記官本田 左ノ條ヲ朗讀ス

第五條 返還期限ヲ違フルキハ負債主ヨリ債主ニ對シ若干ノ償金罰金違約金科料等ヲ差出スヘキコトヲ約定スルコトア

望ス

○議長曰 規則ニ依テ衆議ニ決スヘシ乃チ本日第三讀會ヲ開クニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者四人

○議長曰 半數ナル故議長ニ於テ決スヘシ本日ハ各議官ノ出席モ甚タ少ナキ故矢張り十二日ト決定スヘシ

午前第十一時二十分閉場

元老院會議筆記 明治十年三月十二日

第六十號議案 利息制限法 第三讀會

議長 陸奥 宗光

出席議官

- 一番 齋藤利行
- 二番 津田真道
- 三番 穴戸環
- 四番 黒田清綱
- 五番 細川潤次郎
- 六番 大久保一翁
- 七番
- 八番
- 九番
- 十番
- 十一番
- 十二番
- 十三番
- 十四番

十五番 水本 成美
 十六番 大給 恒
 二十番 津田 出
 内閣委員 番外 大書記官 尾崎 三郎

午前第十一時前二十五分開場

○議長曰 本日ハ第六十號議案第三讀會ヲ開ク各員例ニ遵ヒ發言スヘシ

○書記官本田 左ノ條ヲ朗讀ス

利息制限法

第一條 凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト法律上ノ利息トス

○十五番水本曰 本案ニ付テハ第二讀會ニ於テ或ル議員ニハ

徒法ニ屬スル說アリ又ハ無可無不可ノ說モアリ余ハ其節モ

陳述スル如ク根源佛民法千九百七條ヨリ出テ今日人民ニ

大ニ益アラントス本日モ同シ考ヲ以テ原案ヲ可ナリトス

○一番齋藤曰 本案ハ既ニ二讀會ニ於テ余ノ意見ハ陳述セリ以來尙ホ考ルニ此法ハ永久不易ノ制法トハ謂難シト雖モ現今實際ノ弊ヲ防クニ於テハ止ムヲ得サル姑息法ニシテ此法出ルキハ人民モ幾分カ利益ヲ得ヘシトス此儘議定シテ可ナ

サルモ稍ヤ防クニ至ルヘシ必竟一番ノ論意ヲ擴充スルナ

リ

○議長曰 他ニ發言ナキ故決ヲ取ラン本條原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ニ依テ第一條ハ原案ヲ可ト決ス

○書記官本田 左ノ條ヲ朗讀ス

第二條 契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘ

キ所ノ利息ニシテ元金百圓以下ハ一ケ年ニ付百分ノ貳拾

貳百圓以上千圓以下百分ノ拾五壹割千圓以上百分ノ拾貳

割以下トス若シ此限ヲ超過スル者ハ總テ裁判上無効ノ

者トシ仍ホ法律上ノ利息ニ引直サシムヘシ

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン本條原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ニ依リ第二條ハ原案ヲ可ト決ス

○書記官本田 左ノ條ヲ朗讀ス

第三條 法律上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定限内ノ

利息ノ高ヲ定メサルモ裁判所ヨリ言渡ス所ノ者ニシテ元

金ノ多少ニ拘ラス百分ノ六トス

利息制限法

リ一体人民相互ノ約束上ニ立入テ制限ヲ立ルハ好マシカラ

サル事ナカラ舊幕時代ニハ利息制限法アリ一新後廢法トナ

ルヨリ謂ハユル高利貸ナル者澤山ニナリ借ル者モ隨テ巧黠

ナル手段ヲ用ヒ因テ貸ス者ハ其巧黠ヲ防クノ算當ヲナシ貸

方ヲ爲スコトナレリ其間甚數キ弊アリ然ルニ今日金ヲ貸シ

テ活計ヲ營ム者ハ他ノ商業ニ比較スレハ無類ノ潤益ニ當ル

其上尙ホ弊害ノ多ヲ生セシ場合ナレハ止ムヲ得ス制限ヲ立

テ之ヲ防カサルヘカラス故ニ余ハ原案ヲ可ナリトス

○一番尾崎曰 一番ノ陳述ハ原案ニ同意ナレハ辨解スルモ

無益ニ似タレモ其永久不易ノ法ニ非スト云ニ付テハ一言セ

サルヲ得ス余モ固リ永久不易ト謂フニ非ス聊カ其旨ヲ陳セ

ン凡ソ何事ニテモ法律ト云者ハ其時ニ因テ其弊ヲ救フ爲メ

ナリ故ニ歐洲各國ニテモ其國法各異ナリ又同國ニテモ其年

代ニ因テ異ナルアリ然レモ之ヲ姑息ノ法ト云フ可カラサル

ナリ全ク其時ニ因テ其弊ヲ救フナリ現今本邦金銀貸借ノ有

様ハ貸方モ誦リ其元金ノ半分返ルキハ損ナキ算當ニテ貸ス

借ル者モ返サヌ積リニテ借リ或ハ身代限ヲ出スニ至ル是今

日ノ弊害ニシテ實ハ詐術ヲ以テ商業ヲ爲スナリ遂ニ商法ノ

不景氣ヲ生シ自然融通ヲ妨ケ益々高利トナル之ヲ防カント

セハ此制限ヲ立ルノ外ナシ固リ此法ニテ全ク防クニハ至ラ

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン本條原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ニ依テ第三條ハ原案ヲ可ト決ス

○書記官本田 左ノ條ヲ朗讀ス

第四條 第二條ニ依リ定限利息ノ外總テ人民相互ノ契約ヲ

以テ禮金棒利等ノ名目ヲ用ル者アルモ總テ裁判上無効ノ

者トス

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン本條原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者九人

○議長曰 多數ニ依テ第四條ハ原案ヲ可ト決ス

○書記官本田 左ノ條ヲ朗讀ス

第五條 返還期限ヲ違フルキハ負債主ヨリ債主ニ對シ若干

ノ償金罰金違約金科料等ヲ差出スヘキコトヲ約定スルコトア

ルモ概シテ損害補償ト看做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事實

受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量スルキハ之レニ相

當ノ減少ヲ爲スコトヲ得

○議長曰 發言ナキ故決ヲ取ラン本條原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者九人

○議長曰 多數ニ依テ第五條ハ原案ヲ可ト決ス
○書記官本田 左ノ條ヲ朗讀ス

附則

此法布告以前ニ係ル貸借ニテ本法ニ矛盾スル者ハ明治十年五月三十一日迄ニ示談ヲ遂ケ其證書ヲ書改ムヘシ若シ其示談ノ行届カサルカ若クハ事故アリテ書改ヲ爲シ得サル者タリハ明治十年五月三十一日以後ハ本法ニ依テ裁判スヘシ

○八番細川潤 本案ニ付テハ第一讀會ニ於テ其大意ヲ可トシ其節目ニ至テハ修正スヘキ所アリト陳述ス定テ筆記上其痕跡ヲ殘シタルアルヘシ而シテ第二讀會ニハ本官不參シ其ノ修正ノ意見ヲ陳スルヲ得ス遂ニ本日第三讀會ニ及ヘリ乃チ第三讀會ニ於テ修正說ヲ出サントスレハ先ツ議長ニ告ケ且賛成者五名以上ヲ要スル規則ニシテ容易ニ陳述スヘキニ非ス然レトモ空ク意見ヲ抱テ之ヲ無言ニ付スルモ亦遺憾ナル故其要旨ハ既ニ議長ニ告ケタリ今其意見ヲ陳述ス幸ニ賛成者アレハ余カ満足スル所ナリ抑今此法ヲ布告スルニ付テハ其既往ニ關涉スル者モ裁判上ノ便利ヲ得ル爲メ布告前ノ證書モ盡ク此法ニ遵テ書改ムヘキヲ掲タリ此ノ如クナレハ裁判官モ諸件ニ様ニ處分スルヲ得ヘケレハ固リ便利ナル

余ノ修正ノ如クシテ之ヲ存スルヲ可トス

○一番齊藤曰 八番修正ノ説ハ其詳ニシテ余モ同意ナリ仍テ之ヲ賛成ス

○二十番津田曰 余モ八番ヲ賛成ス

○四番眞道曰 余モ賛成ス

○十八番美福曰 余モ亦賛成ス

○二十番出美津田曰 別段ノ建言ヲナサン乃チ他ニ非ス讀會規則第十一條ニ五名以上ト指スハ議官ノ惣人員ヲ以テスルナリ本日ハ出席人員殆ント惣人員ノ半ニ及ハス此少人數ニシテ四人ノ賛成アリ今日ノ如キ少人數ノハ稀ナル故規則ヲ變通スルヲ得レハ幸ナリ一名ノ不足ヲ以テ此修正ノ廢棄トナルハ如何ニモ残念ナリ願クハ議長ニ於テ規則ヲ變通スルヲ衆議ニ諮問アランコトヲ

○外一番尾崎曰 八番ノ修正ニ付テ四名ノ賛成アリ二十番ノ獻言アリ今一人ノ賛成アレハ其説ヲ用フルニ至ラン其有無ハ未タ知ルヘカラス然ルニ二十番ノ獻言ハ甚權限外ノコナリ人員ノ多少ニ依テ規則ヲ變通スルコトナレハ此規則ニ附則シテ變通スルコトアルノ文字ナカラス故ニ余ハ二十番ノ建議ニハ不同意ナリ抑モ本案附則ノ事ハ其月日迄掲ケ昨年起草シ本年一月發布スル積リニテ延引セシ者故不都合ア

利息制限法

事ナル可シ然レトモ此法布告前ニ關スル者ヲ總テ之ニ引直サシムルコト故ニ人民約束上ノ事ヲ政府ノ權力ヲ以テ書改メシムルハ甚不當ナルノミナラス之ヲ爲スコトアルモ唯書面上ニ視レハ容易ナレト其實際上ニ至テハ誠ニ做難キコトナリ如何トナレハ各地方唯其同地方ノミノ人民相互ニ約束セシコトナレハ猶可ナリト雖モ假令ハ長崎ノ人民カ東京ノ人民ト約束シ或ハ北海ノ者カ南海ノ者ト約束シタル等遠方ニ關涉スルコトモ多々アル可シ今日ノ如キ騷擾ノ際文書往復ニテ證書ヲ書改ムルハ誠ニ做難キコトナリ就テハ此等ノ弊ヲ避ルコトヲ考ヘサル可カラス其法如何ト問ヘハ佛國ニ於テ金利ノコトヲ布告セシ時恰モ此附則ニ同シキコトアリ其法ハ人民ノ當初ノ約束期限迄ハ必ス其約束ノ利息ニシテ其期限後ハ新法ニ依ラシムルナリ今此法ニ依ル明治十年五月三十一日迄ハ元ノ約束ノ利ニシテ手ヲ付ケス五月三十一日後ハ同シ約束期限中タリトモ本年五月三十一日ヲ過去レハ總テ新法ニ依テ處分スル意ナル可シ是レ甚タ不可ナル所以ナリ故余ハ前言ニ陳スル佛國ノ仕方ニ基キ之ヲ修正セント欲ス即チ此附則ハ此布告以前ニ係ル貸借ハ其當初契約ノ期限ヲ經過スル以後ハ總テ本法ニ依テ裁判スヘシトノ意トセントスルナリ或ハ此附則ハ刪除スルヲ宜シトスル説アルヘケレト余ハ矢張り

レハ今其意ヲ演舌セント欲セシ場合ナリ乃チ此附則ノ月日ハ内閣ニ於テ伸縮シ或ハ之ヲ修正スル事アルモ亦是レ必竟行政上ノ權限ニシテ宜シキコトナレト孰レニモ八番ノ修正ハ余モ之ヲ賛成セント欲スルナリ

○議長曰 五名以上ノ賛成者アルニ非レハ修正スルヲ得サル規則故二十番ノ獻言ハ議長ニ於テ問題トスルヲ得ス又内閣委員ハ原案ヲ主持スル職ニシテ修正說ヲ賛成スル事ハナシ然レトモ議場ニ於テ内閣委員ハ議官同様ノ權利ヲ持ツナリ今日八番ヲ賛成シ本案ニ於テハ此迄ノ議案ト違ヒ八番修正ノ如クセサルヲ得サル説アリ然レハ委員ヲ一ノ議官ト認メ賛成五名中ニ算入スヘキ歟否ヤ各議官ノ意見ヲ聞カン

○二十番出美津田曰 更ニ建言セン三讀會ニ五名ノ賛成ヲ要スルハ決議ニ付テノ事ナリ然ルニ内閣委員ハ決議ニ加ルヲ得ス余ノ前建言ハ明文ナキヲ以テ取消トナリ決議ニ關セサル委員ヲ賛成ノ一人ニ加ルコトハ甚不都合ナリ

○議長曰 讀會規則第十一條ヲ案スルニ五名ノ賛成ヲ得テ修正說用ヒラル、トハ乃チ問題トナル其上ニテ其修正ノ如ク決スル歟否ヤ未タ之ヲ知ル可カラサルナリ又五名ト指スモ決議ノ數ニ加ハル者ニ非レハ不可ナル歟否ヤハ明記ナシ併シ内閣委員ノ修正說ヲ賛成シタルコトハ曾テ得遺失物律會

議ノ節ニアリ且委員出院ノ時ハ議官ト同様ノ權限アリ然レ
モ今日ノ場合ヲ處分スルハ條例中其明文ナキ故ヲ以テ各議
官ノ意見ヲ聞ント欲ス若シ二十番議官之ニ不同意ナレハ決
議ノ時起立セサル可シ都テ議場ニ葛藤ヲ生スルキ其處分ヲ
各議官ノ意見ニ聞クコトヲ得ルハ議長ノ權内ニ在リ故今余ハ
各議官ノ意見ヲ取ラントスルナリ

○又曰 余ノ職掌ヲ以テ二十番ニ答フルハ前段ノ如シ扱内閣
委員ヲ賛成者ノ一人ト認メテ可ナリヤ否ヤハ乃チ各議官ノ
見込ヲ聞カン

○番一尾崎 只今議長ノ演述ハ内閣委員ノ賛成者一人ヲ
外三郎 得ルルヤ否ヤノ問題ナリ然レモ讀會規則文面上ノ精神ハ
五人ト指スハ議官ノコニシテ内閣委員ニ非スト思フナリ

○十八番 美靜 廿番並ニ番外一番ノ建言アリ其事明文ナキ
者ナルヲ以テ番外一番ノ建議ヲ衆議ニ決シ廿番ノ建議ハ取
消トスルハ不可ナリ余ハ兩方トモ順序ヲ逐テ決ヲ取ルヲ可
ナリトス

○議長曰 二十番ノ建言ハ其疑フ所ナキ者故ニ之ヲ取消トス
若尙ホ其意ヲ達セントナラハ別段ノ建議アリテ可ナリ内閣
委員ヲ賛成者ノ一人トスルノ如キハ議長ニ於テ議事條例讀
會規則等ヲ參考スルニ明文ナク甚惑ヘリ故ニ各議官ノ意見

起立スヘシ

起立者五人

○議長曰 今附則ノ決議ニ於テ出席議官ノ起立半數ニ至レリ
是レ議長ノ職ヲ以テ其決ヲ爲スノ機會ナリ余ハ乃チ此附則
ヲ以テ不可トス故ニ刪除スルニ決ス

○番一尾崎 既ニ附則ヲ刪除スル上ハ曩キニ十六番ノ説
外三郎 外三郎曰 既ニ附則ヲ刪除スル上ハ曩キニ十六番ノ説
アル如ク本法ヲ行フ爲メニ設クル附則ナカル可カラス乃チ
更ニ内閣ニ於テ之ヲ附添スルコトアルヘシ

○議長曰 番外一番ノ陳述ハ本日委員ノ職務ニ非ス委員ハ只
本日ノ決議ヲ以テ内閣ニ復命スルニ止マレリ若シ夫レ該案
ノ決議上奏ノ上内閣ニ於テ更ニ附則ヲ附加セントスルキ其
事若シ法律ニ關セサレハ格別ナリト雖モ若シ又法律ニ關ス
ル事アレハ更ニ本院ヲ經過セサルヲ得ス故ニ今日委員ヨリ
他日ノ改正ヲ云々スルニ及ハサルナリ

○番一尾崎 余ハ内閣委員ナル故内閣ノ意ノアル所ヲ一
外三郎 應陳述シ置クノミ

○議長曰 諾本日ハ散會

正午第十二時前十二分閉場

ヲ聞カント欲スルナリ

○又曰 決ヲ取ラントスルニ臨ンテ度々建言アリテハ益葛藤
ヲ生シテ不都合ナリ故ニ建言セント欲スル人ナケレハ最早
其決ヲ取ラン乃チ内閣委員ヲ賛成者ノ一人ト認ルニ同意ノ
議官ハ起立スヘシ

起立者二人

○議長曰 八番ノ修正ハ四人ノ賛成ニ止リテ規則ニ背ク故取
消トス

○十六番 大給 八番ノ修正説ハ既ニ廢棄ニ屬ス然ルニ前刻
委員ノ陳述アル意味ニ付テ余モ修正ヲ加ヘント欲ス固ヨリ
此附則ハ初ヨリ疑ヲ存スレハナリ扱本法ヲ立ルニ付テ附則
ハ乃チ行政上ノ都合ナリ且委員ノ陳述ニテモ此儘ニテハ不
都合アリト云フ元來昨年ノ起草ニシテ漸ク此頃發表ニ到ラ
ントス餘リノ延引ナレハ何ントカ改メサルヲ得サルナリ必
竟行政上ノ都合ニ依ル者ニシテ前ノ五ヶ條トハ異ナレハ全
ク削リ去ルヲ可ナリトス

○議長曰 十六番ノ修正説アリ賛成者ナケレハ廢棄セン

○四番 眞道 十六番ノ説ヲ賛成ス

○議長曰 賛成者少數ニ付十六番ノ修正説ハ取消ス

○又曰 他ニ發言ナキ故決ヲ取ラン乃チ原案ニ同意ノ議官ハ

註 右は明治十年一月廿五日内閣より下附、同年三月十二日會
議に於て附則一條を刪除するに決し、其他は原案を可とす。仍
て其刪除する所以を摘書し同月十四日上奏。(第八十一號議案
參照)

第六十二號議案
變死ニ係ル屍解剖案

元老院會議筆記 明治十年二月七日

○第六十二號議案 變死ニ係ル屍ノ解剖ノ儀ニ付布告 檢視會

議長 陸奥宗光

出席議員

- | | |
|-----|-------|
| 三番 | 佐野常民 |
| 四番 | 水本成美 |
| 五番 | 津田眞道 |
| 七番 | 吉井友實 |
| 八番 | 大久保一翁 |
| 九番 | 柳原前光 |
| 十番 | 佐々木高行 |
| 十二番 | 大給恒 |
| 十三番 | 河野敏録 |

變死ニ係ル屍解剖案

- | | |
|-----|-------|
| 十四番 | 中島信行 |
| 十五番 | 齋藤利行 |
| 十七番 | 黒田清綱 |
| 十八番 | 秋月種樹 |
| 十九番 | 細川潤次郎 |
| 二十番 | 穴戸 璣 |

午前第十一時前二十分開場

○議長曰 本日ハ第六十二號議案ノ檢視會ヲ開ク各員例ニ遵ヒ發言スヘシ
○書記官 藤澤大謙 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告案

變死ニ係ル屍ヲ警察官吏検査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原由ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢事 出ナキ地方長官ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖検査セシムルコトヲ得
○四番 水本成美曰 本案ハ曩ニ本院檢視ニ付セラレ其節余ノ發言ニ依テ抵觸且不備不明ノ理由ヲ具シ上奏アリ今般改正ノ上更ニ檢視ニ付セラル、ニ付尙ホ考フル此ノ如クナルハ完全ナル檢視案ニシテ毫毛喙ヲ容ル、ナシ

○議長曰 他ニ發言ナキ故決ヲ取ラン本案ヲ可トスル議員ハ

起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致本案ヲ可トスル旨ヲ具シ上奏スヘシ
此ヨリ第五十九號議案ノ第三讀會ニ及フヘシ
第五十九號議案第三讀會筆記ハ別冊ニ載ス

右は明治九年十一月十日内閣より下附、同月廿七日の検視會に於て本家中警察長官の四字不明なりと議決す〔第四十五議案參照〕同日其理由を具し太政大臣へ通牒す。

明治十年一月十六日本案を修正し太政大臣回答書を以て再び下附、同月十九日再検視會に於て被兇屍の三字不備不明舊法に苦すと議決す〔第五十四號議案參照〕一月廿二日理由を具し太政大臣へ通牒す。

明治十年二月一日猶本案を改正し太政大臣回答書を以て更に下附、同月七日検視を経過す。同月八日上奏。二月廿一日廿二號を以て布告。

死屍取扱規則 沿革略記

1新律編纂 抄録 三年十二月二十日

凡地界内ニ死屍アルヲ里長地主鄰佑人官司ニ申報セス輒ク他所ニ移シ及ヒ埋藏スル者ハ杖七十水中ニ棄ル者ハ杖一百因テ衣服ヲ盜取スル者ハ賊ニ計ハ竊盜ニ準シ重キニ從テ論ス罪流三等ニ止ル
〔法規分類大全一・刑法門 二ノ二七四〕

2 改定律例 抄録 六年六月十三日

第二百四條 凡變死ニ係ル屍ハ官ノ検視ヲ經ルニ非レハ私擅ニ埋葬スルヲ聽サズ違フ者ハ懲役四十日
〔前掲書 二九六〕

3 明治九年内務省警備第四百六十號達

病死体解剖ノ儀双方熟談ノ上ハ區戸長或醫務取締へ届置患部ノ剖觀不苦候事〔高輪巡查屯所明治十五年版違警備案引便覽 九五〕

4 警視本署達 十一年六月廿六日

變死ニ係ル死屍解剖ヲ要スル時ハ明治十年二月太政官第二十二号公布ニ基キ該分署長ヨリ本署へ伺出指揮ヲ受候儀ト可心得此旨相達候事〔前掲書 九四〕

5 太政官第十二號達 十二年三月五日

官廳内并官有ノ工場及ヒ船艦等ニテ變死傷ニ係ル者自今總テ近傍ノ警察署へ報知シ検視ヲ受クヘシ此旨相達候事

但士官兵卒等ノ陸海軍限リ處分ヲ了シ警察官ノ検視ヲ要セサル分及ヒ航海中變死傷ニ係ル者ハ此限ニアラス〔前掲書 一四一〕

第六十四號議案

人民所有ノ船舶ヲ賣買シ又ハ金穀等借用ノ爲メ書入質入トナサントスル手續ノ儀

元老院會議筆記 明治十年三月五日

○第六十四號議案 人民所有ノ船舶ヲ賣買シ又ハ金穀等借用ノ爲メ書入質入トナサントスル手續ノ儀布 檢視會

議長 陸奥宗光

出席議員

- 一番 齋藤利行
- 四番 津田眞道
- 五番 穴戸璣
- 八番 細川潤次郎
- 十四番 大久保一翁
- 十五番 水本成美
- 十六番 大給恒

人民所有ノ船舶ヲ賣買シ又ハ金穀等借用ノ爲メ書入質入トナサントスル手續ノ儀

午前第十時三十分開場

- 十七番 松岡時敏
- 二十番 津田出

○議長曰 本日第六十四號議案ノ検視ヲ取ル各位之ヲ領セヨ
○書記官 本田親雄 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告案

人民所有ノ船舶ヲ賣買シ又ハ金穀等借用ノ爲メ書入質入トナサントスル時ハ明治八年第九百四十八號布告諸建物書入質及賣買讓渡規則ニ準據シ賣主又ハ書入主ヨリ其船ノ圖面ト約定証書ニ本船管轄地戸長ノ公証ヲ受クヘシ若シ右ノ手續ヲ爲サ、ルニ於テハ其約定証文ハ裁判上尋常金穀貸借証書ト見做スヘシ

但從前書入質ト爲シタル分ハ當明治十年六月三十日迄ニ本文ノ手續ヲ以テ更ニ約定書改正可致尤航海中或ハ不得止事故アリテ右期日マテニ書換難致者ハ其旨豫メ本船管轄地戸長役所へ届置クヘシ

○十六番大給恒曰 本案但書中當明治十年六月三十日迄ニ改正スヘシトスルハ十分ノ猶豫ヲ與ヘタルナリ然ルニ下文又航海中或ハ不得止事故アリテ期日マテニ書換カタク者ハ本管

戸長ニ届出ヘキヲ示ス寛恕ノ意義ニ起ルト雖モ事理深密ニ過キ却テ不明ノ憾ヲ免カレサルナリ故ニ成規ニ從テ通牒セシムルヲ要ス

○十五番水本曰 十六番ノ議ヲ賛成ス

○議長曰 讀會規則中檢視ノ式ヲ明示セス故ニ二月二月第五十八號議案檢視ノ前ニ方リ讀會規則第六條ニ依據スヘキヤ否ノコトヲ以テ衆議ニ附シ全會一致ノ決ヲ得タリ故ニ今之ニ從テ本案ノ決ヲ取ラントス

○八番細川潤曰 予ハ不備不明ナルコト無シト認ム十六番ニ於テ但書ノ不得止事故ノ文ニ説アリ然レモ六月三十日ヲ以テ限レルハ猶ホ北蝦薩南等ノ如キ本令到達ノ速カナラサルヲ察スルモノニ地方ノ遠近ヲ斟酌セシナリ其航海中ト云ハ船舶ノ性質ニ付テノ謂ニ固ヨリ其本分ナリ故ニ其他ノ事故ヲ指テ不得止ト云ノ字ヲ加ヘシモノナリ喩ヘハ這回鹿兒島士族ノ暴舉ニ際シ郵船太平丸ノ繫留セラレシハ航海中ニアラスノ碇泊中ニアリ如此ノ無測ノ變ト又炭水ノ欠乏綱具器關等ノ欠損ニヨリ碇泊スル等ノコトニ至リテハ實ニ不得止ノ事故ニ更ニ二分ノ寛恕ヲ與フルコト又宜ヘナラスヤ故ニ予ハ本案ヲ以テ十分明瞭ナリト認ム

○一番齋藤曰 八番ノ陳述全ク予ト同案ナリ故ニ別ニ贅セス

○議長曰 十六番ヨリ不得止事故ノ字ヲ認メテ不明ナリト爲スノ動議アリ十五番之ヲ賛成ス今十六番ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者三人

○議長曰 少數ナルヲ以テ十六番ノ説ハ取消シタリ本案ニ不備不明ノ事項ナシト認ムル議官ハ起立スヘシ

起立者五人

○議長曰 多數ヲ以テ本案ニ不備不明ノ事項ナキニ決セリ依テ成規ニ從ヒ即日本案ヲ奉還スヘシ

午前第十時五十分閉場

○右は明治十年二月廿七日内閣より下附、同年三月五日檢視を經過す。同日上奏。三月八日第二十八號を以て布告。

附則 1 建物書入質規則 明治八年九月卅日第百四十八號布告

第一條 金穀ノ借主又ハ預リ主ヨリ返済スヘキ證據トシテ預ケ

主ニ對シ引當トナス所ノ建物ノ圖面ト証文トニ戸長ノ公証ヲ

受ケタル者ヲ預ケ主ニ渡シ置キタル建物ノ書入質ト云フ

第二條 書入質ト爲ス建物自身所有ノ地所ニ建テ在ルルハ書入

質証文ニ自身持地ノ建物ナルコトヲ記入スヘシ又借地ニ建テ在

ルルハ書入質ヲ爲スモノ其地主ニ請ヒ其地主ヲシテ貸地タル

コトヲ証スルノ書入質ヲ爲サシムヘシ若シ借地ノ建物ニシテ地主

ノ書入質ニ証文ハ書入質ノ効ナキ借用証文ト看做スヘシ

第三條 金穀ノ借主ヨリ建物引當ノ証文ト建物ノ圖面トヲ建

物ノ在ル地ヲ管轄スル戸長役場ニ差出シ戸長ノ書入質印ヲ受

ケタルコトヲ公証ヲ受ケタルト云フ

第四條 建物書入質ノ証文ニ添フタル圖面中ニ書入質ト爲ス所

ノ建物ノ圖ハ朱引朱字ト爲シ書入質ノ外ナル建物ノ圖ハ黒引

黒字ト爲ス可シ第一號書式及ヒ第二

號書式ヲ見合フ可シ

第五條 戸長役場ニ於テハ建物書入質記載帳ヲ備ヘ置キ証文ノ

奥書割印ヲ顯出ル時ハ其大旨ヲ帳面ニ記入シ而シテ帳面ト証

文トニ番號ヲ朱書シ割印ヲ押シ奥書ヲ爲シ圖面ニモ同シ番號

ヲ朱書シ割印ヲ押スヘシ若シ戸長不在ノ節ハ其旨ヲ記シ副戸

長奥書割印ス可シ

第六條 建物ヲ以テ金穀借用又ハ預リノ引當ト爲シタル証文ニ

テ前條ノ規則ニ背キ公証ヲ受ケサル者ハ書入質ノ効ナキニ付

書入質ナキ借用証文ト看做ス可シ

第七條 此規則施行以後建物書入質ノ借用証文又ハ預リ証文ニ

ハ必ラズ返済ノ期限ヲ定ム可シ若シ其期限ヲ定メサル者ハ書入

質ノ効ナキニ付書入質ナキ借用証文ト看做ス可シ

第八條 此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ借用

金穀又ハ預リ金穀ニテ返済期限ノ定メナキ証文ヲ所持スルモ

ノハ明治九年二月廿八日迄ニ金穀預主又ハ其相續人ニ掛合此

規則ニ從ヒタル書入質ノ証文ニ改ム可シ若シ預主又ハ其相續

人証文ヲ改メサルハ明治九年四月三十日迄ニ建物ノ在ル地

ヲ管轄スル裁判所ニ訴フ可シ

但シ明治九年四月三十日ヲ以テ訴人發途ノ期ト定メ其訴人

ノ住所又ハ寄留ノ地所ト裁判所トノ距離毎八里ニ一日ノ猶

豫ヲ與フ

第九條 此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ金穀

借用証文又ハ預リ証文ヲ所有スル者ハ返済満期ニ至ルト至ラ

サルトニ論ナク明治九年二月廿八日迄ニ金穀預主又ハ其相

續人ニ掛合此規則ニ從ヒタル書入質ノ証文ニ改ムヘシ若シ

預主又ハ其相續人証文ヲ改メサルハ明治九年四月三十日

迄ニ建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ訴フヘシ

但書前同斷

第十條 建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ於テハ原告人ノ訴狀

ヲ受取タル日ヨリ三日内ニ裁判所ヨリ被告人ノ建物ノ在ル地

ノ戸長ニ對シタル報知狀ヲ原告人ニ下付シ速ニ戸長ニ送達セ

シムヘシ右ノ報知狀ニハ何縣管下寄留何某ノ訴訟ニ因リ何大

區何小區何番地ノ建物ヲ書入質ト爲ス証文ニ公書スルコトヲ差

留ムル旨ヲ記載スヘシ而シテ其訴訟落着ニ至リシ時ハ公證ノ

差留ヲ解クコトヲ速ニ戸長ニ報知スヘシ

第十一條 第八條及ヒ第九條ノ規則ニ背キ明治九年五月一日以

人民所有ノ船舶ヲ賣買シ又ハ金穀等借用ノ爲メ書入質入トナサントスル手續ノ儀

後ニ至リ此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ金
數預リ證文ヲ所有スル者ハ書入質ノ効ナキニ付書入質ナキ用
預證文ト看做スヘシ

第十二條 一棟ノ建物ヲ二重三重ニ書入質ト爲スコハ嚴禁ナレ
凡若シ第一番ノ金主ヘ書入質ト爲シタルコトヲ第二番ノ金主承
諾ナレハ建物代價ノ餘分ヲ見込ミ又其建物ヲ書入質ニ借添ト
爲スコト得ヘシ尤借主身代價ノ處分ニ至ルハ右建物質ノ
代金ヲ以テ第一番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金ヲ以テ第
二番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ第三番以下右ニ準シ引渡スヘ
ク若シ質賣ノ金高ヲ以テ先ツ第一番ノ金主ヘ元利ノ金數ヲ引
渡シ其餘金第二番ノ金主ヘ引渡スヘキ元利ノ金數不足スル
ハ其不足ノ分ヲ質賣ノハ平常書入質ナキ貸主ニ身代價ノ償
却ノ例ニ從ヒ外物品質賣代價ノ内ニテ相當ノ割賦ヲ以テ引渡
スヘシ

但第二番ノ金主ヘ渡シ置ク書入質ノ証文ニハ建物代價ノ餘
分ヲ見込ミ借添タル旨ヲ書載スヘシ

第十三條 書入質ト爲シタル建物燒失流亡等ニ至リシ時ハ建物
ノ所持主又ハ代理人ヨリ遅クトモ七日内ニ其趣ヲ書面ニ記シ
戸長役場ニ届出ツヘシ戸長役場ニ於テハ建物書入質記載帳ノ
朱書番號ニ引合セ朱筆ヲ以テ點合ヲ爲シ其傍ニ燒失流亡等ノ
趣ヲ略記シ年月日ヲ記シ戸長ノ實入ヲ押スヘシ見合スヘシ
第十四條 書入質ノ建物燒失流亡等ニ至リシハ貸主ヨリ借主
ニ對シ代價ヲ受取ルコトヲ求メテ爲スコト得ヘシ若シ借主代
價ヲ出スコト肯ハス又ハ出シ能ハサルハ借用金數返済期
限未滿内ト雖モ貸主ヨリ借主ニ對シ元利返済ヲ求ルノ訴ヲ爲
スコト得ヘシ

2 建物質買讓渡規則

第一條 自身所有ノ地ニ建テル建物ヲ賣渡シ又ハ讓渡シテ爲
サント欲スル者ハ賣渡證文ト圖面トニ戸長ノ與書割印ヲ受ク
可シ又借地ニ建テル建物ノ賣渡證文ニハ其地主ニ請ヒ其地
主ヨリ貸地タルコトヲ證スルノ與書ヲ受ケタル上ニテ戸長ノ與
書割印ヲ受ク可シ

第二條 建物ノ買受ケ又ハ讓受ヲ爲サント欲スル者ハ自身又ハ
其代人建物ノ在ル地ノ戸長役場ニ至リ建物書入質記載帳ヲ見
合シタル上其讓渡ノ證文ヲ受取リ然シテ後ニ戸長役場ニ至リ
戸長又ハ割印長ノ面前ニテ何大區何小區何番地ノ何番ノ建物
ヲ何某ヨリ讓受タル旨ヲ書入質記載帳ニ記入シ年月日並ニ苗
字名ヲ記シ實印ヲ押スヘシ若シ此手續ヲ爲サ、ルハ建物
買受ノ効ナキニ付建物ノ代價ヲ受取リタル旨ヲ記シタル建物
賣渡證文ハ金銀借用證文ト看做ス可シ見合スヘシ

第三條 戸長役場ニ於テ建物賣渡證文ノ與書割印ヲ顯出ル時ハ
是亦建物書入質記載帳ニ記入スルコト及ヒ證文ニ與書シ圖面ニ
割印スルコト建物書入質規則第五條ニ準シ公証ヲ與ルノ手續キ
ヲ爲スヘシ

第四條 書入質ト成リタル建物ヲ買受タル者ハ其建物ノ書入質
トナリタル金數ノ償却ヲ引受クヘシ但シ買受人ニ於テ其建物
所有ノ權ヲ拋棄スル時ハ書入質ノ金數ノ償却ヲ引受クルニ及
ハス

第五條 第四條ノ場合ニ於テ戸主ノ後ヲ受ケタル相續人ハ前戸
主ヨリ讓受ケタル建物所有ノ權ヲ拋棄スト雖モ書入質ノ金數
ノ償却ヲ引受ク可シ (元老院 伊呂波別現行法 二〇五)

第六十五號議案

明治八年内國難破船及漂流物
取扱規則第三十七條改正案

元老院會議筆記 明治十年三月八日

○第六十五號議案 内國難破船及漂流物取扱規則第三十七條改正 檢視會

議長 陸奥 宗光

出席議員

- 一 齋藤利行
- 二 津田眞道
- 三 穴戸 璣
- 四 黒田 清綱
- 五 細川 潤次郎
- 六 大久保 一翁
- 七 水本 成美
- 八 大 給 恒
- 九 松岡 時敏
- 十
- 十一
- 十二
- 十三
- 十四
- 十五
- 十六
- 十七

明治八年内國難破船及漂流物取扱規則第三十七條改正案

二十番 津田 出

午前第十時開場

○議長曰 本日第六十五號議案ノ檢視ヲ取ル各位之ヲ領セヨ

○書記官 左ノ議案ヲ朗讀ス

第三十七條改正案

暴風雨等ニテ流失ノ材木ヲ取揚ル時ハ此規則第二十九條以
下ニ照準シ其代價拾分ノ壹ニ過キサリ取揚料ヲ遺スヘシ

○一 齋藤曰 明治八年四月第六十六號布告第三十七條ニ暴
風洪水ニ依リ材木物品等ヲ保安スル時ハ漂流物取扱規則ヲ

通用スヘキヲ示シテ其取揚料ノ定則ヲ揭ケス故ニ其遺漏ヲ
補フカ爲メ十分一ニ過キサリ取揚料ヲ與フヘキノ標準ヲ定
ムルニ過キス字句ノ間又不備不明ノ事項アルコトナシ例ニ從
テ本案ヲ奉還シテ可ナリ

○議長曰 他ニ發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案ニ不備不明ノ
事項ナシト認ムル議員ハ起立スヘシ

衆員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ則チ本案ハ不備不明ナキニ決
ス成規ニ從テ即日之ヲ奉還スヘシ

午前第十時五分閉場

翻 法規分類大全運輸門二ノ二五頁 漂著の部(二條以下)參照

右は明治十年三月三日内閣より下附、同月八日檢視を經過す。同日奏。三月十日第二十九號を以て布告。

1 内務省 九年十一月 (日附)

客歲六十六號難波船并ニ漂著物取扱規則第三十七條漂流シタル材木物品ヲ保安スルトキハ此漂著物ノ規則ヲ通シ用ユヘキ旨掲載有之候處元來材木伐出ノ事タル他ノ尋常一般ノ通船杯トハ稍其趣ヲ異ニ致シ候間隨テ右流失材處分ノ儀モ他ノ漂著物同様難取扱事情有之實際甚差支ノ筋不少何トナレハ材木伐出ノ儀ハ多クハ皆ナ山溪峻流ノ場所散運致シ候儀ニ付不幸ニシテ一朝降雨過度ナルニ當リテハ百溪奔注諸川一時ニ暴漲シ材木散亂百方之ヲ防禦スルモ支ニル能ハス遂ニ積日萬苦伐採運搬セシモノ忽地之ヲ流失シテ或ハ遺スナキニ至ル其情況殆ソト憫諒ニ堪ヘサル次第ニ有之然而テ其流材往々諸川ノ沿邊ニ漂附シ所在居民ノ拾取スル所ト相成於是材主各自拾主ニ就テ相當ノ手数料ヲ償ヒ再ヒ更ニ之レヲ取廻メ運搬致シ候儀ニ有之然ルヲ右規則ニ照準其都度代價三分一ノ保安料ヲ償候テハ拾主ニ於テハ左程ノ手数料ヲシテ許多ノ利ヲ俸伴シ其材主ニ取テハ縱令再ヒ流失材ヲ得ルモ最前許多ノ入費相當候上尙又三分一ノ保安料ヲ償フトキハ實ニ其得失ノ相償ハサルノミナラス是カ爲メ莫大ノ損失ヲ受ケ遂ニ破産ノ場合ニ立至リ候モノ比々有之苦情百端訴相望ミ實際

殆ソト困難ノ筋不少就テハ地方官於テ可成穩當ヲ主トシ變方示談ヲ遂ケ候儀及設論候ヘトモ動モスレハ紛議ヲ生シ不得止規則ニ照シ致處分候處遂ニ前顯ノ次第ニ立至リ申候若シ如此シテ止マサレハ從來山業ヲ以テ生ヲ營スル者ハ勿論其他右ニ關スル業體ノモノハ最早廢業スルノ外他策無之且又其影響獨リ此ニ止マラス遂ニ一般ノ融通ニモ感觸シ其利害ノ經濟上ニ關係スル少々ナラス殊ニ方今森林事業ノ儀ニ付テハ逐々御世話モ有之候間自今流失材ニ限リ更ニ別紙ノ通り取扱規則御定相成可然ト存候此段上申仕候間至急御指揮被下度候也

2 法制局議案 十年二月十九日

別紙内務省何流失材取扱規則ノ件審案候處何出ノ主旨ハ諸川流失材ノ保安料ヲ十分一ニ減少セント欲スルニ過キス而ルニ漂流物規則ノ外更ニ如此煩碎ノ規則ヲ設ルトキハ民其繁冗ニ勝ヘス且各地方從來慣習ニ於テ便宜ノ方法アルモ爲メニ障害セラレ實際上却テ不都合ヲ生スヘキニ付特ニ漂流物取扱規則第三十七條左案ノ通り改正相成可然哉尤主任ノ者喚問候處異議無之ニ付諸案調査仰高裁候也

3 指 令 十年三月十日

何之趣聞屆難破船及漂流物取扱規則第三十七條第二十九號布告ノ通告正候條別段規則ヲ設クルニ及ハサル儀ト相心得ヘシ (以上、法規分類大全運輸門二ノ一五〇)

第六十六號議案

明治十年郵便規則中改正案

元老院會議筆記 明治十年三月十五日

第六十六號議案 本年郵便規則 檢視會 中改正ノ件

議長 陸奥 宗光

出席議員

- 一 齋藤利行
- 二 齋藤利行
- 三 佐野常民
- 四 黑田清綱
- 五 細川潤次郎
- 六 大久保一翁
- 七 水本成美
- 八 吉井友實
- 九 吉井友實

午前第十一時前二十分開場

議長曰 本日ハ第六十六號議案ノ檢視會ヲ開ク然ルニ本案

明治十年郵便規則中改正案

ハ檢視條例第四條ニ依テ便宜布告後ノコナレトモ例ニ遵ヒ發言スヘシ

書記官 本田 親雄 左ノ議案ヲ朗讀ス

本年郵便規則中第六十一節左ノ通告正候條此旨布告候事 第六十一節 一爲替証書一枚ノ金高ハ貳拾圓迄ニ限リ端數ハ厘位迄ニ限ルヘキ

八番細川潤次郎 本案ニ付テハ一種紙觸ノ廉ヲ見出セリ抑布告本文ハ第六十一節爲替証書金高原三十圓ニ限ル者ヲ十圓減シテ二十圓ト改ルニ過キス此丈ケナレハ紙觸モナシ然レモ只此一節ヲ改テ其第六十三節爲替料ヲ改メサレハ不都合ナリ何トナレハ爲替料中ニハ三十圓迄十五錢ノ文アリ原爲替証書金高三十圓ヲ限ル故彼此トモニ宜シ今其証書ノ方ヲ壹枚ノ金高二十圓ニ限リ其爲替料ノ方ハ尙ホ三十圓迄拾五錢トアルヲ存スルハ二十圓外ノ拾圓ハ只三錢ノ割ニ當ル改正ノ如クスレハ二十圓ニ付十二錢更ニ十圓ニ付八錢合シテ二十錢トナルヘキ者ナリ然レハ第六十三節中同二十圓以上三十圓迄拾五錢ノ十三字ヲ刪除スルニ非サレハ當ニ文字体裁上ニ於テ紙觸スルノミナラス實際爲替料ノ處置ニ至テ大ニ迷フ可キ者アラシ畢竟百六十三節ヲモ改ムヘキ

ヲ偶々前後參照ヲ失セシ者アルヘシ仍テ此理由ヲ具シ通牒
改正ヲ求メント欲ス

○六番佐野 八番ノ陳述ハ甚明瞭ナリ仍テ之ヲ賛成ス

○議長曰 八番ノ説ヲ六番ニ於テ賛成セリ仍テ此ヲ問題トス
各議員意見アラハ發言スヘシ

○十五番水本 余モ八番ト同ク牴觸ト認ム畢竟起草ノ調ヘ
疎漏ナレハ更ニ改正ヲ求ムルヲ至當トス

○議長曰 他ニ發言ナキ故決テ取ラン八番ノ説ヲ可トスル議
官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ニ依テ例ノ如ク通牒ヲ求ムヘシ

午前第十一時閉場

○右は明治十年三月十二日(同日第卅號を以て便宜布告の後)
内閣より下附、三月十五日檢視會に於て本案は改正を求むべき
に議決す。同月十六日其理由を具し右大臣に通牒す。

1 内務省伺 十年三月三日

郵便規則第六十一節爲換證書一枚ノ金高三十圓マテト有之候

處追々右爲換數増殖致シ從テ準備ノ不足ヲ生シ到底目今ノ景狀
ニテハ豫テ御制可ノ準備金ヲ以將來執行可相成目途無之候間此
際證書一枚ノ金高二十圓マテト御改正相成度依之御布告案相添
此段相伺候也

2 法制局議案 十年三月七日

別紙内務省伺郵便規則第六十一節更正ノ儀看詳候處實際上ノ
都合不得止譯ニ付御許可相成可然哉依テ仰高裁候也

3 元老院申渡 十年三月十六日

本年郵便規則中第六十一節改正案便宜布告後本月十二日下附
相成昨十五日本院ニ於テ檢視候處第六十一節爲換證書金原ノ
三十圓ヲ二十圓ト改ルノミテハ其第六十三節ニ抵觸ス如何
トナレハ第六十三節ニ爲換料ハ五圓以下五圓迄五錢五圓以上
十圓迄ハ八錢十圓以上二十圓迄十二錢二十圓以上三十圓迄十五
錢トアリ今爲換證書一枚ノ金高ヲ二十圓ニ限リ其爲換料ハ尙ホ
三十圓迄十五錢トアルヲ存スルハ二十圓外ノ十圓ハ只三錢ノ
割ニ當ル畢竟改正ノ如クスレハ二十圓ニ付十二錢更ニ十圓ニ付
八錢合シテ二十錢トナルヘキ者ナリ故ニ第六十三節中「同二
十圓以上三十圓迄十五錢」ノ十三字ヲ刪除スルニ非レハ當ニ文
字兼裁上ニ於テ抵觸スルノミナラス實際爲換料ノ處置ニ至テ大
ニ感ヲ可キ者アラントス故ニ改正ヲ求ムヘキニ議決ス依テ其理
由ヲ具シ御通牒ニオヨヒ候也 (法規分類大全運輸門ノ三〇)

第六十七號議案

新律綱領中謀殺祖父母父母律 第二項改正案

元老院會議筆記 明治十年四月六日

○第六十七號議案 謀殺祖父母父母律 第一讀會

議長 陸奥 宗光

出席議員

- | | |
|-----|-------|
| 四番 | 佐野常民 |
| 六番 | 津田出 |
| 七番 | 福羽美靜 |
| 九番 | 黒田清綱 |
| 十番 | 細川潤次郎 |
| 十一番 | 齋藤利行 |
| 十二番 | 大久保一翁 |
| 十三番 | 津田眞道 |
| 十四番 | 宍戸 璣 |

新律綱領中謀殺祖父母父母律第二項改正案

謀殺祖父母父母律第二項改正案

若シ五等親以上ノ尊長卑幼ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者ハ各圖
毆律内尊長故殺卑幼律ニ依リ二等ヲ減スル律ヲ改メ減五等
ニ從フ

○外一審 鶴田曰 本案改正ノ主意ハ他ナシ會テ新律綱領ヲ編
定アリシ時ハ三流一減ナルヲ以テ乃チ本律二等ヲ減スルニ
テ權衡宜シケレトモ其後改定律例流ノ三等ヲ三等トナシ減
スルニ至リ本律二等減ニテハ謀殺ノ未タ人ヲ傷セサル者ヨ
リ却テ重シ新律ノ時ハ權衡ヲ得レト今日ニテハ甚タ不都合
ナリ全ク改定律例修撰ノ時改正スヘキヲ偶マ調ヘ落セル者

午前第十一時前五分開場

○議長曰 本日ハ第六十七號議案第一讀會ヲ開各員例ニ遵テ

討論スヘシ

○書記官 藤澤 左ノ議案ヲ朗讀ス

- | | |
|----------|--------------|
| 十六番 | 柳原前光 |
| 十七番 | 秋月種樹 |
| 十八番 | 大給 恒 |
| 二十番 | 水本成美 |
| 内閣委員 外一審 | 太政官大書記官 鶴田 皓 |

ナリ故ニ此回司法省ヨリ内閣ニ改正ノ儀ヲ上申アリテ此議案トナレルノミ

○二十番水本曰 本案ニ付テ今委員ノ説明アル如ク新律ノ時ハ三流一減ナリ改定律ニ至テ三流各一等減トナル故ニ今日ハ權衡不都合ナリ仍テ速カニ二讀會ニ附セラレシムヲ希望ス

○十番細川潤曰 番外一番ノ説明又二十番ノ陳述モアル如ク固ヨリ本案改正ノハ權衡上改メサルヲ得サル明瞭ナリ加ルニ都テ酷ヨリ寛ニ移ル譯ニテ其移ル所以モ外ノ權衡ヨリ生スルコトナレハ此ヨリ上ノ事ハナシ或ハ輕キニ過ル説モアラシク併シ改正ノ五等減ニシテ謀殺ノ未タ人ヲ傷セサル者ニ比シ權衡モ適當ナリ本日ハ大意ニ付テ陳述スル先ツ此ニ止ル

○議長曰 他ニ發言ナク既ニ委員ノ説明モアリ他ノ議員ノ陳述モアレハ議案トナシ來ル九日第二讀會ニ附スヘシ
午前第十一時十五分閉場

元老院會議筆記 明治十年四月十八日

○第六十七號議案 謀殺祖父母父母律第二項改正 第二讀會

殿律內尊長故殺卑幼律ニ依リ二等ヲ減スル律ヲ改メ減五等ヲ從フ

○二十番水本曰 本案ハ第一讀會ニ於テ委員ノ説明アリ余モ陳述セシ如ク新律ヨリ改定律例ニ至テ不權衡ヲ生スル者ナレハ改正セサルヲ得ス此題號ニ謀殺祖父母父母律第二項改正案トアリ而シテ其本文ヲ視ルニ改ル所ハ僅カニ減五等ニ從フノ六字ノ外ナシ故ニ一ノ内ノ字ヲ加ヘ第二項內改正案トスレハ本文前後ノ章句ニ對シテ明カナラン又一讀會委員説明中ニ改定律例編製ノ時本律不權衡ヲ見遺シタルナリト云ヒシ歟ト覺ユレトモ決シテ見遺シタルニ非ス既ニ江藤新平司法卿タル時都テ尊長ノ卑幼ニ對シ壓制ニ過ルアリ故ニ暫ク之ヲ改正セスト云ヒシナリ委員ハ其節洋行中ニテ詳ニセサル者ナルヘシ余ノ意見ハ唯一ノ内ノ字ヲ加ル修正ナリ

○十八番大給曰 廿番ノ説ヲ贊成ス

○議長曰 廿番ノ修正説ヲ十八番贊成ス今之ヲ議場ノ問題トス各議員意見アラハ發言スヘシ

○外一番齋藤曰 本案題號ノ如クシテハ第二項ヲ悉ク改正スル様ニ覺ユ即チ二十番ノ説ノ如ク内ノ字ヲ加ルハ固ヨリ然ルヘシ

新律綱領中謀殺祖父母父母律第二項改正案

議長 齋藤利行

出席議員

- 七番 福羽美靜
 - 九番 黒田清綱
 - 十番 細川潤次郎
 - 十二番 大久保一翁
 - 十三番 津田眞道
 - 十四番 松岡時敏
 - 十五番 宍戸璣
 - 十七番 秋月種樹
 - 十八番 大給恒
 - 二十番 水本成美
- 内閣委員 番外一番 太政官大書記官 鶴田皓

○議長曰 本日ハ第六十七號議案第二讀會ヲ開ク各員例ニ遵ヒ討論スヘシ

○書記官本田親雄 左ノ議案ヲ朗讀ス

謀殺祖父母父母律第貳項改正案

若シ五等親以上ノ尊長卑幼ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者ハ各罰

○十番細川潤曰 本案ハ第一讀會ニ同意ヲ述ヘタリ本日二十番ニ於テ僅カノ修正アリ今問題トナリ既ニ委員モ之ヲ可ト

セリ然レモ本院ヘ下附ナルニ付テノ題號ナレハ之ヲ布告スルニ至テハ一定ノ布告文トナシ題號ハ取除クヘケレハ敢テ要用ニモ非サルヘシ假令ヒ取除クニセヨ第二項ノ字ハ布告文中ニモ入ルヘキ者ナレハ今日之ヲ論シ置ク余固ヨリ異論ナシ

○議長曰 他ニ發言ナキ故決ヲ取ラン廿番ノ修正ヲ可トスル議員ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ニ依テ廿番ノ修正ヲ可ト決ス乃チ來ル廿三日第三讀會ヲ開クヘシ
午前第十時三十五分閉場

元老院會議筆記 明治十年四月二十三日

○第六十七號議案 謀殺祖父母父母律第二項改正 第三讀會

議長 齋藤利行

出席議員

- 七番 福羽美靜
 - 九番 黒田清綱
 - 十番 細川潤次郎
 - 十二番 大久保一翁
 - 十三番 津田眞道
 - 十四番 松岡時敏
 - 十五番 穴戸 璣
 - 十七番 秋月種樹
 - 十八番 大給 恒
 - 十九番 吉井友實
 - 二十番 水本成美
- 内閣委員欠席

午前第十時開場

○議長曰 本日ハ第六十七號議案第三讀會ヲ開ク各員例ニ從ヒ討論スヘシ

○書記官本田 親雄 左ノ議案ヲ朗讀ス

謀殺祖父母父母律第二項改正案

若シ五等親以上ノ尊長卑幼ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者ハ各關毆律内尊長故殺卑幼律ニ依リ二等ヲ減スル律ヲ改メ減五等

○ 右は明治十年三月卅日内閣より下附、四月廿三日會議に於て本案題目中「謀殺祖父母父母律第二項内左ノ通改正條條此旨布告候事」と修正を加ふべきに決す。仍て院議を摘書し同日上奏。四月廿六日第四十號を以て布告。

1 司法部上申 十年三月十六日

謀殺祖父母父母律若シ五等親以上ノ尊長卑幼ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者ハ各關毆律内尊長故殺卑幼律ニ依リ二等ヲ減ストアリ例へハ關毆律内三等親以下ノ尊長卑幼ヲ故殺スル者絞トアルヲ綱領ノ減法ヲ以テ二等ヲ減スレハ懲役三年トナリ凡人謀殺律謀テ已ニ行フ者懲役三年トアルニ權衡相同シ然ルニ改定律例ノ減法ニ依テ二等ヲ減スレハ懲役十年トナリ尊長ノ犯却テ凡人ヨリ重ク相成因テ凡人ニ比シ五等ヲ減セサレハ權衡平ヲ得ス又二等親ハ三等減一等親ハ二等減ニテ舊減法ニ相當致シ候へ共已ニ三等親ニ五等ヲ減スレハ二等親一等親モ同ク五等ヲ減シテ權衡的當ス可シト存候因テ別紙ノ通御改正相成度御布告案ヲ添此段及上申候也

2 法制局議案 十年三月二十七日

別紙司法省上申謀殺祖父母父母律改定ノ儀審案候處伺ノ趣事理當然ノ儀ニ付御裁可相成元老院議定ニ被付可然哉仰高裁候也

(以上、法規分類大全一・刑法門二ノ三七)

新律綱領中謀殺祖父母父母律第二項改正案

ニ從フ

○二十番水本曰 本案ハ可ナリ但第二讀會ニ於テ陳述スル如ク修正ヲ加ヘント欲ス併シ聊ノコト故修正案ヲ捧ケス乃チ題目第二項ノ下ニ内ノ一字ヲ加ヘントスルナリ其所以ハ本案ノ要旨ハ本律第二項中二等ヲ減スルヲ減五等ニ從フニ改正シテ其他下文ハ原律ヲ存スル者ナレハ謀殺祖父母父母律第二項内ノ改正ニ止ル然ルニ議案題目ハ單ニ第二項改正トス即第二項ノ全文ヲ改正スルナリ若シ布告ノ際此題目ノ如クナレハ原律已ニ傷スル者ハ一等ヲ減ス已ニ殺ス者ハ故殺律ニ依ルノ數句存セスシテ減等ノ準據トナスヘキ者ナキニ至ラン故ニ一ノ内ノ字ヲ加ルヲ然リトス第二讀會ニ於テ賛成者モアリ又内閣委員モ異論ナキコトナレハ速カニ確定アランコトヲ希望ス

○十八番大給曰 余ハ二十番ノ説ヲ賛成ス願クハ速カニ決議アラント

○議長曰 他ニ發言ナキ故決ヲ取ラン二十番ノ修正ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ニ依テ二十番ノ修正ヲ可ト決ス

午前第十一時閉場

謀殺祖父母父母律 沿革略記

3 違 抄録 元年十一月十三日

一殺君父ノ大逆罪ハ臨期勅裁之上可處磔刑事

其他磔罪廢止之

(前掲書二五)

4 刑部省上申 抄録 二年月日缺

父母及夫ヲ殺 磔 (前掲書二八)

5 (新律綱領抄録) 謀殺祖父母父母律 三年十二月廿日

凡祖父母父母及ヒ伯叔父姑兄姉若クハ外祖父母夫夫ノ祖父母父母ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者ハ皆斬已ニ殺ス者ハ皆梟三等親以下ノ尊長ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者首ハ流一等從ハ徒三年已ニ傷スル者首ハ絞從ハ加功スル者加功セサル者并ニ凡人ト同ク罪ヲ論ス已ニ殺ス者ハ皆斬

若シ五等親以上ノ尊長卑幼ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者ハ各關毆律内尊長故殺卑幼律ニ依リ二等ヲ減ス已ニ傷スル者ハ一等ヲ減ス已ニ殺ス者ハ故殺律ニ依ル

(前掲書二六)

6 (改定律例抄録) 謀殺祖父母父母條例 六年六月十三日

第百六十八條 凡祖父母父母及ヒ伯叔姑兄姉若クハ外祖父母夫夫ノ祖父母父母ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者ハ皆斬ニ處スル律ヲ改メ皆絞

(前掲書二九)

第六十八號議案

鳥獸獵規則へ追加案

元老院會議筆記 明治十年十一月二十六日

○第六十八號議案 鳥獸獵規則 追加布告 第一讀會

議長 有栖川 熾仁

出席議員

- 一番 穴戸 璣
- 二番 楠田 英世
- 三番 齋藤 利行
- 四番 秋月 種樹
- 五番 東久世 通禧
- 六番 福羽 美靜
- 七番 柳原 前光
- 八番 佐々木 高行
- 九番 陸奥 宗光
- 十番
- 十一番

明治十年鳥獸獵規則へ追加案

- 十二番 水本 成美
- 十三番 佐野 常民
- 十四番 津田 出
- 十五番 大久保 一翁
- 十六番 河野 敏錄
- 十七番 大給 恒
- 十八番 細川 潤次郎
- 十九番 津田 眞道
- 二十番 櫻井 能監

内閣委員 番外 一 太政官少書記官

午前第十時十五分開場
議長曰 本日ハ第六十八號議案ノ第一讀會ヲ開ク各位例ニ
遵テ發論ス可シ

書記官 本田 親雄 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告案

本年一第拾壹號布告鳥獸獵規則へ第拾八條同第九條へ但書
左ノ通追加候條此旨布告候事
第拾八條
一開拓使管内ニ入り鹿獵ヲナサント欲スル者ハ別段該使施
行ノ規則ニ遵フ可シ

第九條

一獵銃ハ云

但開拓使管内ニ限リ和銃玉目拾及以下ヲ用ユルヲ得ヘシ

○番一 櫻井曰 本案ハ本年一月第十一號布告ヘ二項ヲ追加スル者ニシテ其一ハ第十八條即チ新定ノ者ニ係リ其二ハ第九條ニ附加スル所ノ但書是レナリ今先ツ第九條ニ但書ヲ追加スル所以ヲ開陳シ次ニ第十八條ヲ新定シタル理由ヲ述ントス而シテ此兩項共ニ素ト專ラ開拓使管内ノ事ニ關シテ唯一地方ニ止マル者ナルヲ以テ其使廳ノ請ニ委セ既ニ之ヲ允許シタリ然レモ其獵則他管轄ノ人民ニ關係アルヲ以テ之ヲ鳥銃獵規則ニ掲ケテ一般ノ國法ト爲サ、ルヲ得ス抑開拓使ハ維新以後ノ創立ニ係ルヲ以テ諸事總カニ緒ニ就クノミ且土地曠漠人口稀少ニシテ榛莽未タ除カス動モスレハ禽獸人ニ迫ルノ勢ヒアリ其地勢事情固ヨリ他諸縣ト同一視ス可カラス其猛獸鷲鳥ノ害四及玉ノ能ク防ク所ニ非ス故ニ特ニ之ニ許スニ十及玉ヲ用ユルヲ以テセリ又本案ノ第十八條ヲ加フル所以ハ鹿ハ該地ノ產物中ニ在テ最モ人民ノ利ヲ得ル者ナリ若シ濫リニ獵取セハ遂ニ其種ヲ耗滅スルニ至ル故ニ獵者ニ課スルニ適當ノ稅ヲ以テシテ之ヲ重視セシメント欲ス

是レ其地方ノ事情ニ於テ已ムヲ得サル者ナリ且北海道ハ別ニ一島ヲ爲スト雖モ繩カニ東南ノ一海峽ヲ隔テ、内地ト接シ致シテ望ム可ク葦シテ航ス可シ若シ鹿獵ノ稅則ヲ唯開拓使管内ノ人民ニ施シテ之ヲ他ニ及ホサ、レハ接近スル内地ノ人民相率テ北海道ニ赴クモ開拓使之レニ其稅ヲ課スルヲ得サラントス是レ此條ノ制定已ム可ラサル所以ナリ願クハ各議官ノ議定シテ可決セラレンコトヲ

○十一番 陸奥曰 本案起草ノ意分明ニシテ異論ナシ但其箇條ノ順次ヲ變更シ文字ヲ修正セントス然レモ是レ第二讀會ノ事ナリ大意ニ於テハ可ナリト認ム

○議長曰 本案ニ就テ異議無ンハ本日ハ散會シ來ル二十九日ヲ以テ第二讀會ヲ開カン

午前第十一時閉場

元老院會議筆記 明治十年十一月二十九日

○第六十八號議案 鳥獸獵規則 第二讀會

議長 有栖川 熾仁

出席議官

仍テ發議ス可シ

○書記官 本田 親雄 議案ヲ朗讀ス

布告案

本年一第拾壹號布告鳥獸獵規則ヘ第拾八條同第九條ヘ但書左ノ通追加候條此旨布告候事

第拾八條

一開拓使管内ニ入り鹿獵ヲナサント欲スル者ハ別段該使施行ノ規則ニ遵フ可シ

第九條

一獵銃ハ云々

但開拓使管内ニ限リ和銃玉目拾及以下ヲ用フルヲ得ヘシ

○十六番 河野曰 本案ノ大旨ハ則チ可ナリ其字義ニ於テ稍安當ヲ缺ク者アルヲ覺ユ試ニ之ヲ陳ン其第十八條中鹿獵ヲナサント欲スル者ハ云々トアリ夫レ「欲スル」トハ其人胸中無形ノ作用ニ止マツテ未タ行爲ニ發現セス之ヲ切言スレハ着手ノ前ニ在ル者ナリ鳥獸獵規則第三條ニ「銃獵免狀ヲ得ント欲スル者ハ」云々トアリ是レ分明ニ其人胸中ノ思考ヲ寫ス者ナリ十八條ハ鹿獵ヲ爲ス者ノ爲メニ之ヲ設ク則行爲

午前第十時二十分開場

○議長曰 本日ハ第六十八號議案ノ第二讀會ヲ開ク各員例ニ

內閣委員 櫻井 能 監

外 太政官少書記官

- 一番 穴戸 璣
- 二番 楠田 英世
- 三番 黒田 清綱
- 四番 中島 信行
- 五番 齋藤 利行
- 七番 東久世 通禧
- 九番 柳原 前光
- 十番 佐々木 高行
- 十一番 陸奥 宗光
- 十二番 水本 成美
- 十四番 津田 出
- 十五番 大久保 一翁
- 十六番 河野 敏録
- 十七番 大給 恆
- 十八番 細川 潤次郎
- 十九番 山口 尙芳
- 二十番 津田 眞道

明治十年鳥獸獵規則ヘ追加案

ニ發現スル者ヲ指ス胸中ノ思考ヲ謂フニ非ス故ニ原案ヲ改メテ鹿獵ヲ爲ス者ハ云々ニ作ラントス

○十二番 水本曰 十六番ノ修正ヲ可トス其說全ク同一ナリ

○議長曰 別ニ發議無シハ十六番ノ說ヲ問題トシテ決議ヲ取ラン十六番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

起立者十四人

○議長曰 多數ニヨリ修正ニ決ス

○十八番 細川潤曰 本案拾八條中別段ノ二字意ニ於テ妥當ナラス其「該使施行ノ規則」トハ即チ鹿獵規則ヲ指ス者ニシテ意義此句ニ盡ク若シ冠スルニ別段ノ二字ヲ以テスレハ鹿獵規則ノ外別ニ一規則アルカ如ク讀者ヲ眩スルノ恐レアリ故ニ之ヲ刪ントス

○五番 齋藤曰 十八番ノ說可ナリ

○議長曰 十八番ノ發議ヲ問題トシテ決議ヲ取ラン可トスル者ハ起立ス可シ

起立者十五人

○議長曰 多數ニヨリ刪除ニ決ス

○十八番 細川潤曰 第九條ノ但書追加ハ可ナリ但此布告文面ノ順次ニ異議アリ願クハ今此條ヲ拾八條ト連帶シテ論スルノ自由ヲ得ン原案ハ拾八條ヲ前ニシテ九條ヲ後ニス其意蓋

元老院會議筆記 明治十年十一月二十九日

○第六十八號議案 鳥獸獵規則 第三讀會

議長 有栖川 熾仁

出席議員

- 一番 穴戸 璣
- 二番 楠田 英世
- 三番 黒田 清綱
- 四番 中島 信行
- 五番 齋藤 利行
- 七番 東久世 通禧
- 九番 柳原 前光
- 十番 佐々木 高行
- 十一番 陸奥 宗光
- 十二番 水本 成美
- 十四番 津田 出
- 十五番 大久保 一翁
- 十六番 河野 敏録
- 十七番 大給 恒
- 十八番 細川 潤次郎

明治十年鳥獸獵規則へ追加案

シ特立ノ簡條ト附屬ノ但書トノ間ニ輕重ヲ立テ重ヲ先ニシテ輕ヲ後ニスル者ナラン然レモ九條ヲ十八條ノ次ニ置クハ順次ノ自然ヲ得ス讀者或ハ九條ヲ誤テ十九條ト爲スノ恐レナキニアラス今原案ノ順次ヲ變換シ其意ヲ以テ布告ノ前充ヲ改正セントス

○四番 中島曰 十八番ノ說可ナリ

○議長曰 十八番ノ說ヲ問題トシテ決議ヲ取ラン修正ヲ可トスル者ハ起立ス可シ

起立者十三人

○議長曰 多數ニヨリ十八番ノ說ニ決ス

○又曰 別ニ發議無シハ第二讀會ハ既ニ終レリ散會ス可シ

○外 一 齋藤曰 各員ノ修正ヲ得テ番外一 齋藤無シ引續テ第三讀會ヲ開クヲ願フ

○議長曰 番外一 齋藤ノ需メニ就テ可否ヲ取引續テ第三讀會ヲ開クヲ可トスル議員ハ起立スヘシ

起立者十人

○議長曰 多數ニヨリ續テ第三讀會ヲ開ク可シト雖モ一應散會セン

午前第十時四十分閉場

十九番 山口 尙芳

二十番 津田 眞道

櫻井 能監

内閣委員 番外 太政官少書記官

○議長曰 第六十八號議案ノ第三讀會ヲ開ク例ニ仍テ發議ス可シ

○十一番 陸奥曰 書記官ノ朗讀ニ先ツテ一言セン本案ハ簡短ニシテ且其順次ニ關スルノ修正之レ有ルヲ以テ二條ヲ連帶シテ朗讀シ且決議セハ其手續簡ニシテ且便ナラン衆議ニ因テ此事ノ行ワレシヲ希望ス

○十七番 大給曰 十一番ノ說ニ同意ス

○議長曰 十一番ノ發言有テ十七番ノ賛成アリタレハ其可否ヲ衆議ニ決セン之ヲ可トスル議員ハ起立ス可シ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ連帶シテ決議スルニ決ス

○書記官 本田 親雄 左ノ修正案ヲ朗讀ス

修正案

本年一第拾壹號布告鳥獸獵規則第九條へ但書同第拾八條左ノ追加候條此旨布告候事

第九條

一獵銃ハ云云

但開拓使管内ニ限り和銃玉目拾分以下ヲ用フルヲ得ヘ

シ

第拾八條

一開拓使管内ニ入り鹿獵ヲナス者ハ該使施行ノ規則ニ遵フ可シ

○十八番細川潤曰 第二讀會ニ於テ修正ヲ爲ス者皆ナ既ニ可

ト決シ内閣委員亦其異論無キヲ明言セリ然ラハ第三讀會ノ今ニ於テ發論ナキヲ保スヘシ故ニ直チニ決議ヲ取テ可ナラ

シ

○議長曰 修正案ニ同意ノ議官ハ起立ス可シ

各員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ其旨ヲ上奏セン各員散會ス可

シ

正午第十二時閉場

右は明治十年四月五日内閣より下附ありし議案と引換。同年十一月十九日更に下附、十一月廿九日の會議に於て其布告案と第十八條とは修正を加ふべく第九條は原案を可とすと雖とも其順次を變換すへきに決す。依て其修正する所以を摘書し十一月三十日上奏。十二月十七日第八十五號を以て布告。

北海道廳規程(開拓使布達) 九年十一月十一日

鹿ハ北海道物産ノ一ニシテ其利益尠シトセス然ルニ從來宏獵獵

殺繁殖ヲ缺(中略)故ニ之ヲ保護シ永ク其利ヲ失ハサラシメンカ

爲茲ニ規則ヲ設ル左ノ如シ

第一條 免許獵札ヲ受スシテ鹿獵ヲナスヲ禁ス

第二條 鹿獵志願者ハ左ノ書式略ニ照シ地方廳以下之ニ做ヘ願

書差出シ免許獵札ヲ可受但免許獵札ハ職獵ノ者ニ限り之ヲ與

フヘシ

第三條 獵札ヲ受ルニハ一枚ニ付金二圓五十錢ノ獵業稅ヲ納ム

ヘシ但舊土人ニ限當分納稅ニ及ハス

第四條 獵者ハ年々六百名ト定メ滿員ノ後願出ル者ハ獵札ヲ與

ヘス

第五條 免許獵札ヲ受ル者ト雖毒矢ヲ以獵殺ヲ禁ス

第六條 獵札ハ一期ノミ効アリトス且他人ハ貸借買賣讓與ヲ禁

ス

第七條 獵業ハ十一月一日ヨリ翌年二月二十八日(閏年ハ二月迄

ヲ一期限トシ右期限ノ外ハ出獵ヲ禁ス但免許獵札ハ毎年三月

五日限最初受取タル地方廳ヘ返納スヘシ

第八條 十六歳未滿ノ者及ヒ此規則ヲ犯シタル者並山林等ノ監

守者ヘハ獵札ヲ與フ可ラス

第九條 獵札所持ノ者タリト人家ヲ距ル五十間以内及作物植付

並禁獵制札ノ場所等ニ於テ發砲ス可ラス

第十條 此規則ヲ犯ス者ハ三圓ヨリ少カラス二十圓ヨリ多カラ

サル罰金ヲ科シ其獵獲ノ鹿ハ沒收ス

第十一條 犯則者ヲ他ヨリ訴出事實取札ノ上相違ナキニ於テハ

其實トシテ犯人罰金ノ半ヲ與フヘシ但右出訴ニ屬スル諸入費

ハ犯人ヨリ償ハシムヘシ

(開拓使事業報告附錄 布告類案上編 七六)

第六十九號議案

船難報告船難證書授受手續案

第七十號議案

建物賣買讓渡規則第一條但書追加案

第七十一號議案

明治十年郵便規則中外國郵便稅表改正案

元老院會議筆記 明治十年四月二十日

○第六十九號 船難報告船難證書授受手續案 第七十號 建物賣買讓渡規則第一條但書追加案

第七十一號 本年郵便規則第十一條第九十七條檢視會

船難報告船難證書授受手續案 建物賣買讓渡規則第一條但書追加案 明治十年郵便規則中外國郵便稅表改正案

議長齋藤利彦

出席議員

- 七番 福羽美靜
- 九番 黒田清綱
- 十番 細川潤次郎
- 十二番 大久保一翁
- 十三番 津田眞道
- 十四番 松岡時敏
- 十五番 穴戸璣
- 十七番 秋月種樹
- 二十番 水本成美

午前第十時十分開場

○議長曰 本日第六十九號第七十號第七十一號三件ノ議案ヲ以テ一併ニ檢視ヲ取ラントス各位之ヲ領セヨ

○書記官 親雄 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告案

外國人ニ關係アル貨物ヲ積載シタル西洋形商船ニシテ船難報告又ハ船難証書ノ手數ヲ要スルハ其船長ヨリ我國内ニ於テハ最寄稅關又外國ニ於テハ該地在留我領事館ヘ申出ツ可シ即チ授受手續別紙ノ通被定候條此旨布告候事

船難報告 英語シツブス 船難證書 英語エキステンテツト
船難報告ハ暴風雨其他ノ海難ニ由リ損害ヲ生セリト思察ス
ルハ豫メ其現狀ヲ報告スル迄ノモノトス故ニ危難請合社ニ
向テ請合金要求スル充分ノ證據ト爲スニ足ラス唯後日船難
證書ヲ記スルニ必用ノ引証ニ供スルモノトス
船難證書ハ現ニ損害ノ多少ヲ確明シ得タルハ其損害ノ原因
及ヒ之ヲ生シタル月日場所等ヲ詳細記載スヘキモノニシテ
其記入ノ件々眞誠確實ナリト思惟スルハ危難請合社ニ向
テ請合金ヲ要求スルニ充分ノ證據ト爲スヘキモノトス

授受手續

第一條 各商船ノ船長ヨリ遭難ノ實況ヲ届出ルトキハ其地
ノ税關長或ハ領事其船長ノ申立ニ從ヒ第一號書式ノ書面
ヲ造リ船長ニ其名ヲ手書セシメ然ル後自ラ官名姓名ヲ手
書シテ之ヲ公証シ登通ハ其廳ニ停メ置他ノ登通ハ船長ニ
下ケ渡ス可シ

第二條 船難報告ハ着船ノ後二十四時ノ内ニ差出ス可シ若
シ此時限後ニ至テ届出ル者アルハ其公認ヲ與ヘサルヘ
シ然レモ船長ヨリ其遅延ノ次第ヲ辨明シテ十分満足スヘ
キ道理アルハ其次第ヲ報告書ニ記載シテ其公証ヲ與フ
ヘシ

第三條 船難證書ハ大畧第二號書式ニ從テ記スヘク而シテ
船長運轉手及ヒ他ノ一名ノ海員ヲシテ税關長又ハ領事ノ

第九條 船難報告船難證書及ヒ其寫ヲ付與スルハ左ノ手
數料ヲ收入スヘシ

船難報告書 一通 金壹圓

船難證書 一通 金五圓

但寫一通ヲ添フ

船難證書寫 一通 金壹圓

第十條 第一號用紙ハ雛形ノ通り税關又ハ領事館ノ費用ヲ
以テ製造シ收入シタル手數料ハ每半年分取束子大藏省ヘ
上納スヘシ

但第二號用紙ハ適宜タルヘシ

第壹號 船難届書

明治何年(千八百七十年)何月何日何國何々港ヨリ一
般ノ商荷ヲ積載シ何國何々港ニ向テ運航スル何々號船
(船免狀番號第何番)ノ船長何之誰明治何年(千八百七十
何年)何月何日何國何々港税關長又ハ領事何之誰ノ目前
ニ自身出頭シ何々ノ場所ニ於テ何々ノ事故ニ因リ目下ノ
損害ヲ掛念シ其次第ヲ届出ルニ付則爰ニ之ヲ登記候也

右拙者ノ目前ニ於テ証名候段相違無之候也

船難報告船難證書授受手續案 建物賣買讓渡規則第一條但書追加案
明治十年郵便規則中外國郵便稅表改正案

目前ニ於テ同號甲ノ明告狀ヲ記サシメ且税關長又ハ領事
ハ同號乙ノ奧書ヲ以テ之ヲ公証スヘシ

第四條 船難證書ハ一航海中ニ遭遇シタル變難及ヒ生シタ
ル損害ノ實況ヲ報告スルモノニ付航海日誌其他公証ニ供
スヘキ書類ニ因リ或ハ信任スヘキ海員ノ申立ニ從テ眞確
ノ事實ヲ採蒐記載セシム可シ

第五條 船難證書ハ必ス貳通ニ記サシム可シ而シテ其一通
ハ其廳ニ停メ置キ他ノ一通ハ船長ニ下ケ渡ス可シ

第六條 税關又ハ領事館ニ於テ停メ置キタル船難證書ヲ一
覽セント欲スルカ又ハ其寫ヲ願受ント請フ者アルハ其
廳ノ公務時間中ハ何時ニテモ之ヲ聽ルスヘシ但シ寫ヲ付
與スルハ本書ト相違セサル様緊密ニ讀ミ合セ且第二號
丙ノ書式ニ從テ奧書ヲ爲スヘシ

第七條 船長以下ノ者船難證書ヲ了解シ能ハサル者或ハ全
ク讀ミ得サル者アレハ其明告狀ニ連署ヲ爲サシムルノ以
前ニ於テ丁寧ニ之ヲ讀ミ聞セ充分其意味ヲ了會セシムヘ
シ

第八條 船難報告及ヒ船難證書トモ國字ヲ原文英字ヲ譯文
トナシ必ス原譯兩文ヲ以テ記スヘシ然レモ場合ニヨリ原
文ノミ記シ又ハ譯文ノミヲ記スルコトアルヘシ

明治何年何月何日

何々港税關長又ハ領事何之誰

第貳號 船難證書

明治何年(千八百七十年)何月何日何地何々號船ノ船
長何之誰運轉手何之誰海員何之誰何國何々港税關長又ハ
領事何之誰ノ目前ニ自身出頭シ誠心眞意ヲ以テ左ノ事實
ヲ公報ス

(以下航中ノ現況遭難ノ場所月日損害ノ多少等其詳細
ノ報告ヲ記入スヘシ)

甲 右何々號船ノ船長何之誰運轉手何之誰海員何之誰等前文
記載ノ件々ハ眞正確實ノ事實ニ相違無之此明告狀ヲ以テ相
証候也

船長 何之誰

運轉手 同

海員 同

乙 右拙者ノ目前ニ於テ証名候段相違無之候也

年月日

何々港税關長又ハ領事何之誰

船難証書寫ノ與書

丙。前記証書ノ寫ハ當廳又ハ何々廳ニ停メ置キタル本書ニ就テ相認メ候ニ付本書ト照査シテ分毫ノ差異無之依テ拙者ノ記名官印ヲ以テ相証候也

年月日

何々港稅關長又ハ領事何之誰印

○十番細川潤曰 本案ノ事タル内務省ニ於テ夙ニ着手センコトヲ議スルヲ聞ケリ予モ亦前任中「シツブスプロテスト」エキキ

ステンテツトシツブスプロテスト」則船難報告船等ノ事タル本邦未タ定則アルコトナシ故ニ之ヲ創設スヘキノ議ヲ發シテ其手續ヲ調査セシコトアリシナリ從前此法アルコトナケレハ

牴觸ノ條款ナク字句又不備不明ノ憾アルコトナシ速ニ決議奉還アラシクヲ望ム

○七番美羽曰 予ハ瑣ノ不備アリト認ム則チ船難証書ノ文中

明治何年ト書シ彎月鉤中ニ洋曆ヲ對書ノ千八百七十何年トス是レ中外ノ曆數判然タラサルモノアリ故ニ千八百七十何年ノ上ニ洋曆或ハ西洋紀元等ノ字ヲ加ヘンコトヲ望ム

○十七番秋月曰 七番ノ說ヲ贊成ス

○議長曰 之ヲ問題トシテ各位ノ發議ヲ俟ツ

建物賣買讓渡規則第一條但書追加布告案

明治八年九月第四拾八號布告建物書入質規則第二條但書追加ノ儀本年一月第六號ヲ以テ布告候處建物賣買讓渡規則第一條ヘモ同文但書追加候條此旨布告候事

○十番細川潤曰 不備不明ノ事項ナシ本案ノ儘ニテ可ナリ

○議長曰 本案ニ不備不明ナシトスル議官ハ起立スヘシ

衆員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ則チ本案ヲ奉還スヘシ

○又曰 次號ノ議案ニ移ルヘシ

○書記官本田 左ノ議案ヲ朗讀ス

明治十年郵便規則第十一條第九十七節ニ掲載有之外國郵便稅表別表ノ通改正候條此旨布告候事

願文並 別表畧之 註 參考5に載す

○十番細川潤曰 本案八年々改正ヲ加フルモノナリ斷シテ不備不明ノ事項ナキヲ信ス速ニ本案ヲ奉還シテ可ナリ

○議長曰 本案ニ不備不明ノ事項ナシトスル議官ハ起立スヘシ

衆員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナリ成規ヲ以テ本案ヲ奉還スヘシ

船難報告船難證書授受手續案 建物賣買讓渡規則第一條但書追加案
明治十年郵便規則中外國郵便稅表改正案

○十四番松岡曰 本案ノ儘ニテ可ナリ何ソ洋曆ト書スルヲ須ヒン

○十番細川潤曰 十四番ト同意ナリ明治何年ノ下ニ半月鉤ヲ記ス則チ注文ニシテ本章ト別視スルノ的標ナリ船難証書ト云ハ元來外國人ニ關涉セシコトナレハ彼我歲月ノ相同シキヲ標スルカ爲ニ兩曆ノ對照ヲ掲載スルモノナリ本文第八條ニ國字ヲ原文トシ英字ヲ譯文トシ必ス原譯兩文ヲ以テ記スヘシトアリ前後照應セハ敢テ不備不明ト云可ラス故ニ予ハ本案ノ儘ニテ可ナリトス

○九番清淵曰 本案ノ儘ニテ可ナリ

○議長曰 七番動議ヲ起シ十七番之ヲ贊成ス則七番ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者二人

○議長曰 少數ナルヲ以テ七番ノ說ハ取消トス

○又曰 本案ノ儘ニテ可ナリト認ムル議官ハ起立スヘシ

起立者八人

○議長曰 多數ニヨリ不備不明ノ事項ナキニ決ス成規ニヨリ本案ヲ奉還スヘシ

○又曰 次號ノ議案ニ移ルヘシ

○書記官本田 左ノ議案ヲ朗讀ス

午前第十時四十分閉場

右第六十九號議案は明治十年四月十三日内閣より下附、同月廿日檢視を經過す同日上奏。(第七十號議案參照)

又第七十號議案は明治十年四月十三日内閣より下附、四月廿日檢視を經過す同日上奏。四月廿五日第三十八號を以て布告。

又第七十一號議案右は明治十年四月十四日(同日第三十六號を以て便宜布告の後)内閣より下附、同月廿日檢視を經過す。同日上奏。

1 内務省伺 十年三月七日

客年九月十九日付ヲ以船難報告書及船難證書授受ノ儀ニ付外務大藏兩省へ御達案相副相候處同年十一月一日伺之趣御開届ノ上夫々御下達相成居候處尙審案候へハ右ハ一般人民遵守スヘキ法則ニ可有之ニ付更ニ公布相成候方可然被存候間御布告案取調左ニ相候條至急御裁決有之度候也

追テ第九條手数料ノ儀ハ附箋ノ通り御引直シ相成度此段添テ上申候也

2 御布告案

西洋形商船外國人ニ關係アル貨物ヲ積載スルモノニテ船難報告又ハ船難證書ノ手續ヲ要スルモノハ左ノ手續ニ隨ヒ國內ニ於テ

ノトス

○議長曰 十番ハ本按ニ於テ不備不明ノ字句ナシト雖トモ通牒モ亦布告ニ添フモノトセハ其文中僧侶ヲ僧尼ト改ム可シト謂フ乎

○十番細川潤曰 然リ

○議長曰 然ラハ若シ通牒文モ布告ト共ニ頒行スルモノナルハハ乃チ不備不明ナリトシ之ヲ通牒セントスルノ意ナルヤ

○十番細川潤曰 不備不明ノ有無ハ元來本按ニ對シテ云フ可キノミ固ヨリ通牒文ニ就テ議ス可キモノニアラス又僧侶ヲ

僧尼トス可シト云フモ是亦檢視ノ權限ニ觸ル、カ故ニ敢テ公然通牒ヲ強ユルヲ得サルカ如シ

○議長曰 本按不備不明ノ廉ナシトスル者ハ起立ス可シ

全員悉起立

○議長曰 全會一致檢視ヲ經過セシ旨ヲ具シ成規ニ從ヒ上奏ス可シ

午前第十時四十五分閉場

○右は明治十年四月十九日内閣より下附、同月廿七日檢視を經過す同日奏。四月三十日第四十一號を以て布告。

第七十三號議案

社寺借財ノ節抵當物書入方ノ儀

元老院會議筆記 明治十年五月七日

○第七十三號議案 社寺借財ノ節第一讀會

議長 齋藤利行

出席議員

- 三番 松岡時敏
- 五番 尖戸 璣
- 七番 黒田清綱
- 九番 津田眞道
- 十番 大久保一翁
- 十一番 津田 出
- 十三番 吉井友實
- 十五番 水本成美
- 十六番 細川潤次郎

社寺借財ノ節抵當物書入方ノ儀

○議長曰 右は明治十年四月十九日内閣より下附、同月廿七日檢視を經過す同日奏。四月三十日第四十一號を以て布告。

○九月二十百六十五號 僧侶苗字ヲ稱シ住職中ハ某寺住職某氏名ト稱セシム(六年四月教部省達第十六號ヲ以テ僧侶ノ内釋竺浮屠等ヲ以テ苗字ト爲ス者ハ改稱セシム)

○六月百七十六號 僧尼ノ服忌ハ自今人民一般ノ服忌ヲ受ケシム

○七月七十四號告 僧尼族籍編入ノ布告ヲ改正ス

○八月十二月五十三號達教部 僧業ヲ廢スル者出願ヲ要セス其都度管轄廳ニ申報セシム

○九年十二月百五十六號告 僧尼ト公認スル者ハ諸宗教導職試補以上ト限定ス

○十年四月四十一號告 八年百四十六號僧尼願ハ管轄廳ニ申報スルノ布告ヲ廢ス(官令沿革表 三元)

○議長曰 本日第七十三號議案ノ第一讀會ヲ開ク成規ニ從テ内閣委員ノ説明ヲ聞クヘシ

○書記官 本田 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告案

○議長曰 本日第七十三號議案ノ第一讀會ヲ開ク成規ニ從テ内閣委員ノ説明ヲ聞クヘシ

○書記官 本田 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告案

○議長曰 本日第七十三號議案ノ第一讀會ヲ開ク成規ニ從テ内閣委員ノ説明ヲ聞クヘシ

○書記官 本田 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告案

○議長曰 本日第七十三號議案ノ第一讀會ヲ開ク成規ニ從テ内閣委員ノ説明ヲ聞クヘシ

○書記官 本田 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告案

○議長曰 本日第七十三號議案ノ第一讀會ヲ開ク成規ニ從テ内閣委員ノ説明ヲ聞クヘシ

○書記官 本田 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告案

○議長曰 本日第七十三號議案ノ第一讀會ヲ開ク成規ニ從テ内閣委員ノ説明ヲ聞クヘシ

○書記官 本田 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告案

○議長曰 本日第七十三號議案ノ第一讀會ヲ開ク成規ニ從テ内閣委員ノ説明ヲ聞クヘシ

○書記官 本田 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告案

○議長曰 本日第七十三號議案ノ第一讀會ヲ開ク成規ニ從テ内閣委員ノ説明ヲ聞クヘシ

○書記官 本田 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告案

○議長曰 本日第七十三號議案ノ第一讀會ヲ開ク成規ニ從テ内閣委員ノ説明ヲ聞クヘシ

○書記官 本田 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告案

○議長曰 本日第七十三號議案ノ第一讀會ヲ開ク成規ニ從テ内閣委員ノ説明ヲ聞クヘシ

○書記官 本田 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告案

○議長曰 本日第七十三號議案ノ第一讀會ヲ開ク成規ニ從テ内閣委員ノ説明ヲ聞クヘシ

○書記官 本田 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告案

○議長曰 本日第七十三號議案ノ第一讀會ヲ開ク成規ニ從テ内閣委員ノ説明ヲ聞クヘシ

○書記官 本田 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告案

○議長曰 本日第七十三號議案ノ第一讀會ヲ開ク成規ニ從テ内閣委員ノ説明ヲ聞クヘシ

○書記官 本田 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告案

○議長曰 本日第七十三號議案ノ第一讀會ヲ開ク成規ニ從テ内閣委員ノ説明ヲ聞クヘシ

○書記官 本田 左ノ議案ヲ朗讀ス

元老院會議筆記 明治十年五月十一日

第七十三號議案 社寺借財ノ節 第二讀會及 第三讀會

議長 齋藤利行 代理

出席議員

三番	松岡時敏
五番	穴戸磯
九番	津田眞道
十番	大久保一翁
十一番	津田出
十五番	水本成美
十六番	細川潤次郎
十九番	秋月種樹
内閣委員	番外 太政官少書記官 股野 琢

午前第九時五十分閉場

○議長曰 本日第七十三號議案第二讀會ヲ開ク各位例ニ從テ 發議スヘシ

○書記官 本田 親雄 左ノ議案ヲ朗讀ス

午前第十時十五分閉場

○三番松岡曰 委員ノ説明極テ明瞭ナリ一言ノ否議ナシ速ニ 第二讀會ニ附シテ可ナリ

○議長曰 他ニ發議ナキヲ以テ第一讀會ハ了レリトス來ル十日ヲ期シテ第二讀會ヲ開カン本日ハ爰ニ散會スヘキナリ

布告案

神社并寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ル、トキ若クハ金穀ヲ借入ル、爲メ社寺附地所除稅地ヲ建物什器賣物古文書外等ヲ抵當ト爲ストキハ必ス氏子ト協議シ總代貳名以上ノ連署ヲ要ス可シ若シ此連署ナキトキハ總テ該社寺神官僧侶ノ私債ト看做シ縱令ヒ右ノ抵當アルモ其效ナキ者ト爲ス可シ此旨布告候事

○十六番細川潤曰 前會ニ於テ番外一番ノ説明ハ太タ盡セリ予ハ本案ノ主旨ニ於テ異議スルナシト雖モ只瑣ノ修正ヲ要スルモノアリ即チ文中氏子檀家ノ四字ヲ挿註ニ書スルモノハ否ナリトスルノミ若シ之ヲ挿註トセハ下文ノ社寺ノ二字及ヒ神官僧侶ノ四字モ挿註ニ書セサルヲ得ス前ハ挿註トシテ後ハ本文トス体裁ヲ得サルナリ故ニ氏子檀家ノ四字ハ本文ニ連續シテ書スルヲ可トス

○十九番秋月曰 十六番ノ議ヲ賛成ス

○十五番水本曰 十六番ノ議ヲ賛成ス

○議長曰 賛成者アリ例ニ從テ決ヲ取ラン十六番ノ修正ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

衆員悉ク起立ス

社寺借財ノ節 抵當物書入方ノ儀

○議長曰 全會一致ナルヲ以テ即チ十六番ノ修正ニ決ス本案 第三讀會ハ來ル月曜日即十四日ニ之ヲ開クヘシ

○番一 股野曰 本案ノ主旨ハ前會既ニ縷陳セシ如ク九年十月公告アリシ各區町村金穀公借共有物取扱方ニ連絡シテ民事緊要ノ條件タリ故ニ内務省ヨリ其允裁ノ速カナランコトヲ請求セリ本日時限未タ午ニ中ラス次テ第三讀決議會ヲ開設アランコトヲ請フ

○議長曰 番外一番ノ請求ヲ可ト思考スル議官ハ起立スヘシ 衆員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナリ即時第三讀會ヲ開クヘシ本案ハ今別ニ朗讀ヲ須ヒス各位直チニ發議スヘシ

第七十三號議案 社寺借財ノ節 第三讀會

○十六番細川潤曰 前會瑣ノ修正論ヲ開陳シテ全會一致ノ協議ヲ得タリ今第三讀會ニ至リテ別ニ變更ノ說ナシ速ニ決議アランコトヲ望ム

○三番松岡曰 十六番ノ說ニ同意ナリ速ニ修正案ヲ上奏スヘシ

○議長曰 十六番ノ修正ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

衆員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナリ則チ十六番ノ修正ニ決ス且此修正タル論旨短簡僅々四字ノコニ止ルノミ故ニ別ニ委員ヲ設ケス書記官ヲ修正案ヲ起艸セシメ直ニ上奏ノ手續ヲ爲サントス各位之ヲ領セヨ

午前第十時二十五分開場

右は明治十年四月卅日内閣より下附五月十一日會議に於て文中「氏子禮家」の四字を挿註の如く書するは不可なるを以て修正すへきに決す仍て修正案并其修正せる所以を摘書し五月十二日上奏五月十六日第四十三號を以て布告。

1 内務省 十年四月十三日

神社寺院ニ屬スル借財神官僧侶ノ私借ト分別判然ナラサルヨリ遂ニ一己ノ私債ヲ以テ社寺共有ノ財産ヲ損害スルノ弊不少曩者元教部省九年第四十號達書之趣モ候ヘトモ獨寺院ヘノ布達ニテ一般ノ定則ト雜相成右ハ固ヨリ人民ヘ關涉有之儀ニテ往往差闕不少依テハ九年十月第三百三十號區町村金穀公借共有物取扱方御布告ノ旨ニ準シ更ニ左之通公布相成度即草案取添此段仰御指揮候也

追テ右ハ方今差向候事情モ有之ニ付速ニ御裁下有之度候也

2 法制局 十年四月二十八日

別紙内務省同社寺借財ノ節抵當物書入ノ儀看詳候處御布告案左ノ通り修正ノ上御發令相成可然哉仰高裁候也

(以上、法規分類大全一・社寺門三三)

3 内務省 十年十月二十九日

丁第十二號神宮并官幣社神官各社社用タリト雖モ氏子及ヒ其他ヨリ金穀借入候儀ハ不相成管ニ付此旨相達候事

4 内務省 十年十月二十九日

乙第一百一號別紙丁第十二號ノ通神宮并官國幣社神官ヘ相達候條此旨爲心得相達候事

5 内務省書記官ヨリ司法書記官ヘ回書

十一年五月三十日

客歲第四十三號公布并當省乙第一百一號達書之旨趣前後概觸云云御照會之趣了承右官國幣社ハ即チ官有神社之儀ニ付萬般之取扱總テ府縣社以下即民祭之神社トハ差異有之依テ公布中單ニ神社ト稱スルハ通常府縣社以下ヲ指示セルモノト被存候就テハ第四十三號公布ハ勿論官國幣社ニ關涉無之尤乙第一百一號達書ハ全ク公布ノ限外ナル意味ヲ示シタルモノニアラス元來官社ニテ金穀私借可致儀ハ無之管ニ候得共往々心得違之者有之趣ニ付特ニ當省ヨリ相達候次第ニ有之候此段及御答候也

(以上、法規分類大全一・社寺門三六)

第七十四號議案

商人買販品代金滯云々布告廢止等ノ儀

元老院會議筆記 明治十年五月十六日

○第七十四號議案 明治四年六月十二日商人買販品代金滯云々布告并ニ同(六)年第七百三十九號布告相檢視會

議長 齋藤利行

代理 齋藤利行

出席議員

- 三番 松岡時敏
- 五番 穴戸 璣
- 七番 黒田清綱
- 九番 津田眞道
- 十番 大久保一翁
- 十一番 津田 出
- 十三番 吉井友實

商人買販品代金滯云々布告廢止等ノ儀

午前第十時五分開場

○議長曰 本日ハ第七十四號議案ノ檢視ヲ取ル各位之ヲ領セヨ

○書記官 本田親雄 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告案

明治四年六月十二日商人買販品代金滯云々ノ布告并ニ全六年第七百三十九號布告自今相廢候條此旨布告候事

○十六番 細川潤次郎 本案ハ則チ明治四年六月ノ布告及ヒ全(六)年七月ノ布告實印及爪印花押等ノ証蹟ニヨリ受理ノ許否ヲ定ムルモノヲ廢スルニ止ル當時百度未タ整ハス裁判上大ニ紛擾ヲ生スルカ故ニ該令ヲ發セシナリ爾後證券印紙ノ發行アリ之ヲ抹却スルハ必ス實印ヲ用フルノ制ヲ定ム然ラハ先年兩回ノ布告ハ現ニ無用ニ屬スルモノナリ何ソ紙觸梓楯ノ恐レアラシヤ文中又不備不明ノ字句アルコトナシ速ニ本案ヲ奉還シテ可ナリ

○議長曰 他ニ發議ナキヲ以テ決テ取ラン本案ニ不備不明ノ條款ナントスル議官ハ起立スヘシ

衆員悉ク起立ス

○議長曰 全會一致ナリ例ニ從テ本案ヲ奉還スヘシ
午前第十時十四分閉場

○右は明治十年五月十一日內閣より下附、五月十六日檢視を經過す同日上奏。五月十八日第四十四號を以て布告。

1 布告 明治四年六月十二日

是迄諸商人買販之品代金滯有之願候向相手方ヨリ證書取置不申候共十ヶ年以内之取引ニ候ハ、其者記載致シ置候帳面ヲ以取揚裁判致シ來候處右ハ確證無之事故徒ニ爭論ヲ長シ候迄ニテ無益之日數ヲ送り產業之妨ト相成候而已ナラス自然奸曲ヲ計候基ニモ可有之ニ付自今賣掛ケ之品繼令十年以内ニ候共銘々記載之帳面へ借主之印鑑無之分ハ無證據之貸金銀同様一切取揚裁許不申付候條此旨可相心得事

又布告 明治六年七月五日

人民相互ノ諸證書面ニ爪印或ハ花押等ヲ相用ヒ候者間々有之候處當明治六年十月一日以後ノ證書ニハ必ス實印ヲ用ユ可シ若シ實印無之證書ハ裁判上證據ニ不相立候條此旨可相心得事

但商法上ノ證書ニ商用印ヲ用ヒ請取通帳等ニ店判ヲ用ヒ候ハ別段ノ事 (前掲書 四)

3 布告 六年二月十七日
第五十六號

金子受取金銀貸借地所賣買質入書入爲替請取諸約定等凡ソ人民互ニ諸證文手形書附類ヲ以テ後日ノ證據ト可致品ニ付テハ自今別紙規則ノ通相心得各其書面ニ印紙ヲ貼シ取引可致依テハ本年六月一日ヨリ以後ノ證書ニ右印紙無之分ハ後日訴出候トモ取揚不相成候事

但印紙ハ大藏省ヨリ可相渡候條各府縣管下適宜ノ場ニ於テ爲賣捌可申事 (以下略)

(以上、法規文類大全一・租稅門 印稅一)

4 達 六年五月十日
第五百五十五號 (抄錄)

本年第五十六號布告受取諸證文印紙貼用心得方規則第九條以下左ノ通増補候條此旨相達候事

第十條

一凡ソ諸受取證書ニ印紙ヲ貼用スル者ハ孰レモ第七條ニアル雛形ノ通印紙貼用ノ上證書渡主ノ實印ヲ以テ調印致シ貼用ノ印紙ヲ消印可致事

但此消印ハ一旦貼用印紙再用不相成爲メナレハ印紙ノ全面滅却不致様注意可致事

(前掲書 三)

第七十五號議案

萬國郵便聯合條約へ連盟案并
外國郵便稅表改正案

元老院會議筆記 明治十年七月二日

○第七十五號議案 萬國郵便聯合條約へ連盟等ノ儀 檢視會

議長 齋藤利行 (代理)

出席議員

四番	大久保 一翁
五番	秋月 種樹
九番	山口 尙芳
十二番	福羽 美靜
十三番	水本 成美
十四番	中島 信行
十六番	津田 出
十七番	松岡 時敏
十九番	細川 潤次郎

萬國郵便聯合條約へ連盟案并外國郵便稅表改正案

二十番 大給 恒

午前第十時開場

○議長曰 本日ハ第七十五號議案ノ檢視會ヲ開キ引續キ第七十七號議案ヲ檢視スヘシ然ルニ七十五號ハ便宜布告後下付ナル者ニ付キ各議員ニ於テモ議案ノ全部ハ布告ニテ熟讀アルヘシ然レハ其全部ハ朗讀ヲ須ヒス下付ノ文ノミヲ朗讀セシメテ可ナリト思考スレト尙ホ衆議ニ決スヘシ乃チ下付ノ文ノミ朗讀スルニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰 乃チ下付ノ文ヲ朗讀セシムルニ付例ニ遵テ發言スヘシ

○書記官 本田 親雄 左ノ文ヲ朗讀ス

萬國郵便聯合條約へ連盟并外國郵便
稅表改正ノ儀

右便宜布告ノ後其院檢視ニ被付候事

○十九番 細川潤次郎 此檢視案ハ便宜布告後下付ナル者ニシテ會テ之ヲ熟讀スルニ或ハ文字ノ錯誤カ又ハ印刷ノ誤カト思フ所ナキニ非サレ其緊要的ノ一ニ至テハ都テ不備不明又ハ舊法抵觸等ハ見出サス既ニ布告後ノ者ナレハ此儘上奏ア